

平成 21 年度修士論文

**小学校被服製作用語と調理用語に関する
小・中・大学生の知識および技能の実態
—2007 年調査対象者の変容を中心に—**

弘前大学大学院 教育学研究科
家政教育専修 家庭科教育分野

08GP217 前田 雄也

目次

I 結論	3
II 小学5年生、中学1年生、中学3年生、大学生を対象とした 2009 年度調査	
1. アンケート調査	6
1) 小学5年生	8
2) 中学1年生	19
3) 中学3年生	31
4) 大学生	43
5) 小学5年生・中学1年生・中学3年生・大学生 四者間比較	55
2. ボタンつけ調査	72
1) 小学5年生	74
2) 中学1年生	75
3) 中学3年生	76
4) 大学生	77
5) 小学5年生・中学1年生・中学3年生・大学生 四者間比較	78
III 2007 年度に小学5年生および中学1年生だった児童生徒を対象とした 2009 年度調査	81
1. 小学5年生(2007 年実施)・中学1年生(2009 年実施)	83
2. 中学1年生(2007 年実施)・中学3年生(2009 年実施)	117
3. 技能と「知っている」割合などとの関連	151
1) 「知っている」割合との関連	
2) 学校以外での実践との関連	
3) 自己肯定感に関する項目との関連	
4) ジェンダー観に関する項目との関連	
4. 技能程度の「高まりがみられた／みられなかった」生徒の変容	154
IV 総括	197
資料集	202
研究の要約	238
参考文献	242
謝辞	242

I 緒論

平成 20 年改訂の小学校学習指導要領家庭編¹⁾では、教科の目標について、「衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識および技能を身に付けるとともに、家庭生活を大切にする心情をはぐくみ、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる」ことが掲げられている。

特に、「基礎的・基本的な知識および技能を身に付ける」ことについて、「中学校段階との系統性、一貫性を考慮した上で、日常生活に必要なもの、応用・発展できるもの、生活における工夫・創造につながるものを身につける」としている。つまり、今回の改訂では、小学校と中学校の内容の体系化を重視して、小学校で指導する基礎的・基本的な知識および技能が知識および技能が中学校の学習に発展していくものとして明確に意識され、着実な定着につながることを目指している。

また、「生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる」ことについては、「生活を見つめ直したりする活動を通して、現実の生活の中から課題を見だし、身に付けた知識や技能を活用して生活をよりよくしようと工夫する能力と進んで実践しようとする態度を育てる」とある。それは、家庭生活における身近な課題を様々な角度から考える思考力、考えたことを基に課題の解決を図るための判断力、自らの考えを的確に表す表現力などである。それらの能力を育むために、家庭科学習では、被服製作実習や調理実習などを通して、教科の目標を達成することが記載されている。

しかし、現代の子どもたちは、生活にかかわる技能が低下していると言われて久しい。現代の日本社会は大きく変わり、お金さえあれば、生活上の技能・技術がなくても生きていける社会になりつつある。そのため、子どもたちをとりまく社会の実態を十分に勘案できないまま、技能や技術を習得する意味を問うこともなく、家庭科の実習が行われていることも少なくない。このような社会の中では、家庭科で児童・生徒の技能・技術の学習方法・内容やその意義などについて問い直す必要があると私は考える。

このような変化の中で、私たちはその社会に適合した生活を創造していかなければならない。そこで、生活について学ぶ家庭科で、「生活スキル」を学ぶ必要があると考える。青木²⁾によると、従来の家庭科教育は、家庭生活が社会との相互関係のもとで営まれるにもかかわらず、かつては、社会との相互関係を位置づけていない家庭生活、社会との相互関係で諸問題や諸矛盾を抱えていない家庭生活を前提とした生活技術や生活技能の習得に主眼がおかれがちであったと指摘している。生活スキルは、生活のなかに解決を必要とする新しい問題を発見し、問題を生活構造に照らし、具体的解決によって生活を改善・向上する力であり、また、生活スキルは、「生活を営むために必要な認識と実践」と「生活をつくるために必要な認識と実践」を結びつなぐ力であると定義している。生活の問題を発見し、どう解決するかという問いを立てることが出発点だと述べている。

河村³⁾は、子どもたちが生活にかかわる技能・技術を身につけることについて、「今ここ

で」必要になるもの、2つ目に今必要ではないが、将来に向けて必要となるもの、3つ目に、子どもたちが現時点で生活を見つめ、今ここで、将来に向けて必要と思う生活にかかわる技能・技術を身につけること、言い換えれば、習得した技能・技術が自分自身で必要かどうかを判断する能力が大切であると述べている。つまり、生活スキルは、単なる技能や技術の習得だけではなく、生活のなかで必要な判断力・総合力を身につけることが必要である。自身の生活認識を高め、自己認識を深めることが必須であると河村は考えている。

「生活スキル」を習得するためには、その土台となる基本的な知識や技能を身に付けることが絶対条件であり、家庭科の知識や技能に関する研究はこれまでに数多く報告されている。日景ら⁴⁵⁾は、被服製作用語と調理用語の知識や技能の実態について、小学生と大学生を対象に検討した。その結果、被服製作用語では、知識および技能は、女子の方が男子よりも高くなり、男子では大学生より小学生の方が、女子では逆に小学生より大学生の方が高い傾向を示したこと、用語や知識は小学生では男女差はほとんどみられないが、大学生では女子の方が男子よりもすべての項目で優位だったことを明らかにした。調理用語では、知識および技能は男子では小学生の方が高い傾向を示したが、女子では年齢差はほとんどみられず、また、小学生では男女差はほとんどみられないが、大学生では女子の方が男子よりも優位だった項目が半数以上であった。以上より、男女差は大学生の方が小学生よりも大きいこと、また、女子は被服製作技能より早い段階で調理技能を習得しているとうかがえたと報告した。

また、柏崎ら⁶⁾は、小学生、中学生、大学生を対象とした被服製作用語の知識や技能の実態について報告している。その結果、用語の知識はいずれの項目も小学5年生から中学1年生にかけて向上し、小学校家庭科学習の効果がみられたが、大学生では中学生では中学生に比べ低下傾向にあり、小学校で学習したことが定着されていないこと、技能では知識と同様小学5年生から中学1年生にかけて著しく向上するが、中学生から大学生にかけては男子で低下、女子で維持または低下したと報告した。そして、それは家庭での裁縫経験が大きく影響しており、裁縫経験があれば、日常使う裁縫技能については技能程度を高めることを明らかにした。さらに柏崎ら⁷⁾は、小学生、中学生、大学生を対象に、調理用語の知識や技能を調査し、被服製作用語の知識や技能の実態と比較した。その結果、調理用語の知識はいずれの項目も小学5年生から中学1年生にかけて向上し、大学生まで維持され、技能では知識と同様に小学5年生から中学3年生にかけて高くなり、大学生まで維持されていた。また、調理用語と被服製作用語の比較では、知識ではいずれの学年も男女とも調理用語の方が被服製作用語よりも高く、技能では小学5年生、中学3年生、大学生では男女とも調理用語の方が高くなったが、中学1年生では男女とも被服製作用語の方が高くなった。それは、小学校と中学校の調理実習と被服製作実習の授業時数の違いが影響していると報告した。

技能の習得について詳細に検討した布施谷⁸⁾らは、被服製作の基礎知識の定着度が高い学生は、手縫いの技能が優れていること、日常、衣服の補修を実践している学生や、被服製

作に自信のある学生の手縫い技法の総得点が有意に高かったことなどを報告し、さらに、手縫い技法と製作枚数とも有意な関係がみられ、技能の習得には、反復学習が非常に有効であると述べている。

しかし、学校教育の中では授業時数が少ないこともあり、反復学習を行うには限界がある。そのため、中学校や高校教師からは「小学校で学習した知識や技能が定着していない」という指摘がある。そこで、本研究では、小学校家庭科の被服製作用語と調理用語の知識や技能の実態を明らかにするために、小学生から大学生を対象にアンケート調査およびポタンつけ調査を行い、2年前の対象者を追跡調査し、そこから、家庭科の技能習得について考察した。

Ⅱ 小学5年生、中学1年生、中学3年生、大学生を対象とした2009年度調査

1. アンケート調査

○調査の概要

1) 調査目的

家庭科学習の基礎である小学校家庭科で学習した知識や技能はどれだけ身に付いているのかを明らかにするために、小学5年生、中学1年生、中学3年生、大学生を対象に、小学校家庭科教科書に記載されている被服製作用語および調理用語の知識の実態を把握することを目的とした。

2) 調査方法

<調査時期>

- ・小学5年生……2009年9月
- ・中学1年生……2009年5月
- ・中学3年生……2009年12月
- ・大学生……2009年10月

<調査対象>

表Ⅱ-1

	男子	女子	計
小学5年生	46	44	90
中学1年生	98	98	196
中学3年生	86	82	168
大学生	40	76	116
計	270	300	570

調査対象者を表Ⅱ-1に示す。調査対象者は小学5年生、中学1年生、中学3年生とし、調査対象人数は順に90名、196名、168名、116名である。

<調査内容>

今回使用したアンケートは、主に下記の4つの項目からなる。

- ・家庭科に対する関心・意欲に関する項目
- ・裁縫、調理の経験に関する項目
- ・用語の知識に関する項目
- ・用語の技能に関する項目

知識や技能に関するアンケート項目は、小学校家庭科教科書⁹⁾¹⁰⁾に記載されている基礎的

な被服製作用語や調理用語とした。小学校家庭科に記載されている用語は、被服製作用語は用具等に関する語群 22 項目、方法等に関する語群 17 項目の計 39 項目である。これらすべての用語は図Ⅱ-1)-4、図Ⅱ-1)-5、図Ⅱ-1)-6に示した。調理用語は用具等に関する語群 27 項目、方法等に関する語群 20 項目の計 47 項目である。これらすべての用語は図Ⅱ-1)-7、図Ⅱ-1)-8、図Ⅱ-1)-9に示した。そして、それぞれについて「知っている」あるいは「知らない」で回答させ（用語に関する知識）、方法等に関する語群では「できる」または「できない」についても回答させた（技能の自己評価）。

今回のアンケート調査は、すべて回答者の自己評価である。

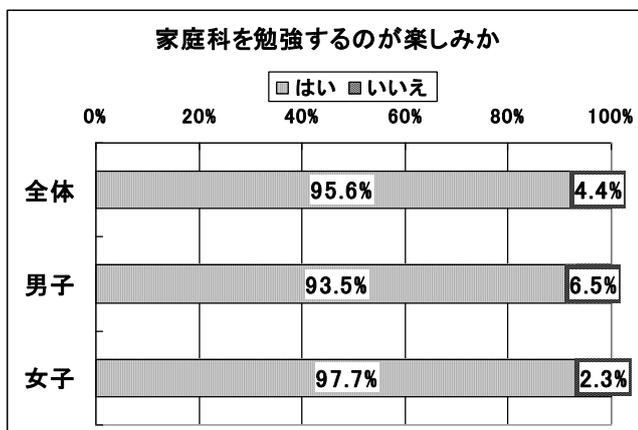
1) 小学5年生

1. 家庭科に対する関心・意欲に関する項目

【家庭科を勉強するのが楽しみか】

全体で見ると、95.6%の高い割合で「はい」と回答していた。

男女別では、「いいえ」と回答した児童は女子で 2.3%だったのに対し、男子では 6.5%となり、わずかながら差がみられた。それでも男女ともに家庭科が楽しみだと感じている児童がほとんどであった。男女間には有意差がみられなかった。



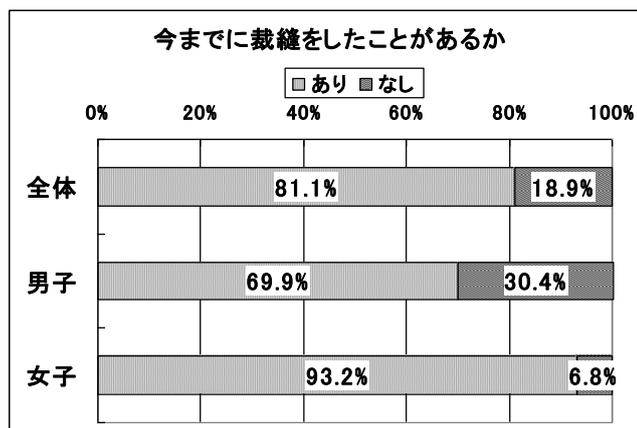
図Ⅱ-1)-1

2. 裁縫・調理の経験に関する項目

【2-1: 今までに裁縫をしたことがあるか】

全体では「はい」と回答した児童は 81.1%と高く、家庭科を学習して間もない小学5年生でも、ほとんどが裁縫経験があることが分かった。

しかし男女別では、女子は 93.2%と高かったが、男子では 69.9%と男女間で有意差 ($p<0.01$) がみられた。

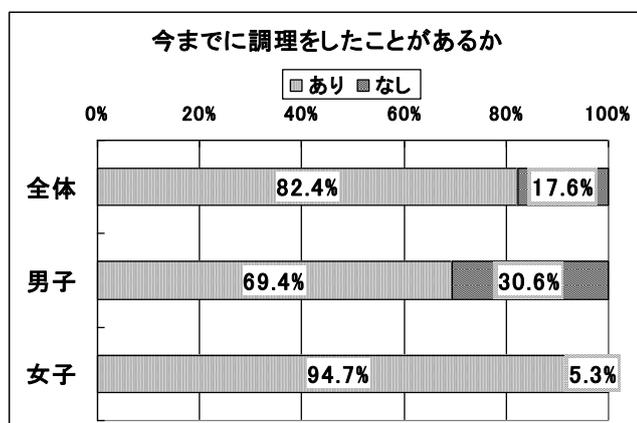


図Ⅱ-1)-2

【2-2: 今までに調理をしたことがあるか】

2-1 とほぼ同様の、8割以上の児童が調理経験が「ある」と回答していた。

男女別では、女子が 94.7%、男子が 69.4%と差が大きく、男女間で有意差 ($p<0.01$) がみられた。



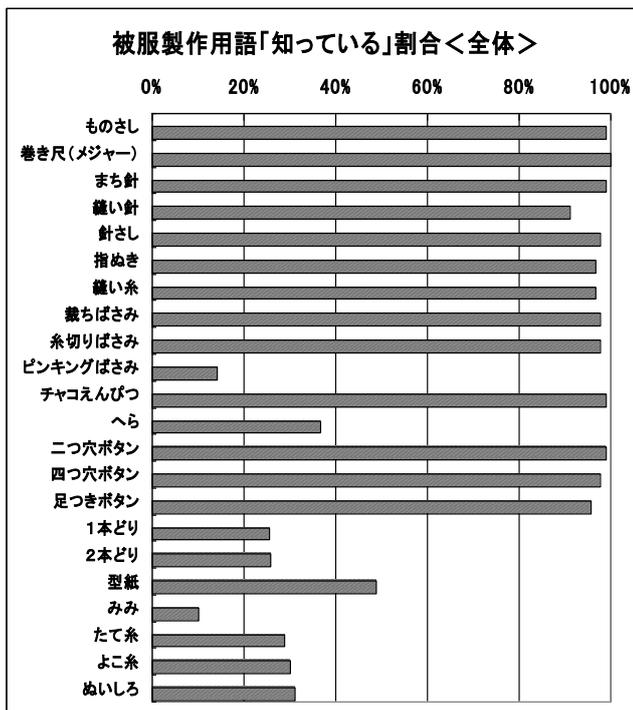
図Ⅱ-1)-3

3. 用語(用具等)の知識に関する項目3.

【3-1:被服製作用語に関する知識<全体>】

「知っている」割合が80%を超えた項目は22項目中13項目で、「巻き尺(メジャー)」は100%だった。用具に関わる項目については「ピンキングばさみ」、「へら」の2項目を除いて「知っている」割合が80%を超えた。

一方、布や型紙に関する項目の多くは、「知っている」割合が20~30%と低かった。特に「みみ」は10.0%であり、裁縫を行う際に多く使われる項目については「知っている」割合が高い傾向があるとうかがえた。



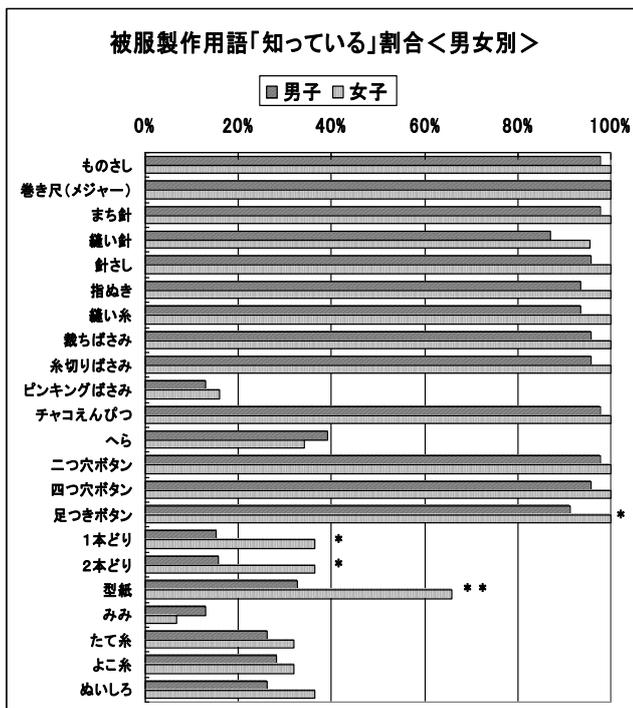
図Ⅱ-1)-4

【3-2:被服製作用語に関する知識<男女別>】

男女別では、「巻き尺(メジャー)」、「みみ」を除いたすべての項目で女子の方が「知っている」割合が高かった。

女子では「知っている」割合が12項目で100%となったのに対し、男子は「巻き尺(メジャー)」1項目のみであった。男女間で有意差がみられた項目は、「足つきボタン」(p<0.05)、「1本どり」(p<0.05)、「2本どり」(p<0.05)、「型紙」(p<0.01)の4項目で、いずれも女子が優位だった。

全体的には男女間では大きな差は見られず、用具では男女とも「知っている」割合が高かった。



図Ⅱ-1)-5

【3-3:調理用語に関する知識<全体>】

「知っている」項目が 80%を超えた項目は 27 項目中 18 項目であり、特に「フライパン」、「たわし」は 100%だった。50%を割った項目は「バット」(27.8%) 1 項目のみで、被服製作用語に比べ、割合が極端に低い項目は少なかった。

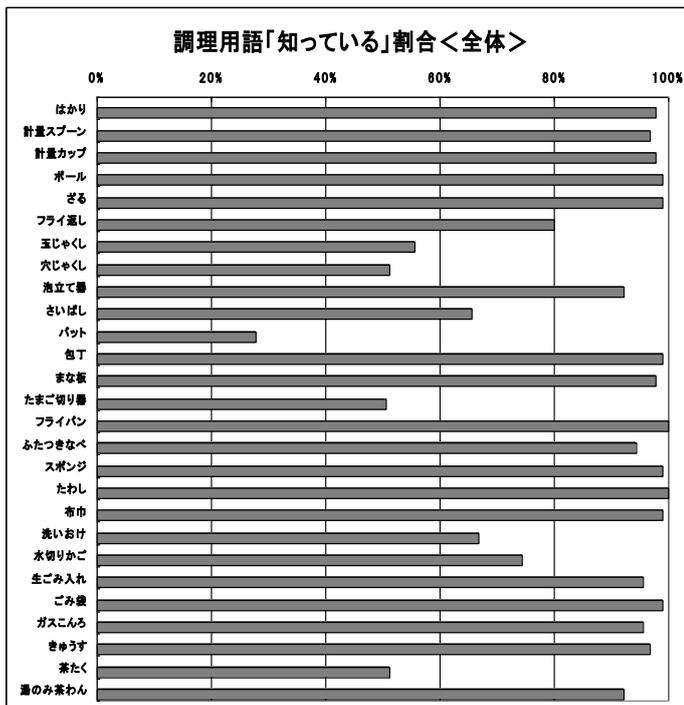


図 II -1)-6

【3-4:調理用語に関する知識<男女別>】

男女別では、「フライパン」、「たわし」、「洗いおけ」を除いて女子の方が「知っている」割合が高かった。

女子では「知っている」項目が 100%だったのは 15 項目だったのに対し、男子では「フライパン」、「たわし」の 2 項目のみであった。男女間で有意差がみられた項目は、「フライ返し」($p<0.05$)、「泡立て器」($p<0.01$)、「さいばし」($p<0.05$)、「水切りかご」($p<0.01$)、「生ごみ入れ」($p<0.05$)、「湯のみ茶わん」($p<0.01$) の 6 項目で、いずれも女子が優位であった。

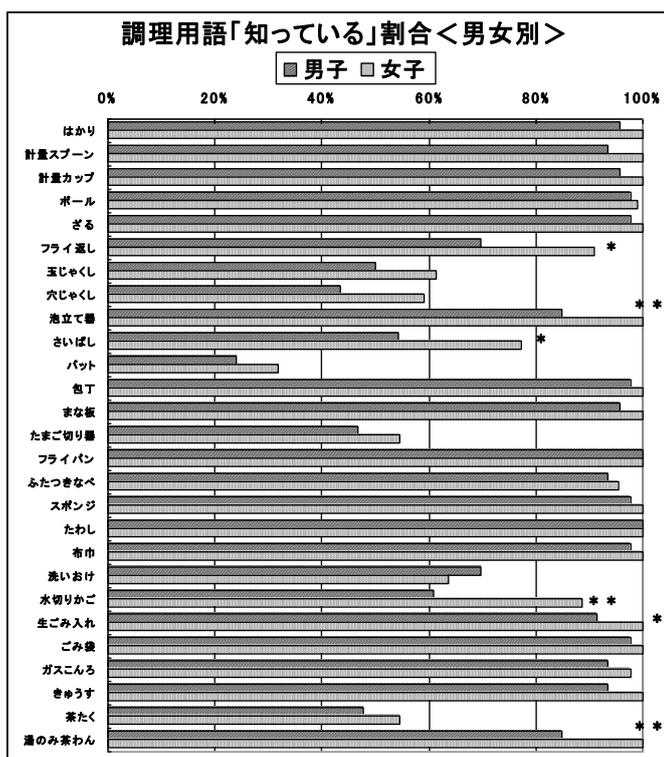


図 II -1)-7

4. 用語(方法等)の知識と技能に関する項目

【4-1:被服製作用語に関する知識<全体>】

「知っている」割合が80%を超えた項目は11項目で、「針に糸を通す」、「玉結び」、「玉どめ」などのような基本的な用語や縫い方に関する項目で高かった。「針に糸を通す」は100%だった。

一方、「しつけ」、「二つ折り」、「三つ折り」の「知っている」割合は低く、特に「しつけ」は13.3%であった。

今までに裁縫をしたことが「ある」と回答した児童は8割を超えていたものの、「知っている」割合が低かった項目があるため、基本的な知識にとどまっていることが考えられる。

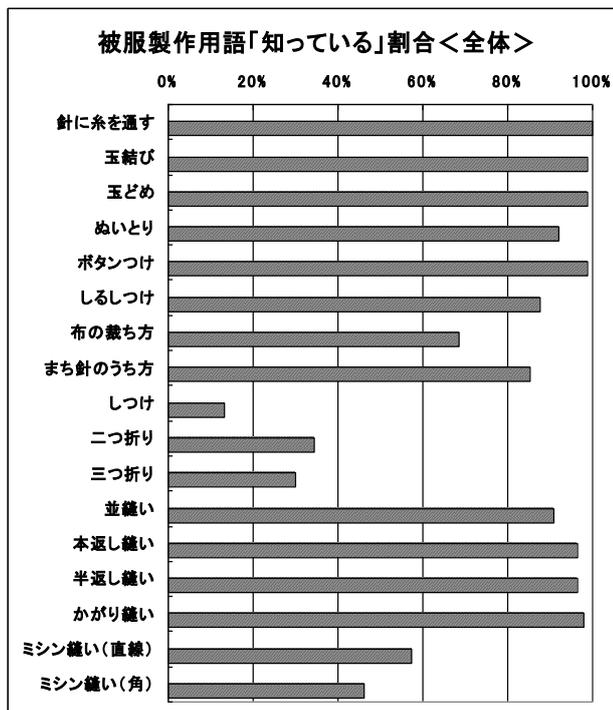


図 II - 1) - 8

【4-2:被服製作用語に関する知識<男女別>】

「知っている」割合は、女子の方が男女とも100%だった「針に糸を通す」を除いてすべての項目で高かった。女子で100%だった項目は、「針に糸を通す」、「玉結び」、「玉どめ」、「ボタンつけ」、「本返し縫い」、「半返し縫い」、「かがり縫い」の7項目だった。男子は「針に糸を通す」の1項目のみであった。

男女間で有意差がみられた項目は、「しるしつけ」($p < 0.05$)、「二つ折り」($p < 0.001$)、「三つ折り」($p < 0.01$)の3項目で、いずれの項目も女子が優位だった。用具等の項目と比較して、有意差がみられた項目は少なかった。

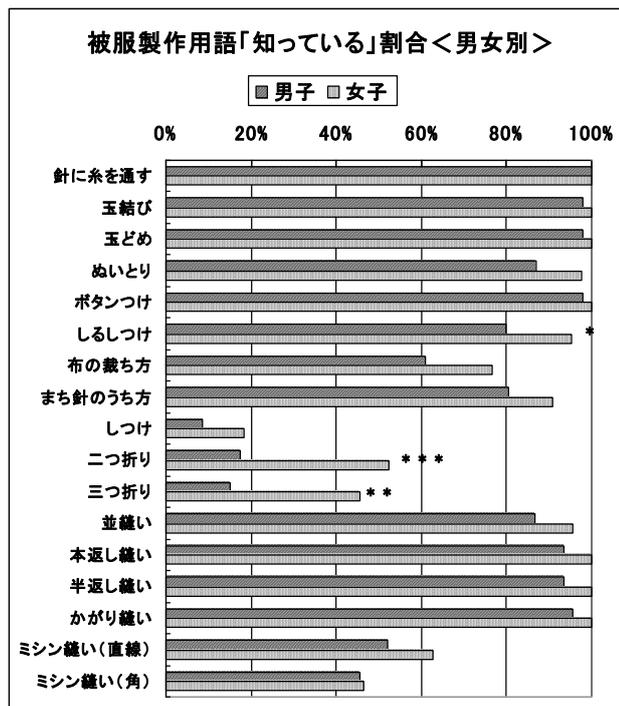
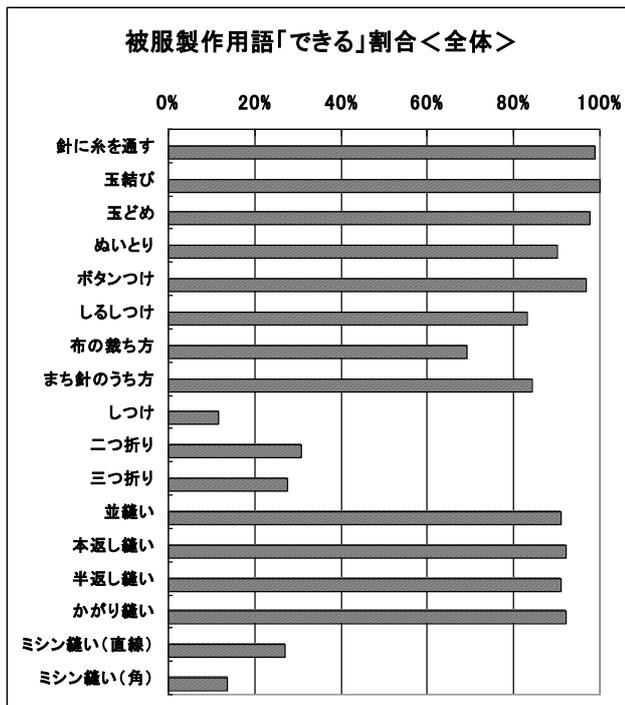


図 II - 1) - 9

【4-3:被服製作用語に関する技能<全体>】

4-1 と同様、「知っている」割合が80%を超えた項目11項目は、「できる」割合も80%以上となった。「針に糸を通す」、「玉結び」、「並縫い」などの裁縫を行う上で基本となる項目において高い割合を示した。

一方、「しつけ」、「ミシン縫い（角の曲がり方）」など「知っている」割合が低かった項目は「できる」割合も低かった。また、「できる」割合が極端に低い項目もみられ、40%に満たない項目が5項目だった。



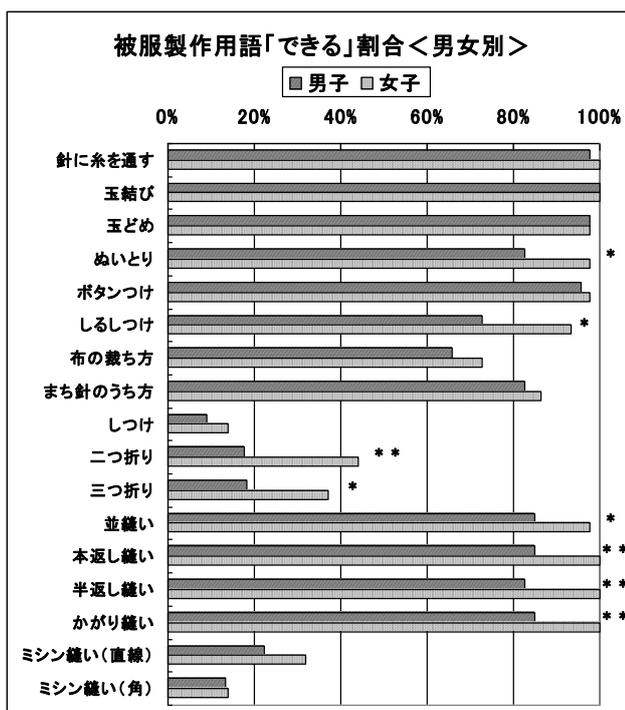
図Ⅱ-1)-10

【4-4:被服製作用語に関する技能<男女別>】

「玉結び」を除くすべての項目で女子の方が「できる」割合が高かった。「玉結び」は男女とも100%だった。

女子では「針に糸を通す」、「玉結び」、「本返し縫い」、「半返し縫い」、「かがり縫い」の5項目で「できる」割合が100%であったが、男子では「玉結び」の1項目のみであった。

男女間の有意差をみると、「ぬいとり」(p<0.05)、「しるしつけ」(p<0.05)、「二つ折り」(p<0.01)、「三つ折り」(p<0.05)、「並縫い」(p<0.05)、「本返し縫い」(p<0.01)、「半返し縫い」(p<0.01)、「かがり縫い」(p<0.01)の8項目で、いずれも女子が優位だった。4-2よりも有意差がみられた項目が多かった。



図Ⅱ-1)-11

【4-5:被服製作用語に関する知識と技能の比較】

表 1 [単位：%]

	全体			男子			女子		
	知っている	できる	有意差	知っている	できる	有意差	知っている	できる	有意差
針に糸を通す	100%	98.9%		100%	97.8%		100%	100%	
玉結び	98.9%	100%		97.8%	100%		100%	100%	
玉どめ	98.9%	97.8%		97.8%	97.8%		100%	97.7%	
ぬいとり	92.1%	90.0%		87.0%	82.6%		97.7%	97.7%	
ボタンつけ	98.9%	96.7%		97.8%	95.7%		100%	97.7%	
しるしつけ	87.5%	83.0%		80.0%	72.7%		95.3%	93.2%	
布の裁ち方	68.5%	69.3%		60.9%	65.9%		76.7%	72.7%	
まち針のうち方	85.4%	84.4%		80.4%	82.6%		90.7%	86.4%	
しつけ	13.3%	11.5%		8.7%	9.1%		18.2%	14.0%	
二つ折り	34.4%	30.7%		17.4%	17.8%		52.3%	44.2%	
三つ折り	30.0%	27.6%		15.2%	18.2%		45.5%	37.2%	
並縫い	91.0%	90.9%		86.7%	84.8%		95.5%	97.6%	
本返し縫い	96.6%	92.2%		93.5%	84.8%		100%	100%	
半返し縫い	96.6%	91.1%		93.5%	82.6%		100%	100%	
かがり縫い	97.8%	92.2%		95.7%	84.8%		100%	100%	
ミシン縫い(直線)	57.3%	27.0%	***	52.2%	22.2%	**	62.8%	31.8%	**
ミシン縫い(角)	46.1%	13.6%	***	45.7%	13.3%	**	46.5%	14.0%	**

※有意差 ***p<0.001 **p<0.01 *p<0.05

4-1 の被服製作用語に関する知識と 4-3 の被服製作用語に関する技能、4-2 の被服製作用語に関する知識と 4-4 の被服製作用語に関する技能を比較したものが上の表である。

全体で見ると、「知っている」、「できる」の間で 17 項目中「ミシン縫い(直線縫い)」、「ミシン縫い(角の曲がり方)」の 2 項目で有意差がみられた。

有意差のみられなかった項目においても、「知っている」割合よりも「できる」割合が低くなっていることから、小学 5 年生ではその用語を知っていても、それを実際に行うことができない児童が多数存在することがわかった。

男女別にみると、男女とも 2 項目で有意差がみられた。全体と同様、「ミシン縫い(角の曲がり方)」、「ミシン縫い(直線縫い)」で有意差がみられた。

小学 5 年生の被服製作用語では全体的に「知っている」割合と「できる」割合の差があまりみられなかった項目が多かった。特に「玉結び」や「玉どめ」などの基本的な用語に関しては、「知っている」、「できる」割合ともに高い上、その差も小さいことがわかった。

【4-6:調理用語に関する知識<全体>】

20 項目中 11 項目で「知っている」割合が 80%を超え、そのうちの 8 項目では 90%を超えた。

「知っている」割合が高かった項目は主に「ゆでる」、「焼く」などの日常生活で目にするものの多いものであった。一方、「くし切り」、「たんざく切り」、「いりたまご」、「こふきいも」は 40%を下回った。

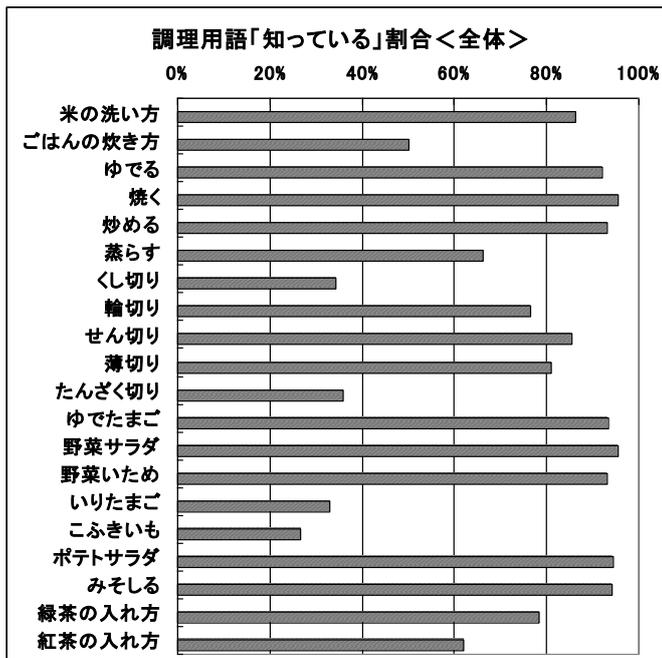


図 II -1)-12

【4-7:調理用語に関する知識<男女別>】

20 項目中 18 項目で女子の方が「知っている」割合が高かった。「ごはんの炊き方」、「くし切り」の 2 項目で男子の方が高かったが、大きな差はみられなかった。

女子は「焼く」、「炒める」、「ゆでたまご」、「野菜サラダ」、「野菜炒め」、「ポテトサラダ」、「みそしる」の 7 項目で「知っている」割合が 100%となったが、男子では 100%となった項目はなかった。

男女間で有意差がみられた項目は 13 項目と多かった。特に献立に関する項目については 9 項目中 7 項目で有意差がみられた。13 項目すべて女子が優位となった。

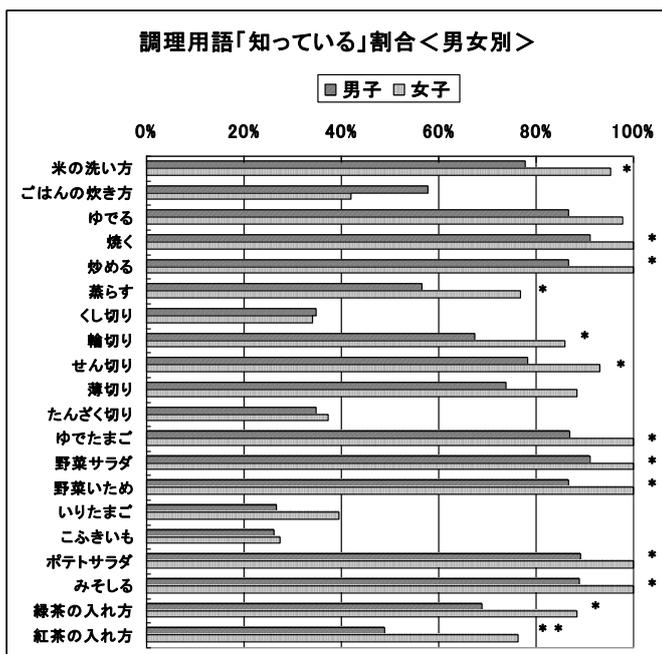
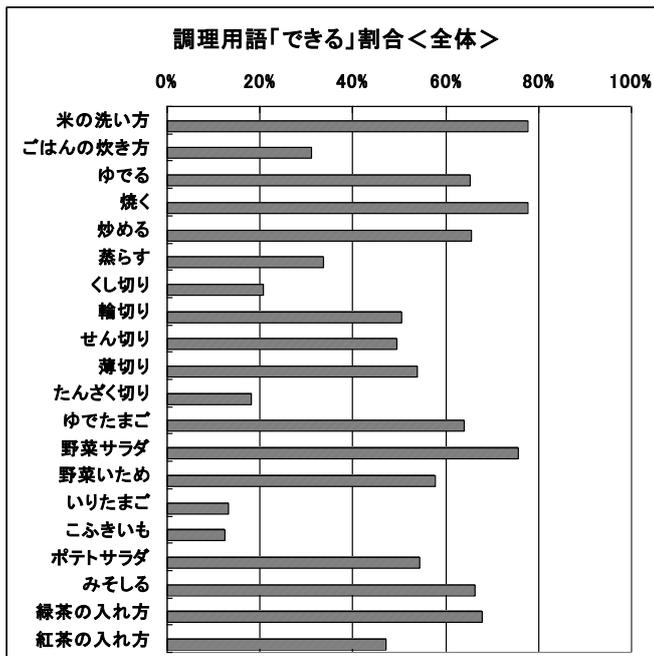


図 II -1)-13

【4-8:調理用語に関する技能<全体>】

20項目中すべての項目で「できる」割合が80%に満たなかった。それでも、「米の洗い方」、「焼く」、「野菜サラダ」は80%近い割合だった。

一方、「いりたまご」(13.3%)、「こふきいも」(12.5%)は極端に低い割合を示した。4-6との結果を比較しても、「できる」割合がかなり低くなっていることが分かった。



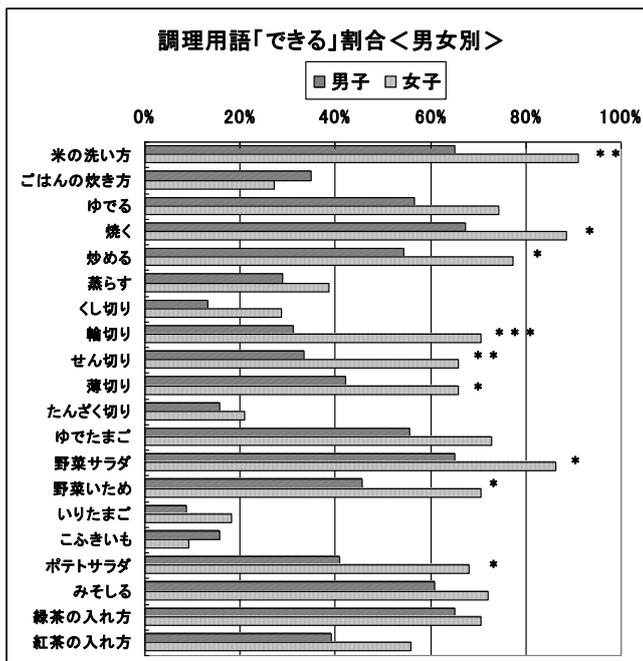
図Ⅱ-1)-14

【4-9:調理用語に関する技能<男女別>】

男子の方が高かった項目は「こふきいも」の1項目のみで、その他の項目は女子の方が高かった。

「できる」割合が80%を超えたのは女子では「米の洗い方」、「焼く」、「野菜サラダ」の3項目であったが、男子では80%を超えた項目はなかった。

男女間では20項目中9項目で有意差がみられ、いずれの項目も女子が優位だった。4-7との比較では、有意差がみられた項目は減少した。



図Ⅱ-1)-15

【4-10:調理用語に関する知識と技能の比較】

表 2 [単位:%]

	全体			男子			女子		
	知っている	できる	有意差	知っている	できる	有意差	知っている	できる	有意差
米の洗い方	86.4%	77.8%		77.8%	65.2%		95.3%	90.9%	
ごはんの炊き方	50.0%	31.1%	*	57.8%	34.8%	*	41.9%	27.3%	
ゆでる	92.0%	65.2%	***	86.7%	56.5%	**	97.7%	74.4%	**
焼く	95.5%	77.8%	**	91.1%	67.4%	**	100%	88.6%	*
炒める	93.2%	65.6%	***	86.7%	54.3%	**	100%	77.3%	**
蒸らす	66.3%	33.7%	***	56.5%	28.9%	**	76.7%	38.6%	***
くし切り	34.4%	20.7%	*	34.8%	13.3%	*	34.1%	28.6%	
輪切り	76.4%	50.6%	***	67.4%	31.1%	**	86.0%	70.5%	
せん切り	85.4%	49.4%	***	78.3%	33.3%	***	93.0%	65.9%	**
薄切り	80.9%	53.9%	***	73.9%	42.2%	**	88.4%	65.9%	*
たんざく切り	36.0%	18.2%	**	34.8%	15.6%	*	37.2%	20.9%	
ゆでたまご	93.3%	64.0%	***	87.0%	55.6%	**	100%	72.7%	***
野菜サラダ	95.5%	75.6%	***	91.1%	65.2%	**	100%	86.4%	*
野菜いため	93.2%	57.8%	***	86.7%	45.7%	***	100%	70.5%	***
いりたまご	33.0%	13.3%	**	26.7%	8.7%	*	39.5%	18.2%	*
こふきいも	26.7%	12.5%	*	26.1%	15.6%		27.3%	9.3%	*
ポテトサラダ	94.4%	54.5%	***	89.1%	40.9%	***	100%	68.2%	***
みそしる	94.3%	66.3%	***	88.9%	60.9%	**	100%	72.1%	***
緑茶の入れ方	78.4%	67.8%		68.9%	65.2%		88.4%	70.5%	*
紅茶の入れ方	62.1%	47.2%	*	48.9%	39.1%		76.2%	55.8%	*

※有意差 ***p<0.001 **p<0.01 *p<0.05

4-6 の調理用語に関する知識と 4-8 の調理用語に関する技能、4-7 の調理用語に関する知識と 4-9 の調理用語に関する技能を比較したものが上の表である。

全体で見ると、「知っている」、「できる」の間で 20 項目のうち「米の洗い方」、「緑茶の入れ方」を除く 18 項目に有意差がみられた。

4-5 の被服製作用語に関する知識と技能と比較すると、被服製作用語よりも調理用語の方が有意差が多くみられた。これは、調理用語は日常生活で耳にすることや目にすることが多いため、「知っている」割合は高くなるものの、技能としてはまだ身に付いていない項目が多く存在するためと考えられる。被服製作用語と同様に「知っている」割合が高くても、「できる」割合が高いとはいえないことがわかった

男女別にみると、20 項目中男子は 16 項目、女子は 15 項目で有意差がみられた。男女ともに有意差のみられた項目が多かったが、「ごはんの炊き方」、「くし切り」、「輪切り」、「たんざく切り」の 4 項目は男子のみ、「こふきいも」、「緑茶の入れ方」、「紅茶の入れ方」の 3

項目は女子のみで有意差がみられた。

男子に比べ、女子は有意差のみられた項目が少なかった。これは、2-2 から読み取れるように、男子よりも女子の方が家庭科の授業以外での調理経験が「ある」と回答した割合が高かったことが影響していると考えられる。

[小学5年生のまとめ]

小学5年生は、男女ともにほぼ全員が家庭科の学習を楽しみにしていることがわかった。

裁縫経験と調理経験の質問項目では、裁縫経験も調理経験も「ある」と回答した割合が80%を超えていた。しかし男女別では、調理経験でも裁縫経験でも、男女で比較するといずれも男子よりも女子の方が割合が高く、裁縫も調理も男女間で有意差がみられた。

被服製作用語も調理用語も「知っている」、「できる」割合が極端に低い項目が多数みられた。これは、家庭科の学習を始めて間もない時期では、その項目について関わる機会がない児童も多く、初めて被服製作に関する用語を耳にしたり、用具を手にしたりする児童が多いためと考えられる。また、その傾向は特に男子で顕著だった。

また、被服製作用語、調理用語ともに、総じて男子よりも女子の方が「知っている」、「できる」と回答した割合が高く、被服製作用語に関する知識以外では、男女間で有意差のみられる項目が多数存在した。これは、男子よりも女子の方が裁縫経験、調理経験ともに「ある」割合が高いことが影響していると考えられる。

「知っている」、「できる」の間で有意差が多くみられたことから、被服製作用語、調理用語ともに、その用語を知っていてもそれを実際に行うことができない児童が、男女にかかわらず多数存在することもわかった。

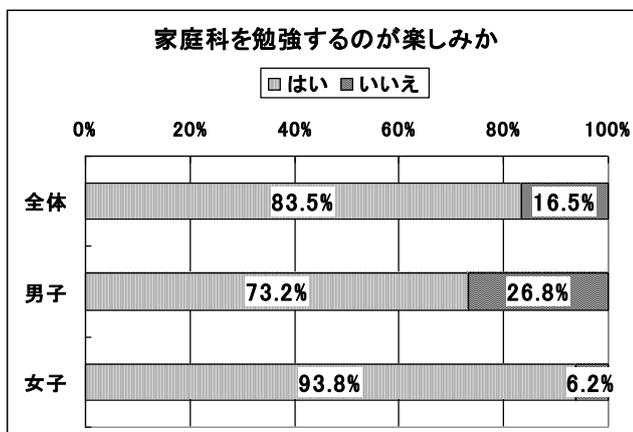
以上のことより、小学5年生の家庭科の学習を始めて間もない時点で、男女間に経験、知識、技能の差がみられることがわかった。

2) 中学1年生

1. 家庭科に対する関心・意欲に関する項目

【家庭科を勉強するのが楽しみか】

全体でみると、80%以上の生徒が家庭科を勉強するのが楽しみだと回答している。しかし男女別にみると、女子では「いいえ」と回答した生徒がわずか6.2%だったのに対し、男子は26.8%と、男女間で $p < 0.001$ と有意差がみられた。小学校での家庭科の学習が終わり、中学校での学習が新たに始まる時点で、男女間に家庭科に対する関心・意欲に違いがあることがわかった。



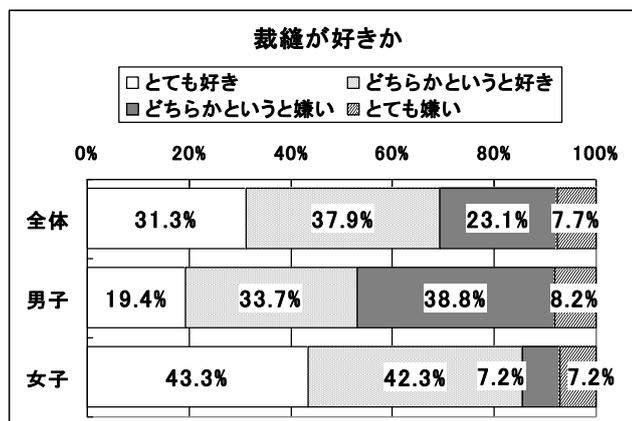
図Ⅱ-2)-1

2. 裁縫・調理の経験に関する項目

【2-1:裁縫が好きか】

全体でみると約70%の生徒が裁縫が「とても好き」、「どちらかという」と好き」と回答しており、裁縫には好意的であった。

しかし男女別にみると、好意的に回答した生徒は女子では85.6%に対し、男子は53.1%だった。男女間で $p<0.001$ と有意差がみられた。

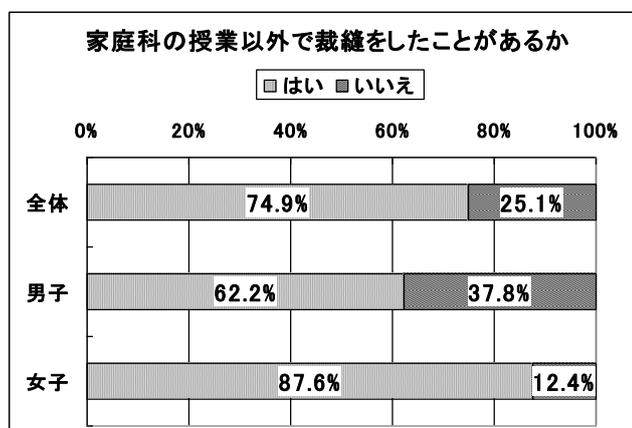


図Ⅱ-2)-2

【2-2:家庭科の授業以外で裁縫をしたことがあるか】

全体でみると、「はい」と回答した割合は74.9%と多くの生徒は家庭科の授業以外で裁縫経験があることがわかった。

しかし、男女別にみると、「はい」と答えた割合は女子は87.6%なのに対し、男子は62.2%と約25ポイントの差があり、男女間で $p<0.001$ の有意差がみられた。

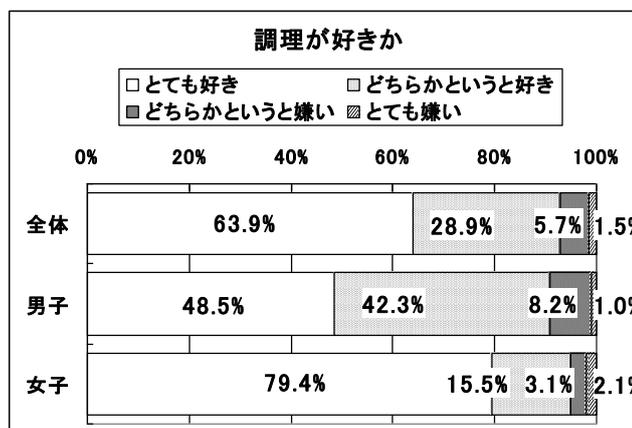


図Ⅱ-2)-3

【2-3:調理が好きか】

調理が「好き」、「どちらかという」と好き」と回答した割合は全体では90%を超えており、2-1と比較すると、差がみられた。これは男女ともどうようであり、調理の方が裁縫よりも好きな傾向があることがわかった。

男女間では $p<0.001$ で有意差がみられ、女子の方が調理に好意的であることがうかがえた。



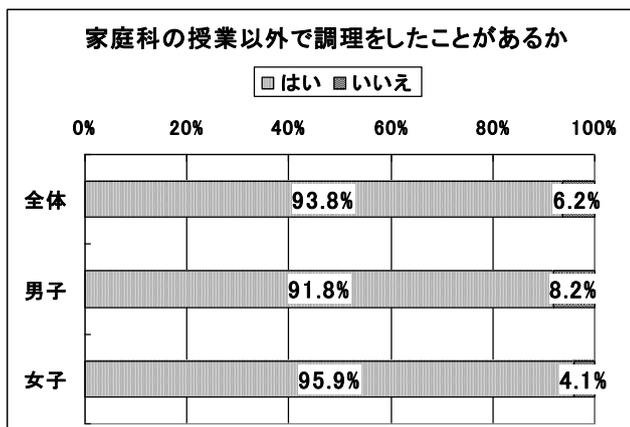
図Ⅱ-2)-4

【2-4:家庭科の授業以外で調理をしたことがあるか】

全体、男女ともに「はい」と回答した割合が90%を超えた。

2-2と比較すると、特に男子において差が大きくなり、調理経験の方が多いことがうかがえた。

男女間に有意差はみられなかった。

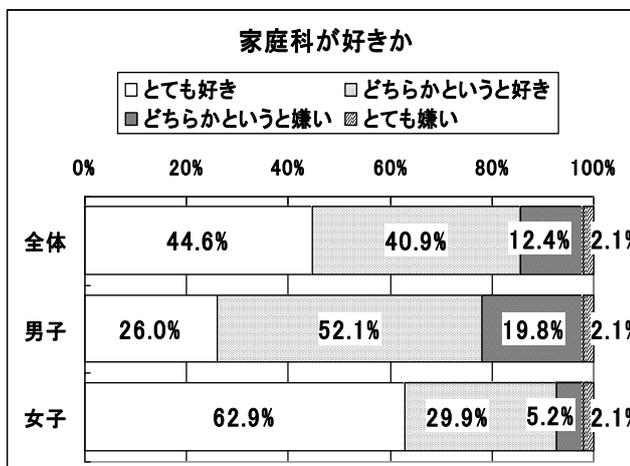


図Ⅱ-2)-5

【2-5:家庭科が好きか】

全体でみると、約85%の割合で「とても好き」、「どちらかというとき」と回答しており、家庭科に対して好意的であった。

しかし男女別でみると、好意的に回答した割合は女子で92.8%だったのに対し、男子では78.1%と約14ポイントの差があった。男女間の有意差は $p < 0.001$ だった。



図Ⅱ-2)-6

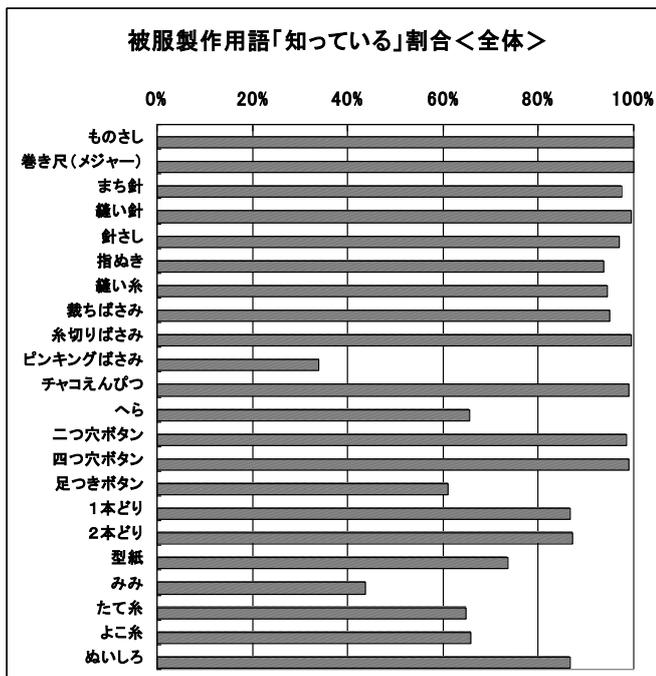
3. 用語(用具等)の知識に関する項目

【3-1:被服製作用語に関する知識<全体>】

22項目中15項目で「知っている」割合が80%を超えていた。特に「ものさし」、「巻き尺(メジャー)」は100%となった。

一方、「ピンキングばさみ」、「みみ」は「知っている」割合が50%を下回った。

小学校の学習で用具等に関する知識は高まっているものの、使用頻度などによって「知っている」割合に差が出てきたと考えられる。



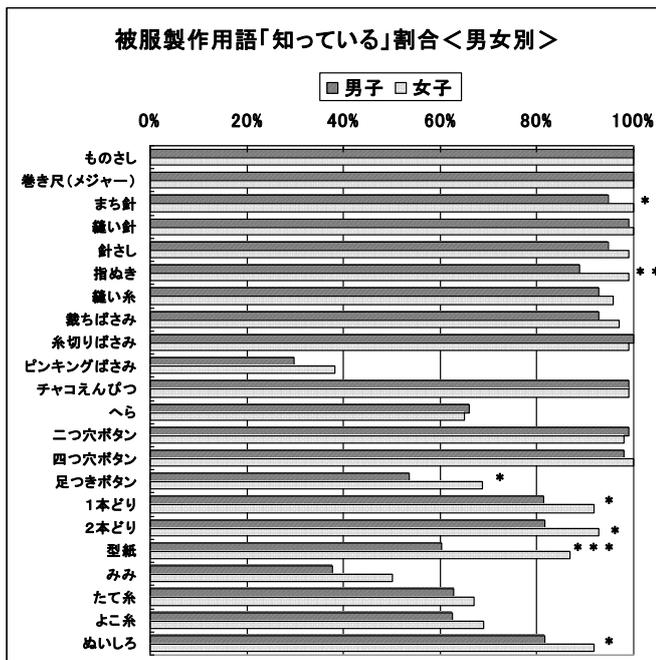
図Ⅱ-2)-7

【3-2:被服製作用語に関する知識<男女別>】

全体的にみると多くの項目で女子の方が「知っている」割合が高かったが、「糸切りばさみ」、「へら」、「二つ穴ボタン」では男子の方が高かった。

22項目中「まち針」(p<0.05)、「指ぬき」(p<0.01)、「足つきボタン」(p<0.05)、「1本どり」(p<0.05)、「2本どり」(p<0.05)、「型紙」(p<0.001)、「ぬいしろ」(p<0.05)の7項目で有意差がみられた。7項目すべてで女子が優位だった。

特に「型紙」では「知っている」割合は女子では86.8%だったのに対し、男子では60%となり、約27ポイントの差がみられた。



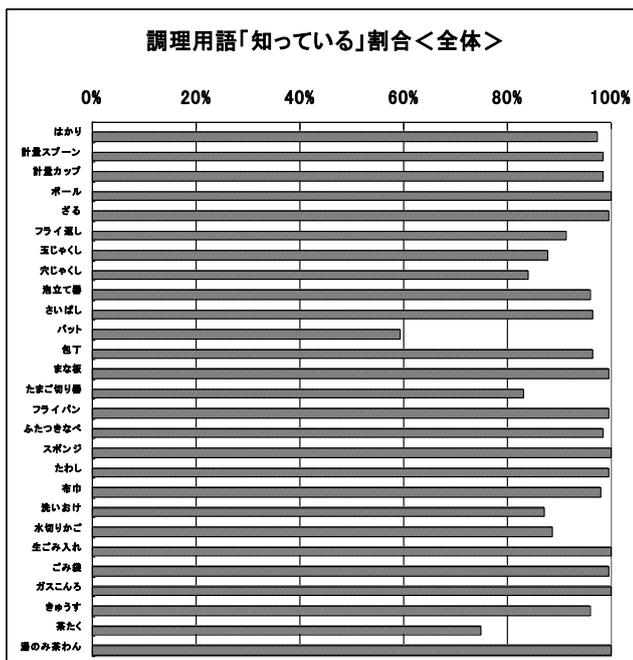
図Ⅱ-2)-8

【3-3:調理用語に関する知識<全体>】

27項目中25項目で「知っている」割合が80%を超えていた。中でも100%だった項目が「ボール」、「スポンジ」、「生ごみ入れ」、「ガスこんろ」、「湯のみ茶わん」の5項目と多かった。

3-1の被服製作用語と比較すると、全体的に「知っている」割合が高いことが分かった。

一方「バット」は59.3%となり、実際に目にしたことがあるものでも用語が分からないものがあることも分かった。



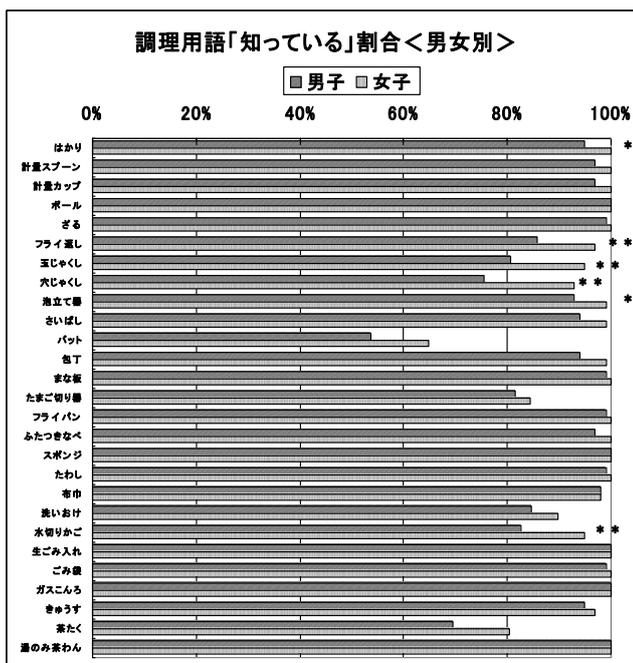
図Ⅱ-2)-9

【3-4:調理用語に関する知識<男女別>】

ほとんどの項目で女子の方が「知っている」割合が高かった。男子の方が「知っている」割合が高かった項目は「布巾」の1項目のみで、その差はわずか0.1ポイントだった。

「知っている」割合が100%だった項目数は女子は14項目、男子は5項目だった。

有意差があった項目は6項目あり、「はかり」(p<0.05)、「フライ返し」(p<0.01)、「玉じゃくし」(p<0.01)、「穴じゃくし」(p<0.01)、「泡だて器」(p<0.05)、「水切りかご」(p<0.01)だった。



図Ⅱ-2)-10

4. 用語(方法等)の知識と技能に関する項目

【4-1:被服製作用語に関する知識<全体>】

「知っている」割合が 80%を超えた項目は 17 項目中 13 項目と多かった。「知っている」割合が 100%だったのは「針に糸を通す」、「玉結び」、「玉どめ」の 3 項目であった。すべての項目で「知っている」割合が 70%を超え、全体的に高い割合を示した。

基本的な用語に関しては 100%あるいはそれに近い値を示す傾向があった。

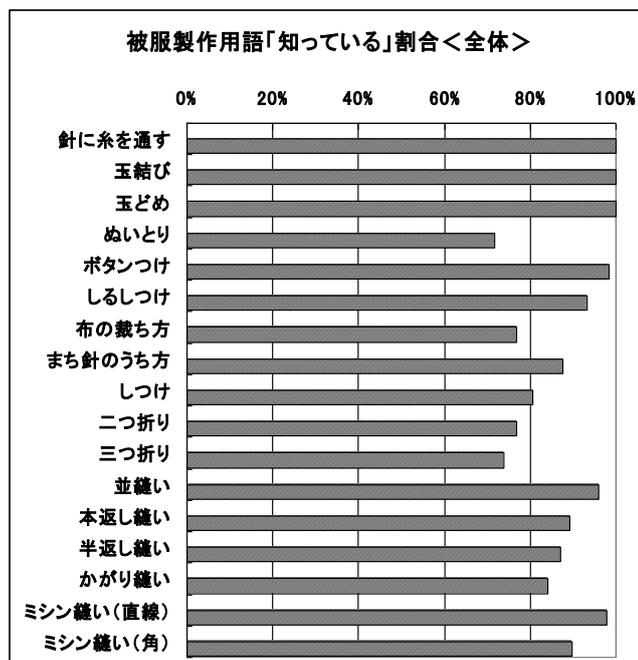


図 II -2)-10

【4-2:被服製作用語に関する知識<男女別>】

ほとんどの項目で女子の方が「知っている」割合が高かった。男子の方が高かったのは「ミシン縫い(直線縫い)」の 1 項目のみで、その差も 0.1 ポイントとほとんどなかった。

男女間では 17 項目中「ぬいとり」($p<0.05$)、「しるしつけ」($p<0.01$)、「まち針のうち方」($p<0.01$)、「しつけ」($p<0.01$)、「二つ折り」($p<0.01$)、「三つ折り」($p<0.05$) の 6 項目で有意差がみられ、いずれも女子が優位だった。

3-2 の被服製作(用具等)に関する用語と比較すると、有意差がみられた項目数はあまり変わらなかった。

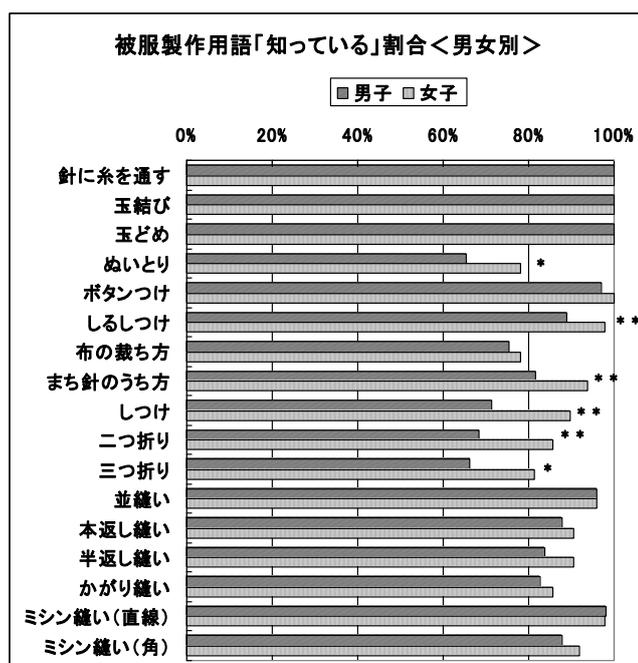


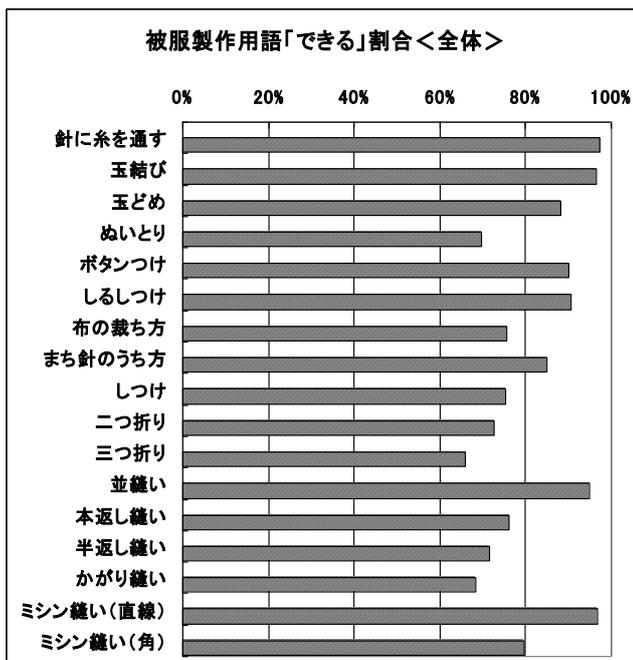
図 II -2)-11

【4-3:被服製作用語に関する技能<全体>】

「できる」割合が80%を超えたのは17項目中8項目となり、4-1と比較するとその数は減少した。

4-1では「知っている」割合が100%となった項目があったが、「できる」割合が100%となった項目はなかった。

「本返し縫い」などの縫い方に関する項目では、「知っている」割合が高かったものの、「できる」割合が特に減少しているものが多かった。

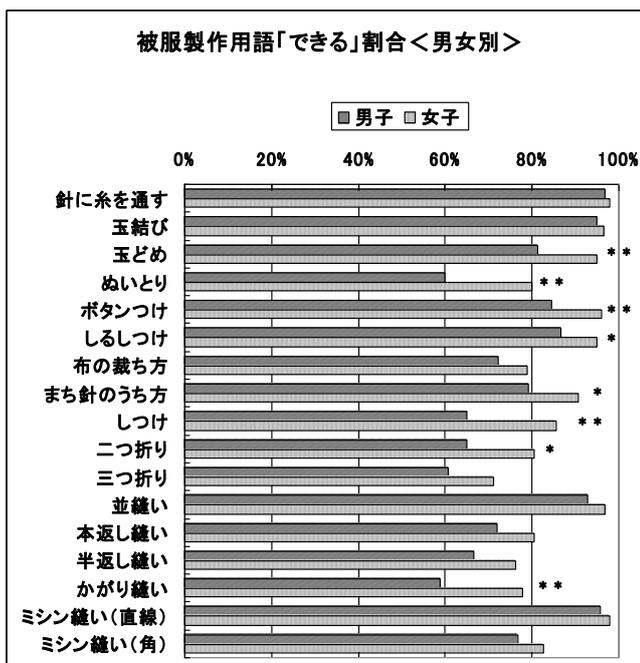


図Ⅱ-2)-12

【4-4:被服製作用語に関する技能<男女別>】

女子の方がすべての項目で「できる」割合が高かった。

男女別では17項目中「玉どめ」(p<0.01)、「めいとり」(p<0.01)、「ボタンつけ」(p<0.01)、「しるしつけ」(p<0.05)、「まち針のうち方」(p<0.05)、「しつけ」(p<0.01)、「二つ折り」(p<0.05)、「かがり縫い」(p<0.01)の8項目で有意差がみられ、いずれも女子が優位だった。4-2で有意差がみられた項目のほとんどで有意差がみられた。



図Ⅱ-2)-13

【4-5:被服製作用語に関する知識と技能の比較】

表 3 [単位:%]

	全体			男子			女子		
	知っている	できる	有意差	知っている	できる	有意差	知っている	できる	有意差
針に糸を通す	100%	97.4%	*	100%	96.9%		100%	97.9%	
玉結び	100%	96.4%	**	100%	94.8%	*	100%	96.4%	
玉どめ	100%	88.1%	***	100%	81.4%	***	100%	94.8%	*
ぬいとり	71.6%	69.8%		65.3%	59.8%		78.1%	80.0%	
ボタンつけ	98.5%	90.2%	***	96.9%	84.4%	**	100%	95.9%	*
しるしつけ	93.3%	90.7%		88.8%	86.6%		97.9%	94.8%	
布の裁ち方	76.8%	75.5%		75.5%	72.2%		78.1%	78.9%	
まち針のうち方	87.6%	84.9%		81.6%	79.2%		93.8%	90.6%	
しつけ	80.5%	75.3%		71.4%	64.9%		89.7%	85.6%	
二つ折り	76.9%	72.7%		68.4%	64.9%		85.6%	80.4%	
三つ折り	73.8%	66.0%		66.3%	60.8%		81.4%	71.1%	
並縫い	95.9%	94.8%		95.9%	92.8%		95.9%	96.9%	
本返し縫い	89.2%	76.2%	**	87.8%	71.9%	**	90.6%	80.4%	*
半返し縫い	87.0%	71.5%	***	83.7%	66.7%	**	90.5%	76.3%	**
かがり縫い	84.1%	68.3%	***	82.7%	58.9%	***	85.6%	77.7%	
ミシン縫い(直線)	97.9%	96.9%		98.0%	95.8%		97.9%	97.9%	
ミシン縫い(角)	89.7%	79.7%	**	87.8%	76.8%	*	91.8%	82.5%	

※有意差 ***p<0.001 **p<0.01 *p<0.05

4-1の被服製作用語に関する知識と4-3の被服製作用語に関する技能、4-2被服製作用語に関する知識と4-4の被服製作用語に関する技能を比較したものが上の表である。

全体でみると、「知っている」、「できる」の間で17項目のうち「針に糸を通す」、「玉結び」、「玉どめ」、「ボタンつけ」、「本返し縫い」、「半返し縫い」、「かがり縫い」、「ミシン縫い(角の曲がり方)」の8項目で有意差がみられた。

「知っている」割合が高い項目でも有意差のみられる項目が目立ったことから、「知っている」割合が高くても「できる」割合が必ずしも高いとはいえないことがわかった。

男女別にみると、17項目中男子は7項目、女子は4項目で有意差がみられた。男女ともに有意差のみられた項目が多かったが、「玉結び」、「かがり縫い」、「ミシン縫い(角の曲がり方)」の3項目は男子のみで有意差がみられた。

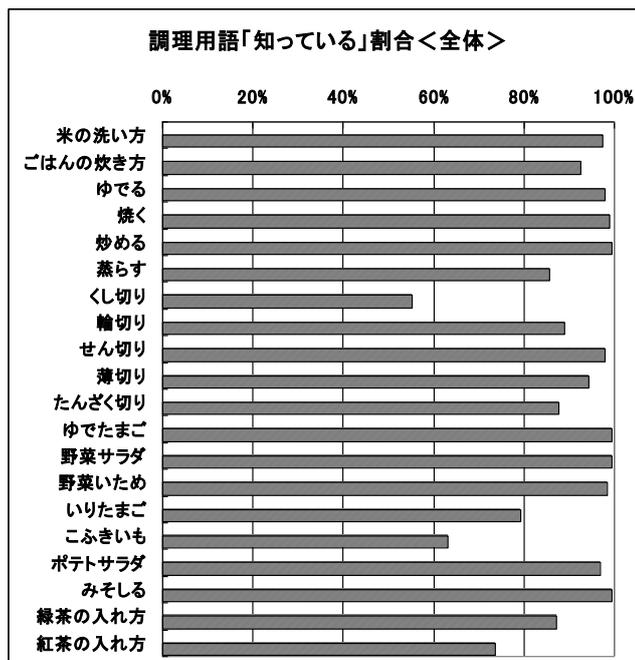
有意差のみられた項目は男子よりも女子の方が少なかったが、これは、2-2から読み取れるように、男子よりも女子の方が家庭科の授業以外での裁縫経験が「ある」と回答した割合が高いことが影響していると考えられる。

【4-6:調理用語に関する知識<全体>】

20項目中16項目で「知っている」割合が80%を超えた。さらに90%を超えた項目は12項目で、ほとんどの項目は高い割合を示した。

一方、「くし切り」(55.2%)、「こふきいも」(63.2%)の「知っている」割合が極端に低かった。

全体的に見ると、「せん切り」、「薄切り」といった基本的な切り方や、「炒める」、「焼く」といった基本的な調理用語に関しては、「知っている」割合がほぼ100%の項目が多く、調理の基本的な用語の知識は中学1年生の時点でほぼ身に付いていることがわかった。



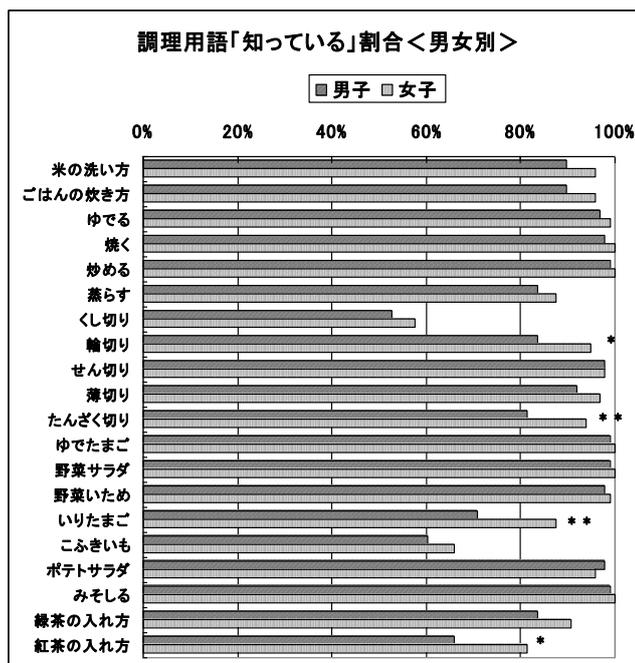
図Ⅱ-2)-14

【4-7:調理用語に関する知識<男女別>】

女子の方がほとんどの項目で「知っている」割合が高かった。男子の方が高かった項目は「ポテトサラダ」の1項目のみで、その差も2ポイントと小さかった。

男女間で有意差がみられた項目は4項目と少なかった。それは、「輪切り」($p<0.05$)、「たんざく切り」($p<0.01$)、「いりたまご」($p<0.01$)、「紅茶の入れ方」($p<0.05$)で、いずれの項目も女子が優位だった。

4-2の被服製作用語と比べ、有意差がみられた項目が少なかったことから、調理用語の方が男女の差が小さいことがわかった。

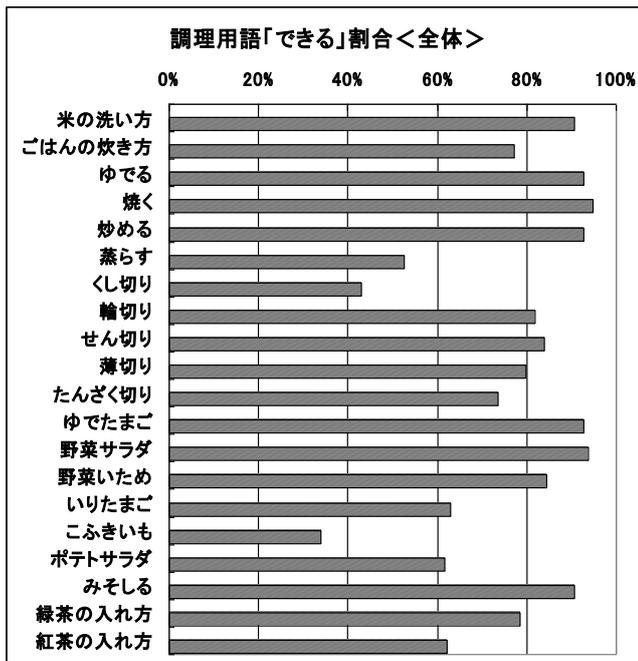


図Ⅱ-2)-15

【4-8:調理用語に関する技能<全体>】

「できる」割合が80%を超えた項目は20項目中10項目となり、4-6の「知っている」割合に比べ項目数が大きく減少した。

4-3の被服製作用語に関する技能と比較すると、「できる」割合が80%を超えた項目数は調理用語の方が多かったものの、調理用語の中には「くし切り」(42.9%)、「こふきいも」(34.0%)のように、「できる」割合が極端に低い項目もみられたことから、基本的なものに対しては技能が高まるが、日常生活ではあまりなじみのないものには技能が定着しにくいことが推測された。



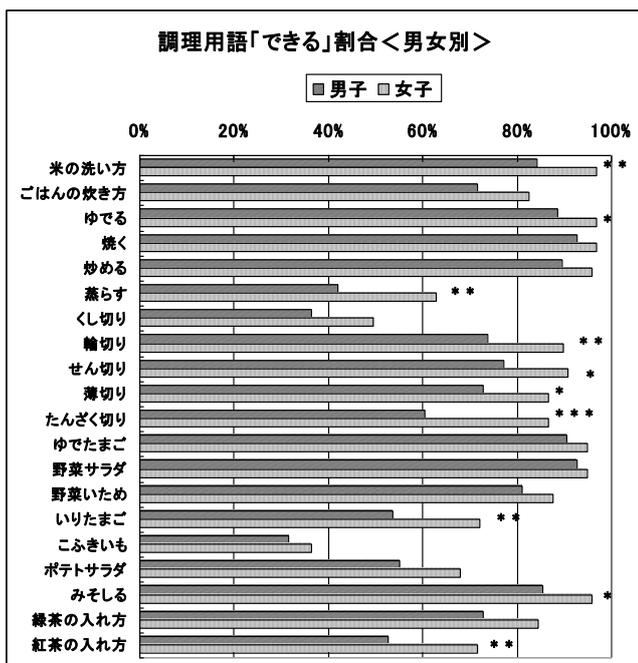
図Ⅱ-2)-16

【4-9:調理用語に関する技能<男女別>】

すべての項目において、女子の方の「できる」割合が高かった。

男女で比較すると、20項目中に10項目で有意差がみられ、4-7の調理用語に関する知識の4項目に比べ大幅に増えた。特に「たんざく切り」の「できる」割合は女子で86.6%に対し、男子では60.4%と約26ポイントの差がみられた。また、有意差がみられたすべての項目で女子が優位だった。

これらのことから、知識に比べ、技能において男女間の差が大きいことがわかった。



図Ⅱ-2)-17

【4-10:調理用語に関する知識と技能の比較】

表 4 [単位:%]

	全体			男子			女子		
	知っている	できる	有意差	知っている	できる	有意差	知っている	できる	有意差
米の洗い方	97.4%	90.6%	**	89.6%	84.2%	**	99.0%	96.9%	
ごはんの炊き方	92.7%	77.1%	***	89.6%	71.6%	**	95.9%	82.5%	**
ゆでる	97.9%	92.7%	*	96.9%	88.5%	*	99.0%	96.9%	
焼く	99.0%	94.8%	*	97.9%	92.6%		100%	96.9%	
炒める	99.5%	92.7%	**	99.0%	89.6%	**	100%	95.9%	*
蒸らす	85.6%	52.6%	***	83.5%	42.1%	***	87.6%	62.9%	***
くし切り	55.2%	42.9%	*	52.6%	36.5%	*	57.7%	49.5%	
輪切り	89.1%	81.8%	*	83.5%	73.7%		94.8%	89.7%	
せん切り	97.9%	83.9%	***	97.9%	77.1%	***	97.9%	90.7%	*
薄切り	94.3%	79.8%	***	91.8%	72.9%	**	96.9%	86.6%	**
たんざく切り	87.6%	73.6%	***	81.4%	60.4%	**	93.8%	86.6%	
ゆでたまご	99.5%	92.7%	**	99.0%	90.5%	**	100%	94.8%	*
野菜サラダ	99.5%	93.8%	**	99.0%	92.6%	*	100%	94.8%	*
野菜いため	98.5%	84.4%	***	97.9%	81.1%	***	99.0%	87.6%	**
いりたまご	79.3%	63.0%	***	70.8%	53.7%	*	87.6%	72.2%	
こふきいも	63.2%	34.0%	***	60.4%	31.6%	***	66.0%	36.5%	***
ポテトサラダ	96.9%	61.7%	***	97.9%	55.2%	***	95.9%	68.0%	***
みそしる	99.5%	90.7%	***	99.0%	85.4%	***	100%	95.9%	*
緑茶の入れ方	87.1%	78.6%	*	83.5%	72.9%	*	90.7%	84.4%	
紅茶の入れ方	73.7%	62.1%	*	66.0%	52.6%		81.4%	71.6%	

※有意差 ***p<0.001 **p<0.01 *p<0.05

4-6 の調理用語に関する知識と 4-8 の調理用語に関する技能、4-7 の調理用語に関する知識と 4-9 の調理用語に関する技能を比較したものが上の表である。

全体で見ると、「知っている」、「できる」の間で 20 項目すべてで有意差がみられた。

4-5 の被服製作用語に関する知識と技能と同様に、「知っている」割合が高い項目でも低い項目でも有意差がみられた。このことから、「知っている」割合が高くて、「できる」割合が必ずしも高いとはいえないことがわかった。

男女別にみると、20 項目中男子は 17 項目、女子は 11 項目で有意差がみられた。女子で有意差のみられた 11 項目は男子でも有意差がみられ、「米の洗い方」、「ゆでる」、「くし切り」、「たんざく切り」、「いりたまご」、「緑茶の入れ方」の 6 項目は男子のみで有意差がみられた。

男子に比べ、女子は有意差のみられた項目が少なかった。2-4 から読み取れるように、男女ともに 9 割前後の生徒が家庭での調理経験があることから、経験の有無だけでなく、経

験の内容の差がこの結果に表れていると考えられる。

【中学1年生のまとめ】

中学1年生は、全体では80%以上の生徒が家庭科の学習を楽しみにしていたが、男女別でみると、男子が約70%なのに対し女子が約90%と、中学校での学習が新たに始まる時点で、男女間で家庭科に対する関心・意欲に違いがみられた。

裁縫経験と調理経験の質問項目では、調理経験のある割合が全体、男女ともに90%以上だったのに対し、裁縫経験のある割合は、全体の割合が約75%で、調理経験に比べ、割合が低いことがわかった。また、裁縫経験のある割合は女子が約90%だったのに対し、男子はわずか62%で、男女間の差が大きかった。つまり、小学校家庭科の学習を終え、男女ともに大半の生徒が家庭科の授業以外で裁縫や調理の経験をする機会を持っているものの、特に男子において裁縫は調理に比べ家庭などで実践される機会が少ないと考えられる。

被服製作用語と調理用語を比較すると、全体的に調理用語の方が「知っている」割合が高く、また、被服製作用語には「知っている」割合が極端に低い項目もみられ、両者に差があることがわかった。「できる」割合を比較してみると、被服製作用語も調理用語も「できる」割合が低い項目が多くみられた。そして、被服製作用語、調理用語ともに、その用語を知っていても、それを実際に行うことができない項目が多数存在することがわかった。

つまり、小学校で学習した内容が知識、技能として身に付いているものも多くあるが、いくつかの用語は知識としても技能としても身に付いていないまま中学校での家庭科の学習が始まると考えられる。

また、いずれの用語でも男女で比較すると、女子の方が「知っている」、「できる」割合が高い項目が多く、有意差のみられる項目も多数存在した。これらのことから、中学校での家庭科の学習が始まる時点で、男女間に経験、知識、技能の差がみられることがわかった。

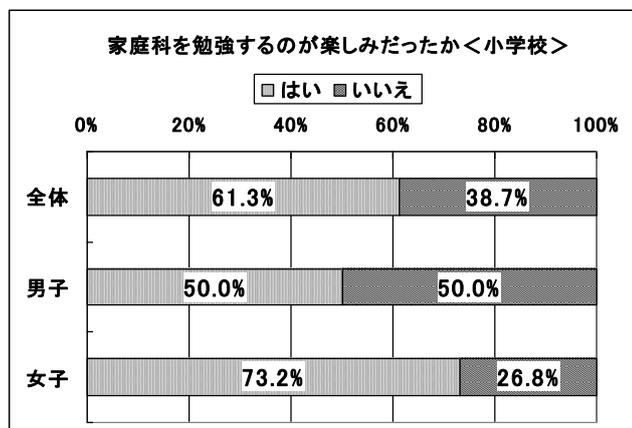
3) 中学3年生

1. 家庭科に対する関心・意欲に関する項目

【1-1:家庭科を勉強するのが楽しみだったか<小学校の頃>】

全体でみると、小学校の頃に家庭科を勉強するのが楽しみだったと回答した生徒は6割だった。

男女別にみると、女子では「はい」と回答した割合が73.2%だったのに対し、男子では50.0%と、男女間で $p<0.01$ の有意差がみられた。中学3年生では、小学校の頃の家庭科に対する関心・意欲が男女で違いがあることがわかった。

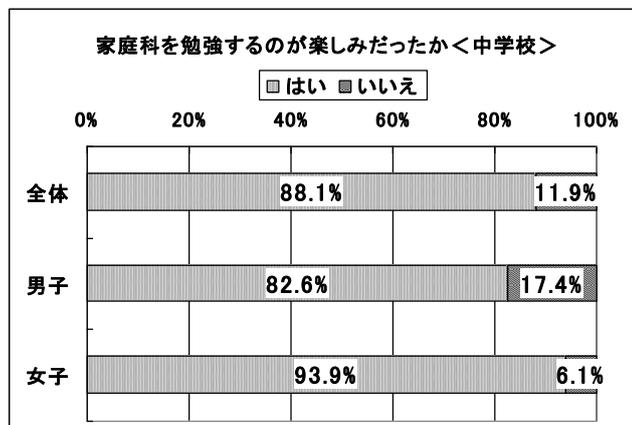


図Ⅱ-3)-1

【1-2:家庭科を勉強するのが楽しみだったか<中学校の頃>】

全体でみると約90%が中学校の頃に家庭科を勉強するのが楽しみだったと回答した。

男女別にみると、女子では「はい」と回答した割合が93.9%だったのに対し、男子では82.6%と、男女間で $p<0.05$ の有意差がみられた。1-1に比べて男女とも家庭科が楽しみだったと回答した生徒は大幅に増えた。



図Ⅱ-3)-2

2. 裁縫・調理の経験に関する項目

【2-1:裁縫が好きか】

全体でみると、「とても好き」、「どちらかという好き」と回答した割合は 67.3%となり、裁縫に対しては好意的だった。

しかし、男女別にみると、裁縫に対して好意的な女子は 79.2%だったのに対し、男子では 55.8%と、男女間で $p<0.01$ の有意差がみられた。

また、男子の「とても嫌い」と回答した生徒は 8.1%となり、女子の 3倍強だった。

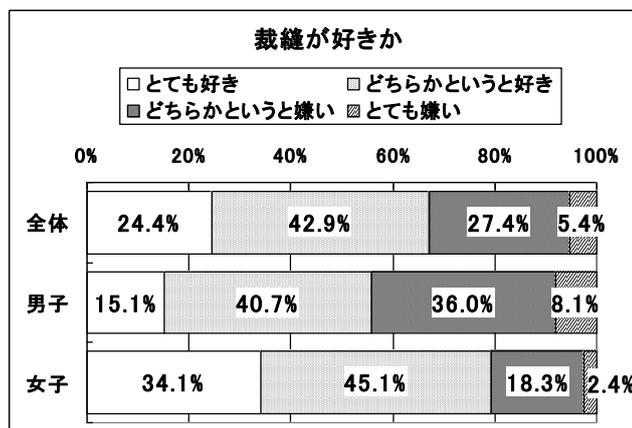


図 II -3)-3

【2-2:家庭科の授業以外で裁縫をしたことがあるか】

全体でみると、「はい」と回答した割合が 80%を超えており、家庭科以外での実践の経験がある生徒が多いことがわかった。

しかし男女別にみると、「はい」と回答した割合が女子では 93.8%と高かったものの、男子では 69.4%となり、男女間で $p<0.001$ の有意差がみられた。

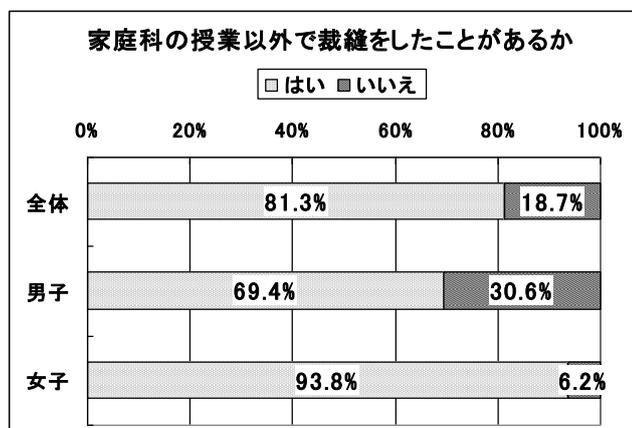
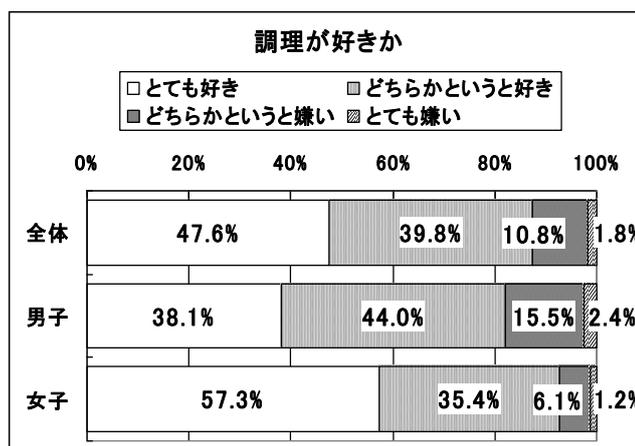


図 II -3)-4

【2-3:調理が好きか】

全体でみると、「とても好き」、「どちらかという好き」と回答した割合は約9割となり、2-1の裁縫の結果とは異なった。

男女別でみると、好意的に回答した割合は女子で92.7%、男子で82.1%と約10ポイントの差はあったが、有意差はみられなかった。被服に比べ、男女間の違いはなく、調理が好きな生徒が多かった。



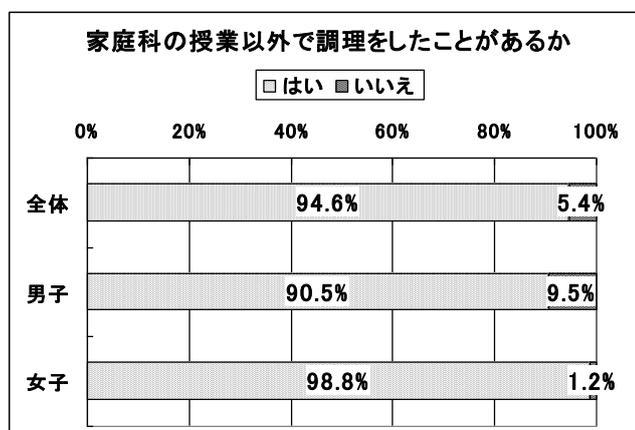
図Ⅱ-3)-5

【2-4:家庭科の授業以外で調理をしたことがあるか】

全体でみると、「はい」と回答した割合が94.6%と高かった。

男女別にみても、約8ポイントの差があり、男女間で有意差 ($p < 0.05$) がみられたものの、2-2の裁縫経験とは異なり、男女ともに多くの生徒が家庭科の授業以外で調理を経験していることがわかった。

男子では特に、裁縫経験に比べ調理経験の割合が高かった。

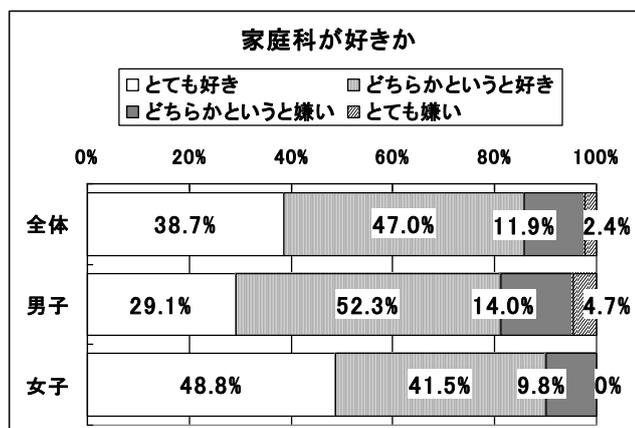


図Ⅱ-3)-6

【2-5:家庭科が好きか】

全体でみると「とても好き」、「どちらかという好き」と回答した割合は85.7%で家庭科に対して肯定的な生徒が多かった。

しかし男女別にみると、「とても好き」と回答した割合は男子で29.1%だったのに対し、女子では48.8%となった。また、男女間で有意差 ($p < 0.05$) がみられた。



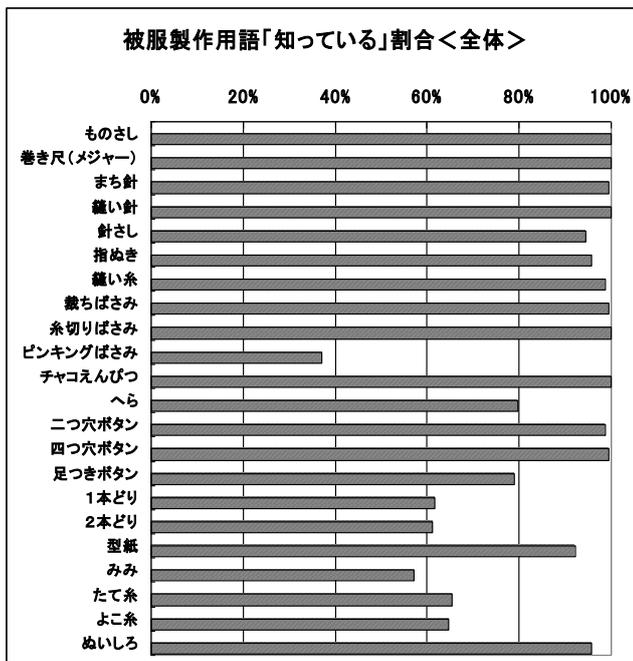
図Ⅱ-3)-7

3. 用語(用具等)の知識に関する項目

【3-1:被服製作用語に関する知識<全体>】

「知っている」割合が80%を超えた項目は22項目中14項目だった。100%となった項目は「ものさし」、「巻き尺(メジャー)」、「縫い糸」、「糸切りばさみ」、「チャコえんぴつ」の5項目で、100%に近い項目も多く存在した。

一方、「ピンキングばさみ」の「知っている」割合は37.1%と低く、小学校、中学校の家庭科の学習を通してさまざまな用具の名前を覚えているものの、使用頻度などによって「知っている」割合に差が出てきたと考えられる。



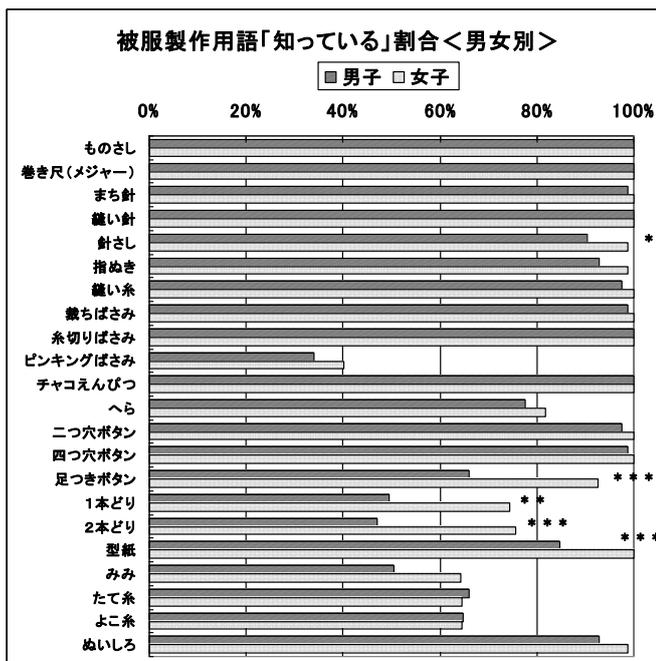
図Ⅱ-3)-8

【3-2:被服製作用語に関する知識<男女別>】

「たて糸」、「よこ糸」を除くすべての項目で女子の方が「知っている」割合が高いまたは同じだった。

男女で比較すると、22項目中「針さし」(p<0.05)、「足つきボタン」(p<0.001)、「1本どり」(p<0.01)、「2本どり」(p<0.001)、「型紙」(p<0.001)の5項目で有意差がみられ、いずれも女子が優位だった。

女子の「知っている」割合が100%だったのは11項目あったが、男子では4項目しかなく、男女で差がみられた。



図Ⅱ-3)-9

【3-3:調理用語に関する知識<全体>】

「知っている」割合が 80%を超えた項目は 27 項目中 25 項目だった。中でも「知っている」割合が 100% となった項目は 12 項目と多かった。

この中で「知っている」割合が 1 番低かった「茶たく」でも 75.6%と高い値を示し、小学校や中学校での家庭科学習や 2-4 の調理経験の高さがこの結果につながったと考えられる。

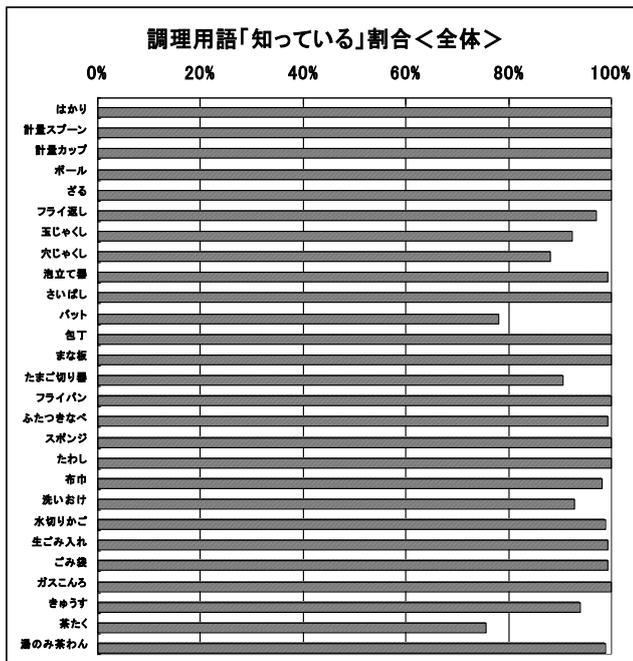


図 II -3)-10

【3-4:調理用語に関する知識<男女別>】

男子の方が「知っている」割合が高かった項目はなく、すべての項目で女子の方が「知っている」割合が高いあるいは同じ値だった。

男女別にみると、有意差がみられた項目は「たまご切り器」(p<0.05)、「きゅうす」(p<0.05) の 2 項目のみであった。

女子の「知っている」割合が 100% だったのは 17 項目で、男子も 12 項目と多かったことから、男女間の差はあまりないと考えられる。

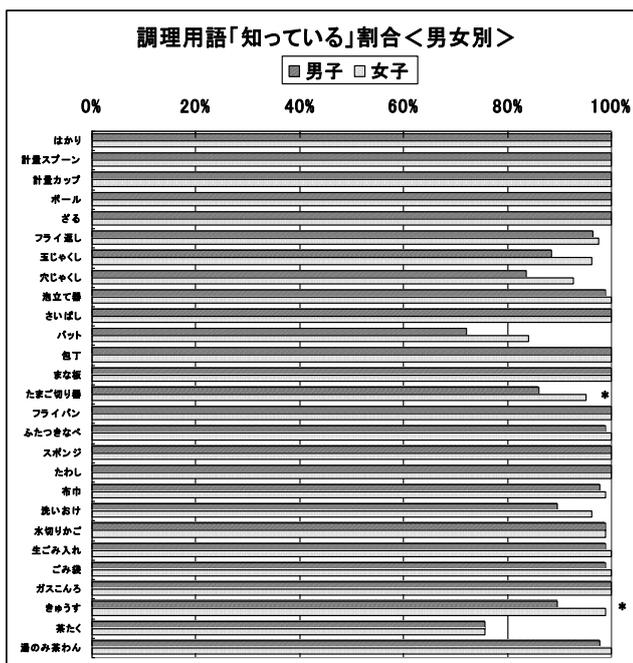


図 II -3)-11

4. 用語(方法等)の知識と技能に関する項目

【4-1:被服製作用語に関する知識<全体>】

「知っている」割合が 80%を超えた項目は 17 項目中 15 項目だった。
 「知っている」割合が 100%だったのは、「針に糸を通す」の 1 項目のみだったが 100%に近い項目もいくつかみられた。

一方、「ぬいとり」の「知っている」割合は 55.7%と極端に低かった。全体的には「知っている」割合が高い傾向にあった。

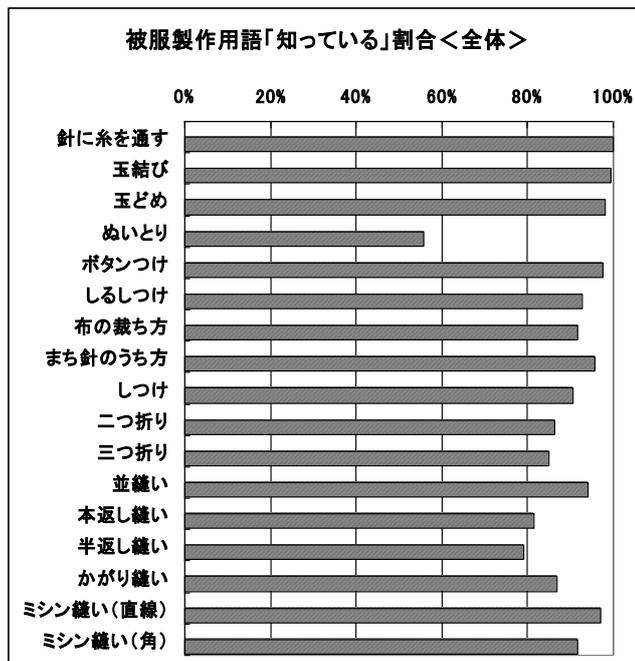


図 II -3)-12

【4-2:被服製作用語に関する知識<男女別>】

「針に糸を通す」を除くすべての項目で女子の方の「知っている」割合が高かった。「針に糸を通す」は男女とも 100%だった。

男女別にみると、有意差がみられた項目は 17 項目中 12 項目と多かった。その項目は、「ボタンつけ」(p<0.05)、「しるしつけ」(p<0.05)、「布の裁ち方」(p<0.01)、「しつけ」(p<0.05)、「二つ折り」(p<0.01)、「三つ折り」(p<0.01)、「並縫い」(p<0.01)、「本返し縫い」(p<0.01)、「半返し縫い」(p<0.05)、「かがり縫い」(p<0.01)、「ミシン縫い(直線縫い)」(p<0.01)、「ミシン縫い(角の曲がり方)」(p<0.05)であり、男女間の差がみられた。

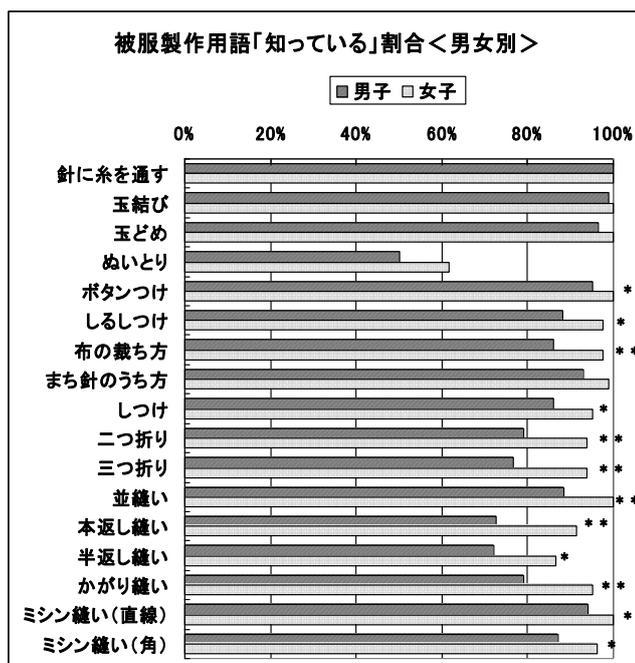


図 II -3)-13

【4-3:被服製作用語に関する技能<全体>】

「できる」割合が 80%を超えた項目は 17 項目中 12 項目だった。「できる」割合が 100%となった項目はなかったものの、「針に糸を通す」、「玉結び」ではほぼ 100%の値になった。

一方、「ぬいとり」、「本返し縫い」、「半返し縫い」では「できる」割合が低く、中でも「本返し縫い」と「半返し縫い」では「知っている」割合は高かったものの（「本返し縫い」81.5%、「半返し縫い」79.2%）、「できる」割合は極端に低くなった（「本返し縫い」67.3%、「半返し縫い」63.1%）。

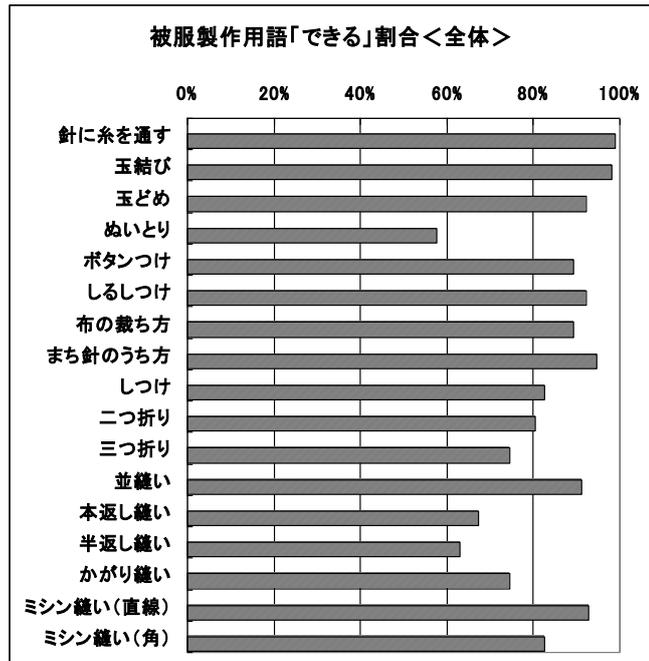


図 II-3)-14

【4-4:被服製作用語に関する技能<男女別>】

ほとんどの項目で女子の方の「できる」割合が高かった。「針に糸を通す」は男女ともに同じ値 (98.8%) で、男子の方が「できる」割合が高かった項目はなかった。

男女別にみると、17 項目中「ボタンつけ」(p<0.05)、「しるしつけ」(p<0.05)、「布の裁ち方」(p<0.01)、「まち針のうち方」(p<0.01)、「しつけ」(p<0.05)、「二つ折り」(p<0.05)、「三つ折り」(p<0.05)、「並縫い」(p<0.01)、「本返し縫い」(p<0.05)、「半返し縫い」(p<0.05)、「かがり縫い」(p<0.001)、「ミシン縫い(直線縫い)」(p<0.001)、「ミシン縫い(角の曲がり方)」(p<0.05) 13 項目で有意差がみられた。

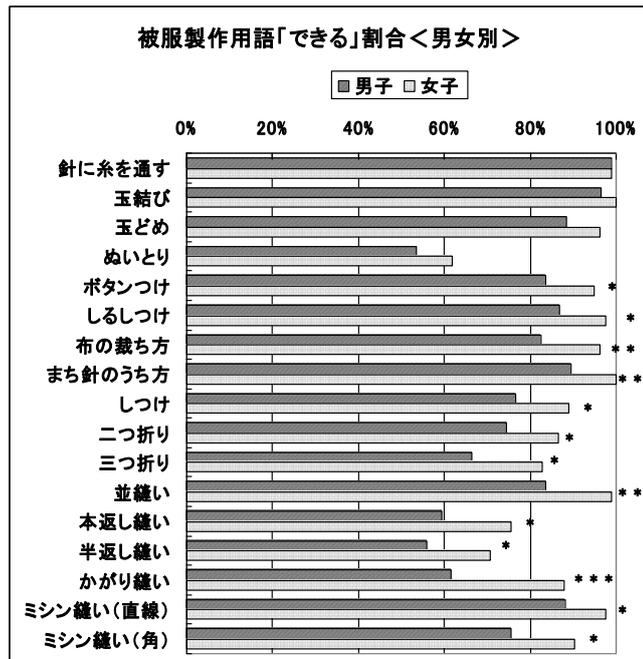


図 II-3)-15

【4-5: 被服製作用語に関する知識と技能の比較】

表 5 [単位:%]

	全体			男子			女子		
	知っている	できる	有意差	知っている	できる	有意差	知っている	できる	有意差
針に糸を通す	100%	98.8%		100%	98.8%		100%	98.8%	
玉結び	99.4%	98.2%		98.8%	96.5%		100%	100%	
玉どめ	98.2%	92.3%	*	96.5%	88.4%	*	100%	96.3%	
ぬいとり	55.7%	57.6%		50.0%	53.6%		61.7%	61.7%	
ボタンつけ	97.6%	89.2%	**	95.3%	83.7%	*	100%	95.0%	*
しるしつけ	92.8%	92.1%		88.2%	86.9%		97.6%	97.5%	
布の裁ち方	91.7%	89.2%		86.0%	82.6%		97.6%	96.3%	
まち針のうち方	95.8%	94.6%		93.0%	89.5%		98.8%	100%	
しつけ	90.5%	82.6%	*	86.0%	76.5%		95.1%	89.0%	
二つ折り	86.3%	80.4%		79.1%	74.4%		93.9%	86.6%	
三つ折り	85.1%	74.4%	*	76.7%	66.3%		93.9%	82.9%	*
並縫い	94.0%	91.1%		88.4%	83.7%		100%	99%	
本返し縫い	81.5%	67.3%	**	72.7%	59.3%		91.5%	75.6%	**
半返し縫い	79.2%	63.1%	**	72.1%	55.8%	*	86.6%	70.7%	*
かがり縫い	86.9%	74.4%	**	79.1%	61.6%	*	95.1%	87.8%	
ミシン縫い(直線)	97.0%	92.8%		94.2%	88.2%		100%	97.6%	
ミシン縫い(角)	91.7%	82.7%	*	87.2%	75.6%		96.3%	90.2%	

※有意差 ***p<0.001 **p<0.01 *p<0.05

4-1 の被服製作用語に関する知識と 4-3 の被服製作用語に関する技能、4-2 被服製作用語に関する知識と 4-4 の被服製作用語に関する技能を比較したものが上の表である。

全体で見ると、「知っている」、「できる」の間で 17 項目中 8 項目に有意差がみられた。

半数近くの項目で有意差がみられたことから、中学 3 年生ではその用語を知っていても、それを実際に行うことができない生徒が多数存在することがわかった。

また、「知っている」割合が高かった項目でも有意差がみられたことから、「知っている」割合が高くて「できる」割合が必ずしも高いとはいえないことがわかった。

男女別にみると、17 項目中男女ともに 4 項目で有意差がみられた。「玉どめ」、「かがり縫い」の 2 項目は男子でのみ、「三つ折り」、「本返し縫い」の 2 項目は女子のみで有意差がみられた。

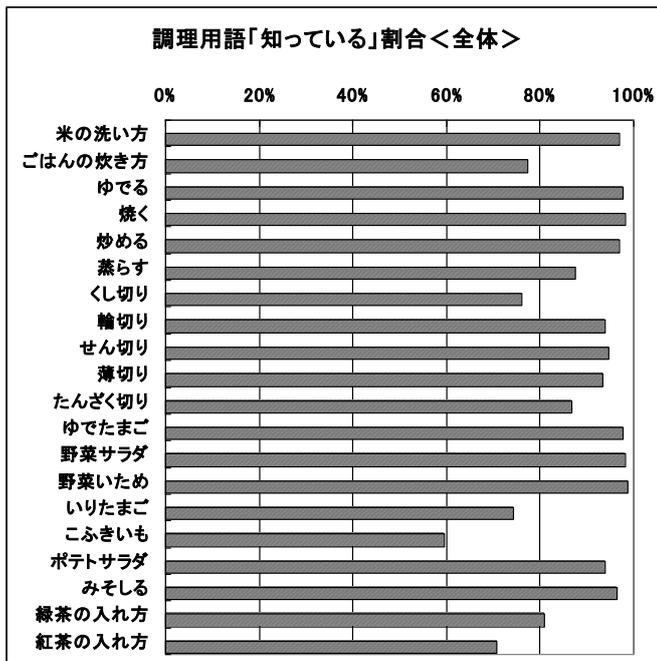
以上より、中学 3 年生では、用語を知っていても実際に行うことができない生徒が存在することがわかった。また、有意差のみられた項目も中学 1 年生とあまり変わらなかったため、中学 1 年生で用語を知っていても実際に行うことができなかった項目は中学 3 年生でも同様であることが推察された。

【4-6:調理用語に関する知識<全体>】

「知っている」割合が80%を超えた項目は20項目中15項目だった。

「知っている」割合が100%だった項目はなかったものの、100%に近い項目は多かった。

一方「こふきいも」の「知っている」割合が低く、59.5%だった。基本的な用語に関しては100%近いが、あまりなじみのない用語では「知っている」割合が低い傾向を示した。

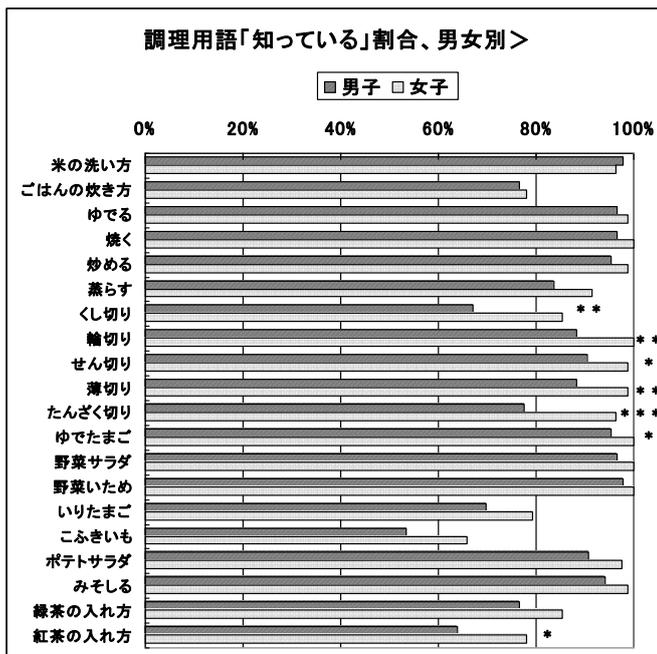


図Ⅱ-3)-16

【4-7:調理用語に関する知識<男女別>】

ほとんどの項目で女子の方が「知っている」割合が高く、男子の方が高かったのは「米の洗い方」の1項目のみだった。「知っている」割合が100%になった項目は女子では「焼く」、「輪切り」、「ゆでたまご」、「野菜サラダ」、「野菜いため」の5項目だったのに対し、男子ではなかった。

男女間で有意差がみられた項目は20項目中「くし切り」(p<0.01)、「輪切り」(p<0.01)、「せん切り」(p<0.05)、「薄切り」(p<0.01)、「たんざく切り」(p<0.001)、「ゆでたまご」(p<0.05)、「紅茶の入れ方」(p<0.05)の7項目であり4-2の被服製作用語と比較して、有意差がみられた項目数は少なかった。



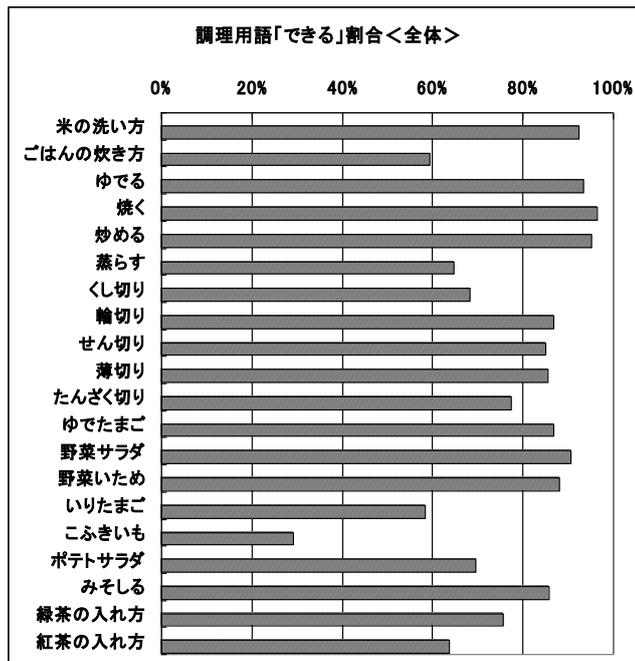
図Ⅱ-3)-17

【4-8:調理用語に関する技能<全体>】

「できる」割合が80%を超えた項目は20項目中11項目だった。

「こふきいも」では4-6と同様、「できる」割合が29.2%と極端に低かった。

小学校、中学校の家庭科の学習をほぼ終えた中学3年生の時点でも、「できる」と回答した割合が7割前後の項目が多数みられたことから、小学校で学習するものでも、ずっと身に付けることがないまま中学校の学習も終えようとしている生徒が多数存在することがわかった。



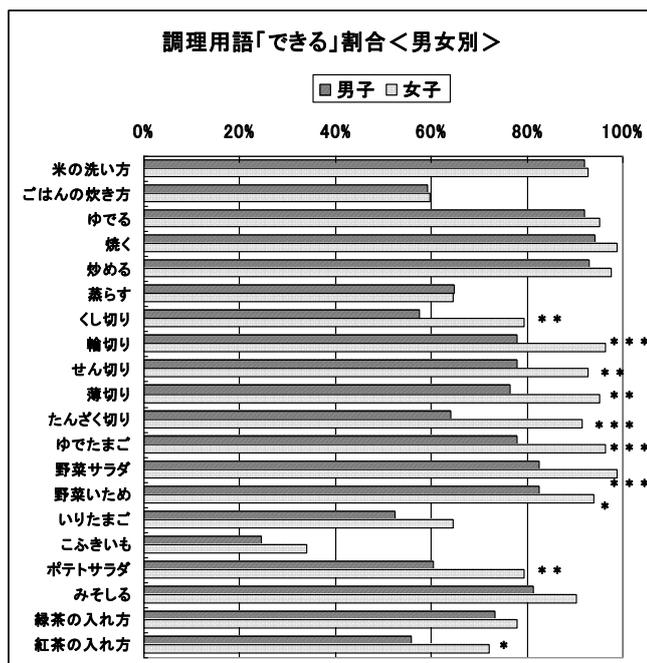
図Ⅱ-3)-18

【4-9:調理用語に関する技能<男女別>】

20項目すべてで女子の方が「できる」割合が高くなった。

男女で比較すると、「くし切り」(p<0.01)、「輪切り」(p<0.001)、「せん切り」(p<0.01)、「薄切り」(p<0.01)、「たんざく切り」(p<0.001)、「ゆでたまご」(p<0.001)、「野菜サラダ」(p<0.001)、「野菜いため」(p<0.05)、「ポテトサラダ」(p<0.01)、「紅茶の入れ方」(p<0.05)の10項目で有意差がみられ、10項目すべてで女子が優位だった。

4-7の調理用語の知識と比較すると有意差がみられた項目数は増えた一方、4-4の被服製作用語の技能と比較すると有意差がみられた項目数は減少した。



図Ⅱ-3)-19

【4-10:調理用語に関する知識と技能の比較】

表 6 [単位: %]

	全体			男子			女子		
	知っている	できる	有意差	知っている	できる	有意差	知っている	できる	有意差
米の洗い方	97.0%	92.3%		97.7%	91.9%		96.3%	92.7%	
ごはんの炊き方	77.4%	59.5%	***	76.7%	59.3%	*	78.0%	59.8%	*
ゆでる	97.6%	93.5%		96.5%	91.9%		98.8%	95.1%	
焼く	98.2%	96.4%		96.5%	94.2%		100%	98.8%	
炒める	97.0%	95.2%		95.3%	93.0%		98.8%	97.6%	
蒸らす	87.5%	64.7%	***	83.7%	64.7%	**	91.5%	64.6%	***
くし切り	76.0%	68.3%		67.1%	57.6%		85.4%	79.3%	
輪切り	94.0%	86.9%	*	88.2%	77.9%		100%	96.3%	
せん切り	94.6%	85.1%	**	90.6%	77.9%	*	98.8%	92.7%	
薄切り	93.4%	85.6%	*	88.2%	76.5%	*	98.8%	95.1%	
たんざく切り	86.8%	77.4%	*	77.6%	64.0%	*	96.3%	91.5%	
ゆでたまご	97.6%	86.9%	***	95.3%	77.9%	**	100%	96.3%	
野菜サラダ	98.2%	90.5%	**	96.5%	82.6%	**	100%	98.8%	
野菜いため	98.8%	88.1%	***	97.7%	82.6%	**	100%	93.9%	*
いりたまご	74.4%	58.4%	**	69.8%	52.4%	*	79.3%	64.6%	*
こふきいも	59.5%	29.2%	***	53.5%	24.4%	***	65.9%	34.1%	***
ポテトサラダ	94.0%	69.6%	***	90.7%	60.5%	***	97.6%	79.3%	***
みそしる	96.4%	85.7%	**	94.2%	81.4%	*	98.8%	90.2%	*
緑茶の入れ方	81.0%	75.6%		76.7%	73.3%		85.4%	78.0%	
紅茶の入れ方	70.8%	63.7%		64.0%	55.8%		78.0%	72.0%	

※有意差 ***p<0.001 **p<0.01 *p<0.05

4-6 の調理用語に関する知識と 4-8 の調理用語に関する技能、4-7 調理用語に関する知識と 4-9 調理用語に関する技能を比較したものが上の表である。

全体で見ると、「知っている」、「できる」の間で 20 項目のうち 13 項目で有意差がみられた。

4-5 の被服製作用語に関する知識と技能と比較すると、調理用語の方が有意差のみられた項目が多かった。被服製作用語に関する知識と技能と同様に、「知っている」割合が高い項目でも低い項目でも有意差がみられた。

このことから、被服製作用語と調理用語で多少の違いはあるものの、中学 3 年生では用語を知っていても、それを実際に行うことができない生徒が多数存在することがわかった。

男女別にみると、20 項目中男子は 12 項目、女子は 7 項目で有意差がみられた。特に男子で有意差のみられた項目が多く、「せん切り」、「薄切り」、「たんざく切り」、「ゆでたまご」、「野菜サラダ」の 5 項目は男子のみで有意差がみられた。

女子は男子に比べて有意差のみられた項目が少なかった。これは、男子に比べて女子の方が家庭科の授業以外での調理経験が多いことが影響していると考えられる。

[中学3年生のまとめ]

中学3年生は、小学校の頃よりも中学校の頃の方が家庭科を勉強するのが楽しみだった割合が高く、小学校の頃と中学校の頃で、家庭科に対する関心・意欲に違いがみられた。これには、小学校、中学校での家庭科の学習内容の違いが関係しているのではないかと推測される。

裁縫経験と調理経験の質問項目では、調理経験のある割合が全体で約95%だったのに対し、裁縫経験のある割合は約80%と差がみられた。また、裁縫経験、調理経験ともに、男子よりも女子の方が経験がある割合が高く、調理経験では男女間の差が約8ポイントだったのに対し、裁縫経験では約24ポイントの差があった。つまり、中学校の家庭科の学習をほぼ終了し、基本的な用語や技術を学んではいるが、裁縫は調理に比べ家庭などで実践される機会が少ないと考えられる。このことは男子で顕著にみられた。

被服製作用語と調理用語を比較すると、全体的には調理用語の方が「知っている」割合が高く、両者には差があることがわかった。しかし「できる」割合では、割合が高い項目がある反面、他の項目に比べて割合が極端に低い項目があり、被服製作用語と調理用語であまり差はみられなかった。そして、被服製作用語、調理用語ともに、その用語を知っていても、それを実際に行うことができない項目が多数存在することがわかった。そしてこの傾向は、特に男子に顕著にみられた。つまり、小学校、中学校で学習した内容が知識、技能として身に付いているものも多くあるが、一部の用語は知らないまま、できないまま家庭科の学習を終了してしまうことになる。

また、いずれの用語でも男女で比較すると、女子の方が「知っている」、「できる」割合が高い項目が多く、有意差のみられる項目も多数存在した。このことから、中学校での家庭科の学習をほぼ終了した時点で、男女間に経験、知識、技能の差がみられることがわかった。

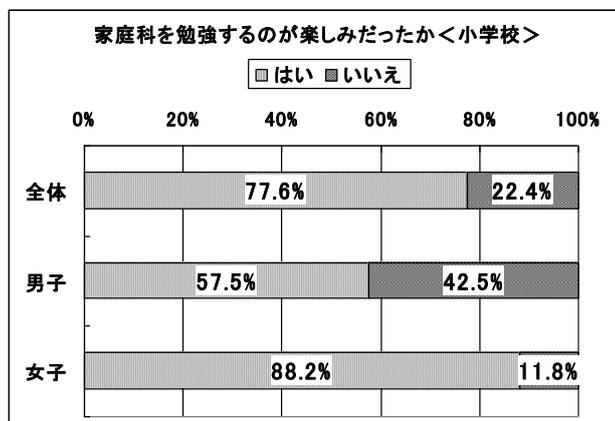
4) 大学生

1. 家庭科に対する関心・意欲に関する項目

【1-1:家庭科を勉強するのが楽しみだったか<小学校の頃>】

全体でみると、小学校の頃に家庭科を勉強するのが楽しみだったと回答した学生は70%を超えていた。

男女別にみると、女子の「はい」と回答した割合は88.2%だったのに対し、男子では57.5%と30ポイント以上の差がみられた。男女間で有意差がみられ ($p<0.001$)、大学生では小学校の頃の家庭科に対する意識に差があることがわかった。

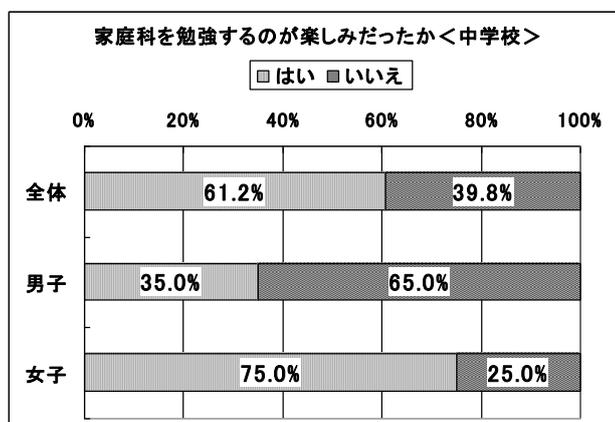


図Ⅱ-4)-1

【1-2:家庭科を勉強するのが楽しみだったか<中学校の頃>】

全体でみると、中学校の頃に家庭科を勉強するのが楽しみだったと回答した学生は約60%と低かった。

男女別にみると、女子の「はい」と回答した割合は75.0%だったのに対し、男子ではわずか35.0%と1-1の小学校の頃と比べて男女差が大きくなった。また、男女間で有意差がみられた ($p<0.001$)。



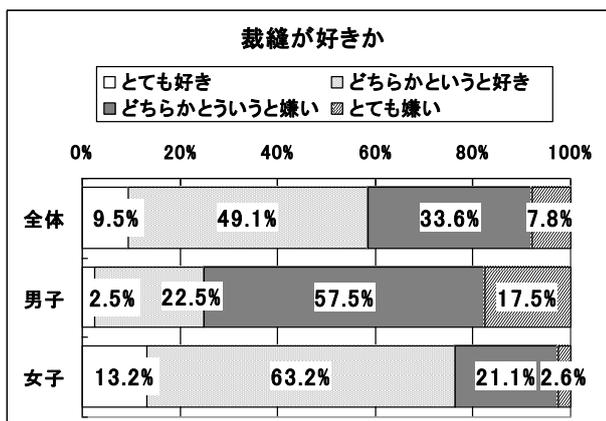
図Ⅱ-4)-2

2. 裁縫・調理の経験に関する項目

【2-1:裁縫が好きか】

全体でみると「とても好き」、「どちらかという好き」と回答した学生は58.6%だった。

その割合を男女別にみると、女子では76.4%と高かったが、男子では25.0%と大きく異なった。男女間での有意差もみられ ($p<0.001$)、裁縫が「とても嫌い」と回答した割合も男子が圧倒的に高かった。

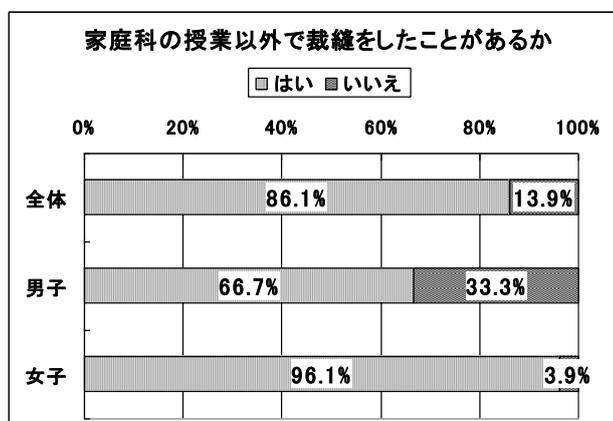


図Ⅱ-4)-3

【2-2:家庭科の授業以外で裁縫をしたことがあるか】

全体でみると、80%以上の学生が「はい」と回答し、ほとんどの学生は家庭科の授業以外で裁縫経験があることがわかった。

しかし男女別にみると、女子では裁縫経験がある割合はほぼ100%だったのに対し、男子では66.7%と差がみられ、有意差もみられた ($p<0.001$)。

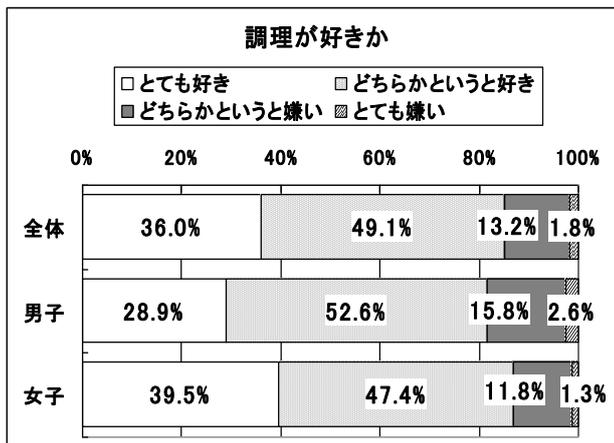


図Ⅱ-4)-4

【2-3:調理が好きか】

全体でみると、「とても好き」、「どちらかという好き」と回答した割合は85.1%と2-1の裁縫と比べ、高かった。

男女別にみると、「とても好き」、「どちらかという好き」と回答した割合は、女子で86.9%、男子で81.5%と多少の差はあったものの、有意差はみられなかった。「とても嫌い」と回答した割合は男女ともに低かった。

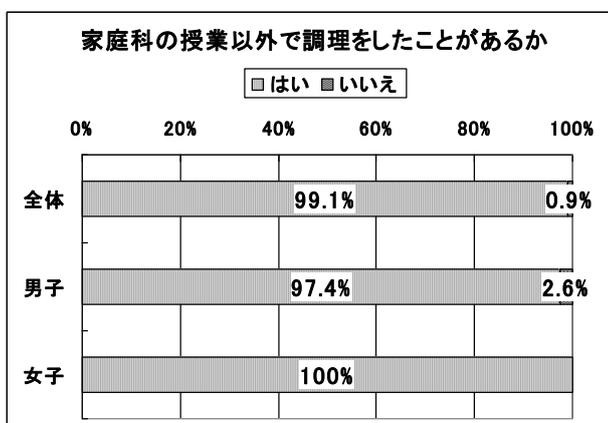


図Ⅱ-4)-5

【2-4:家庭科の授業以外で調理をしたことがあるか】

全体でみると、「はい」と回答した割合は99.1%と、ほぼ全員に調理経験があることがわかった。

男女別でもその差はほとんどなく、有意差もみられなかった。2-2の裁縫経験と比較してみると、裁縫経験と調理経験とで男子では大きな差があることがわかった。

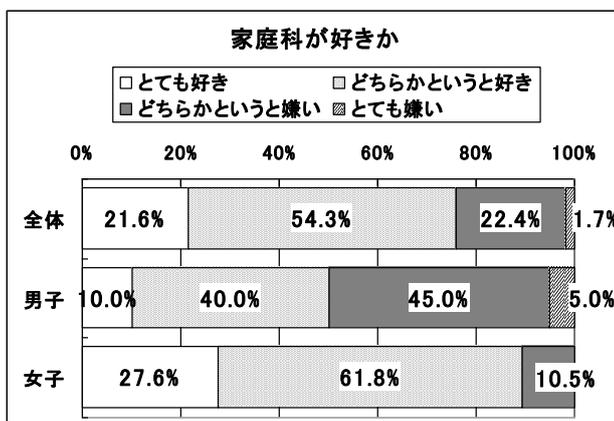


図Ⅱ-4)-6

【2-5:家庭科が好きか】

全体でみると、「とても好き」、「どちらかという好き」と回答した割合は72.4%と、家庭科に対して肯定的な学生が多かった。

しかし男女別にみると、家庭科に対して肯定的な学生は女子で91.9%だったのに対し、男子では47.4%と40ポイント以上の差がみられ、有意差もみられた (p<0.001)。



図Ⅱ-4)-7

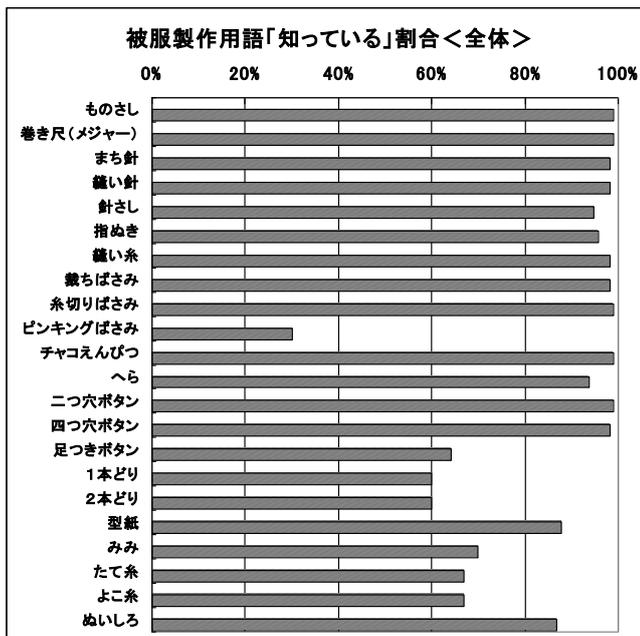
3. 用語(用具等)の知識に関する項目

【3-1:被服製作用語に関する知識<全体>】

「知っている」割合が80%を超えたのは22項目中15項目だった。「知っている」割合が100%だった項目はなかったが、100%近い項目は数多くみられた。

一方、「知っている」割合が50%に満たない項目も「ピンキングばさみ」の1項目でみられ、「ピンキングばさみ」の「知っている」割合は28.6%と極端に低かった。

これらの結果から、日常的に使用する用具は「知っている」割合が高くなっていると考えられる。



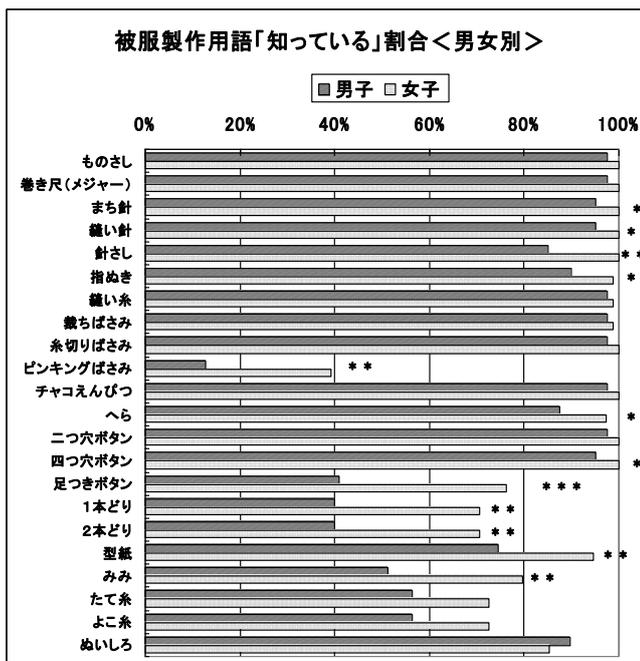
図Ⅱ-4)-8

【3-2:被服製作用語に関する知識<男女別>】

「ぬいしろ」を除くすべての項目で女子の方の「知っている」割合が高かった。

男女で比較すると、22項目中「まち針」(p<0.05)、「縫い針」(p<0.05)、「針さし」(p<0.01)、「指ぬき」(p<0.05)、「ピンキングばさみ」(p<0.01)、「へら」(p<0.05)、「四つ穴ボタン」(p<0.05)、「足つきボタン」(p<0.001)、「1本どり」(p<0.01)、「2本どり」(p<0.01)、「型紙」(p<0.01)、「みみ」(p<0.01)の12項目で有意差がみられた。

女子では「知っている」割合が100%だった項目が9項目だったが、男子はなく、男女間に知識の差があることがわかった。



図Ⅱ-4)-9

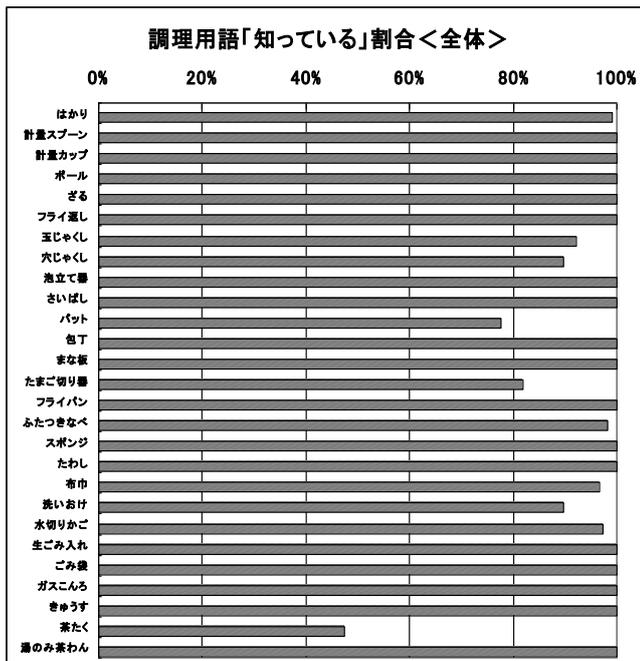
【3-3:調理用語に関する知識<全体>】

「知っている」割合が 80%を超えた項目は 27 項目中 25 項目で、中でも 100%だった項目は 17 項目だった。

最も「知っている」割合が低かったのは「茶たく」で、47.4%だった。

3-1 の被服製作用語と比較すると、全体的に調理用語の方の「知っている」割合が高いことがわかった。

2-2、2-4 から読み取れるように、家庭科の授業以外での調理経験が裁縫経験に比べて多いことが、この結果につながっているのではないかと考えられる。



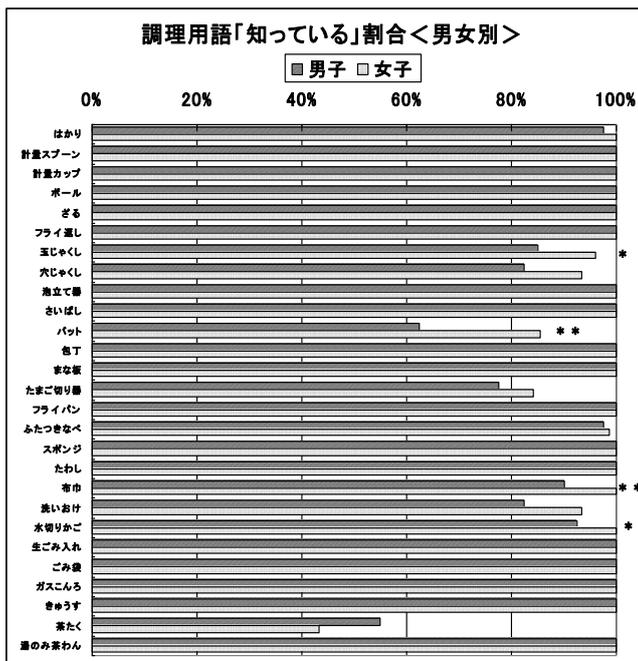
図Ⅱ-4)-10

【3-4:調理用語に関する知識<男女別>】

男子の方が「知っている」割合が高かった項目は「茶たく」の 1 項目のみで、その他の項目は女子の方が高いか同じ割合になった。

「知っている」割合が 100%だった項目は、男子では 17 項目、女子では 20 項目と男女ともに多かった。

男女別にみると、有意差がみられた項目は 27 項目中「玉じゃくし」(p<0.05)、「バット」(p<0.01)、「布巾」(p<0.01)、「水切りかご」(p<0.05) の 4 項目だった。3-2 の被服製作用語と比較すると、調理用語の方が男女間で有意差がみられた項目は少なかった。



図Ⅱ-4)-11

4. 用語(方法等)の知識と技能に関する項目

【4-1:被服製作用語に関する知識<全体>】

「知っている」割合が 80%を超えた項目は 6 項目で、100%だった項目は「針に糸を通す」、「玉結び」の 2 項目だった。

一方、「知っている」割合が低かった項目も多くみられた。「知っている」割合が 60%に満たなかった項目は 4 項目あり、項目ごとに大きな差があった。特に「ぬいとり」が 19.1%と最も低かった。

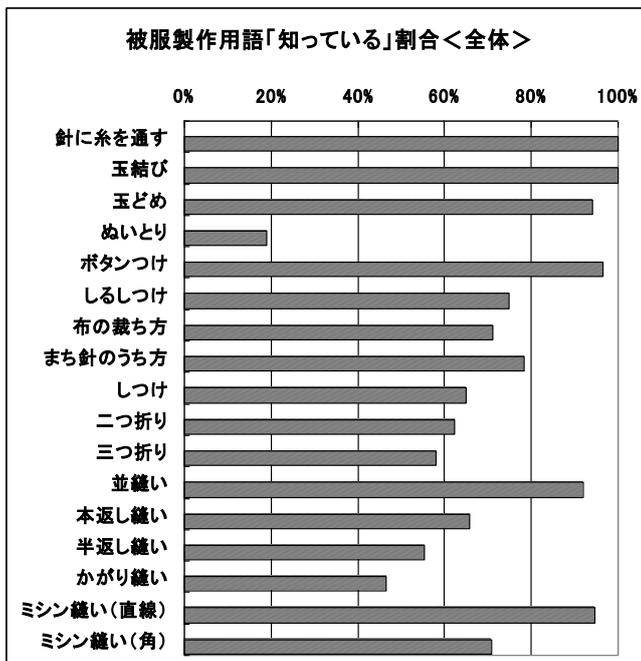


図 II-4)-12

【4-2:被服製作用語に関する知識<男女別>】

ほとんどの項目で女子の方の「知っている」割合が高かった。男子の方が高かった項目は、「玉どめ」、「ミシン縫い(直線縫い)」の 2 項目のみで、それ以外の項目は女子の方が高いか同じ値となった。

男女別にみると、「知っている」割合が 100%だった項目は男女とも「針に糸を通す」、「玉結び」の 2 項目だったが、有意差のみられた項目は「しるしつけ」(p<0.01)、「布の裁ち方」(p<0.01)、「まち針のうち方」(p<0.01)、「しつけ」(p<0.001)、「二つ折り」(p<0.01)、「三つ折り」(p<0.001)、「並縫い」

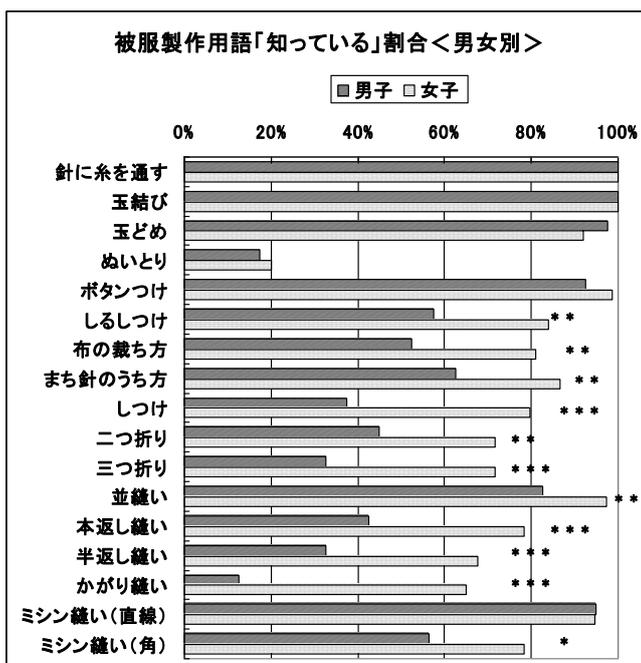


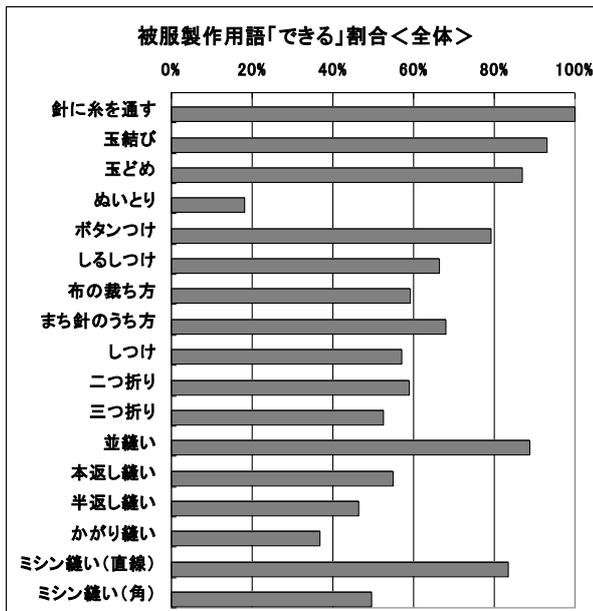
図 II-4)-13

「しるしつけ」(p<0.01)、「本返し縫い」(p<0.001)、「半返し縫い」(p<0.001)、「かがり縫い」(p<0.001)、「ミシン縫い(角の曲がり方)」(p<0.05) の 11 項目と多かった。

【4-3:被服製作用語に関する技能<全体>】

「できる」割合が80%を超えた項目は17項目中5項目で、100%だったのは「針に糸を通す」の1項目だった。

一方、「できる」割合が60%に満たなかった項目は9項目となり、大学生の段階でも小学校で学習する裁縫技能についてできないと回答した学生が多かった。また、4-1の被服製作用語の「知っている」割合が低かった「ぬいとり」の「できる」割合も18.0%と極端に低かった。

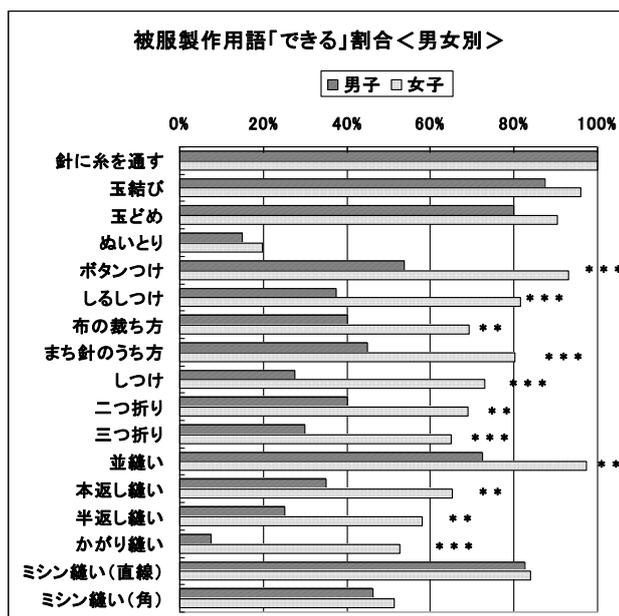


図Ⅱ-4)-14

【4-4:被服製作用語に関する技能<男女別>】

ほとんどの項目で女子の方の「できる」割合が高かった。男子の方が高かった項目はなく、女子の方が高いかあるいは同じ値になった。

男女別にみると、有意差のみられた項目は17項目中「ボタンつけ」(p<0.001)、「しるしつけ」(p<0.001)、「布の裁ち方」(p<0.01)、「まち針のうち方」(p<0.001)、「しつけ」(p<0.001)、「二つ折り」(p<0.01)、「三つ折り」(p<0.001)、「並縫い」(p<0.001)、「本返し縫い」(p<0.001)、「半返し縫い」(p<0.01)、「かがり縫い」(p<0.01)、「半返し縫い」(p<0.01)、「かがり縫い」(p<0.001)の11項目



図Ⅱ-4)-15

で、そのほとんどの項目が4-2の被服製作用語で有意差がみられた項目だった。「針に糸を通す」、「玉結び」、「玉どめ」などのような基本的な用語では男女では差があまりみられなかったが、それ以外の用語では男女の差が顕著だった。

【4-5:被服製作用語に関する知識と技能の比較】

表7 [単位: %]

	全体			男子			女子		
	知っている	できる	有意差	知っている	できる	有意差	知っている	できる	有意差
針に糸を通す	100%	100%		100%	100%		100%	100%	
玉結び	100%	93.1%	**	100%	87.5%	*	100%	96.1%	
玉どめ	94.0%	86.8%		97.5%	80.0%	*	92.1%	90.5%	
ぬいとり	19.1%	18.0%		17.5%	15.0%		20.0%	19.7%	
ボタンつけ	96.5%	79.3%	***	92.5%	53.8%	***	98.7%	93.1%	
しるしつけ	74.8%	66.4%		57.5%	37.5%		84.0%	81.6%	
布の裁ち方	71.1%	59.1%		52.5%	40.0%		81.1%	69.3%	
まち針のうち方	78.3%	68.1%		62.5%	45.0%		86.7%	80.3%	
しつけ	64.9%	57.0%		37.5%	27.5%		79.7%	73.0%	
二つ折り	62.3%	58.8%		45.0%	40.0%		71.6%	68.9%	
三つ折り	57.9%	52.6%		32.5%	30.0%		71.6%	64.9%	
並縫い	92.1%	88.7%		82.5%	72.5%		97.3%	97.3%	
本返し縫い	65.8%	54.8%		42.5%	35.0%		78.4%	65.3%	
半返し縫い	55.3%	46.5%		32.5%	25.0%		67.6%	58.1%	
かがり縫い	46.5%	36.8%		12.5%	7.5%		64.9%	52.7%	
ミシン縫い(直線)	94.7%	83.5%	**	95.0%	82.5%		94.6%	84.0%	*
ミシン縫い(角)	70.8%	49.6%	**	56.4%	46.2%		78.4%	51.4%	**

※有意差 *** $p<0.001$ ** $p<0.01$ * $p<0.05$

4-1の被服製作用語に関する知識と4-3の被服製作用語に関する技能、4-2の被服製作用語に関する知識と4-4の被服製作用語に関する技能を比較したものが上の表である。

全体で見ると、「知っている」、「できる」の間で17項目のうち「玉結び」、「ボタンつけ」、「ミシン縫い(直線縫い)」、「ミシン縫い(角の曲がり方)」の4項目で有意差がみられた。

男女別にみると、17項目中男子は3項目、女子は2項目で有意差がみられた。「玉結び」、「玉どめ」、「ボタンつけ」の4項目は男子のみで、「ミシン縫い(直線縫い)」、「ミシン縫い(角の曲がり方)」の2項目は女子のみで有意差がみられた。

以上より、大学生では男子の方が有意差がみられた項目がほぼ同じだったことから、大学生では男女ともにその用語を知っていても、それを実際に行うことができない学生が多数存在することがわかった。また、「知っている」割合が100%に近い項目でも有意差がみられたことから、「知っている」割合が高くても「できる」割合が必ずしも高いとはいえないことがわかった。

【4-6:調理用語に関する知識<全体>】

「知っている」割合が80%を超えた項目は17項目で、そのうち100%だった項目は4項目だった。

一方、「くし切り」の「知っている」割合が最も低く、46.0%だった。

4-1の被服製作用語と比較すると、全体的に調理用語の方が「知っている」割合が高かった。これは2-2や2-4にあるように、裁縫経験と調理経験の割合の差がこの結果に表れたのではないかと考えられる。



図 II-4)-16

【4-7:調理用語に関する知識<男女別>】

男子の方が「できる」割合が高かった項目は「米の洗い方」、「ごはんの炊き方」、「蒸らす」の3項目のみで、その他の項目は女子の方が高いあるいは同じ値になった。

男女で比較すると「知っている」割合が100%だった項目は、女子で9項目、男子で6項目だった。男女間で有意差がみられた項目は20項目中「輪切り」(p<0.01)、「せん切り」(p<0.05)、「たんざく切り」(p<0.01)、「野菜サラダ」(p<0.05)、「野菜いため」(p<0.05)、「いりたまご」(p<0.05)、「こふきいも」(p<0.01)、「ポテトサラダ」(p<0.01)

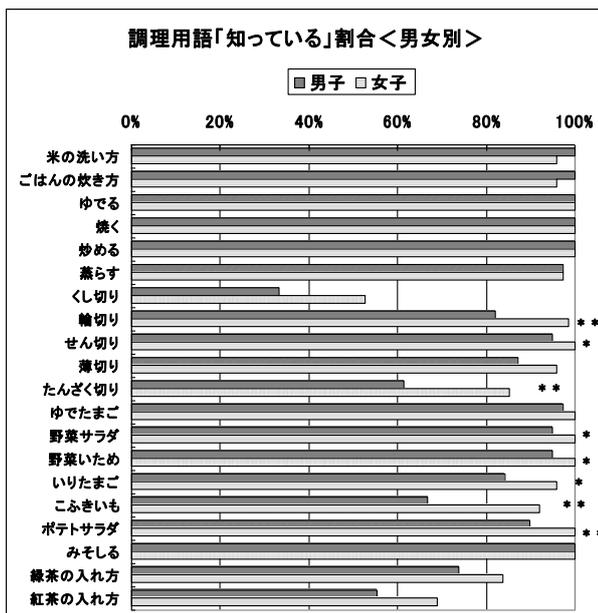


図 II-4)-17

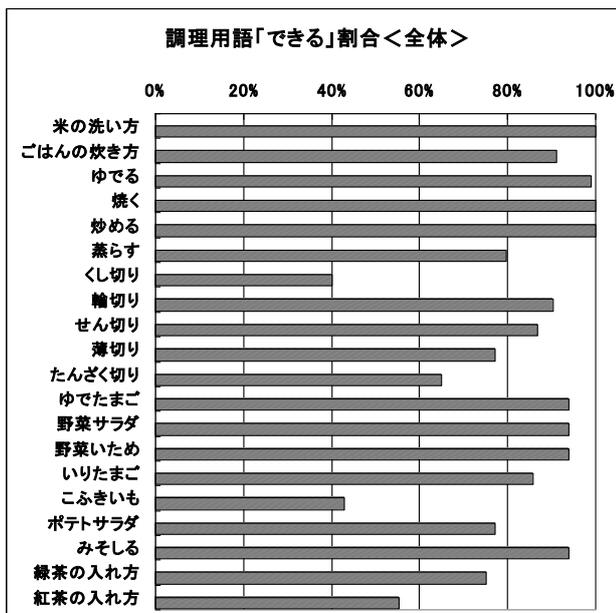
の8項目で、4-2の被服製作用語と比較すると、有意差のみられた項目数は少なかった。

【4-8:調理用語に関する技能<全体>】

「できる」割合が80%を超えた項目は20項目中12項目であり、中でも100%だったのは、「米の洗い方」、「ゆでる」、「焼く」、「炒める」の4項目だった。

一方、「できる」割合が60%に満たない項目も「くし切り」、「こふきいも」、「紅茶の入れ方」の3項目であった。

このように、「できる」項目とそうでない項目の差ははっきりしていることがわかった。

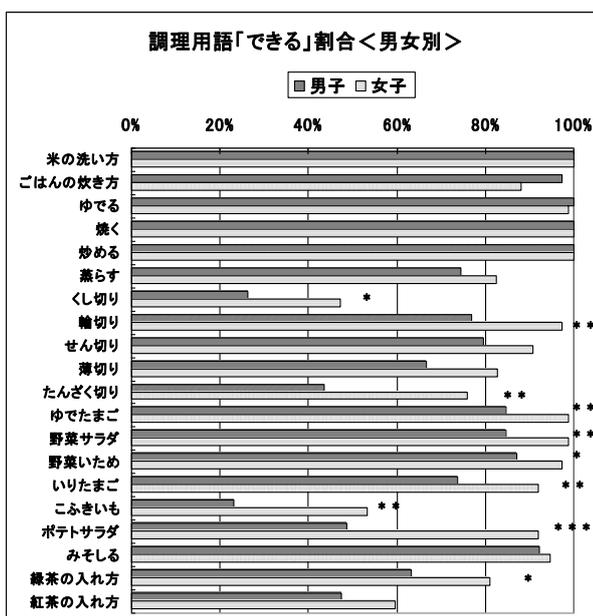


図Ⅱ-4)-18

【4-9:調理用語に関する技能<男女別>】

男子の方が「できる」割合が高かった項目は「ごはんの炊き方」、「ゆでる」の2項目のみで、その他の項目は女子の方が高いあるいは同じ値だった。

男女で比較すると、有意差がみられた項目は20項目中「くし切り」(p<0.05)、「輪切り」(p<0.001)、「たんざく切り」(p<0.01)、「ゆでたまご」(p<0.01)、「野菜サラダ」(p<0.01)、「野菜いため」(p<0.05)、「いりたまご」(p<0.01)、「こふきいも」(p<0.01)、「ポテトサラダ」(p<0.001)、「緑茶の入れ方」(p<0.05)の10項目で、4-7の調理用語の知識と比較すると、有意差のみられた項目が増加した。また、4-4の調理用語の技能と比較すると、有意差のみられた項目は減少した。



図Ⅱ-4)-19

【4-10:調理用語に関する知識と技能の比較】

表 8 [単位:%]

	全体			男子			女子		
	知っている	できる	有意差	知っている	できる	有意差	知っている	できる	有意差
米の洗い方	100%	100%		100%	100%		100%	100%	
ごはんの炊き方	98.8%	95.3%	*	100%	97.3%		97.9%	93.8%	
ゆでる	100%	100%		100%	100%		100%	100%	
焼く	100%	100%		100%	100%		100%	100%	
炒める	100%	100%		100%	100%		100%	100%	
蒸らす	97.6%	77.4%	***	97.3%	73.0%	**	97.9%	80.9%	**
くし切り	48.8%	43.4%		32.4%	25.0%		61.7%	57.4%	
輪切り	90.5%	88.2%		81.1%	75.7%		97.9%	97.9%	
せん切り	97.6%	83.5%	**	94.8%	78.4%	*	100%	87.5%	**
薄切り	92.9%	75.3%	**	86.5%	64.9%	**	97.9%	83.3%	*
たんざく切り	76.2%	63.5%	*	59.5%	40.5%		89.4%	81.3%	*
ゆでたまご	98.8%	92.9%	*	97.3%	83.8%	*	100%	100%	
野菜サラダ	97.6%	92.9%		94.6%	83.8%		100%	100%	
野菜いため	97.6%	94.1%		94.6%	86.5%		100%	100%	
いりたまご	90.4%	84.5%		83.3%	72.2%		95.7%	93.8%	
こふきいも	82.1%	37.6%	***	64.9%	21.6%	***	95.7%	50.0%	***
ポテトサラダ	95.2%	74.1%	***	89.2%	48.6%	***	100%	93.8%	*
みそしる	100%	95.2%	**	100%	91.7%		100%	97.9%	*
緑茶の入れ方	83.1%	76.2%		75.0%	63.9%		89.4%	85.4%	
紅茶の入れ方	65.1%	54.8%		55.6%	47.2%		72.3%	60.4%	

※有意差 ***p<0.001 **p<0.01 *p<0.05

4-6 の調理用語に関する知識と 4-8 調理用語に関する技能、4-7 の調理用語に関する知識と 4-9 の調理用語に関する技能を比較したものが上の表である。

全体で見ると、「知っている」、「できる」の間で 20 項目中 9 項目で有意差がみられた。

4-5 の被服製作用語に関する知識と技能と同様に、「知っている」割合が高い項目でも低い項目でも有意差がみられた。また、有意差のみられなかった項目でも、ほぼすべての項目で「知っている」割合よりも「できる」割合の方が低かった。

男女別にみると、20 項目中男子は 6 項目、女子は 7 項目で有意差がみられた。男女ともに有意差のみられた項目が多かったが、「ゆでたまご」は男子のみ、「たんざく切り」、「みそしる」は女子のみで有意差がみられた。

有意差のみられた項目は男女でほぼ同じだったが、大学生では、用語を知っていても実際に行うことができない学生が男女を問わず存在することがわかった。

【大学生のまとめ】

大学生は、中学校の頃よりも小学校の頃の方が家庭科を勉強するのが楽しみだった割合が高く、小学校の頃と中学校の頃で、家庭科に対する関心・意欲に違いがみられた。

裁縫経験と調理経験の質問項目では、調理経験のある割合が男子は 97.3%、女子では 100%だったのに対し、裁縫経験のある割合は男子よりも女子の方が高く、両者の間には 31 ポイントの差があり、有意差がみられた。つまり、小・中・高校の家庭科の学習を終え、基本的な技術や用語は学んでいるが、裁縫は調理に比べて家庭科の授業以外で実践される機会が少ないと考えられる。このことは特に男子で顕著にみられた。

被服製作用語と調理用語を比較すると、全体的に調理用語の方が「知っている」割合が高く、両者には差があることがわかった。また、「できる」割合でも、被服製作用語に比べ調理用語の方が、全体的に割合が高く、男女差も大きい項目が多かった。そして、被服製作用語、調理用語ともに、その用語を知っていても、それを実際に行うことができない項目が多数存在することがわかった。

つまり、これまでに学校で学習した内容が知識、技能として身に付いているものも多くあるが、一部の用語は知らないまま、できないままになってしまっている。大学生は、これから家庭科を学ぶ機会はほとんどないと考えられるため、知らない用語を知り、また、できるようになることは難しいと考えられる。

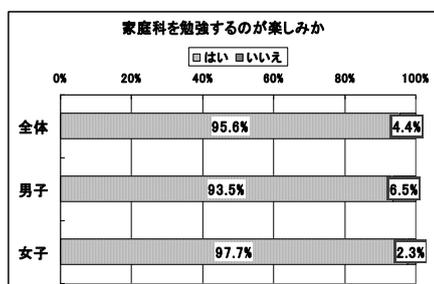
また、いずれの用語も男女で比較すると女子の方が「知っている」、「できる」割合が高い項目が多く、有意差がみられる項目も多くみられた。このことから、大学生の時点で、男女間に経験、知識、技能の差がみられることがわかった。

5) 小学5年生・中学1年生・中学3年生・大学生 四者間比較

1. 家庭科に対する関心・意欲に関する項目

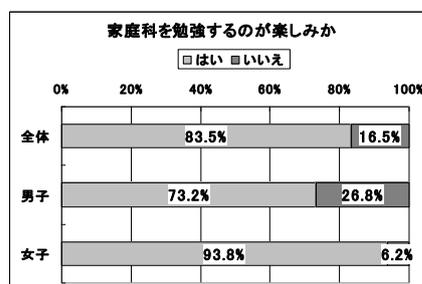
【家庭科を勉強するのが楽しみか】

小学校家庭科学習前



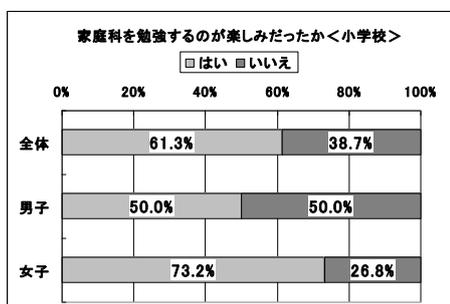
図Ⅱ-5)-1 小学5年生

中学校家庭科学習前

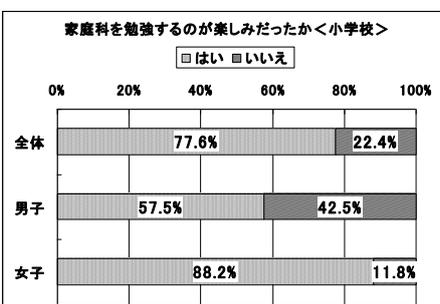


図Ⅱ-5)-2 中学1年生

小学校家庭科学習後

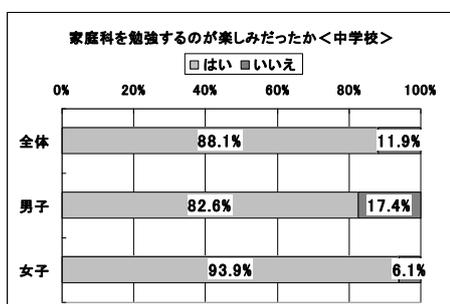


図Ⅱ-5)-3 中学3年生

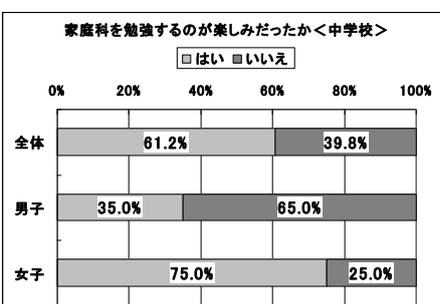


図Ⅱ-5)-4 大学生

中学校家庭科学習後



図Ⅱ-5)-5 中学3年生



図Ⅱ-5)-6 大学生

小学5年生や中学1年生では家庭科を勉強するのが楽しみだと回答した割合がかなり高く、家庭科に対する意欲が高い。一方、家庭科学習後では、大学生の男子において楽しみだと回答した割合が低いことがわかった。これは大学生男子の知識や技能の習得と関係があると考えられる。また、いずれの学年段階でも、家庭科を勉強するのが楽しみだと回答した割合が男子よりも女子の方が高いことが共通していた。

2. 裁縫・調理の経験に関する項目

【2-1:裁縫が好きか】 ※小学5年生以外

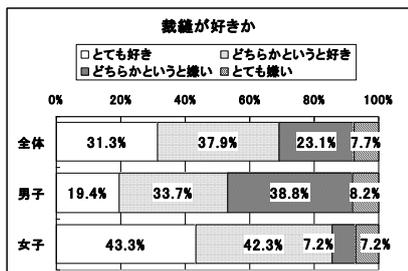


図 II-5)-7 中学1年生

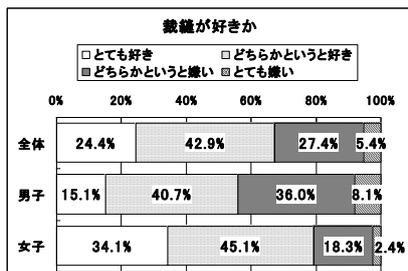


図 II-5)-8 中学3年生

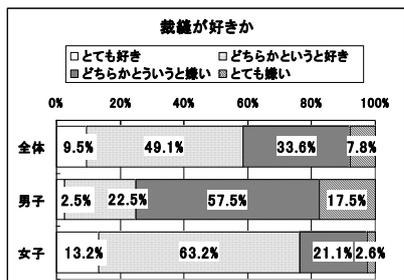


図 II-5)-9 大学生

三者を比較すると、中学1年生と中学3年生ではほとんど差はみられないものの、大学生では「とても好き」、「どちらかというが好き」と回答した割合が減少した。また、いずれの学年段階でも男女間で有意差がみられ(中学1年生 $p<0.001$ 、中学3年生 $p<0.01$ 、大学生 $p<0.001$)、特に大学生男子で肯定的な回答はわずか 25.0%だった。

【2-2:家庭科の授業以外で裁縫をしたことがあるか】

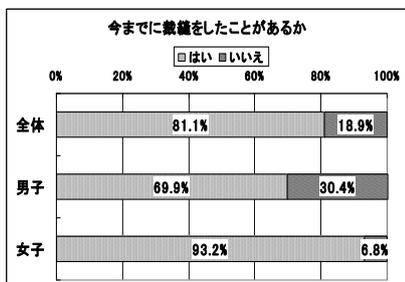


図 II-5)-10 小学5年生

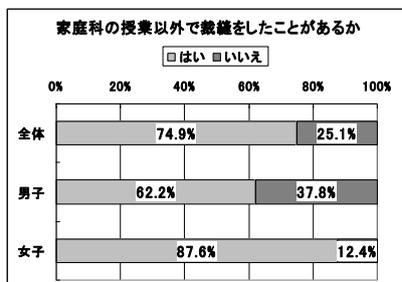


図 II-5)-11 中学1年生

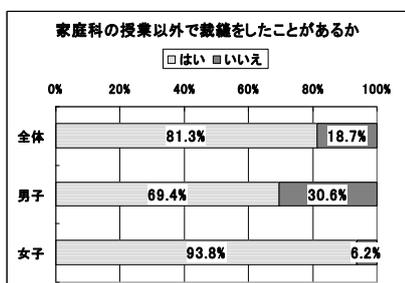


図 II-5)-12 中学3年生

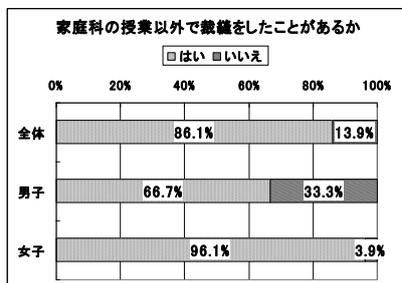


図 II-5)-13 大学生

四者を比較すると、裁縫経験の割合は全体的にほぼ同じであることがわかった。詳細にみると、小学5年生から中学1年生にかけて裁縫経験のある割合が減少するが、中学3年生で増加、大学生でさらに増加していた。また、いずれの学年段階でも男女間で有意差がみられ(小学5年生 $p<0.01$ 、中学1年生 $p<0.001$ 、中学3年生 $p<0.001$ 、大学生 $p<0.001$)、女子の方が裁縫経験が多いことがわかった。

【2-3:調理が好きか】 ※小学5年生以外

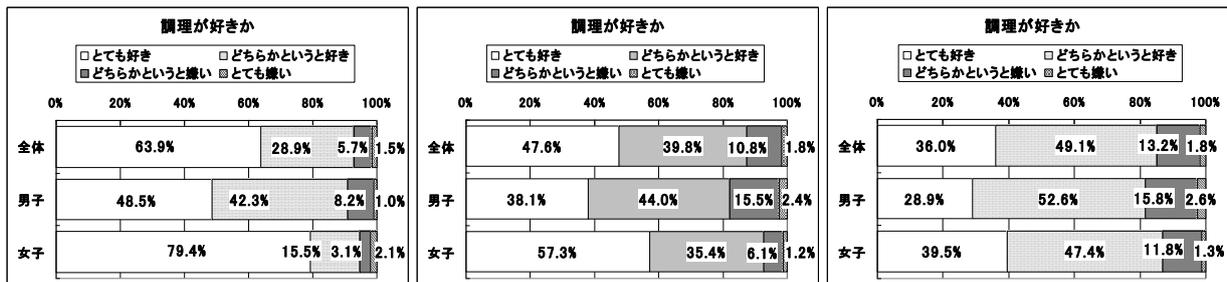


図 II-5)-14 中学1年生

図 II-5)-15 中学3年生

図 II-5)-16 大学生

三者を比較すると、「とても好き」、「どちらかという好き」と肯定的に回答した割合は、中学1年生で92.8%、中学3年生で87.4%、大学生で85.1%と学年進行に伴い徐々に減少した。特に「とても好き」と回答した割合は、中学1年生で63.9%、中学3年生で33.7%と顕著に減少した。これは男女とも同様の傾向を示した。

【2-4:家庭科の授業以外で調理をしたことがあるか】

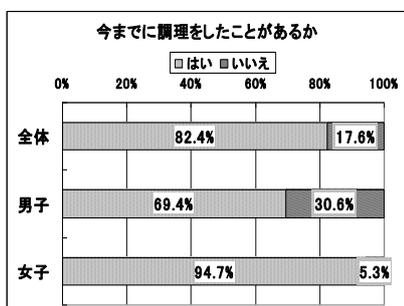


図 II-5)-17 小学5年生

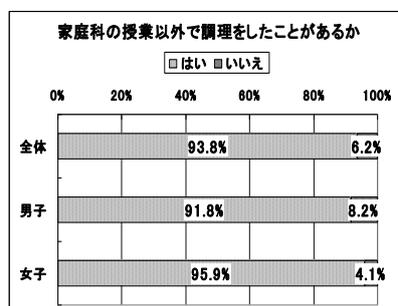


図 II-5)-18 中学1年生

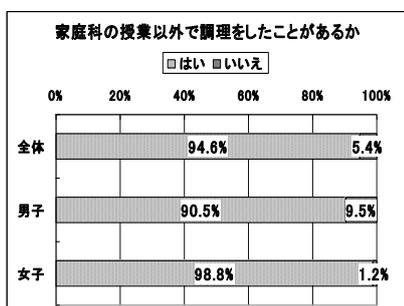


図 II-5)-19 中学3年生

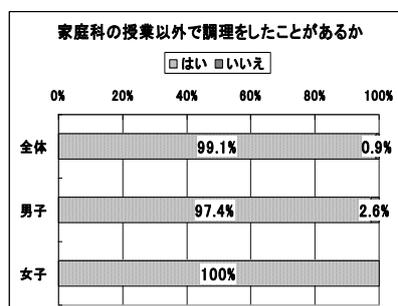


図 II-5)-20 大学生

四者と比較すると、「はい」と回答した割合が、すべての学年段階で80%を超えており、高かった。また学年進行に伴い、その割合が増加した。小学5年生から中学生にかけて男子は69.4%から91.8%へと増加した。これらより、家庭科で学習したことを他の機会実践している人が増えたのではないかと考えられる。

【2-5:家庭科が好きか】 ※小学 5 年生以外

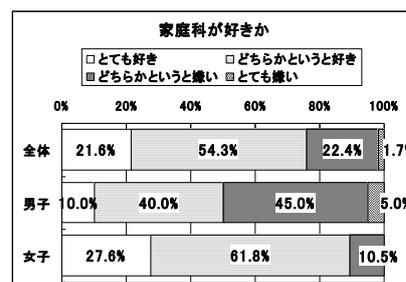
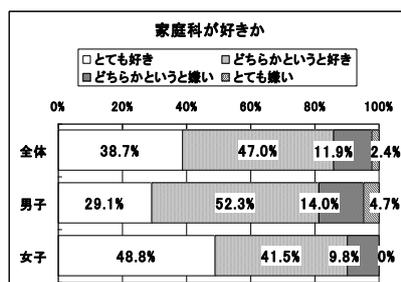
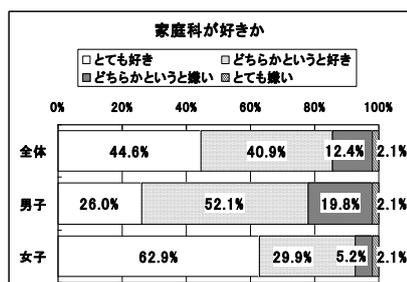


図 II-5)-21 中学1年生

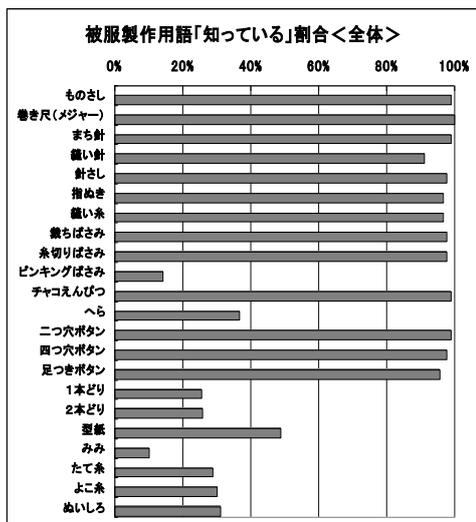
図 II-5)-22 中学3年生

図 II-5)-23 大学生

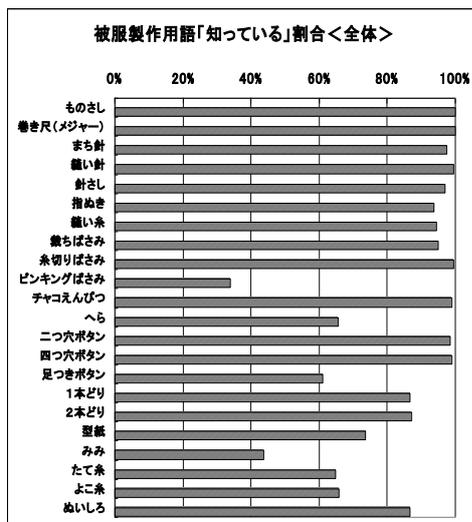
三者を比較すると、「とても好き」、「どちらかという好き」と肯定的な回答をした割合は、中学1年生 85.5%、中学3年生 85.7%、大学生 75.9%となり、大学生で減少した。特に大学生男子で顕著となり、大学生男子で「とても好き」と回答した割合はわずか10.0%だった。どの学年段階でも男女間で有意差がみられた（中学1年生 $p < 0.001$ 、中学3年生 $p < 0.05$ 、大学生 $p < 0.001$ ）。

3. 用語(用具等)の知識に関する項目

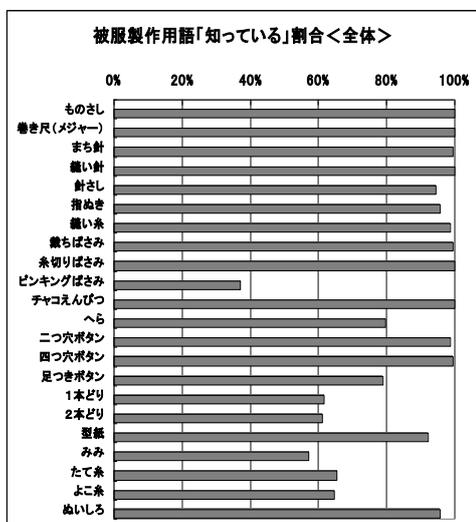
【3-1: 被服製作用語に関する知識<全体>】



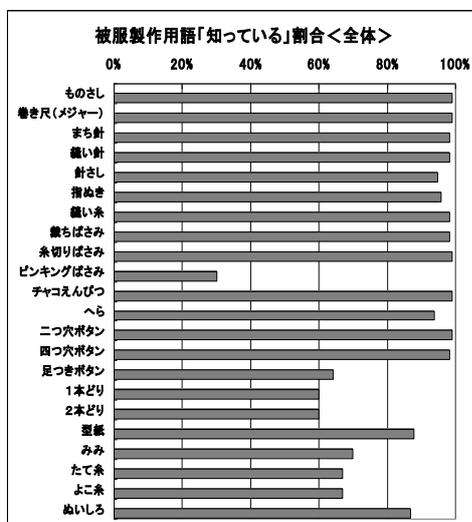
図Ⅱ-5)-24 小学5年生



図Ⅱ-5)-25 中学1年生



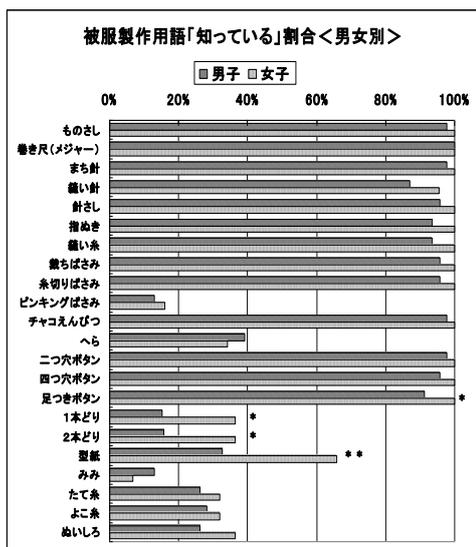
図Ⅱ-5)-26 中学3年生



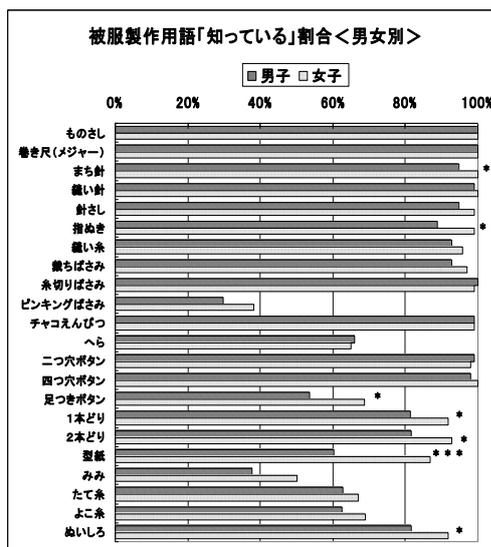
図Ⅱ-5)-27 大学生

四者を比較すると、全体的に小学5年生では「知っている」割合は低い傾向にあったが、中学1年生になるとその割合が増加した。小学5年生で「知っている」割合が100%近かった項目は、その後も維持されていた。中学1年生から中学3年生、中学3年生から大学生にかけては割合が大きく変わった項目はほとんどなかった。「ピンキングばさみ」は小学5年生から「知っている」割合が低く、大学生でも極端に低い割合を示した。

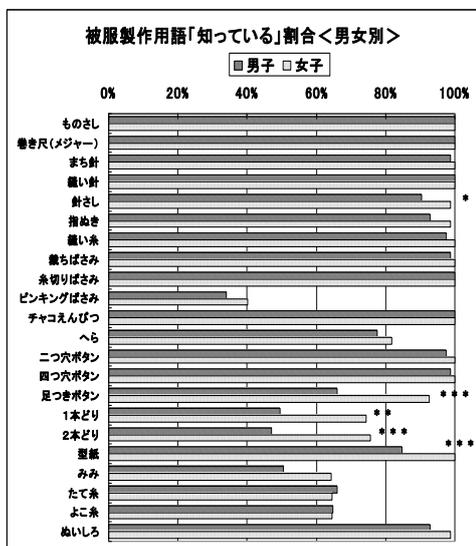
【3-2:被服製作用語に関する知識<男女別>】



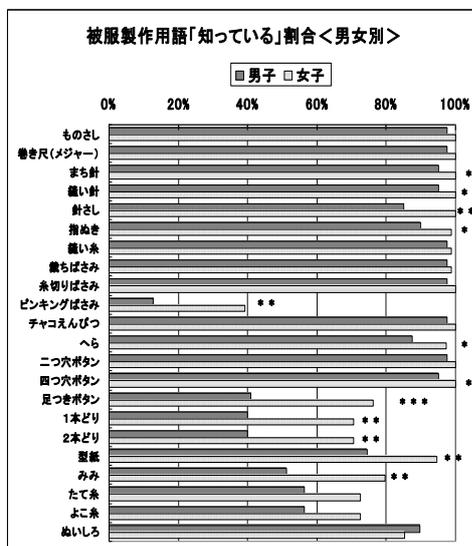
図Ⅱ-5)-28 小学5年生



図Ⅱ-5)-29 中学1年生



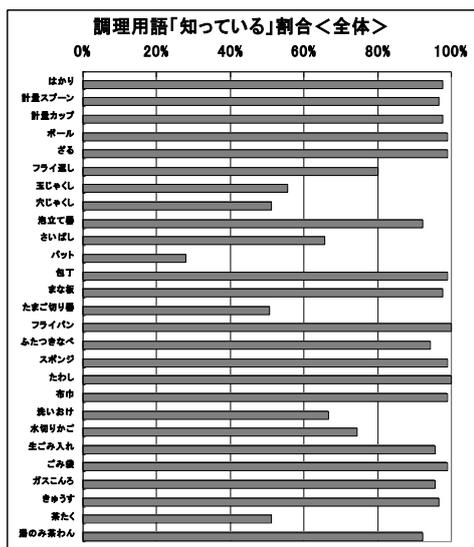
図Ⅱ-5)-30 中学3年生



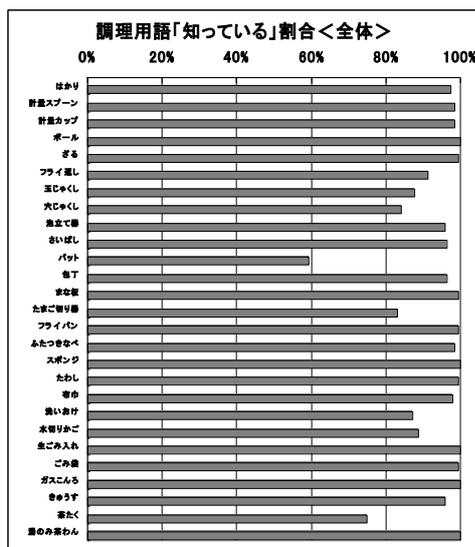
図Ⅱ-5)-31 大学生

四者を比較すると3-1と同様、中学1年生の「知っている」割合が小学5年生に比べ高くなった。有意差のみられた項目数は小学5年生で3項目、中学1年生で7項目、中学3年生で5項目、大学生で12項目となり、大学生が最も多かった。中学3年生男子と大学生男子では全体的に中学3年生の方の「知っている」割合が高かった。これより、大学生においては、家庭科学習が修了した後、女子では用語について覚えている項目が多かったが、男子では忘れてしまう傾向があった。

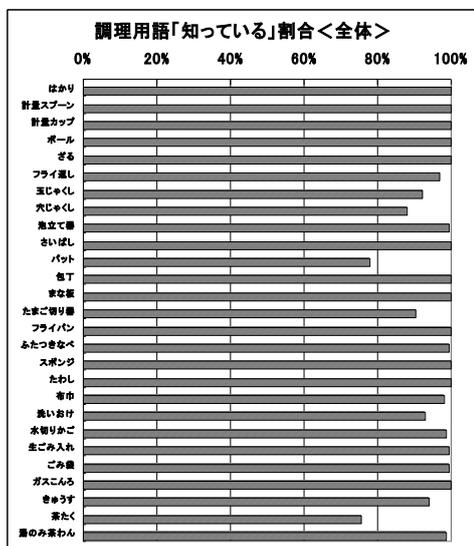
【3-3:調理用語に関する知識<全体>】



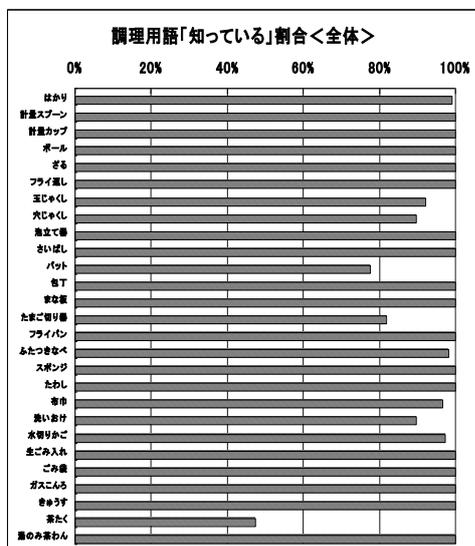
図Ⅱ-5)-32 小学5年生



図Ⅱ-5)-33 中学1年生



図Ⅱ-5)-34 中学3年生



図Ⅱ-5)-35 大学生

四者を比較すると、全体的に中学3年生と大学生の「知っている」割合が高かった。小学5年生が最も低い割合で、次いで中学1年生だった。小学5年生で100%だった項目やそれに近い項目はその後にも維持されていた。3-1の被服製作用語と比較すると、調理用語の方が「知っている」割合が高かった。中学1年生で「知っている」割合が大幅に増加したのは、小学校家庭科学習の効果があったためと考えられる。

【3-4:調理用語に関する知識<男女別>】

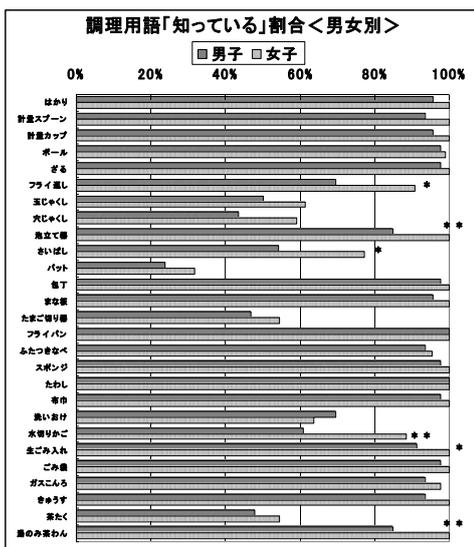


図 II-5)-36 小学5年生

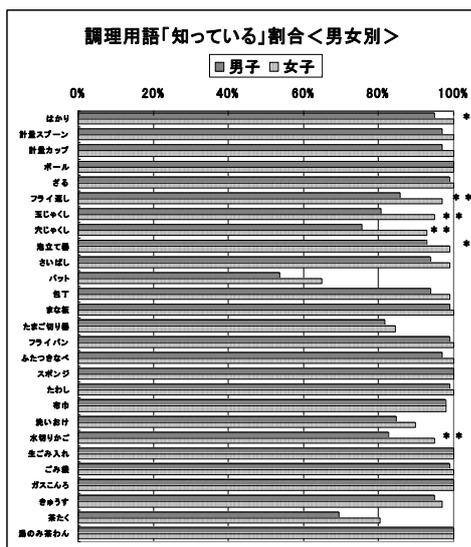


図 II-5)-37 中学1年生

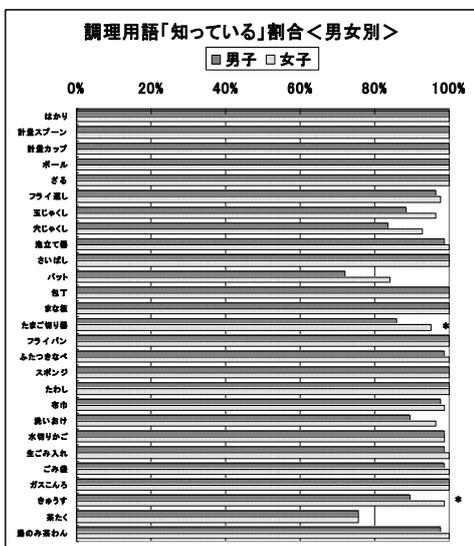


図 II-5)-38 中学3年生

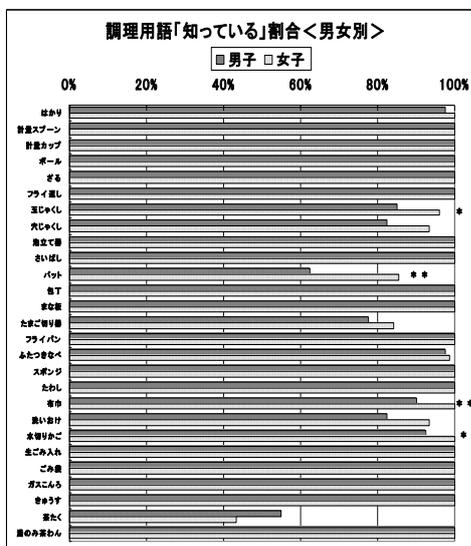
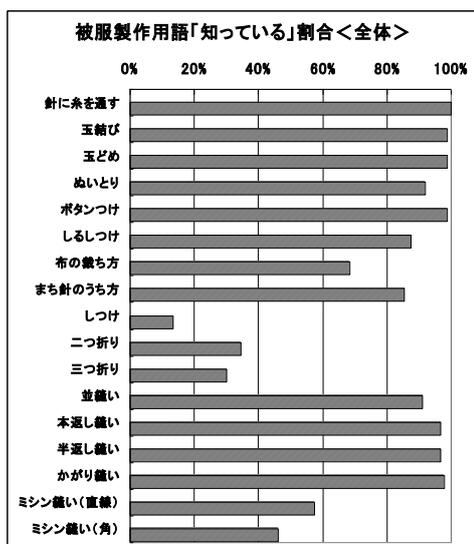


図 II-5)-39 大学生

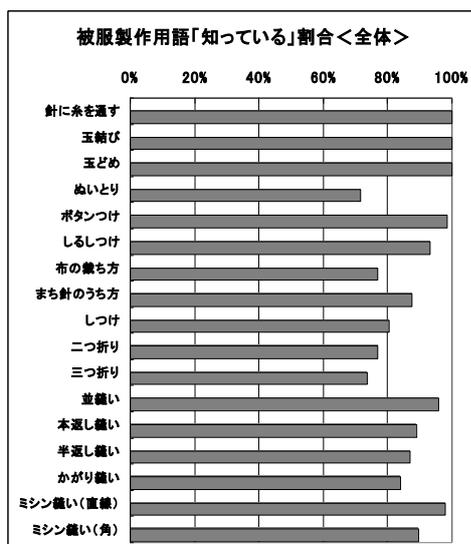
四者を比較すると、「知っている」割合は3-2 とほぼ同様に、小学5年生から中学1年生にかけて増加し、その後維持している項目が多かった。男女間の有意差の推移をみると、小学5年生で6項目、中学1年生で6項目、中学3年生で2項目、大学生で4項目となった。中学3年生で最も有意差が少なかったのは、男子の「知っている」割合が増加したためであり、中学校での家庭科学習の効果があったのではないかと考えられる。

4. 用語(方法等)の知識と技能に関する項目

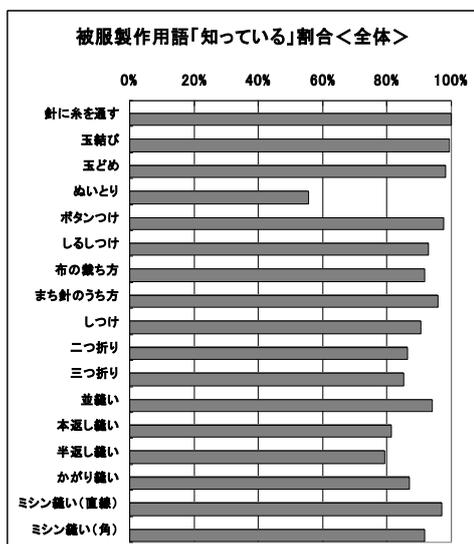
【4-1:被服製作用語に関する知識<全体>】



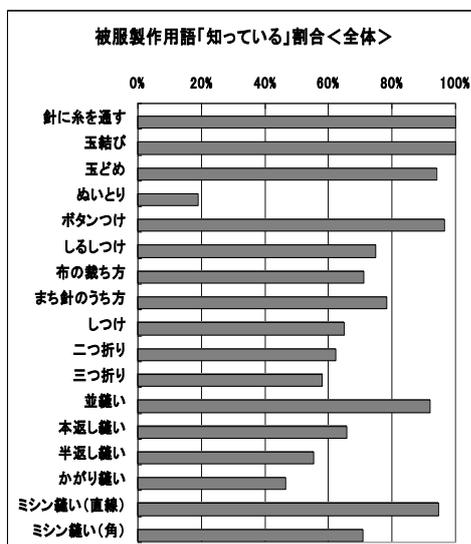
図Ⅱ-5)-40 小学5年生



図Ⅱ-5)-41 中学1年生



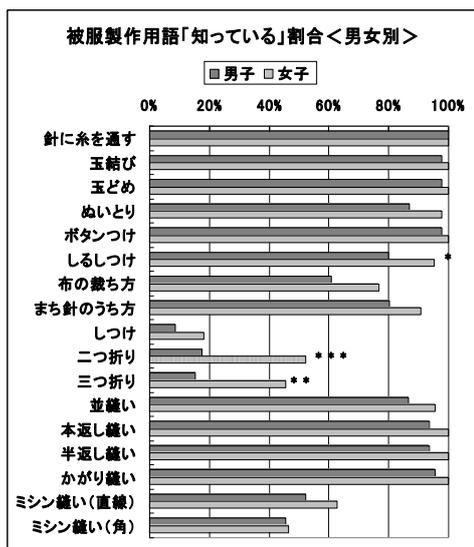
図Ⅱ-5)-42 中学3年生



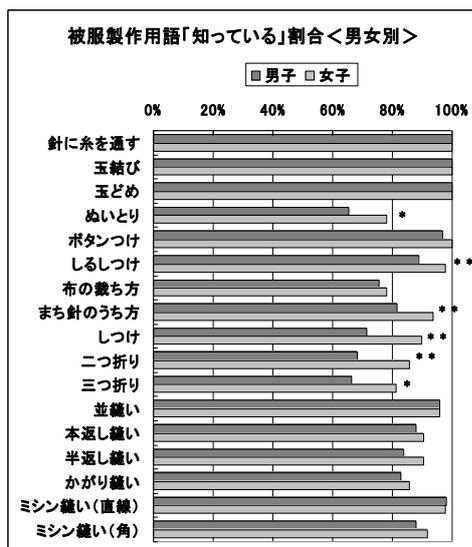
図Ⅱ-5)-43 大学生

四者を比較すると、全体的に小学5年生から中学1年生にかけて「知っている」割合が大きく増加し、中学3年生ではわずかに増加した。しかし、大学生になると「知っている」割合が減少した。項目別にみても、大学生で「知っている」割合が高かった「針に糸を通す」や「玉結び」などは小学5年生から「知っている」割合が高かったが、「本返し縫い」や「半返し縫い」のように、小学5年生よりも低かった項目もあった。3-1の用具等の項目と比較すると、用具等の項目では大学生でも「知っている」割合は維持したが、方法等の項目は大学生で減少した。

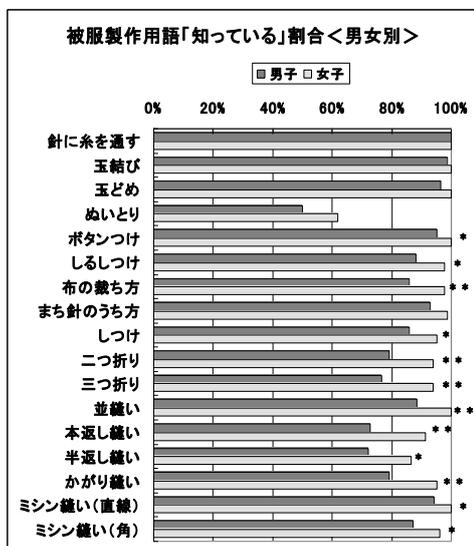
【4-2: 被服製作用語に関する知識<男女別>】



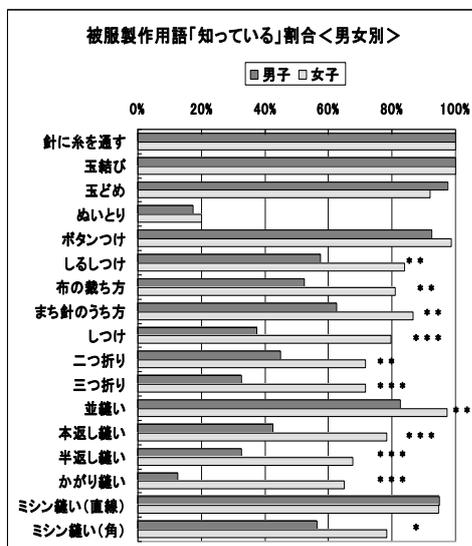
図Ⅱ-5)-44 小学5年生



図Ⅱ-5)-45 中学1年生



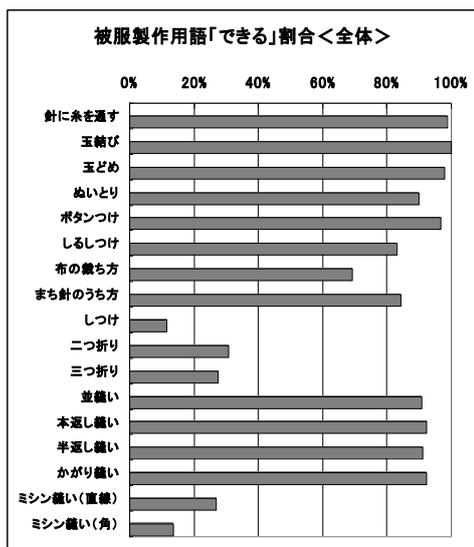
図Ⅱ-5)-46 中学3年生



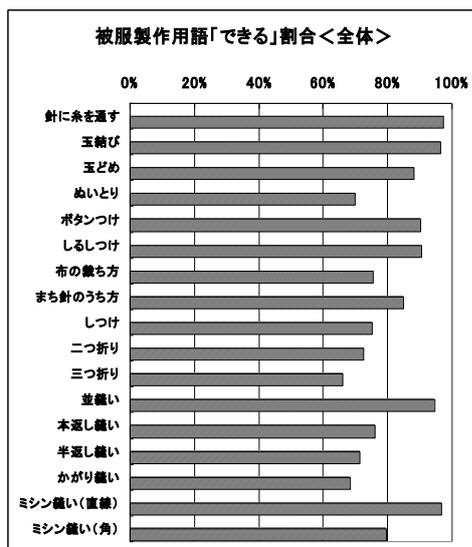
図Ⅱ-5)-47 大学生

四者を比較すると、全体的に男女とも中学1年生で「知っている」割合が増加したが、大学生では女子は維持またはわずかに減少したが、男子では大きく減少した。男女間の有意差は小学5年生で3項目、中学1年生で6項目、中学3年生で12項目、大学生で11項目となり、中学1年生と大学生で多かった。中学3年生では12項目で有意差がみられたものの、男女ともに「知っている」割合が高かったが、大学生では特に男女間の差がみられた。

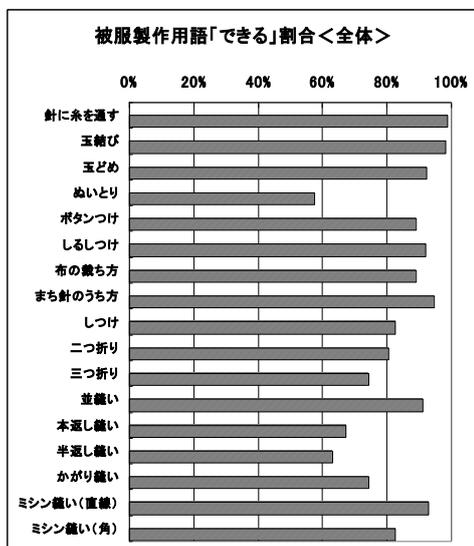
【4-3:被服製作用語に関する技能<全体>】



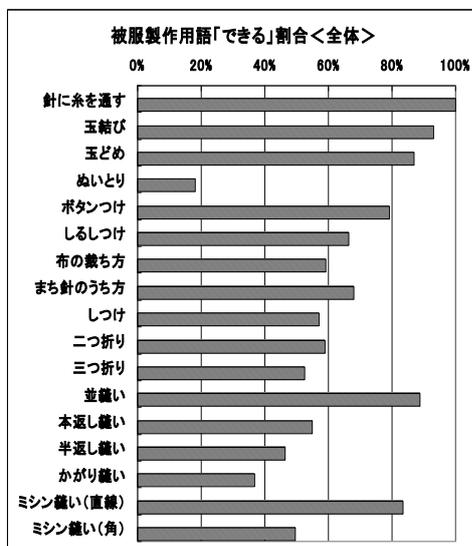
図Ⅱ-5)-48 小学5年生



図Ⅱ-5)-49 中学1年生



図Ⅱ-5)-50 中学3年生



図Ⅱ-5)-51 大学生

四者を比較すると、全体的に小学5年生から中学1年生にかけて「できる」割合が増加し、中学3年生で維持したが、大学生で大きく減少した。「針に糸を通す」、「並縫い」などの基本的な用語に関しては、「できる」割合はほぼ同じだったが、ほとんどの項目で大学生で減少し、特に「ぬいとり」や「かがり縫い」で顕著だった。4-1の被服製作用語の知識と比較すると、大学生では技能の方が顕著に減少した。

【4-4: 被服製作用語に関する技能<男女別>】

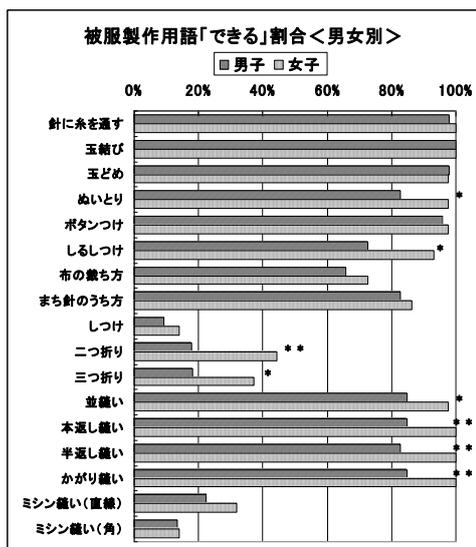


図 II-5)-52 小学5年生

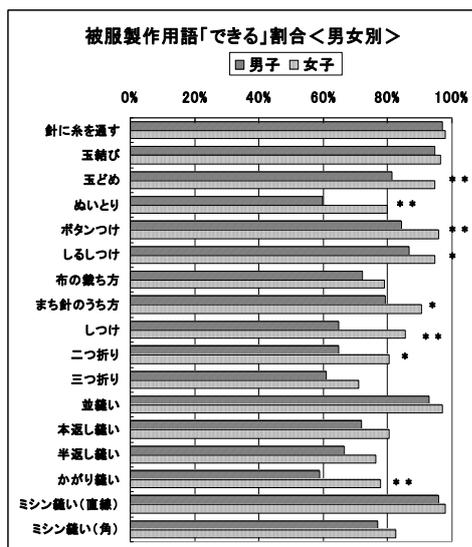


図 II-5)-53 中学1年生

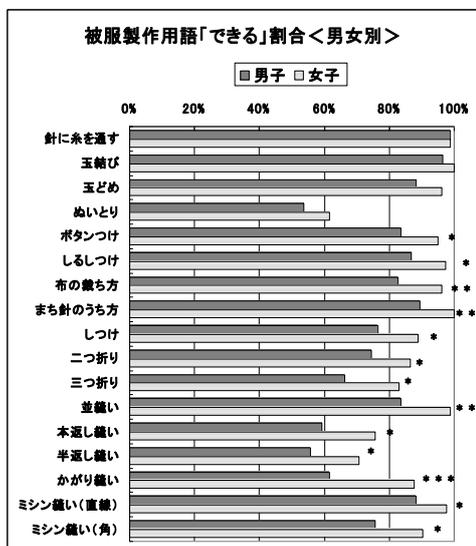


図 II-5)-54 中学3年生

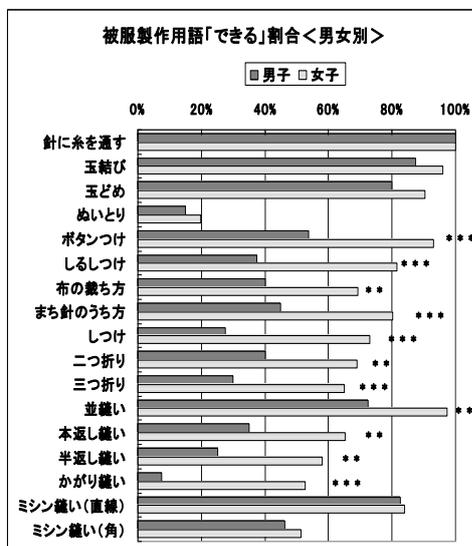
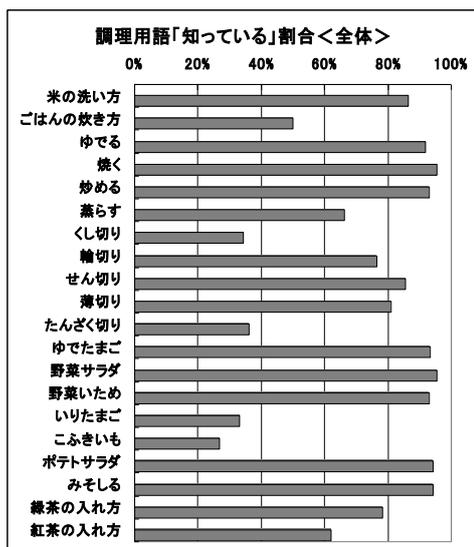


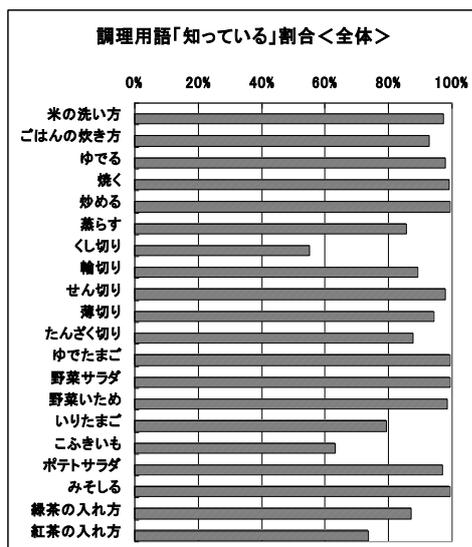
図 II-5)-55 大学生

四者を比較すると、男女ともに小学5年生から中学1年生にかけては増加した項目も減少した項目もみられたが、「しつけ」や「ミシン縫い(角の曲がり方)」などの小学5年生で「できる」割合が低かった項目は中学1年生で大きく増加し、項目ごとの差は小さくなった。中学3年生では中学1年生とほぼ同じだったが、大学生では大きく減少し、男子で顕著だった。男女間の有意差が小学5年生で8項目、中学1年生で8項目、中学3年生で13項目、大学生で11項目となった。

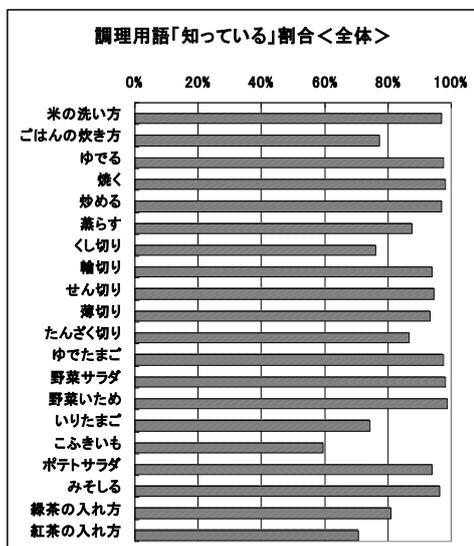
【4-5:調理用語に関する知識<全体>】



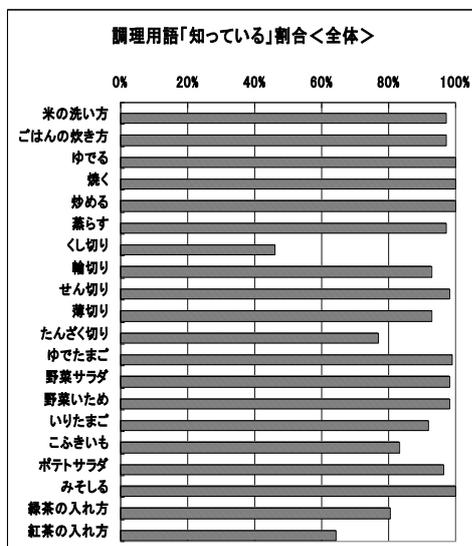
図Ⅱ-5)-56 小学5年生



図Ⅱ-5)-57 中学1年生



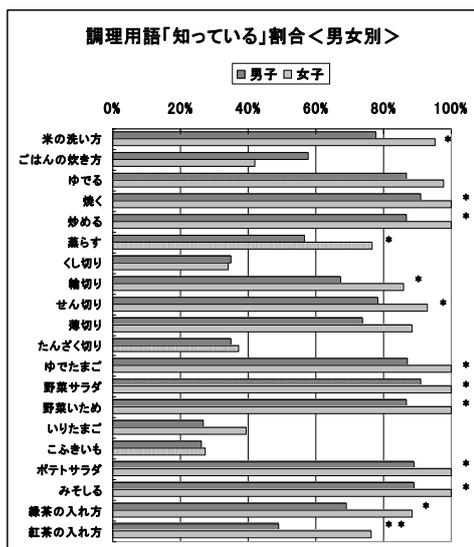
図Ⅱ-5)-58 中学3年生



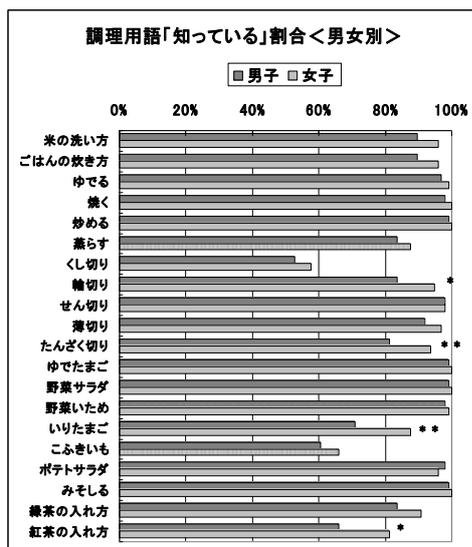
図Ⅱ-5)-59 大学生

四者を比較すると、小学5年生から中学1年生にかけて「知っている」割合が大きく増加し、中学3年生、大学生でもその割合は維持した。4-1の被服製作用語では大学生になると「知っている」割合が減少したが、調理用語では大学生の「知っている」割合は中学3年生よりも高くなった項目が多かった。このことは、裁縫経験と調理経験の差がこのような結果に表れたのではないかと考えられる。

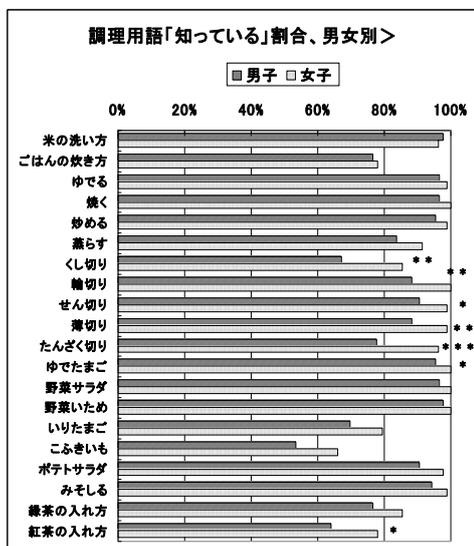
【4-6:調理用語に関する知識<男女別>】



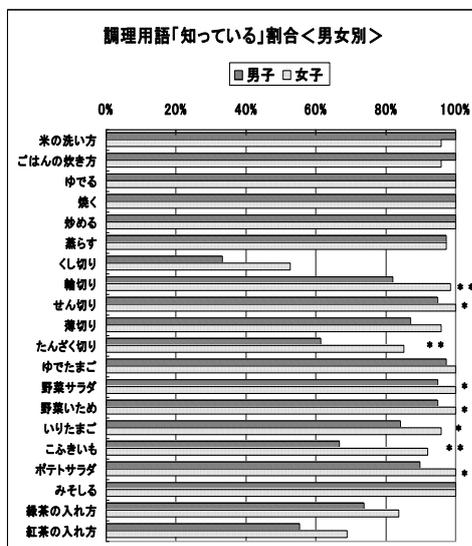
図Ⅱ-5)-60 小学5年生



図Ⅱ-5)-61 中学1年生



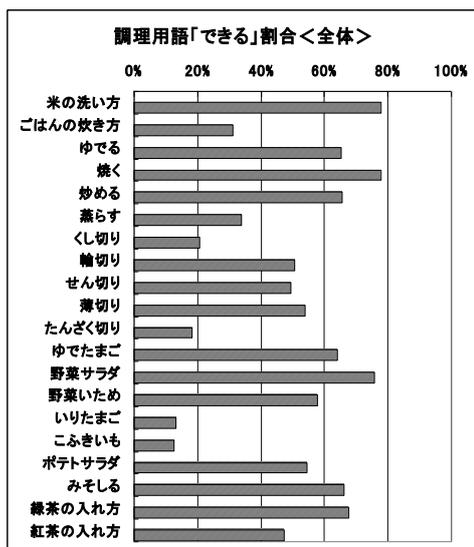
図Ⅱ-5)-62 中学3年生



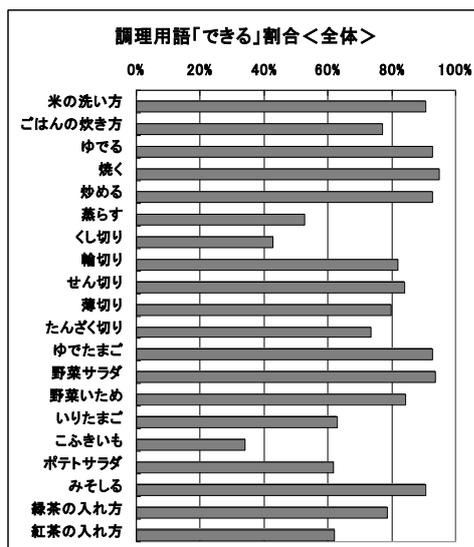
図Ⅱ-5)-63 大学生

小学5年生では男女の間の「知っている」割合に差がみられた項目が多かったが、中学1年生になると、男女の差が小さくなった。男女間の有意差は小学5年生で12項目、中学1年生で4項目、中学3年生で7項目、大学生で8項目と小学5年生で多く、中学1年生で少なかった。これは、2-4の調理経験において、家庭科学習前では男女間で調理経験に有意差がみられたが、中学1年生ではみられなかったことが影響していると考えられる。

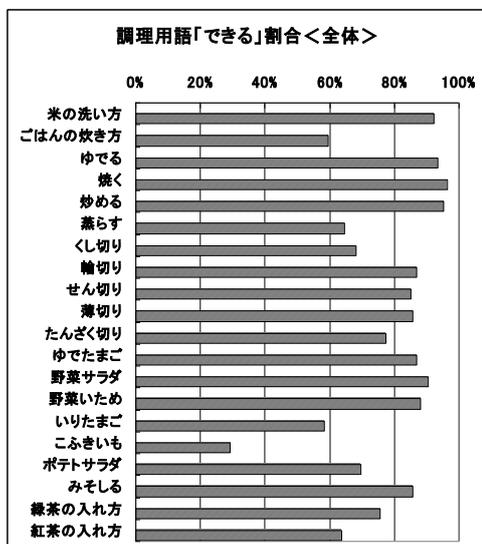
【4-7:調理用語に関する技能<全体>】



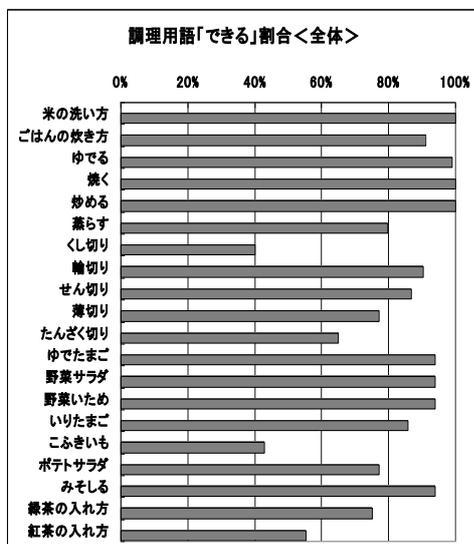
図Ⅱ-5)-64 小学5年生



図Ⅱ-5)-65 中学1年生



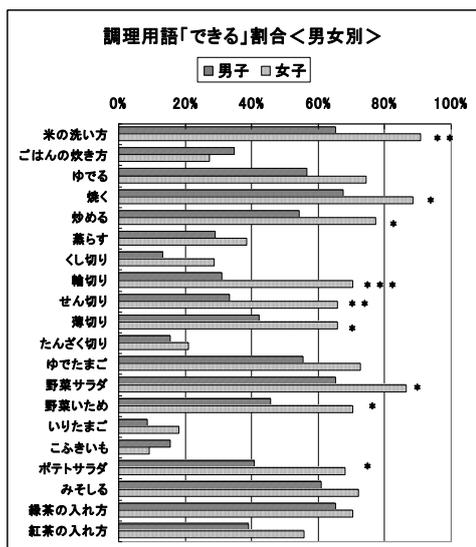
図Ⅱ-5)-66 中学3年生



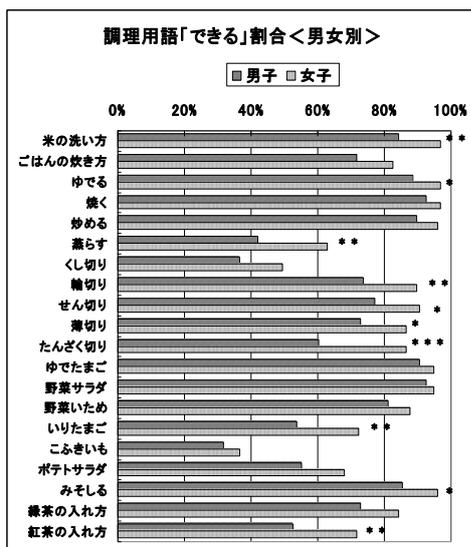
図Ⅱ-5)-67 大学生

全体的にみると、小学5年生の「できる」割合は低かったが、中学1年生になると、その割合は増加し、中学3年生、大学生でも維持された。「ゆでる」、「焼く」のような基本的な用語に関しては学年進行につれて「できる」割合が高くなった。一方「たんざく切り」のような中学1年生から大学生にかけて「できる」割合が減少した項目もみられた。4-5の被服製作用語と比較すると、被服製作用語では大学生で「できる」割合が減少したが、調理用語では割合がほぼ変わらなかった。調理用語は被服製作用語に比べ技能は維持することから、2-2や2-4のように、裁縫経験と調理経験が大きく影響していると考えられる。

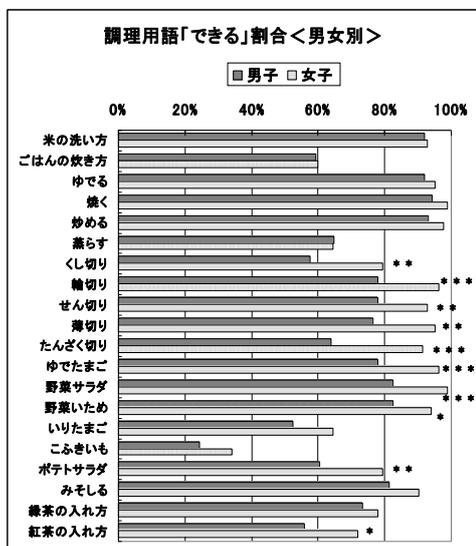
【4-8:調理用語に関する技能<男女別>】



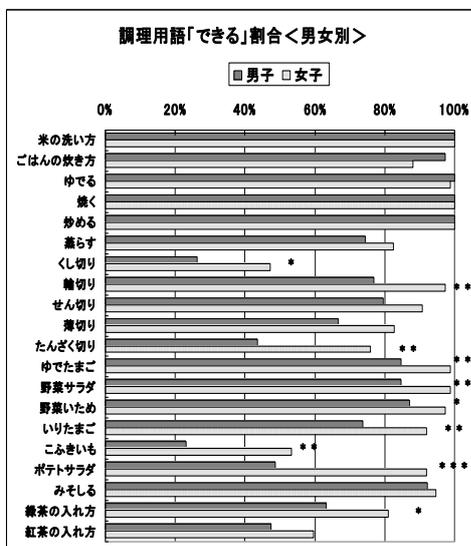
図Ⅱ-5)-68 小学5年生



図Ⅱ-5)-69 中学1年生



図Ⅱ-5)-70 中学3年生



図Ⅱ-5)-71 大学生

小学5年生では男女の間で「できる」割合に差が大きかった項目がみられたが、男女とも中学1年生で「できる」割合が大きく増加し、その差も小さくなった。

男女間で有意差もみられた項目は小学5年生で9項目、中学1年生で10項目、中学3年生で10項目、大学生で10項目とほとんど変化はなかった。有意差もみられた項目も学年段階によって異なるため、それぞれの発達段階において男女で差が出た項目も違っていた。

【四者比較のまとめ】

被服製作用語も調理用語も小学5年生から中学1年生にかけて「知っている」、「できる」割合が増加した。

調理用語では、「知っている」、「できる」割合は、小学5年生から中学1年生にかけて増加し、中学3年生や大学生でも維持された。これは、各学年段階での調理経験のある割合が高かったため、家庭科で学習した知識や技能が定着していると考えられる。

一方被服製作用語では、「知っている」、「できる」割合は小学校5年生から中学校1年生にかけて増加したものの、用具等の「知っている」割合を除いて、大学生の「知っている」、「できる」割合が減少した。これは、裁縫経験が調理経験に比べ、経験のある割合が少なかったことがこのような結果につながったのではないかと考えられる。

男女別では、用語に関する知識や技能では男女間に差がみられ、全体的に女子の方が「知っている」、「できる」割合が高かった。特に被服製作用語では大学生で男女の割合の差が大きくなった。これらのことから、家庭科学習終了後の家庭などでの裁縫や調理経験の割合の男女差が影響していると考えられる。

2. ボタンつけ調査

○調査の概要

1) 調査目的

小学校で学習した家庭科の内容は、その後どれだけ技能として身に付いているのか実態を把握するために、技能調査としてボタンつけの調査を行った。本研究において、アンケート調査と同様に小学5年生、中学1年生、中学3年生、大学生を対象として調査を進めていくことにした。

その結果から、小学5年生、中学1年生、中学3年生、大学生の実態をそれぞれ把握するとともに、四者間の比較も行い、家庭科教育の課題を明らかにすることを目的とした。

2) 調査方法

<調査期間>

- ・小学5年生……2009年9月
- ・中学1年生……2009年5月
- ・中学3年生……2009年12月
- ・大学生……2009年10月

<調査対象>

表Ⅱ-1

	男子	女子	計
小学5年生	48	42	90
中学1年生	98	96	194
中学3年生	85	83	168
大学生	40	76	116
計	271	297	568

調査対象者を表Ⅲ-1に示す。調査対象者は小学5年生、中学1年生、中学3年生とし、調査対象人数は順に90名、194名、168名、116名である。

<調査内容>

今回行ったボタンつけ調査とは、10cm×10cmの布、縫い針、約60cmの縫い糸、二つ穴ボタンを用意し、各自ボタン付けをしてもらい、それを評価項目に則って評価し、得点付けをした。評価項目は次の6項目からなる。なお、評価項目は小学校家庭科教科書⁵⁾⁶⁾を参考に作成した。

- ①玉結びができている
- ②ボタンの穴に糸が3~4回かけてある

③ボタンと布の間が布1枚分浮いている

④ボタンの下で糸が固く巻けている

⑤玉どめができている

⑥布がつれていない

得点に関しては、評価項目1つ1点とし、すべての項目ができれば6点とした。例えば、評価項目①、②、③のみができれば点数は3点となる。

1) 小学5年生

1. ボタンつけ調査評価項目に関する割合

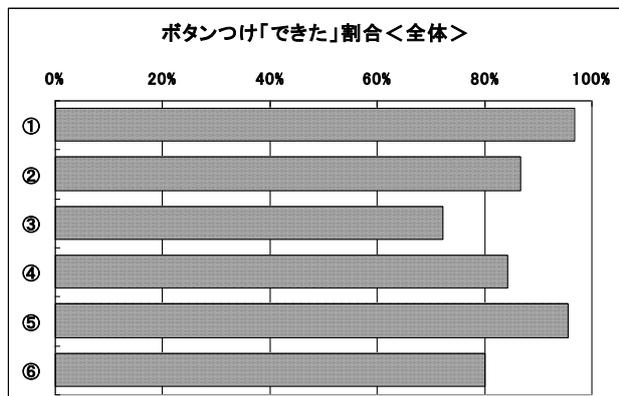


図 II-1)- 1

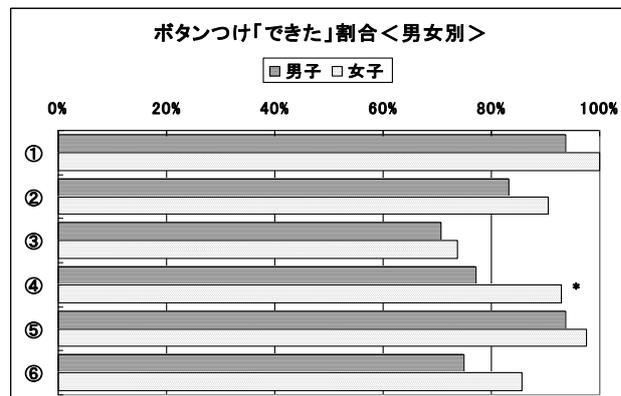


図 II-1)- 2

小学5年生では、全体で見ると、「①玉結び」、「②糸が3~4回かけてある」、「④ボタンの下で糸が固く巻けている」、「⑤玉どめができていない」、「⑥布がつれていない」に関しては80%以上の児童ができていた。「③ボタンと布の間が布1枚分浮いている」に関しては、72.2%と6項目中でもっとも低かった。

まだ家庭科を学習し始めたばかりの小学5年生では経験の浅さから、玉結びや玉どめなどの基本的な技能に関してはできた児童が多かったが、「③ボタンと布の間が布1枚分浮いている」に関してはできない児童もいることがわかった。このことから、経験を積み重ねることによってボタンつけができるようになるのではないかと推測される。

また、男女で比較すると、すべての項目で男子よりも女子の方が「できた」割合が高かった。男女間での有意差は6項目中「④ボタンの下で糸が固く巻けている」の1項目のみでみられた ($p < 0.05$)。このことは「Ⅱ家庭科(被服・調理)に関するアンケート調査」で男子に比べ女子の方が家庭科の授業以外での裁縫経験が多かったことと関係しているのではないかと考えられる。

2. ボタンつけ調査の点数に関する割合

ボタンつけ調査の点数をみると、満点の6点だった割合が57.1%と高かった。

男女で比較すると、女子の方が点数が高かったが、男女間で有意差はみられなかった。

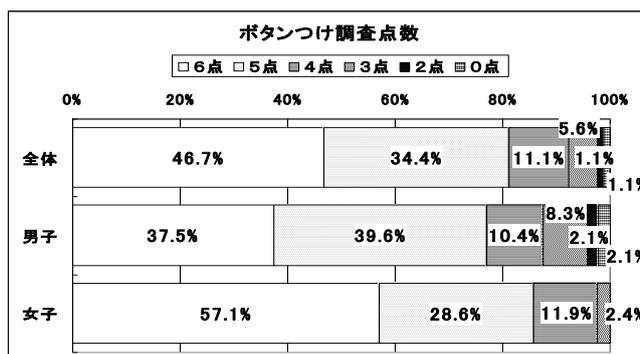
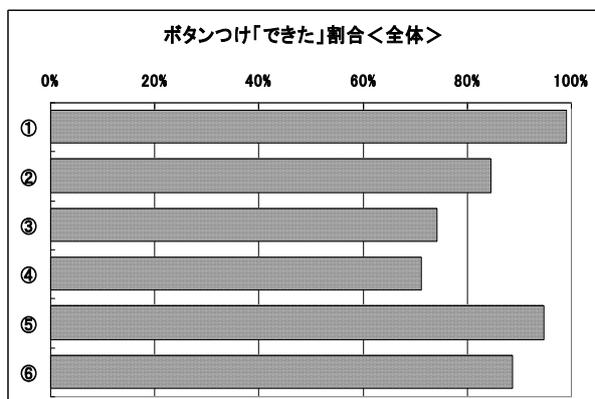


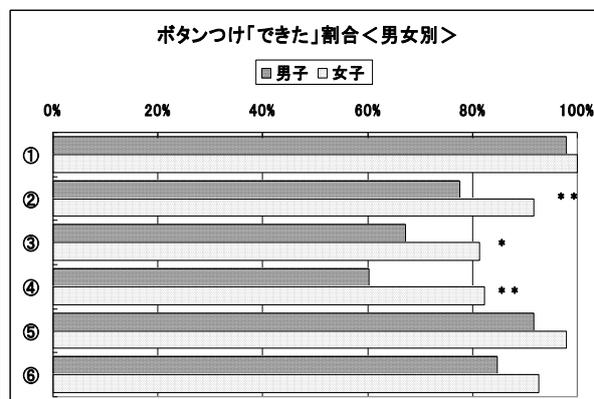
図 II-1)- 3

2) 中学1年生

1. ボタンつけ調査評価項目に関する割合



図Ⅱ-2)- 1



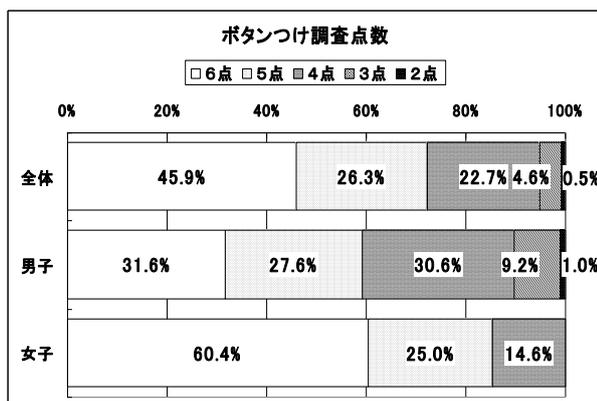
図Ⅱ-2)- 2

中学1年生の全体のボタンつけの割合をみると、「できた」生徒が80%以上の項目は「①玉結び」、「②糸が3~4回かけてある」、「⑤玉どめができています」、「⑥布がつれていない」の4項目だった。「③ボタンと布の間が布1枚分浮いている」、「④ボタンの下で糸が固く巻けている」はそれぞれ74.2%、71.1%だった。また、ボタンの下で糸を固く巻かなければならないのだが、巻いている糸が緩かったり、特に糸を巻くこと自体を忘れていた生徒が多かった。そのことが原因か、「③布1枚分浮いている」、「④糸が固く巻けている」が「できた」割合が他の4項目と比べて低かった。また、裁縫の基本である「①玉結び」、「⑤玉どめ」が「できた」割合はそれぞれ99.0%、94.8%と高かった。

男女で比較すると、すべての項目で男子よりも女子の方が「できた」割合が高かった。男女間での有意差は6項目中「②糸が3~4回かけてある」(p<0.01)、「③ボタンと布の間が布1枚分浮いている」(p<0.05)、「④ボタンの下で糸が固く巻けている」(p<0.01)の3項目でみられた。

2. ボタンつけ調査の点数に関する割合

ボタンつけ調査の点数をみると、全体では6点が45.9%で最も割合が高かった。男女で比較すると、満点の6点だった割合は男子で31.6%だったのに対し、女子では60.4%となり、有意差もみられた(p<0.001)。小学校家庭科の学習が終わったばかりの中学1年生はボタンつけができる割合に男女差があることがわかった。



図Ⅱ-2)- 3

3) 中学3年生

1. ボタンつけ調査評価項目に関する割合

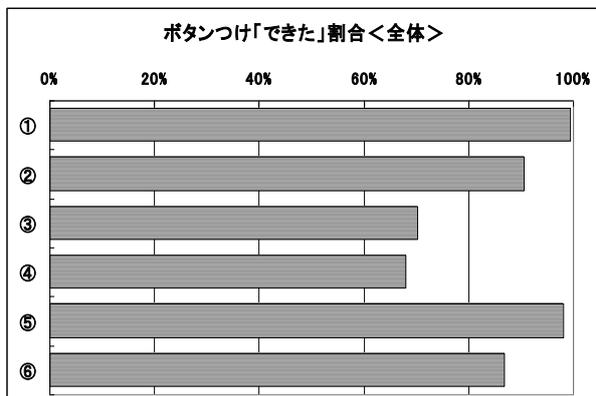


図 II-3)- 1

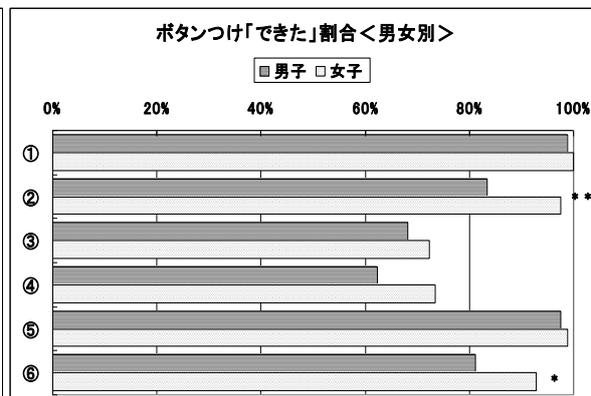


図 II-3)- 2

中学3年生の全体のボタンつけの割合をみると、「できた」生徒が80%以上の項目は「①玉結び」、「②糸が3~4回かけてある」、「⑤玉どめができています」、「⑥布がつれていない」の4項目だった。「③ボタンと布の間が布1枚分浮いている」、「④ボタンの下で糸が固く巻けている」はそれぞれ70.2%、67.9%だった。ボタンの下で糸を固く巻かなければならないのだが、巻いている糸が緩かったり、糸を巻くこと自体を忘れていたりする生徒も多かった。そのことが原因か、「③布1枚分浮いている」、「④糸が固く巻けている」が「できた」割合が他の4項目と比べて低かった。また、裁縫の基本である「①玉結び」、「⑤玉どめ」が「できた」割合はそれぞれ99.4%、98.2%と高かった。中学校家庭科の学習が終わった中学3年生でも、「玉結び」、「玉どめ」ができる割合が100%ではないことがわかった。

男女で比較すると、すべての項目で女子の方が「できた」割合が高かった。男女間での有意差は6項目中「②糸が3~4回かけてある」(p<0.01)、「⑥布がつれていない」(p<0.05)の2項目でみられた。

2. ボタンつけ調査の点数に関する割合

ボタンつけ調査の点数をみると、全体では6点が47.0%と最も割合が高かった。男女で比較すると、満点の6点だった割合が女子は57.8%だったのに対し、男子は36.5%で、男女間で有意差(p<0.01)がみられた。中学校家庭科の学習が終わった中学3年生はボタンつけが完璧にできる割合が半分以下ということがわかった。

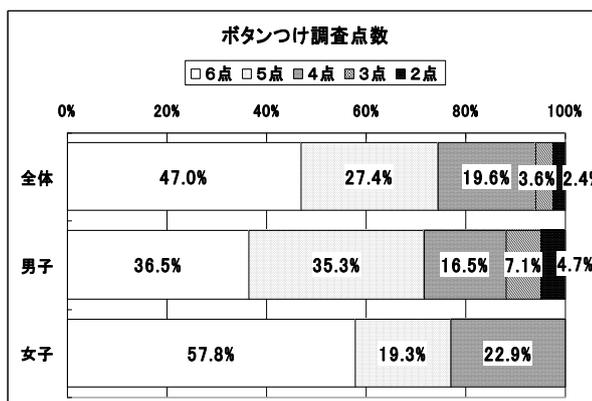


図 II-3)- 3

4) 大学生

1. ボタンつけ調査評価項目に関する割合

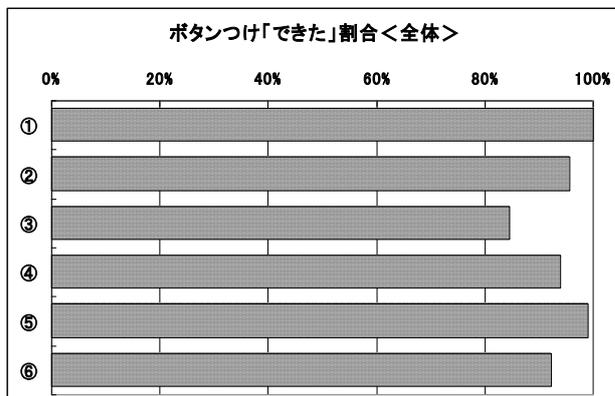


図 II-4)- 1

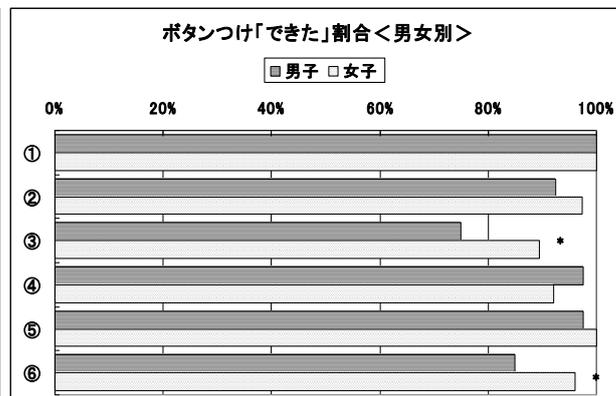


図 II-4)- 2

大学生の全体のボタンつけの割合をみると、すべての項目で「できた」割合が 80%以上となり、「①玉結び」が「できた」割合は 100%だった。最も割合の低かった「③ボタンと布の間が布 1 枚分浮いている」でも「できた」割合が 84.5%と高かった。また、「⑤玉どめ」でも「できた」割合が 99.1%と「①玉結び」同様ほぼ 100%だった。

男女で比較すると、「④糸が固く巻けている」では男子の方が女子よりも「できた」割合が高かったが、ほとんどの項目は男子よりも女子の方が高かった。男女間での有意差は 6 項目中「③布 1 枚分浮いている」($p<0.05$)、「⑥布がつれていない」($p<0.05$) の 2 項目でみられた。また、「①玉結び」に加え「⑤玉どめ」の女子の「できた」割合は 100%だった。

2. ボタンつけ調査の点数に関する割合

ボタンつけ調査の点数をみると、全体では 6 点が 77.6%だった。また、1 点と 2 点の割合は 0%で、1~4 点の割合を合計しても 10%未満と低い点数の割合は非常に低かった。男女で比較すると、割合は多少異なったが、5~6 点の合計の割合はほぼ同じで、男女間で有意差はみられなかった。大学生では、いまだに完璧にボタンを付けられない人も多数いることがわかった。

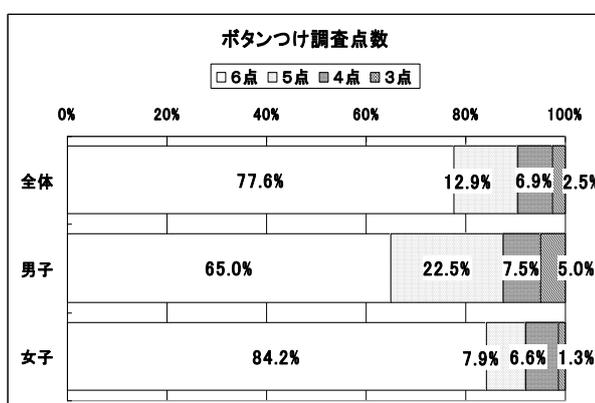


図 II-4)- 3

5) 小学5年生・中学1年生・中学3年生・大学生 四者間比較

1. ボタンつけ調査評価項目に関する割合

これまではボタンつけが「できた」割合を、全体の割合、男女別の割合で比較してきたが、いずれの学年段階でもほとんどの項目で男子よりも女子の方が「できた」割合が高いことがわかったため、ここでは全体の割合のみで各学年段階で比較していく。

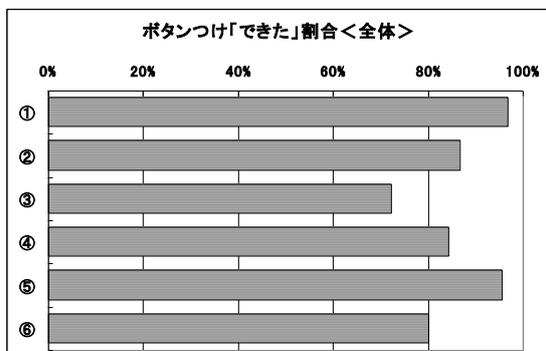


図 II-5)- 1 小学5年生

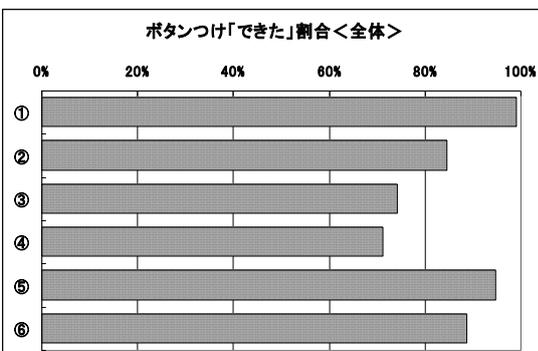


図 II-5)- 2 中学1年生

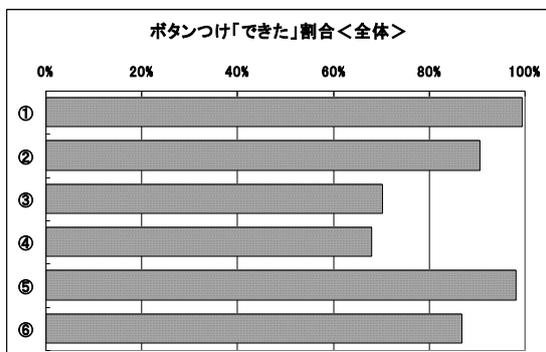


図 II-5)- 3 中学3年生

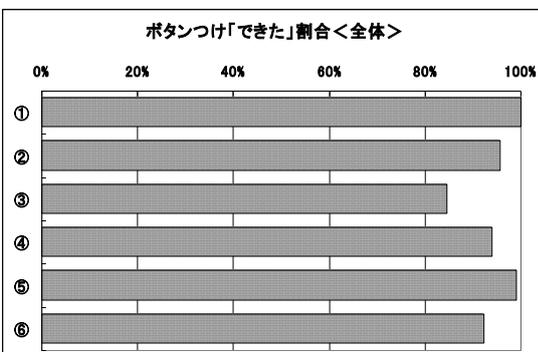


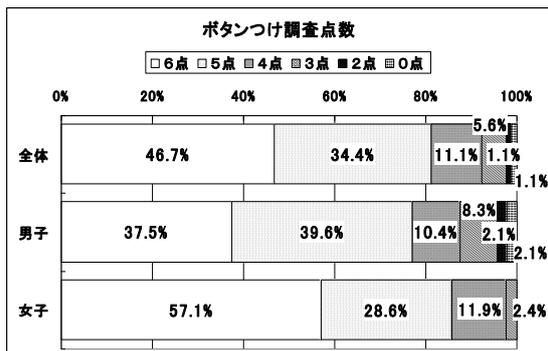
図 II-5)- 4 大学生

全体的に「できた」割合は中学3年生まではほぼ同じで、大学生では特に他の学年段階に比べ「できた」割合が高くなった。「できた」割合が100%の項目は大学生の「①玉結び」のみだった。

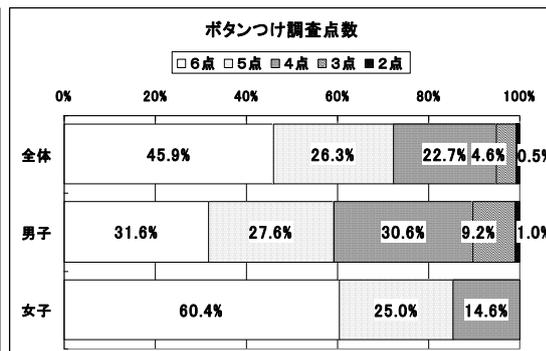
小学5年生では、一度授業でボタンつけを学習しただけでは全員ができることはなかったが、学年を経るごとにできる割合が維持されていき、大学生でその割合が最も高くなった。このことから、日常での実践や再び学校で学習することでできる割合が維持または増加したのではないかと推測される。ボタンつけができるように技能として身に付けるには何度も反復して学習することが必要なのではないだろうか。

また、しばらく時間が経過するとやり方を忘れてたり、できなくなったりしていることがあると考えられる。そのため、思い込みでボタン付けをしてしまい、ボタンの下で糸を巻かずボタンつけを繰り返してしまっている人も多数存在すると考えられる。

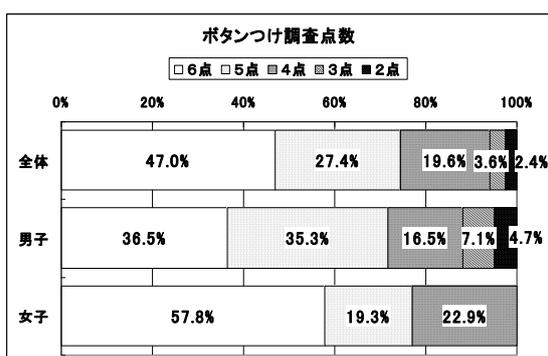
2. ボタンつけ調査の点数に関する割合



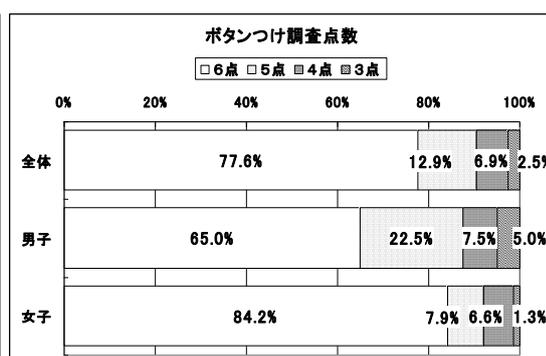
図Ⅱ-5)- 5 小学5年生



図Ⅱ-5)- 6 中学1年生



図Ⅱ-5)- 7 中学3年生



図Ⅱ-5)- 8 大学生

まず家庭科の授業でボタンつけを学習した直後に調査を行った小学5年生と比較すると、中学1年生では点数が6点だった割合がわずかに低くなった。次に、中学1年生と比較すると中学3年生では点数が6点だった割合がわずかに増加した。大学生ではその割合が大幅に増加した。どの学年段階でも全体では6点の割合が最も高く、男子よりも女子の方が点数が高い割合が高いことが共通していた。

[四者比較のまとめ]

家庭科の授業でボタンつけを学習した直後にボタンつけ調査を行った小学5年生と比較すると、中学1年生では全体的に「できた」割合がほぼ同じとなり、次に、中学1年生と比較すると中学3年生でも「できた」割合がほぼ同じだったが、大学生では割合が大幅に増加した。小学5年生でも、一度授業でボタンつけを学習しただけでは全員ができることはなかった。さらに、いずれの学年段階でも女子よりも男子の方が「できた」割合が低かった。これは、家庭科の授業以外での裁縫経験の違いによるものではないかと推測される。このことから、ボタンつけを学習し技能を身に付けるが、しばらく時間が経過するとやり方を忘れてたり、できなくなったりしていることがあると考えられる。特にボタンの下で糸を巻いていなかったり、固く巻けていなかった児童生徒や、ボタンと布の間が開いていなかった児童生徒が目立った。一方、大学生では日常での実践や再び学校で学習することでできる割合が増加したのではないかと推測される。ボタンつけができるように技能として身に付けるには何度も反復して学習することが必要なのではないだろうか。

これらことから、反復学習に加え、ボタンつけをする際に自分自身がどのような点に注意したらよいのかを知ることで男女ともにできるようになると推測される。

Ⅲ 2007 年度に小学5年生および中学1年生だった児童生徒を対象とした 2009 年度調査

○調査の概要

1) 調査目的

家庭科学習の基礎である小学校家庭科で学習した知識や技能は2年間でどれだけ身に付いているのかを明らかにするために、2007年に小学5年生、中学1年生だった児童を対象に、中学1年生、中学3年生時の小学校家庭科教科書に記載されている被服製作用語や調理用語の知識や技能およびボタンつけの技能の実態を調査し、小学5年生時の結果と対照することにより、それらの変容とその要因を明らかにすることを目的とした。

2) 調査方法

<調査時期>

- ・ 中学1年生……2009年5月
- ・ 中学3年生……2009年12月

<調査対象>

○家庭科（裁縫・調理）に関するアンケート調査

表Ⅲ-1

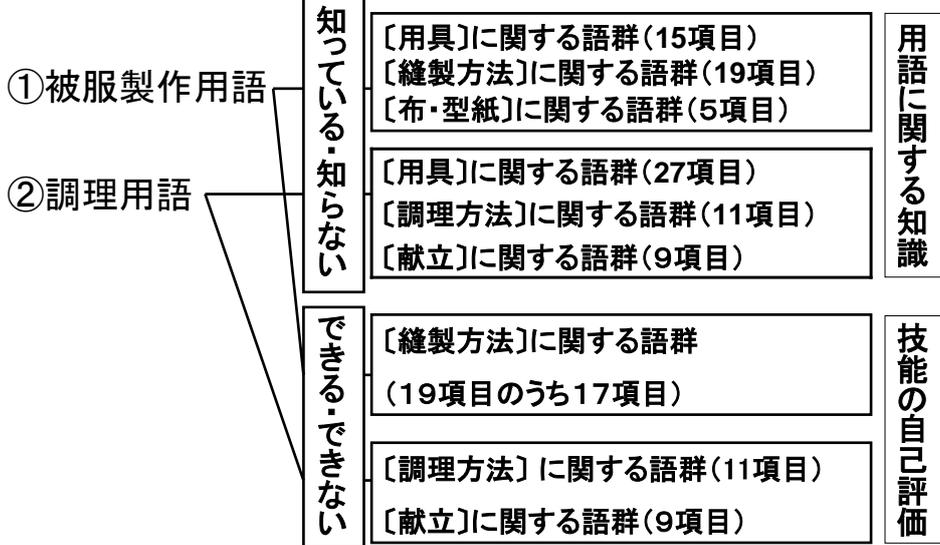
	男子	女子	計
中学1年生	36	39	75
中学3年生	69	74	143
計	105	113	218

調査対象者を表Ⅲ-1に示す。調査対象者は2007年調査で追跡可能な2009年度中学1年生、中学3年生とし、調査対象人数は順に75名（2007年調査110名、2009年調査195名）、143名（2007年調査197名、2009年調査168名）だった。

表Ⅲ-2

【調査方法】

小学校家庭科教科書に記載されている用語



調査内容の概要を表Ⅲ-2に示す。知識や技能に関するアンケート項目は、Ⅱと同様小学校家庭科教科書に記載されている基礎的な被服製作用語や調理用語とした。小学校家庭科に記載されている用語は、被服製作用語は〔用具〕に関する語群 15 項目、〔縫製方法〕に関する語群 19 項目、〔布・型紙〕に関する語群 5 項目の計 39 項目である。これらすべての用語は図Ⅱ-1)-4、図Ⅱ-1)-5、図Ⅱ-1)-6に示した。調理用語は〔用具〕に関する語群 27 項目、〔調理方法〕に関する語群 11 項目、〔献立〕に関する語群 9 項目の計 47 項目である。これらすべての用語は図Ⅱ-1)-7、図Ⅱ-1)-8、図Ⅱ-1)-9に示した。そして、それぞれについて「知っている」あるいは「知らない」で回答させ（用語に関する知識）、「1本どり」、「2本どり」を除く〔縫製方法〕に関する語群 17 項目、〔調理方法〕に関する語群 11 項目、〔献立〕に関する語群 9 項目については「できる」または「できない」についても回答させた（技能の自己評価）。そして、「知っている」、「できる」割合や項目数を対照した。

ボタンつけ作業による技能調査も同様に、「できた」割合や項目数を対照した。ボタンつけの評価項目はⅢ-2)と同じである。

1. 小学5年生(2007年調査)・中学1年生(2009年調査)

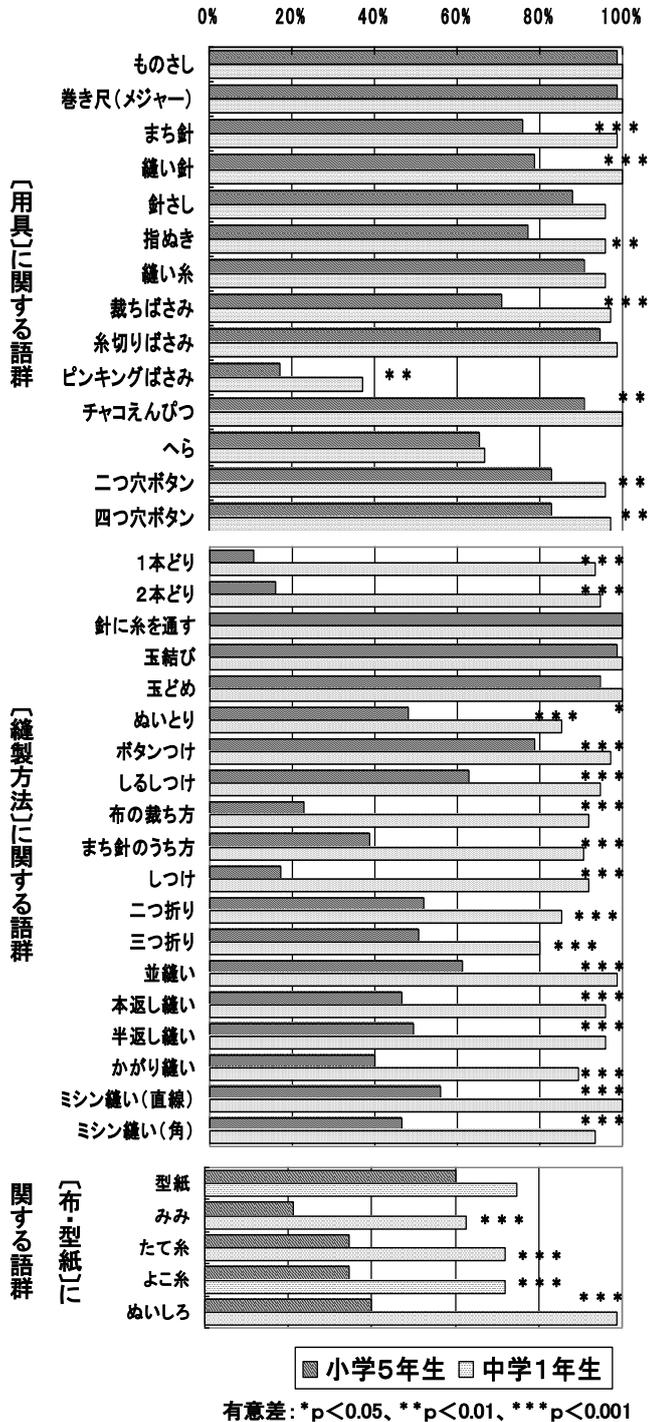
1. 被服製作用語に関する項目

【1-1:用語に関する知識<項目別「知っている」割合の変化(全体)>】

用語に関する知識を語群ごとに、すべての項目を図Ⅲ-1)-1に示す。39項目の「知っている」割合は、全体的に中学1年生の方が小学5年生より高くなり、小学5年生の方が高い項目はなかった。また、「針に糸を通す」では小学5年生、中学1年生ともに「知っている」割合が100%だった。小学5年生と中学1年生との間で有意差のみられた項目は30項目で、いずれの項目も中学1年生が優位だった。

〔用具〕に関する語群では、「知っている」割合は、中学1年生の段階で多くの項目が100%近くになった。しかし、「ピンキングばさみ」では「知っている」割合は低く、小学5年生では17.3%、中学1年生では37.3%となった。小学5年生と中学1年生との間で有意差のみられた項目は15項目中9項目で、いずれの項目も中学1年生の方が優位だった。

〔縫製方法〕に関する語群では、「知っている」割合は、「針に糸を通す」、「玉結び」、「玉どめ」などの基本的な項目は小学5年生、中学1年生ともにほぼ100%だった。その他の項目の「知っている」割合は、中学1年生で高く、特に「1本どり」では小学5年生では10.7%、中学1年生では93.3%だ



図Ⅲ-1)-1 用語に関する知識(全体)

った。小学5年生と中学1年生との間で有意差のみられた項目は19項目中17項目で、いずれの項目も中学1年生の方が優位だった。

〔布・型紙〕に関する語群では、「知っている」割合は、小学5年生で低く、中学1年生で高かった項目が多かった。しかし、「みみ」では中学1年生でも「知っている」割合は62.7%と低かった。小学5年生と中学1年生との間で有意差のみられた項目は5項目すべてで、いずれの項目も中学1年生が優位だった。

【1-2:用語に関する知識<語群別「知っている」割合の変化(全体)>】

表Ⅲ-1)-1 用語に関する知識

—語群別の「知っている」割合—

	小学5年生	中学1年生
〔用具〕に関する語群	75.7%	89.1%
〔縫製方法〕に関する語群	52.2%	93.6%
〔布・型紙〕に関する語群	38.1%	76.0%

用語に関する知識を語群別に表Ⅲ-1)-1に示す。「知っている」割合は、いずれの語群でも中学1年生の方が小学5年生よりも高くなり、その差は、〔用具〕に関する語群で13.4ポイント、〔縫製方法〕に関する語群では41.4ポイント、〔布・型紙〕に関する語群では37.9ポイントと、いずれの語群も増加し、特に〔縫製方法〕に関する語群で顕著だった。

また、小学5年生では〔用具〕に関する語群>〔縫製方法〕に関する語群>〔布・型紙〕に関する語群だったが、中学1年生では〔縫製方法〕に関する語群>〔用具〕に関する語群>〔布・型紙〕に関する語群となった。

【1-3:用語に関する知識<語群別「知っている」項目数の変化(全体)>】

用語に関する知識の「知っている」と回答した項目数を調査年次ごとに語群別に図Ⅲ-1)-2に示す。

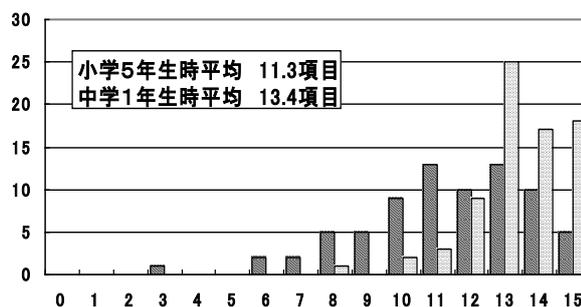
〔用具〕に関する語群では、小学5年生で「知っている」項目数は15項目中3項目から15項目に分布し、最も人数の多かった項目数は11項目と13項目で、中学1年生で「知っている」項目数は15項目中8項目から15項目に分布し、最も人数の多かった項目は13項目だった。「知っている」項目数の平均は、小学5年生で11.3項目、中学1年生で13.4項目となり、中学1年生の方が高かった。

〔縫製方法〕に関する語群では、小学5年生で「知っている」項目数は19項目中3項目から19項目に分布し、最も人数の多かった項目は10項目と13項目で、中学1年生で「知っている」項目数は19項目中9項目から19項目に分布し、最も人数の多かった項目は19項目だった。「知っている」項目数の平均は、小学5年生で9.9項目、中学1年生で17.8項目となり、中学1年生の方が高かった。

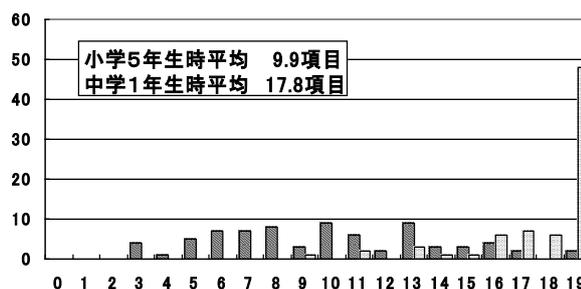
〔布・型紙〕に関する語群では、小学5年生で「知っている」項目数は5項目中0項目から5項目に分布し、最も人数の多かった項目数は1項目で、中学1年生で「知っている」項目数は5項目中0項目から5項目に分布し、最も人数の多かった項目は5項目だった。「知っている」項目数の平均は、小学5年生で1.9項目、中学1年生で3.8項目となり、中学1年生の方が高かった。

小学5年生と中学1年生の平均の「知っている」項目数の差は、〔用具〕に関する語群は2.1項目、〔縫製方法〕に関する語群では7.9項目、〔布・型紙〕に関する語群は1.9項目と、〔縫製方法〕に関する語群が〔用具〕に関する語群や〔布・型紙〕に関する語群に比べて大きかった。

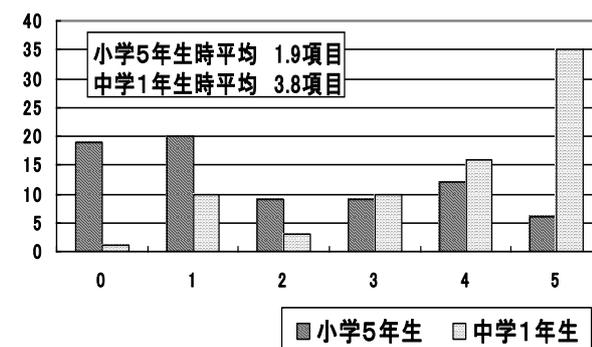
〔用具〕に関する語群



〔縫製方法〕に関する語群



〔布・型紙〕に関する語群

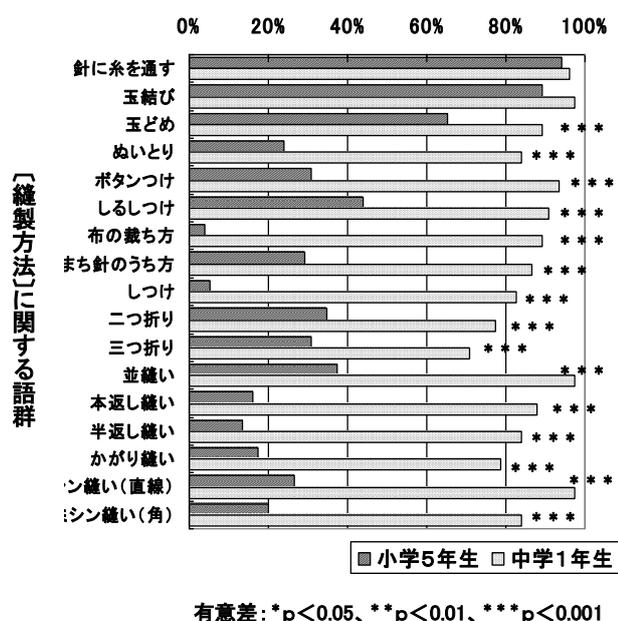


図Ⅲ-1)-2 用語に関する知識
—語群別「知っている」項目数の変化—

【1-4: 技能の自己評価<項目別「できる」割合の変化(全体)>】

技能の自己評価を語群ごとに、すべての項目を図Ⅲ-1)-3に示す。17項目の「できる」割合は、全体的に中学1年生の方が高くなり、小学5年生の方が高い項目はなかった。小学5年生と中学1年生との間で有意差がみられた項目は、15項目で、いずれも中学1年生の方が優位だった。

小学5年生から中学1年生にかけて、「知っている」割合が大きく増加した項目が多く、「布の裁ち方」は小学5年生で4.0%、中学1年生で89.3%、「しつけ」では小学5年生で5.3%、中学1年生で82.7%と顕著だった。



有意差: *p<0.05, **p<0.01, ***p<0.001

図Ⅲ-1)-3 技能の自己評価(全体)

【1-5: 技能の自己評価<語群別「できる」割合の変化(全体)>】

表Ⅲ-1)-2 技能の自己評価

一語群別の「できる」割合(全体)

	小学5年生	中学1年生
〔縫製方法〕に関する語群	34.2%	87.4%

技能の自己評価を語群別に表Ⅲ-1)-2に示す。〔縫製方法〕に関する語群の「できる」割合は、小学5年生で34.2%、中学1年生で87.4%となり、中学1年生の方が高くなった。

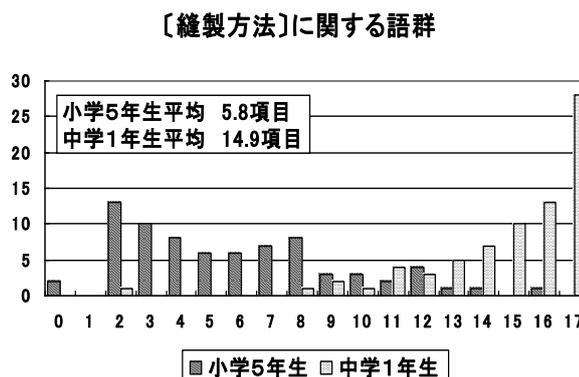
小学5年生と中学1年生の「できる」割合の差は、53.2ポイントとなり、1-2の〔縫製方法〕に関する語群の「知っている」割合(41.4ポイント)よりも大きかった。

【1-6: 技能の自己評価<語群別「できる」項目数の変化(全体)>】

技能の自己評価の「できる」と回答した項目数を調査年次ごとに図Ⅲ-1)-4に示す。

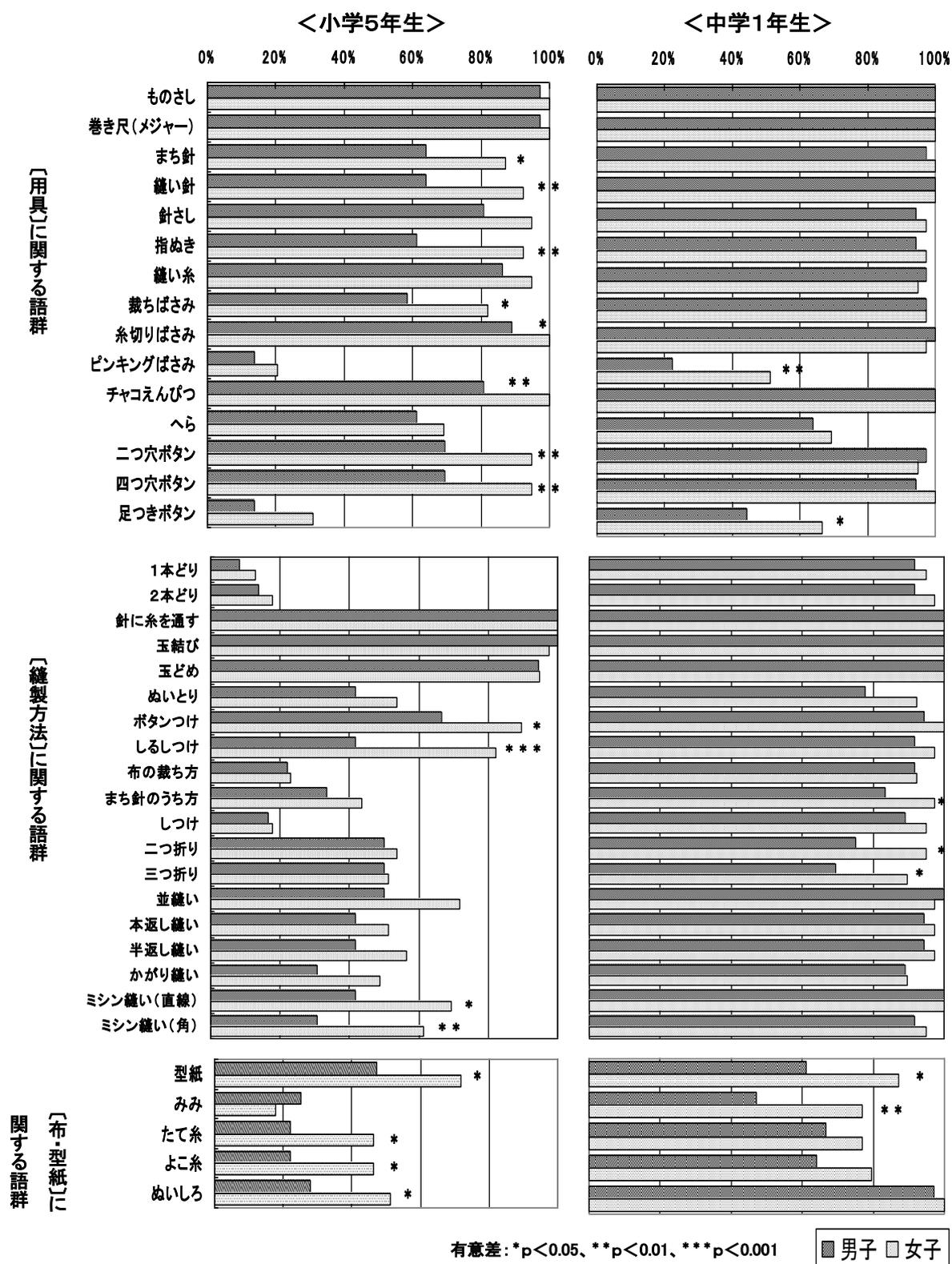
〔縫製方法〕に関する語群では、小学5年生で「できる」項目数は17項目中0項目から16項目に分布し、最も人数の多かった項目数は2項目だったが、中学1年生で「できる」項目数は17項目中2項目から17項目に分布し、最も人数の多かった項目は17項目だった。「できる」項目数の平均は、小学5年生で5.8項目、中学1年生で14.9項目となり、中学1年生の方が高かった。

小学5年生と中学1年生の平均の「できる」項目数の差は、9.1項目と、1-3の〔縫製方法〕に関する語群と比較すると、項目数の差は大きかった。



**図Ⅲ-1)-4 技能の自己評価
- 語群別「できる」項目数の変化-(全体)**

【1-7:用語に関する知識<項目別「知っている」割合の変化(男女別)>】



図Ⅲ-1)-5 用語に関する知識(男女別)

用語に関する知識を語群ごとに、すべての項目を図Ⅲ-1)-5 に示す。39 項目の「知っている」割合は、全体的に女子の方が男子より高く、また、小学5年生から中学1年生にかけて高くなった。男子の方が高い項目は小学5年生では「玉結び」、「みみ」の2項目、中学1年生では「縫い糸」、「糸切りばさみ」、「二つ穴ボタン」、「並縫い」の4項目で、中学1年生の方が多くみられたが同じ項目はなかった。男女間で有意差のみられた項目は、小学5年生で16項目、中学1年生で7項目で、いずれも女子の方が優位だった。

〔用具〕に関する語群では、「知っている」割合は、中学1年生の段階で多くの項目が100%近くなった。しかし、「ピンキングばさみ」では「知っている」割合は低く、男子では小学5年生で13.9%、中学1年生で22.2%、同様に女子では20.5%、51.3%となった。男女間で有意差のみられた項目は15項目、小学5年生では8項目、中学1年生では2項目で、いずれの項目でも女子の方が優位だった。また、小学5年生で有意差のみられた8項目はすべて中学1年生では有意差がみられず、全体的に男女の差は縮まった。

〔縫製方法〕に関する語群では、「知っている」割合は、「針に糸を通す」、「玉結び」、「玉どめ」などの基本的な項目は小学5年生、中学1年生ともにほぼ100%だった。その他の「知っている」割合は、中学1年生で高くなった。男女間で有意差のみられた項目は19項目中、小学5年生では4項目、中学1年生では3項目で、いずれの項目でも女子の方が優位だった。また、小学5年生で有意差のみられた4項目は中学1年生では有意差がみられず、〔用具〕に関する語群と同様に全体的に男女の差は縮まった。

〔布・型紙〕に関する語群では、「知っている」割合は小学5年生では低かったが、どの項目も中学1年生で増加した。男女間で有意差のみられた項目は5項目中、小学5年生では4項目、中学1年生では2項目で、いずれの項目でも女子の方が優位だった。また、小学5年生で有意差のみられた4項目のうち、中学1年生で有意差がみられた項目は「型紙、の1項目のみで、「たて糸」、「よこ糸」、「ぬいしろ」は中学1年生では有意差がみられなかった。

【1-8:用語に関する知識<語群別「知っている」割合の変化(男女別)>】

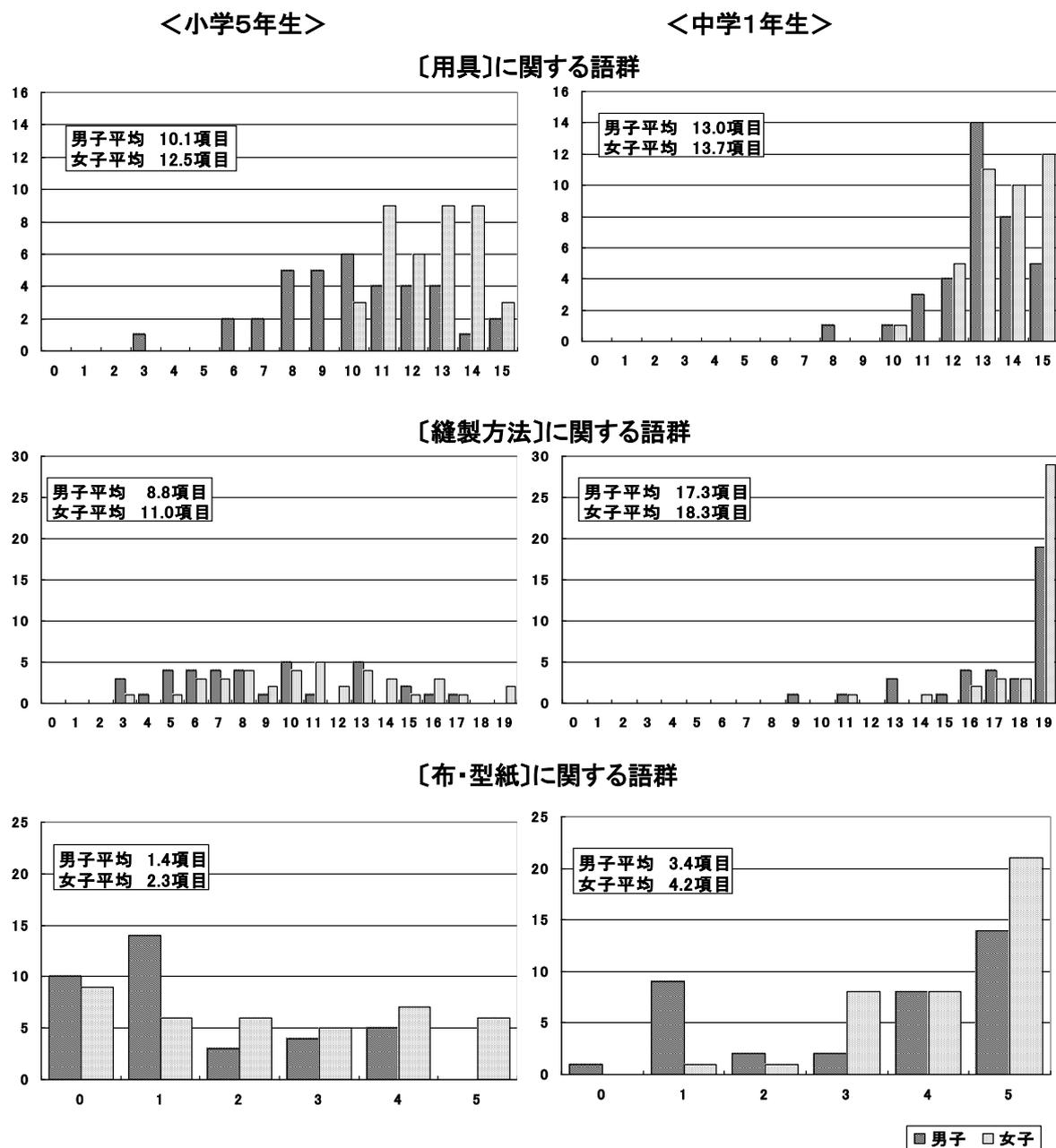
表Ⅲ-1)-3 用語に関する知識—語群別の「知っている」割合—(男女別)

	男 子		女 子	
	小学5年生	中学1年生	小学5年生	中学1年生
〔用具〕に関する語群	67.0%	86.8%	83.6%	91.1%
〔縫製方法〕に関する語群	46.1%	90.8%	57.7%	96.2%
〔布・型紙〕に関する語群	28.9%	67.2%	46.7%	84.1%

用語に関する知識を語群別に表Ⅲ-1)-3に示す。語群別の「知っている」割合は、いずれの語群でも女子の方が男子より高くなり、その差は、〔用具〕に関する語群では男子で19.8ポイント、女子で7.5ポイント、〔縫製方法〕に関する語群では男子で44.7ポイント、女子で38.5ポイント、〔布・型紙〕に関する語群では男子で38.3ポイント、女子で37.4ポイントと、いずれの語群でも男子の方が女子より増加した。また、特に〔縫製方法〕に関する語群と〔布・型紙〕に関する語群で顕著だった。

また、男女とも小学5年生では〔用具〕に関する語群>〔縫製方法〕に関する語群>〔布・型紙〕に関する語群だったが、中学1年生では〔縫製方法〕に関する語群>〔用具〕に関する語群>〔布・型紙〕に関する語群となった。

【1-9:用語に関する知識<語群別「知っている」項目数の変化(男女別)>】



図Ⅲ-1)-6 用語に関する知識—語群別「知っている」項目数の変化—(男女別)

用語に関する知識の「知っている」と回答した項目数を調査年次ごとに語群別に図Ⅲ-1)-6に示す。

〔用具〕に関する語群では、男子では小学5年生で「知っている」項目数は15項目中3項目から15項目に分布し、最も人数の多かった項目数は10項目で、中学1年生で「知っている」項目数は15項目中8項目から15項目に分布し、最も人数の多かった項目は13項目だった。女子では小学5年生で「知っている」項目数は15項目中10項目から15項目に

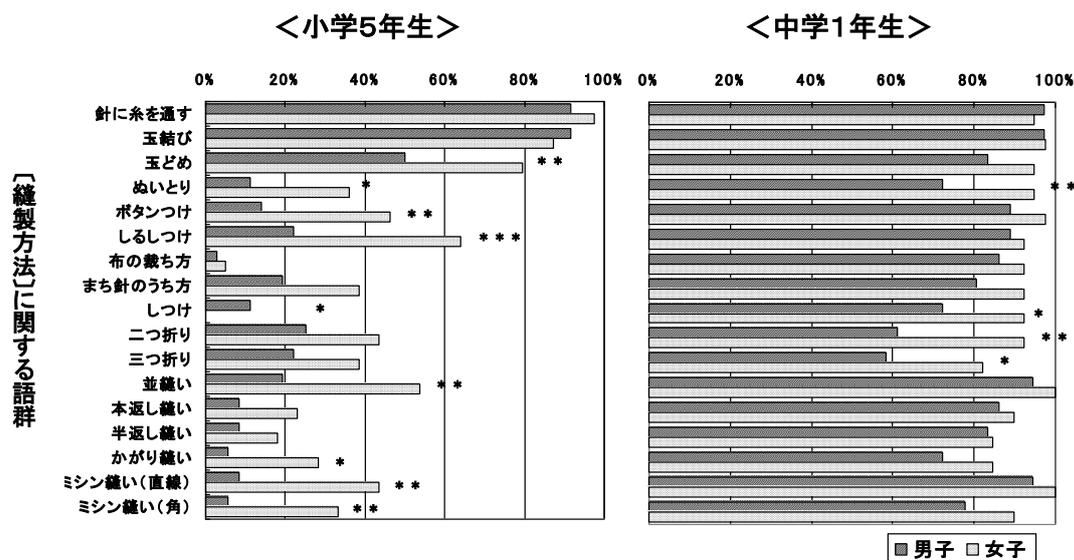
分布し、最も人数の多かった項目数は 11 項目、13 項目、14 項目で、中学 1 年生で「知っている」項目数は 15 項目中 10 項目から 15 項目に分布し、最も人数の多かった項目は 15 項目だった。「知っている」項目数の平均は、男子では小学 5 年生で 10.1 項目、中学 1 年生で 13.0 項目、女子では小学 5 年生で 12.5 項目、中学 1 年生で 13.7 項目といずれの学年も女子の方が高かった。

〔縫製方法〕に関する語群では、男子は小学 5 年生で「知っている」項目数は 19 項目中 3 項目から 17 項目に分布し、最も人数の多かった項目数は 10 項目と 13 項目で、中学 1 年生で「知っている」項目数は 19 項目中 9 項目から 19 項目に分布し、最も人数の多かった項目は 19 項目すべてだった。女子は小学 5 年生で「知っている」項目数は 19 項目中 3 項目から 19 項目に分布し、最も人数の多かった項目数は 11 項目で、中学 1 年生で「知っている」項目数は 19 項目中 11 項目から 19 項目に分布し、最も人数の多かった項目は 19 項目だった。「知っている」項目数の平均は、男子では小学 5 年生で 8.8 項目、中学 1 年生で 17.3 項目、女子では小学 5 年生で 11.0 項目、中学 1 年生で 18.3 項目といずれの学年も女子の方が高かった。

〔布・型紙〕に関する語群では、男子は「知っている」項目数の最大は小学 5 年生、中学 1 年生ともに 5 項目中 0 項目から 4 項目に分布し、最も人数の多かった項目数は小学 5 年生で 1 項目、中学 1 年生で 5 項目すべてだった。女子は小学 5 年生で「知っている」項目数は 5 項目中 0 項目から 5 項目に分布し、最も人数の多かった項目数は 0 項目で、中学 1 年生で「知っている」項目数は 5 項目中 1 項目から 5 項目に分布し、最も人数の多かった項目は 5 項目すべてだった。「知っている」項目数の平均は、男子では小学 5 年生で 1.4 項目、中学 1 年生で 3.4 項目、女子では小学 5 年生で 2.3 項目、中学 1 年生で 4.2 項目といずれの学年も女子の方が高かった。

小学 5 年生と中学 1 年生の平均の「知っている」項目数の差は、〔用具〕に関する語群は男子で 2.9 項目、女子で 1.2 項目、〔縫製方法〕に関する語群では男子で 8.5 項目、女子で 7.3 項目、〔布・型紙〕に関する語群は男子で 2.0 項目、女子で 1.9 項目と、いずれの語群も男子の方が大きかった。

【1-10:技能の自己評価<項目別「できる」割合の変化(男女別)>】



有意差: *p<0.05、**p<0.01、***p<0.001

図Ⅲ-1)-7 技能の自己評価(男女別)

技能の自己評価を語群ごとに、すべての項目を図Ⅲ-1)-7に示す。17項目の「できる」割合は、全体的に女子の方が高くなり、調査学年では中学1年生の方が高くなった。男子の方が高い項目は小学5年生では「玉結び」の1項目、中学1年生では「針に糸を通す」の1項目のみで、用語に関する知識と比較してその項目数は少なかった。男女間で有意差がみられた項目は、小学5年生が9項目、中学1年生が5項目で、いずれも女子の方が優位だった。また、「ぬいとり」、「しつけ」の2項目では、小学5年生、中学1年生ともに有意差がみられた。

全体的に小学5年生から中学1年生にかけて男女の差が縮まった。特に「しるしつけ」では、小学5年生で男子22.2%、女子64.1%だったが、中学1年生で男子88.9%、女子92.3%となった。

【1-11:技能の自己評価<語群別「できる」割合の変化(男女別)>】

表Ⅲ-1)-4 技能の自己評価-語群別の「できる」割合-(男女別)

	男 子		女 子	
	小学5年生	中学1年生	小学5年生	中学1年生
〔縫製方法〕に関する語群	24.5%	82.0%	43.3%	92.5%

技能の自己評価を語群別に表Ⅲ-1)-4 に示す。〔縫製方法〕に関する語群の「できる」割合は、男子では小学5年生で24.5%、中学1年生で82.0%、女子では小学5年生で43.3%、中学1年生で92.5%となり、いずれの学年でも女子の方が男子よりも高かった。

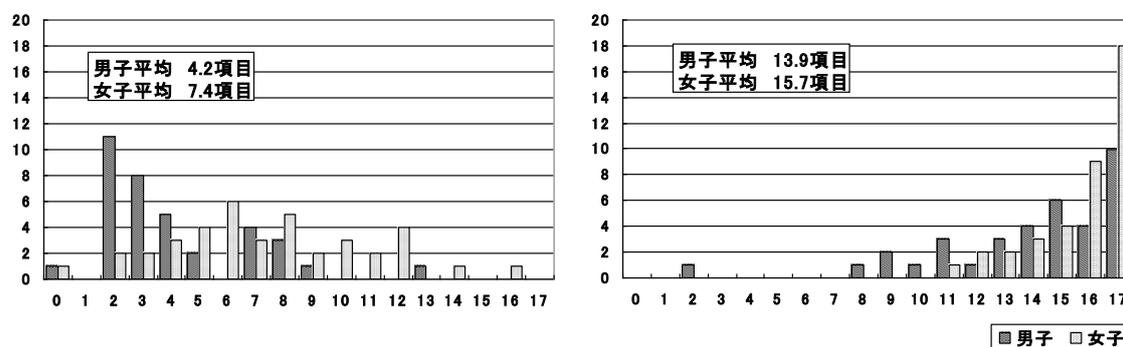
小学5年生と中学1年生の「できる」割合の差は、男子で57.5ポイント、女子で49.2ポイントと顕著に増加し、特に男子の方が大きかった。

【1-12:技能の自己評価<語群別「できる」項目数の変化(男女別)>】

<小学5年生>

<中学1年生>

〔縫製方法〕に関する語群



図Ⅲ-1)-8 技能の自己評価—語群別「できる」項目数の変化—(男女別)

技能の自己評価の「できる」と回答した項目数を調査年次ごとに語群別に図Ⅲ-1)-8に示す。

〔縫製方法〕に関する語群では、男子では小学5年生で「できる」項目数は17項目中0項目から13項目に分布し、最も人数の多かった項目数は2項目で、中学1年生で「できる」項目数は17項目中2項目から17項目に分布し、最も人数の多かった項目は17項目だった。女子では小学5年生で「できる」項目数は17項目中0項目から16項目に分布し、最も人数の多かった項目数は6項目、中学1年生で「できる」項目数は17項目中11項目から17項目に分布し、最も人数の多かった項目は17項目だった。「できる」項目数の平均は、男子では小学5年生で4.2項目、中学1年生で13.9項目、女子では小学5年生で7.4項目、中学1年生で15.7項目といずれの学年も女子の方が高かった。

小学5年生と中学1年生の平均の「できる」項目の差は、男子で9.7項目、女子で8.3項目と、男子の方が大きかった。

【1-13: ボタンつけ作業による技能<項目別「できた」割合の変化(全体)>】

表Ⅲ-1)-5 ボタンつけ作業による技能(全体)

	①	②	③	④	⑤	⑥	平均
小学5年生	88.0%	90.7%	90.7%	77.3%	72.0%	60.0%	79.8%
中学1年生	98.7%	85.3%	78.7%	92.0%	93.3%	86.7%	89.1%
有意差	**		*	*	**	***	*

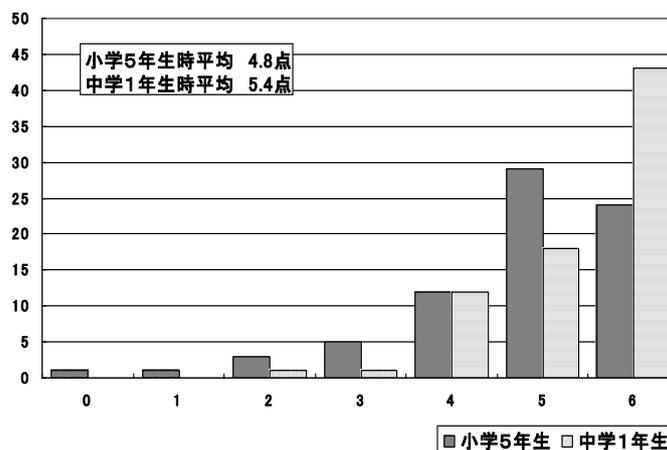
有意差: * $p < 0.05$, ** $p < 0.01$, *** $p < 0.001$

ボタンつけ作業による技能を項目別に表Ⅲ-1)-5 に示す。6項目の「できた」割合は、4項目で中学1年生の方が高くなり、6項目の平均では有意差がみられた ($p < 0.05$)。小学5年生の方が高かった項目は、「②ボタンの穴に糸が3~4回かけてある」、「③ボタンと布の間が布1枚分浮いている」の2項目だった。有意差のみられた項目は、「①玉結びができていない」、「③ボタンと布の間が布1枚分浮いている」、「④ボタンの下で糸が固く巻けている」、「⑤玉どめができていない」、「⑥布がつれていない」の4項目で、「③ボタンと布の間が布1枚分浮いている」では小学5年生、それ以外の項目では中学1年生が優位だった。

【1-14: ボタンつけ作業による技能<「できた」得点数の変化(全体)>】

ボタンつけ作業による技能の「できた」得点数を調査年次ごとに図Ⅲ-1)-9 に示す。

小学5年生で「できた」得点数は6点満点中0点から6点に分布し、最も人数が多かった得点は5点だったが、中学1年生で「できた」得点数は6点満点中2点から6点に分布し、最も人数が多かった得点は6点だった。



図Ⅲ-1)-9 ボタンつけ作業による技能
-「できた」得点数の変化-(全体)

小学5年生の得点の平均は4.8点、中学1年生の得点の平均は5.4点で、平均の「できた」得点の差は、0.6点だった。

【1-15: ボタンつけ作業による技能<項目別「できた」割合の変化(男女別)>】

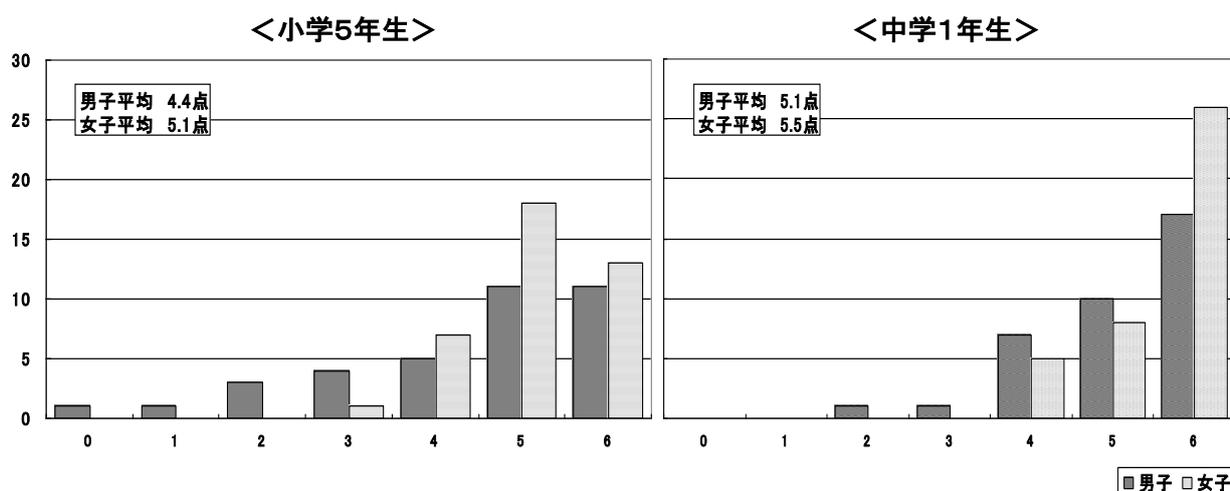
表Ⅲ-1)-6 ボタンつけ作業による技能(全体)

		①	②	③	④	⑤	⑥	平均
小学5年生	男子	80.6%	88.9%	86.1%	69.4%	61.1%	58.3%	74.1%
	女子	94.9%	92.3%	94.9%	84.6%	82.1%	61.5%	84.8%
	有意差					*		
中学1年生	男子	97.2%	75.0%	72.2%	91.7%	91.7%	86.1%	85.3%
	女子	100%	94.9%	84.6%	92.3%	94.9%	87.2%	92.4%
	有意差		*					

有意差: * $p<0.05$ 、** $p<0.01$ 、*** $p<0.001$

ボタンつけ作業による技能を項目別に表Ⅲ-1)-6 に示す。6項目の「できた」割合は、小学5年生、中学1年生ともに女子の方が高かった。中学1年生では「①玉結びができていいる」、「⑤玉どめができていいる」などの基本的な技能は男女とも「できた」割合が高かったが、小学5年生では「⑤玉どめができていいる」、中学1年生では「②ボタンの穴に糸が3～4回かけてある」の2項目で男女間で有意差がみられ ($p<0.01$)、いずれの項目も女子が優位だった。

【1-16: ボタンつけ作業による技能<「できた」得点数の変化(男女別)>】



図Ⅲ-1)-10 ボタンつけ作業による技能-「できた」項目数の変化-(男女別)

ボタンつけ作業による技能の「できた」得点数を調査年次ごとに図Ⅲ-1)-10に示す。男子では小学5年生で「できた」得点数は6点満点中0点から6点に分布し、最も人数の多かった得点は5点と6点で、中学1年生で「できた」得点数は6点満点中2点から6点に分布し、最も人数の多かった得点は6点だった。女子では小学5年生で「できた」得点数は6点満点中3点から6点に分布し、最も人数の多かった得点は5点、中学1年生で「できた」得点数は6点満点中4点から6点に分布し、最も人数の多かった得点は6点だった。「できた」項目数の平均は、男子では小学5年生で4.4点、中学1年生で5.1点、女子では小学5年生で5.1点、中学1年生で5.5点といずれの学年も女子の方が高かった。

小学5年生と中学1年生の平均の「できた」項目の差は、男子で0.7点、女子で0.4点と、男子の方が大きかった。

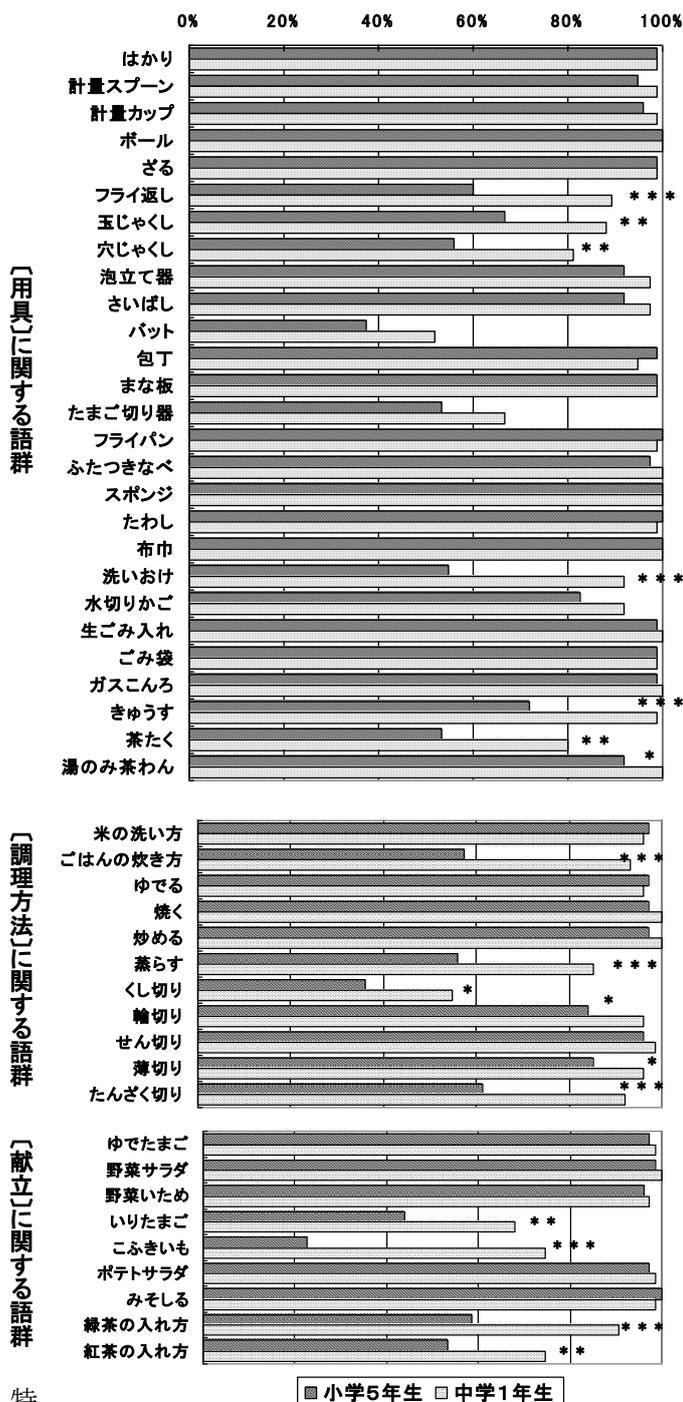
2. 調理用語に関する項目

【2-1:用語に関する知識<項目別「知っている」割合の変化(全体)>】

用語に関する知識を語群ごとに、すべての項目を図Ⅲ-1)-11に示す。47項目の「知っている」割合は、全体的に中学1年生の方が高くなった。小学5年生の方が高い項目は「包丁」、「フライパン」、「たわし」、「米の洗い方」、「ゆでる」、「みそしる」の6項目だった。また、「バット」では小学5年生と中学1年生で「知っている」割合が低かった。小学5年生と中学1年生との間で有意差のみられた項目は17項目で、いずれも中学1年生の方が優位だった。

〔用具〕に関する語群では、「知っている」割合は、中学1年生の段階で多くの項目が100%近くなった。特に、「フライ返し」は小学5年生で60.0%だったが、中学1年生では89.3%となり、中学1年生で大きく増加した。小学5年生と中学1年生との間で有意差のみられた項目は7項目で、いずれの項目も中学1年生の方が優位だった。

〔調理方法〕に関する語群では、「米の洗い方」、「焼く」、「炒める」などの日常的な調理方法の「知っている」割合は、小学5年生、中学1年生ともにほぼ100%だった。特に「蒸らす」は小学5年生で56.0%、中学1年生で85.3%となり、中学1年生で大きく増加した。その他の項目の「知っている」割合は、中学1年生で高くなった。小学5年生と中学1年生との間で有意差のみられた項目は6項目で、いずれの項目でも中



有意差: *p<0.05、**p<0.01、***p<0.001

図Ⅲ-1)-11 用語に関する知識(全体)

学1年生の方が優位だった。

〔献立〕に関する語群では、「知っている」割合は、「ポテトサラダ」、「みそしる」などの項目が高く、それらの項目は小学5年生、中学1年生ともに90%を超えていた。一方、「こふきいも」の項目は低く、特に小学5年生では22.7%と低かったが、中学1年生では74.7%と大幅に増加した。小学5年生と中学1年生との間で有意差のみられた項目は4項目で、いずれの項目でも中学1年生の方が優位だった。

【2-2:用語に関する知識<語群別「知っている」割合の変化(全体)>】

表Ⅲ-1)-7 用語に関する知識

—語群別の「知っている」割合—(全体)

	小学5年生	中学1年生
〔用具〕に関する語群	84.8%	94.3%
〔調理方法〕に関する語群	78.6%	91.6%
〔献立〕に関する語群	74.2%	89.1%

用語に関する知識を語群別に表Ⅲ-1)-7に示す。語群別の「知っている」割合は、いずれの語群も中学1年生の方が小学5年生より高くなり、その差は、〔用具〕に関する語群で9.5ポイント、〔調理方法〕に関する語群では13.0ポイント、〔献立〕に関する語群では14.9ポイントと、いずれも増加し、特に〔調理方法〕に関する語群と〔献立〕に関する語群で顕著だった。

また、小学5年生、中学1年生ともに〔用具〕に関する語群>〔調理方法〕に関する語群>〔献立〕に関する語群となった。

【2-3:用語に関する知識<語群別「知っている」項目数の変化(全体)>】

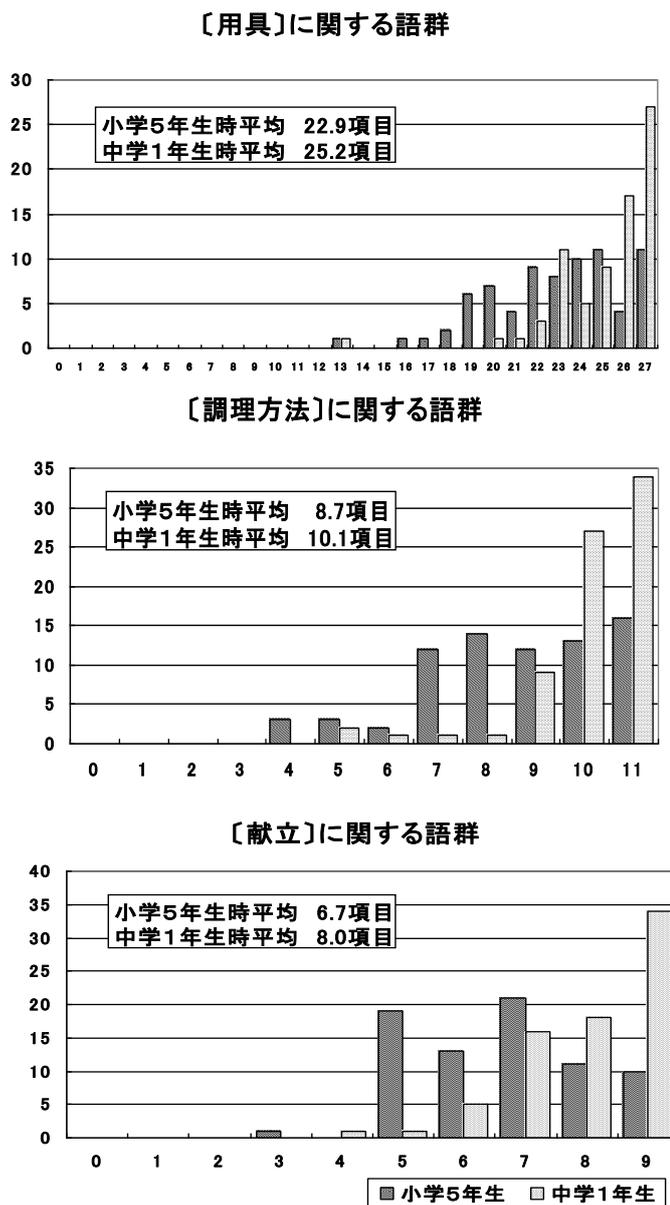
用語に関する知識の「知っている」と回答した項目数を調査年次ごとに語群別に図Ⅲ-1)-12 に示す。

〔用具〕に関する語群では、小学5年生、中学1年生ともに「知っている」項目数は27項目中13項目から27項目に分布し、最も人数の多かった項目数は小学5年生で25項目と27項目、中学1年生で27項目だった。「知っている」項目数の平均は、小学5年生で22.9項目、中学1年生で25.2項目となり、中学1年生の方が高かった。

〔調理方法〕に関する語群では、小学5年生で「知っている」項目数は11項目中4項目から11項目に分布し、最も人数の多かった項目数は11項目すべてで、中学1年生で「知っている」項目数は11項目中5項目から11項目に分布し、最も人数の多かった項目は11項目だった。「知っている」項目数の平均は、小学5年生で8.7項目、中学1年生で10.1項目となり、中学1年生の方が高かった。

〔献立〕に関する語群では、小学5年生で「知っている」項目数は9項目中3項目から7項目に分布し、最も人数の多かった項目数は7項目で、中学1年生で「知っている」項目数は9項目中4項目から9項目に分布し、最も人数の多かった項目は9項目だった。「知っている」項目数の平均は、小学5年生で6.7項目、中学1年生で8.0項目となり、中学1年生の方が高かった。

小学5年生と中学1年生の平均の「知っている」項目数の差は、〔用具〕に関する語群は2.3項目、〔調理方法〕に関する語群では1.4項目、〔献立〕に関する語群は1.3項目と、いずれの語群もわずかに増加した。



図Ⅲ-1)-12 用語に関する知識

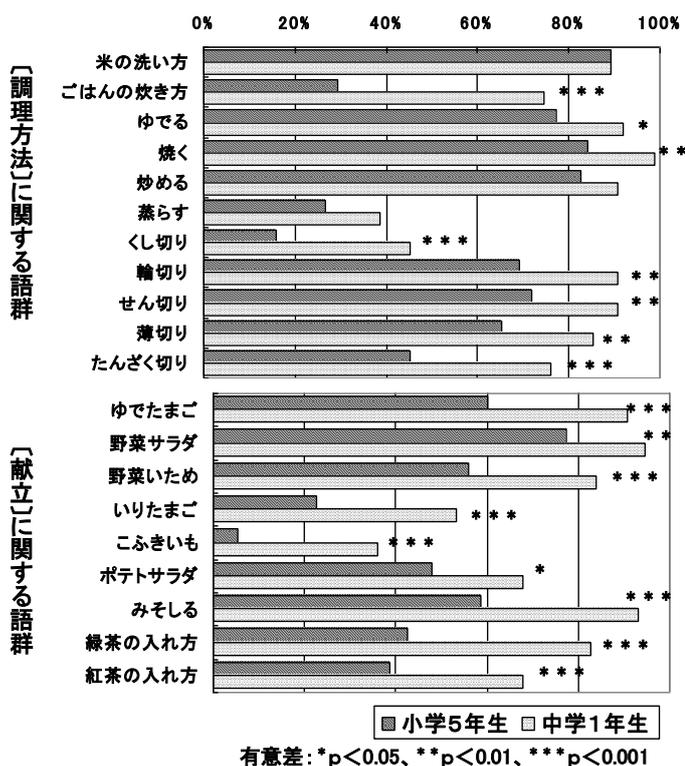
一語群別「知っている」項目数の変化一

【2-4: 技能の自己評価<項目別「できる」割合の変化(全体)>】

技能の自己評価を語群ごとに、すべての項目を図Ⅲ-1)-13 に示す。20 項目の「できる」割合は、全体的に中学1年生の方が高くなり、小学5年生の方が高い項目はなかった。小学5年生と中学1年生との間で有意差がみられた項目は、17 項目で、いずれも中学1年生の方が優位だった。

〔調理方法〕に関する語群では、「できる」割合は、「米の洗い方」を除くすべての項目で中学1年生で高くなった。特に「蒸らす」は小学5年生で 56.0%、中学1年生で 85.3%となり、中学1年生で大きく増加した。小学5年生と中学1年生との間で有意差のみられた項目は8項目で、いずれの項目でも中学1年生の方が優位だった。

〔献立〕に関する語群では、「できる」割合は、すべての項目で中学1年生の方が高くなった。特に「こふきいも」の項目は低く、特に小学5年生では 22.7%と低かったが、中学1年生では 74.7%と大幅に増加した。小学5年生と中学1年生との間で有意差のみられた項目は4項目で、いずれの項目でも中学1年生の方が優位だった。



図Ⅲ-1)-13 技能の自己評価(全体)

【2-5: 技能の自己評価<語群別「できる」割合の変化(全体)>】

表Ⅲ-1)-8 技能の自己評価

—語群別の「できる」割合—(全体)

	小学5年生	中学1年生
〔調理方法〕に関する語群	59.7%	79.3%
〔献立〕に関する語群	53.6%	77.2%

技能の自己評価を語群別に表Ⅲ-1)-8に示す。語群別の「できる」割合は、いずれの語群でも中学1年生の方が小学5年生よりも高くなり、その差は、〔調理方法〕に関する語群では19.6ポイント、〔献立〕に関する語群では23.6ポイントといずれも大きかった。

また、小学5年生、中学1年生ともに〔調理方法〕に関する語群>〔献立〕に関する語群となった。

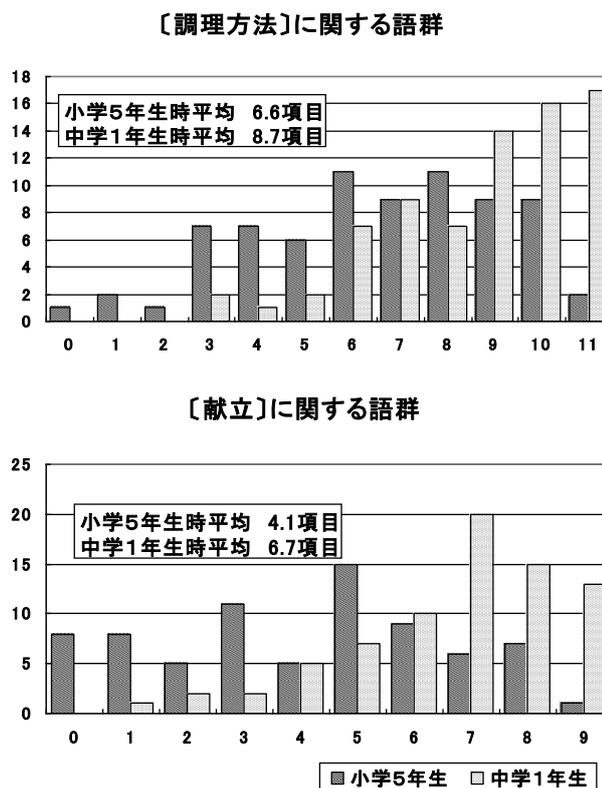
【2-6: 技能の自己評価<語群別「できる」項目数の変化(全体)>】

技能の自己評価の「できる」と回答した項目数を調査年次ごとに語群別に図Ⅲ-1)-14に示す。

〔調理方法〕に関する語群では、小学5年生で「できる」項目数は11項目中0項目から11項目に分布し、最も人数の多かった項目数は6項目と8項目だった。中学1年生で「できる」項目数は11項目中3項目から11項目に分布し、最も人数の多かった項目数は11項目だった。「できる」項目数の平均は、小学5年生で6.6項目、中学1年生で8.7項目となり、中学1年生の方が高かった。

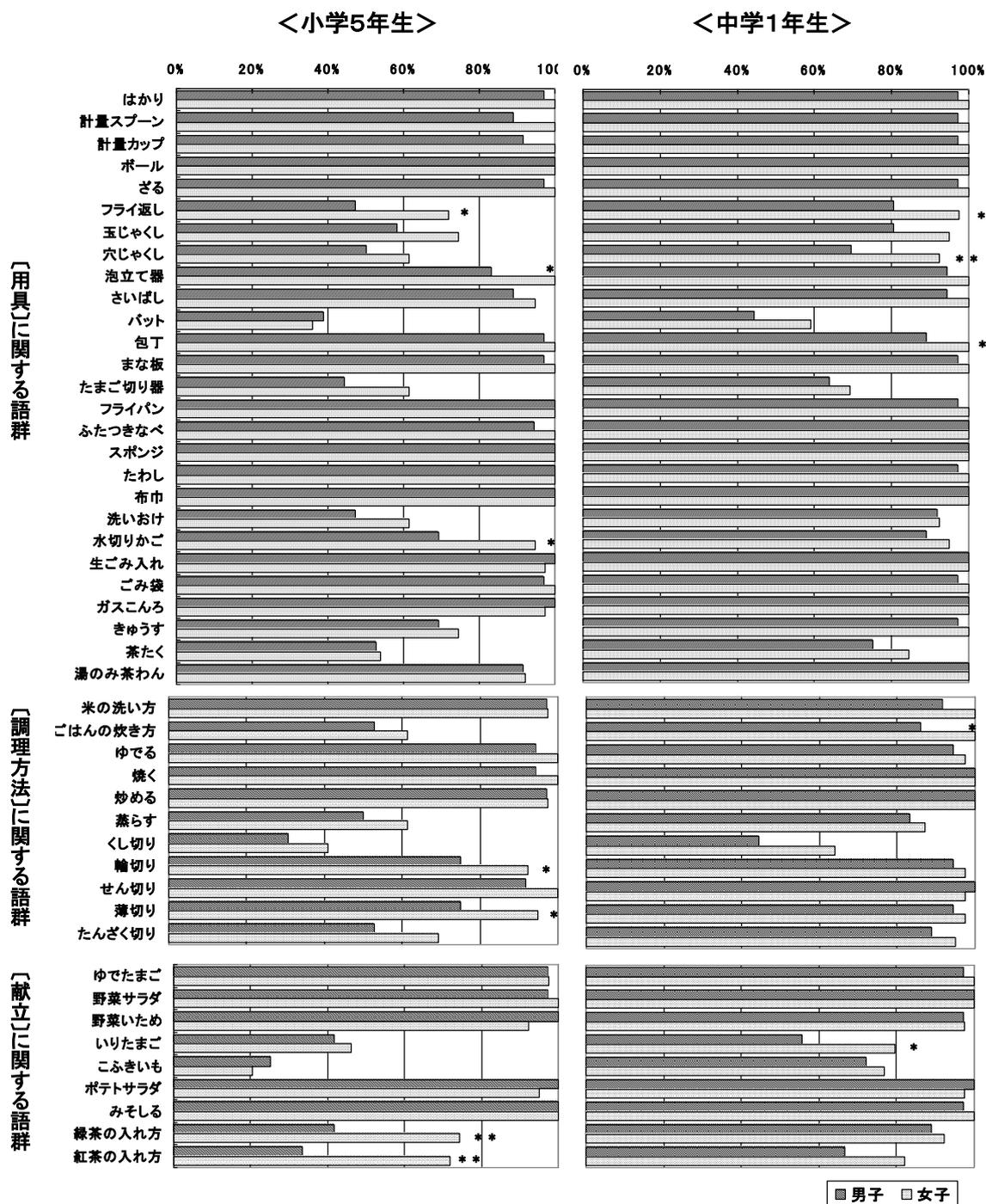
〔献立〕に関する語群では、小学5年生で「できる」項目数は9項目中0項目から9項目に分布し、最も人数の多かった項目数は5項目で、中学1年生で「できる」項目数は9項目中1項目から9項目に分布し、最も人数の多かった項目は7項目だった。「できる」項目数の平均は、中学1年生、中学3年生ともに6.6項目となった。

中学1年生と中学3年生の「できる」項目の平均数の差は、〔調理方法〕に関する語群では2.1項目、〔献立〕に関する語群では2.6項目と、2-3の〔調理方法〕に関する語群と〔献立〕に関する語群と比較すると、項目数の差は大きかった。



図Ⅲ-1)-14 技能の自己評価
—語群別「できる」項目数の変化—(全体)

【2-7:用語に関する知識<項目別「知っている」割合の変化(男女別)>】



有意差: *p<0.05、**p<0.01、***p<0.001

図Ⅲ-1)-15 用語に関する知識(男女別)

用語に関する知識を語群ごとに、すべての項目を図Ⅲ-1)-15に示す。47項目の「知っている」割合は、全体的に女子の方が男子より高く、また、小学5年生から中学1年生にかけて高くなった。男子の方が高い項目は小学5年生では「バット」、「ガスこんろ」、「野菜いため」、「ポテトサラダ」の4項目、中学1年生では「せん切り」、「ポテトサラダ」、「二つ穴ボタン」、「並縫い」の4項目で、小学5年生と中学1年生で項目数は同じだった。男女間で有意差のみられた項目は、小学5年生では7項目、中学1年生では5項目で、いずれも女子の方が優位だった。

〔用具〕に関する語群では、「知っている」割合は、中学1年生の段階で多くの項目が100%近くなった。「ボール」、「スポンジ」、「布巾」は小学5年生、中学1年生で男女ともに「知っている」割合が100%だった。男女間で有意差のみられた項目は、小学5年生、中学1年生ともに3項目で、いずれも女子の方が優位だった。また、小学5年生で有意差のみられた項目の中で、「フライ返し」は中学1年生でも有意差がみられたが、「泡立て器」、「水切りかご」では中学1年生で有意差がみられなかった。

〔調理方法〕に関する語群では、「知っている」割合は、「焼く」、「炒める」などの基本的な項目は小学5年生、中学1年生ともにほぼ100%だった。その他の「知っている」割合は、中学1年生で高くなった。男女間で有意差のみられた項目は、小学5年生では2項目、中学1年生では1項目で、いずれの項目でも女子の方が優位だった。また、小学5年生で有意差がみられた「輪切り」、「薄切り」は、中学1年生では有意差がみられなかった。

〔献立〕に関する語群では、「知っている」割合は、「ゆでたまご」、「野菜サラダ」などの項目では小学5年生、中学1年生ともにほぼ100%だった。一方、「こふきいも」の「知っている」割合は、小学5年生で特に低く、男子では25.0%、女子では20.5%だった。男女間で有意差のみられた項目は、小学5年生では2項目、中学1年生では1項目で、いずれの項目でも女子の方が優位だった。また、小学5年生で有意差がみられた「緑茶の入れ方」、「紅茶の入れ方」は、中学1年生では有意差がみられなかった。

【2-8:用語に関する知識<語群別「知っている」割合の変化(男女別)>】

表Ⅲ-1)-9 用語に関する知識—語群別の「知っている」割合—(男女別)

	男 子		女 子	
	小学5年生	中学1年生	小学5年生	中学1年生
〔用具〕に関する語群	81.6%	90.6%	87.8%	95.7%
〔調理方法〕に関する語群	73.7%	88.9%	83.2%	94.2%
〔献立〕に関する語群	70.7%	86.1%	77.5%	91.7%

用語に関する知識を語群別に表Ⅲ-1)-9に示す。語群別の「知っている」割合は、女子の方が男子より高くなり、その差は、〔用具〕に関する語群では男子で9.0ポイント、女子で7.9ポイント、〔調理方法〕に関する語群では男子で15.2ポイント、女子で11.0ポイント、〔献立〕に関する語群では男子で15.4ポイント、女子で14.2ポイントと、いずれの語群でも男子の方が女子より増加し、特に男子では〔調理方法〕に関する語群と〔献立〕に関する語群、女子では〔献立〕に関する語群で顕著だった。

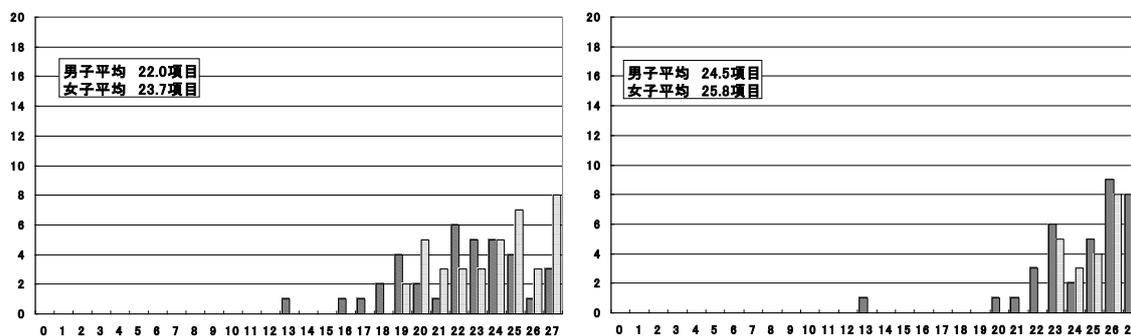
また、男女とも小学5年生、中学1年生のいずれも〔用具〕に関する語群>〔調理方法〕に関する語群>〔献立〕に関する語群となった。

【2-9:用語に関する知識<語群別「知っている」項目数の変化(男女別)>】

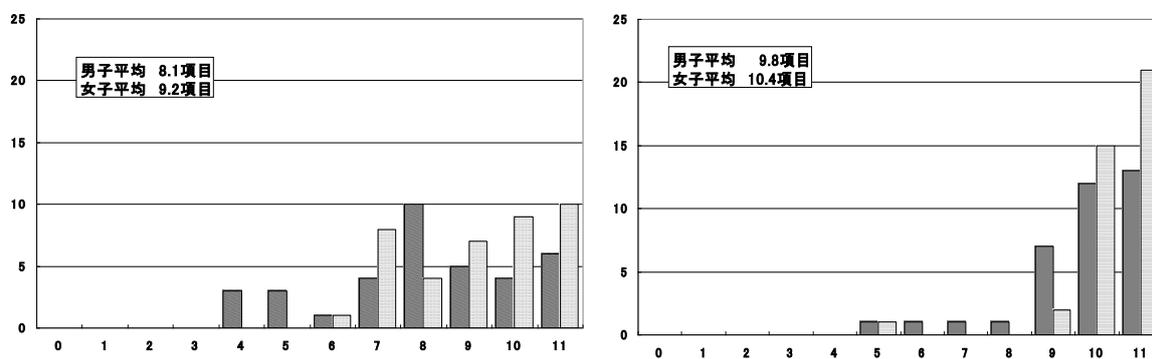
<小学5年生>

<中学1年生>

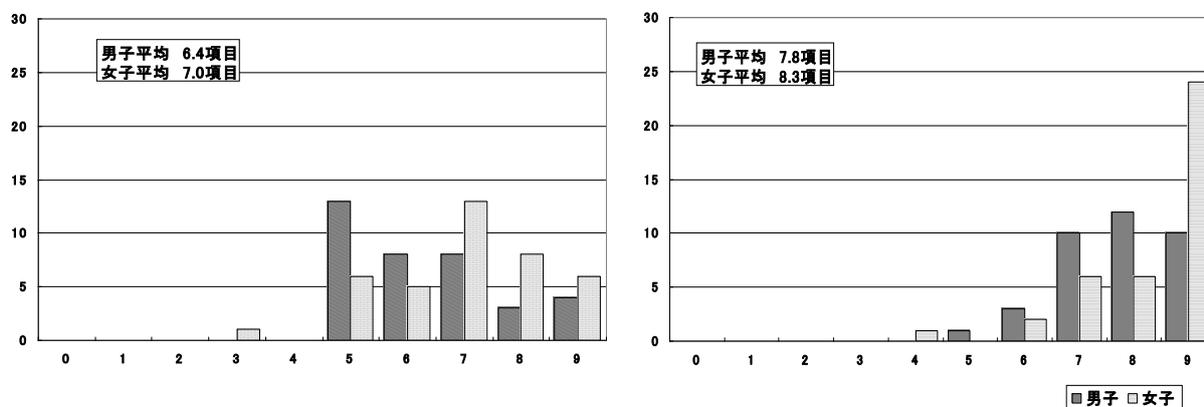
〔用具〕に関する語群



〔調理方法〕に関する語群



〔献立〕に関する語群



図Ⅲ-1)-16 用語に関する知識—語群別「知っている」項目数の変化—(男女別)

用語に関する知識の「知っている」と回答した項目数を調査年次ごとに語群別に図Ⅲ-1)-16に示す。

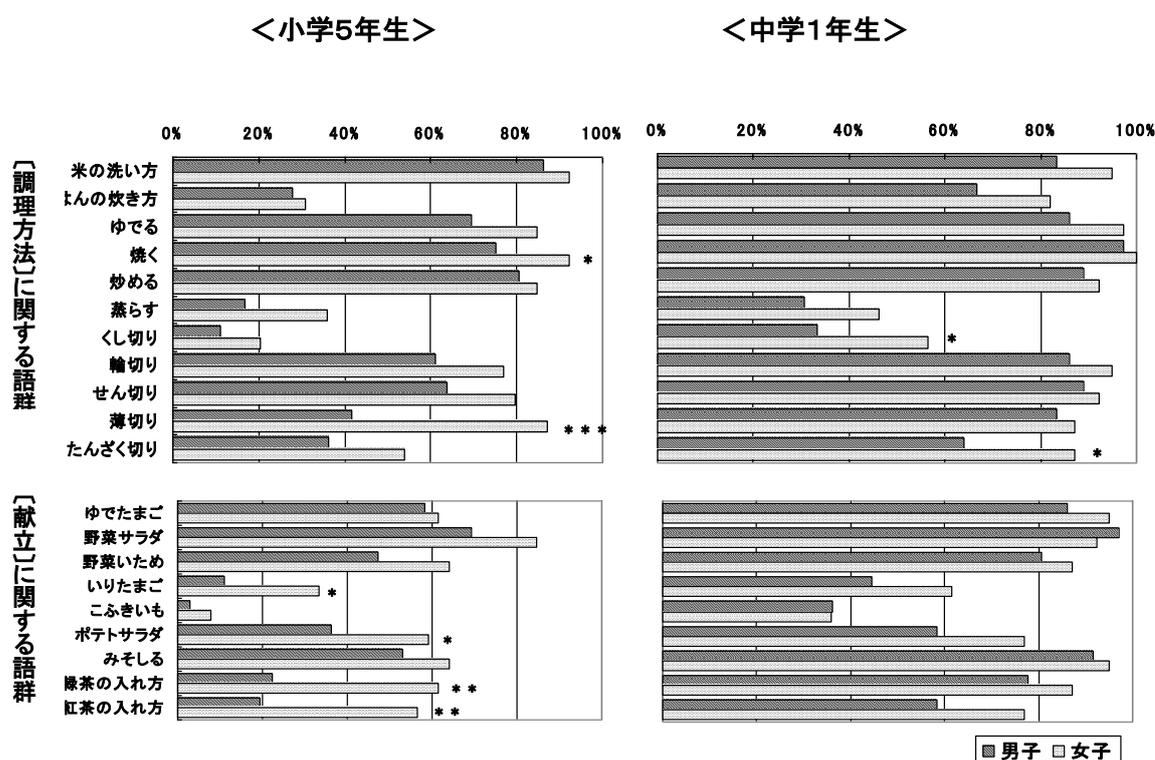
〔用具〕に関する語群では、男子では小学5年生、中学1年生ともに「知っている」項目数は27項目中13項目から27項目に分布し、最も人数の多かった項目数は小学5年生で22項目、中学1年生で26項目だった。女子では小学5年生で「知っている」項目数は27項目中19項目から27項目に分布し、最も人数の多かった項目数は27項目すべてで、中学1年生で「知っている」項目数は27項目中23項目から27項目に分布し、最も人数の多かった項目は27項目だった。「知っている」項目数の平均は、男子では小学5年生で22.0項目、中学1年生で24.5項目、女子では小学5年生で23.7項目、中学1年生で25.8項目といずれの学年も女子の方が高かった。

〔調理方法〕に関する語群では、男子では小学5年生で「知っている」項目数は11項目中4項目から11項目に分布し、最も人数の多かった項目数は8項目で、中学1年生で「知っている」項目数は11項目中5項目から11項目に分布し、最も人数の多かった項目は11項目だった。女子では小学5年生で「知っている」項目数は11項目中6項目から11項目に分布し、最も人数の多かった項目数は11項目で、中学1年生で「知っている」項目数は11項目中5項目から11項目に分布し、最も人数の多かった項目は11項目だった。「知っている」項目数の平均は、男子では小学5年生で8.1項目、中学1年生で9.8項目、女子では小学5年生で9.2項目、中学1年生で10.4項目といずれの学年も女子の方が高かった。

〔献立〕に関する語群では、男子では「知っている」項目数は小学5年生、中学1年生ともに9項目中5項目から9項目に分布し、最も人数の多かった項目数は小学5年生で5項目、中学1年生で8項目だった。女子では小学5年生で「知っている」項目数は9項目中3項目から9項目に分布し最も人数の多かった項目数は7項目で、中学1年生で「知っている」項目数は9項目中4項目から9項目に分布し、最も人数の多かった項目は9項目だった。「知っている」項目数の平均は、男子では小学5年生で6.4項目、中学1年生で7.8項目、女子では小学5年生で7.0項目、中学1年生で8.3項目といずれの学年も女子の方が高かった。

小学5年生と中学1年生の平均の「知っている」項目数の差は、〔用具〕に関する語群は男子で2.5項目、女子で2.1項目、〔調理方法〕に関する語群では男子で1.7項目、女子で0.6項目、〔献立〕に関する語群は男子で1.4項目、女子で1.3項目と、いずれの語群も男子の方が大きかった。

【2-10:技能の自己評価<項目別「できる」割合の変化(男女別)>】



有意差: *p<0.05、**p<0.01、***p<0.001

図Ⅲ-1)-17 技能の自己評価(男女別)

技能の自己評価を語群ごとに、すべての項目を図Ⅲ-1)-17に示す。20項目の「できる」割合は、全体的に女子の方が男子より高く、また、小学5年生から中学1年生にかけて高くなった。男子の方が高かった項目は小学5年生ではなかったが、中学1年生では「野菜サラダ」、「こふきいも」の2項目でみられた。男女間で有意差のみられた項目は、小学5年生では6項目、中学1年生では2項目で、いずれも女子の方が優位だった。

〔調理方法〕に関する語群では、「できる」割合は、小学5年生では全体的に低かったが、中学1年生で高くなった。男女間で有意差のみられた項目は、小学5年生、中学1年生ともに2項目で、いずれの項目でも女子の方が優位だった。また、小学5年生で有意差のみられた「焼く」、「薄切り」の2項目は中学1年生では有意差がみられなかった。

〔献立〕に関する語群では、「できる」割合は、小学5年生では全体的に低かったが、中学1年生で高くなった。一方、「こふきいも」の「できる」割合は、小学5年生で特に低く、男子では2.8%、女子では7.7%だったが、中学1年生で男子では36.1%、女子では35.9%に増加した。男女間で有意差のみられた項目は、小学5年生では4項目、中学1年生ではなく、いずれの項目でも女子の方が優位だった。

【2-11:技能の自己評価<語群別「できる」割合の変化(男女別)>】

表Ⅲ-1)-10 技能の自己評価-語群別の「できる」割合-(男女別)

	男 子		女 子	
	小学5年生	中学1年生	小学5年生	中学1年生
〔調理方法〕に関する語群	51.8%	73.5%	67.1%	84.6%
〔献立〕に関する語群	35.5%	70.1%	54.7%	78.6%

技能の自己評価を語群別に表Ⅲ-1)-10 に示す。語群別の「できる」割合は、いずれの語群でも女子の方が男子より高く、その差は、〔調理方法〕に関する語群では男子で 21.7 ポイント、女子で 17.5 ポイント、〔献立〕に関する語群では男子で 34.6 ポイント、女子で 23.9 ポイントと、いずれの語群でも男子の方が女子より増加し、特に男子の〔献立〕に関する語群で顕著だった。

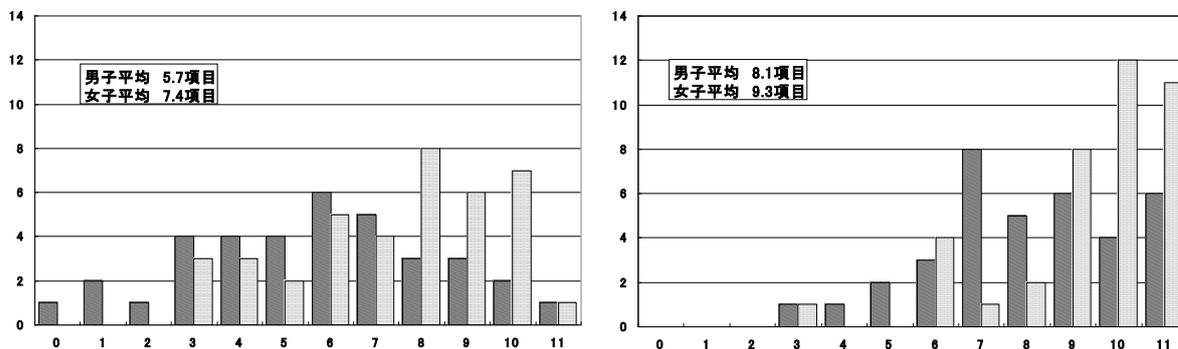
また、男女とも小学5年生、中学1年生のいずれも〔調理方法〕に関する語群>〔献立〕に関する語群となった。

【2-12:技能の自己評価<語群別「できる」項目数の変化(男女別)>】

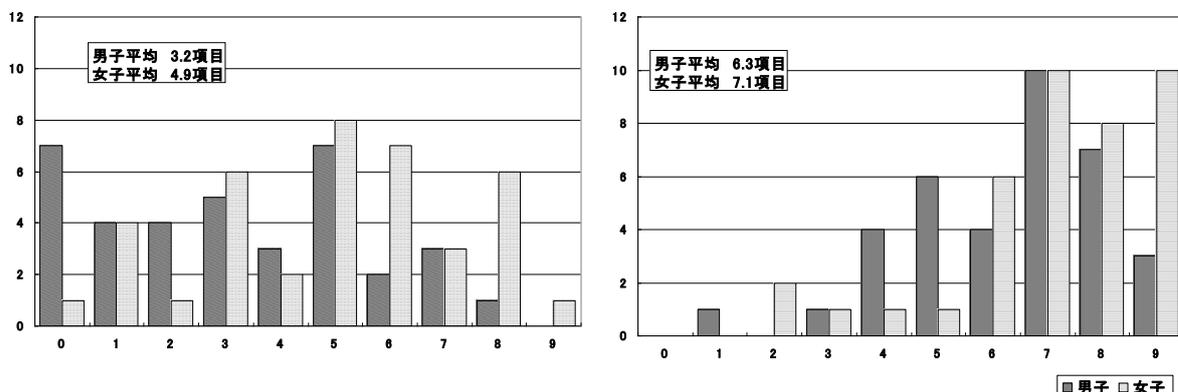
<小学5年生>

<中学1年生>

〔調理方法〕に関する語群



〔献立〕に関する語群



図Ⅲ-1)-18 技能の自己評価—語群別「できる」項目数の変化—(男女別)

技能の自己評価の「できる」と回答した項目数を調査年次ごとに語群別に図Ⅲ-1)-18に示す。

〔調理方法〕に関する語群では、男子では小学5年生で「できる」項目数は11項目中0項目から11項目に分布し、最も人数の多かった項目数は6項目で、中学1年生で「できる」項目数は11項目中3項目から11項目に分布し、最も人数の多かった項目は7項目だった。女子では小学5年生、中学1年生ともに「できる」項目数は11項目中3項目から11項目に分布し、最も人数の多かった項目は小学5年生で8項目、中学1年生で10項目だった。「できる」項目数の平均は、男子では小学5年生で5.7項目、中学1年生で8.1項目、女子では小学5年生で7.4項目、中学1年生で9.3項目といずれの学年も女子の方が高かった。

〔献立〕に関する語群では、男子では小学5年生で「できる」項目数は9項目中0項目から8項目に分布し、最も人数の多かった項目数は0項目と5項目だった。中学1年生で「できる」項目数は9項目中1項目から9項目に分布し、最も人数の多かった項目数は7項目だった。女子では小学5年生で「できる」項目数は9項目中0項目から9項目に分布

し、最も人数が多かった項目数は5項目で、中学1年生で「できる」項目数は9項目中2項目から9項目に分布し、最も人数が多かった項目は7項目と9項目だった。「できる」項目数の平均は、男子では小学5年生で3.2項目、中学1年生で4.9項目、女子では小学5年生で6.3項目、中学1年生で7.1項目といずれの学年も女子の方が高かった。

小学5年生と中学1年生の平均の「できる」項目数の差は、〔調理方法〕に関する語群では男子で2.4項目、女子で1.9項目、〔献立〕に関する語群は男子で3.1項目、女子で2.2項目と、いずれの語群も男子の方が大きかった。

3. 被服製作用語と調理用語の比較

【3-1:用語に関する知識<語群別「知っている」割合>】

表Ⅲ-1)-11 用語に関する知識—語群別「知っている」割合—

		全 体		男 子		女 子	
		小学5年生	中学1年生	小学5年生	中学1年生	小学5年生	中学1年生
被 服	被服製作用語全体	59.3%	89.3%	51.9%	86.8%	86.2%	92.7%
	〔用具〕に関する語群	75.7%	89.1%	67.0%	86.8%	83.6%	91.1%
	〔縫製方法〕に関する語群	52.2%	93.6%	46.1%	90.8%	57.7%	96.2%
	〔布・型紙〕に関する語群	38.1%	76.0%	28.9%	67.2%	46.7%	84.1%
調 理	調理用語全体	81.4%	92.1%	77.7%	89.4%	84.8%	94.6%
	〔用具〕に関する語群	84.8%	94.3%	81.6%	90.6%	87.8%	95.7%
	〔調理方法〕に関する語群	78.6%	91.6%	73.7%	88.9%	83.2%	94.2%
	〔献立〕に関する語群	74.2%	89.1%	70.7%	86.1%	77.5%	91.7%

被服製作用語と調理用語の「知っている」割合を語群別に表Ⅲ-3)-1に示す。

被服製作用語全体と調理用語全体を比較すると、全体では小学5年生、中学1年生ともに調理用語の方が被服製作用語よりも「知っている」割合が高かった。男女別では、男子では全体同様、ともに調理用語の方の「知っている」割合が高かったが、女子では小学5年生では被服製作用語の方が高かったが、中学1年生では調理用語の方が高くなった。

〔用具〕に関する語群の「知っている」割合の平均は、小学5年生、中学1年生ともに調理用語の方が高くなり、被服製作用語と調理用語の「知っている」割合の差は、全体では小学5年生で21.1ポイント、中学1年生で2.8ポイント、同様に男子では25.8ポイント、2.6ポイント、女子では-1.4ポイント、1.9ポイントとなり、特に男子では中学1年生で被服製作用語と調理用語の「知っている」割合の差が小さくなった。

また、類似している語群である〔縫製方法〕に関する語群と〔調理方法〕に関する語群を比較すると、「知っている」割合の平均は、小学5年生では調理用語の方が高かったが、中学1年生では被服製作用語の方が高かった。特に男子では小学5年生では〔縫製方法〕に関する語群の「知っている」割合は46.1%、〔調理方法〕に関する語群の「知っている」割合は73.7%と27.6ポイントの差がみられたが、中学1年生ではそれぞれ90.8%、88.9%となり、「知っている」割合の差が小さくなった。

【3-2: 技能の自己評価<語群別「できる」割合>】

表Ⅲ-1)-12 技能の自己評価—語群別「できる」割合—

		全 体		男 子		女 子	
		小学5年生	中学1年生	小学5年生	中学1年生	小学5年生	中学1年生
被 服	〔縫製方法〕に関する語群	34.2%	87.4%	24.5%	82.0%	43.3%	92.5%
	〔調理方法〕に関する語群	59.7%	79.3%	51.8%	73.5%	67.1%	84.6%
調 理	〔献立〕に関する語群	53.6%	77.2%	35.5%	70.1%	54.7%	78.6%

被服製作用語と調理用語の「できる」割合を語群別に表Ⅲ-1)-12 に示す。被服製作用語と調理用語の語群の平均を比較すると、小学5年生では調理用語、中学1年生では被服製作用語の方が「できる」割合が高かった。

類似している語群である〔縫製方法〕に関する語群と〔調理方法〕に関する語群の「できる」割合は、小学5年生では〔調理方法〕に関する語群の方が高かったが、中学1年生は〔縫製方法〕に関する語群の方が高かった。3-1 の用語に関する知識でも中学1年生では被服製作用語の方の「知っている」割合が高かったため、「できる」割合も調理用語よりも高くなったと考えられる。

また、小学5年生から中学1年生にかけての「できる」割合の差を比較すると、被服製作用語の〔縫製方法〕に関する語群と調理用語の〔調理方法〕に関する語群で、全体では〔縫製方法〕に関する語群は 53.2 ポイント、〔調理方法〕に関する語群は 19.6 ポイントとなり、約 45 ポイントの差がみられ、これは 3-1 の用語に関する知識よりも顕著だった。

[まとめ]

1. 被服製作用語では、小学5年生から中学1年生にかけて、「知っている」及び「できる」割合とも増加した。〔用具〕に関する語群では、小学5年生から「知っている」割合が高かったが、〔縫製方法〕に関する語群と〔布・型紙〕に関する語群では中学1年生になって「知っている」割合が大幅に増加した。特に、〔縫製方法〕に関する語群では、中学1年生で語群の中で最も「知っている」割合が高くなった。

これは、小学校家庭科の学習前に「知らない」あるいは「できない」ことが、学習によって知識や技能として身に付いたことが大きく影響していると考えられる。また、特に〔縫製方法〕に関する語群の「知っている」、「できる」割合が増加したことは、これらの技能は家庭における学習があまりないことから、家庭科学習における体験的な活動を通して、縫製技能にかかわる用語を他の語群よりも習得したのではないかと推察された。

2. 調理用語では、小学5年生から中学1年生にかけて、「知っている」及び「できる」割合とも増加した。〔用具〕に関する語群では小学5年生から「知っている」割合が高かったが、〔調理方法〕に関する語群と〔献立〕に関する語群では、中学1年生で「知っている」、「できる」割合が増加した。

これは、被服製作用語同様、小学校の家庭科学習が影響していると考えられる。それに加えて、家庭における調理により、さまざまな用具の名前を覚えたり、調理技能を学んだりしながら、知識や技能を身に付けた結果、「知っている」、「できる」割合が高くなったのも1つの要因である。

3. 被服製作用語と調理用語のうち類似している〔縫製方法〕と〔調理方法〕に関する語群を比較したところ、前者は後者より「知っている」及び「できる」割合とも大きく増加し、前者が後者より高い割合になった。これは、裁縫は調理に比べ、家庭で実践する機会が少ないため、小学5年生では「知っている」、「できる」割合が低く、家庭科学習によって顕著に増加したと推察された。

2. 中学1年生(2007年調査)・中学3年生(2009年調査)

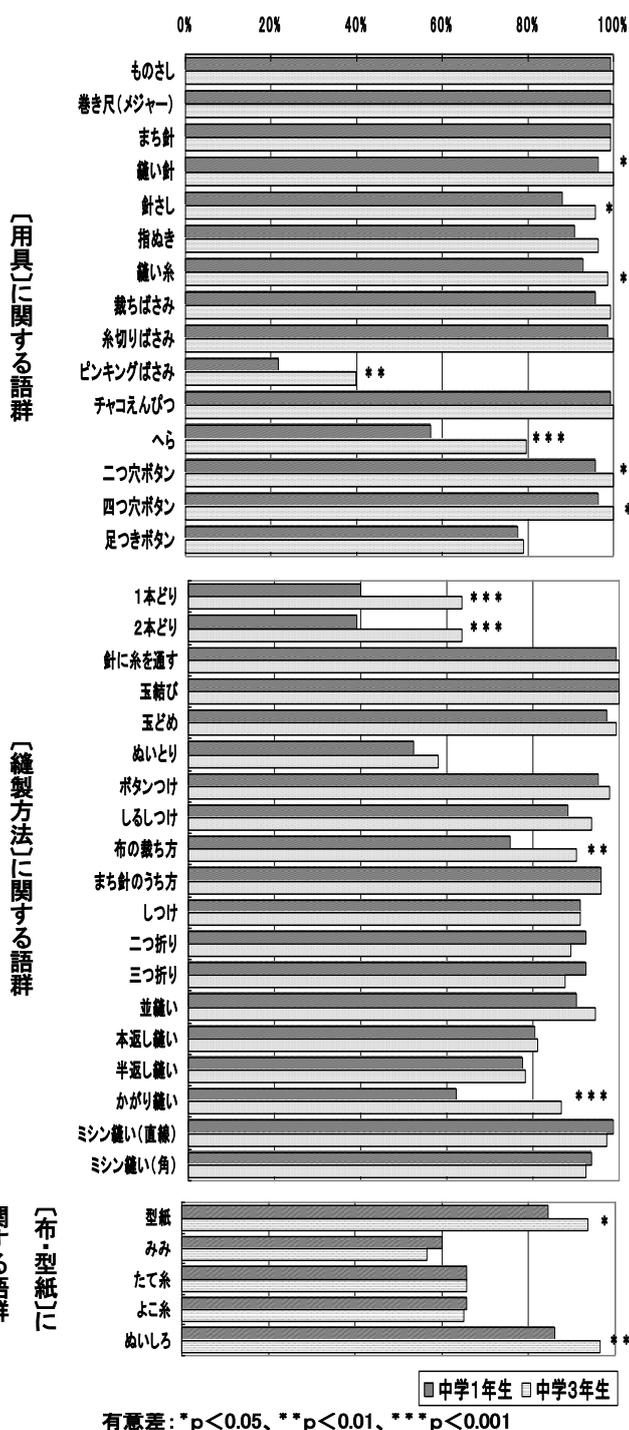
1. 被服製作用語に関する項目

【1-1:用語に関する知識<項目別「知っている」割合の変化(全体)>】

用語に関する知識を語群ごとに、すべての項目を図Ⅲ-2)-1に示す。39項目の「知っている」割合は、全体的に中学3年生の方が中学1年生より高くなり、中学1年生の方が高い項目は「みみ」、「よこ糸」、「二つ折り」、「三つ折り」、「ミシン縫い(直線縫い)」、「ミシン縫い(角の曲がり方)」の6項目だった。中学1年生と中学3年生との間で有意差のみられた項目は13項目で、いずれの項目も中学3年生が優位だった。

〔用具〕に関する語群では、「知っている」割合は、中学1年生の段階で多くの項目が100%近くになり、中学3年生でもその割合が高かった。「へら」は中学1年生では57.3%だったが、中学3年生では79.7%と大きく増加した。中学1年生と中学3年生との間で有意差のみられた項目は15項目中7項目で、いずれの項目も中学3年生の方が優位だった。

〔縫製方法〕に関する語群では、「知っている」割合は、「針に糸を通す」、「玉結び」、「玉どめ」などの基本的な項目は、中学1年生、中学3年生ともほぼ100%だった。その他の項目の「知っている」割合は、中学3年生で高く、特に「かがり縫い」では中学1年



図Ⅲ-2)-1 用語に関する知識(全体)

生では 62.2%、中学 3 年生では 86.7% だった。中学 1 年生と中学 3 年生との間で有意差のみられた項目は 19 項目中 4 項目で、いずれの項目も中学 3 年生の方が優位だった。

〔布・型紙〕に関する語群では、「知っている」割合は、「みみ」、「たて糸」、「よこ糸」は中学 1 年生と中学 3 年生であまり変わらなかった。しかし、「ぬいしろ」では中学 1 年生で 86.0% だったが、中学 3 年生では 96.5% に増加した。中学 1 年生と中学 3 年生との間で有意差のみられた項目は 3 項目で、いずれの項目も中学 3 年生が優位だった。

【1-2:用語に関する知識<語群別「知っている」割合の変化(全体)>】

表Ⅲ-2)-1 用語に関する知識

—語群別の「知っている」割合—

	中学1年生	中学3年生
〔用具〕に関する語群	87.3%	92.5%
〔縫製方法〕に関する語群	82.1%	87.3%
〔布・型紙〕に関する語群	72.4%	75.5%

用語に関する知識を語群別に表Ⅲ-2)-1 に示す。語群別の「知っている」割合は、いずれの語群でも「知っている」割合は、中学 3 年生の方が中学 1 年生よりも高くなり、その差は、〔用具〕に関する語群と〔縫製方法〕に関する語群では 5.2 ポイント、〔布・型紙〕に関する語群では 3.1 ポイントと、いずれの語群も増加した。

また、中学 1 年生、中学 3 年生ともに〔用具〕に関する語群 > 〔縫製方法〕に関する語群 > 〔布・型紙〕に関する語群となった。

【1-3:用語に関する知識<語群別「知っている」項目数の変化(全体)>】

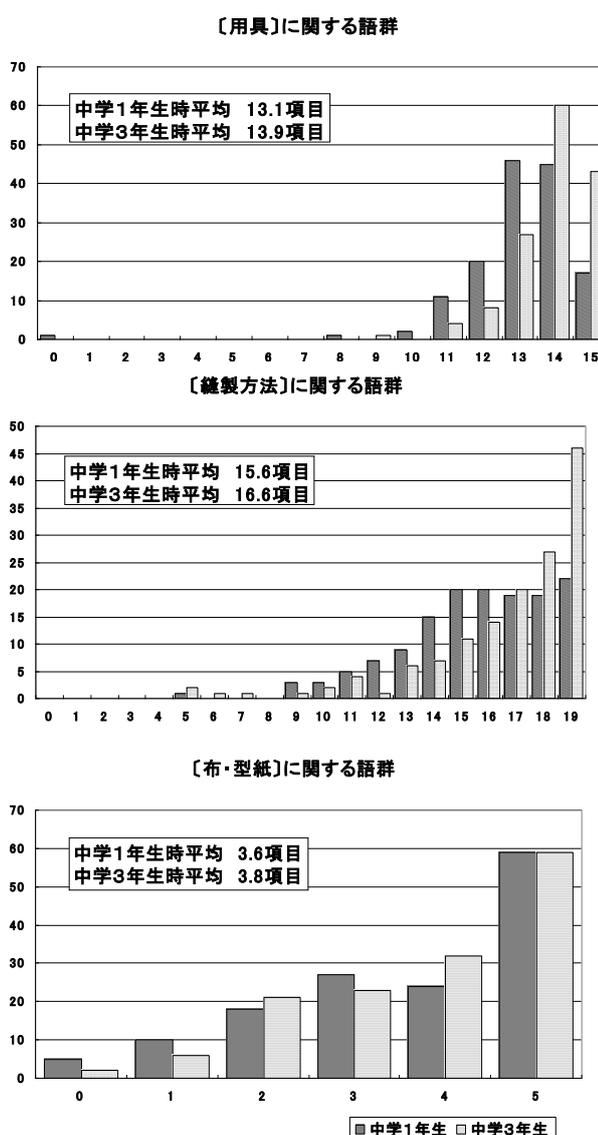
用語に関する知識の「知っている」と回答した項目数を調査年次ごとに語群別に図Ⅲ-2)-2)に示す。

〔用具〕に関する語群では、中学1年生で「知っている」項目数は15項目中0項目から15項目に分布し、最も人数の多かった項目数は13項目で、中学3年生で「知っている」項目数は15項目中9項目から15項目に分布し、最も人数の多かった項目は14項目だった。「知っている」項目数の平均は、中学1年生で13.1項目、中学3年生で13.9項目となり、中学3年生の方が高かった。

〔縫製方法〕に関する語群では、中学1年生、中学3年生ともに「知っている」項目数は19項目中5項目から19項目に分布し、最も人数の多かった項目は19項目だった。「知っている」項目数の平均は、中学1年生で15.6項目、中学3年生で16.6項目となり、中学3年生の方が高かった。

〔布・型紙〕に関する語群では、中学1年生、中学3年生ともに「知っている」項目数は5項目中0項目から5項目に分布し、最も人数の多かった項目は5項目すべてだった。「知っている」項目数の平均は、中学1年生で3.6項目、中学3年生で3.8項目となり、ほとんど変わらなかった。

中学1年生と中学3年生の平均の「知っている」項目数の差は、〔用具〕に関する語群は0.8項目、〔縫製方法〕に関する語群では1.0項目、〔布・型紙〕に関する語群は0.2項目と、いずれの語群もわずかに増加した。



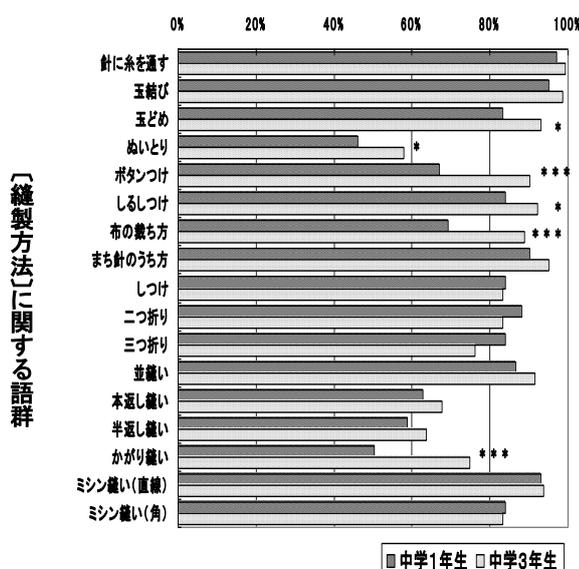
図Ⅲ-2)-2) 用語に関する知識
—語群別「知っている」項目数の変化—

【1-4: 技能の自己評価<項目別「できる」割合の変化(全体)>】

技能の自己評価を語群ごとに、すべての項目を図Ⅲ-2)-3に示す。17項目の「できる」割合は、全体的に中学3年生の方が高くなり、中学1年生の方が高い項目は「しつけ」、「二つ折り」、「三つ折り」、「ミシン縫い(角の曲がり方)」の3項目だった。中学1年生と中学3年生との間で有意差がみられた項目は、6項目で、いずれも中学3年生の方が優位だった。

中学1年生から中学3年生にかけて、「知っている」割合が大きく増加した

項目は少なかった。しかし、「布の裁ち方」では中学1年生で69.2%、中学1年生で88.8%、「かがり縫い」は中学1年生で50.3%、中学3年生で74.8%と顕著に増加した項目もみられた。



有意差: *p<0.05、**p<0.01、***p<0.001

図Ⅲ-2)-3 技能の自己評価(全体)

【1-5: 技能の自己評価<語群別「できる」割合の変化(全体)>】

表Ⅳ-2)-2 技能の自己評価

—語群別の「できる」割合—(全体)

	中学1年生	中学3年生
〔縫製方法〕に関する語群	77.9%	84.3%

技能の自己評価を語群別に表Ⅲ-2)-2に示す。〔縫製方法〕に関する語群の「できる」割合は、中学1年生で77.9%、中学3年生で84.3%となり、中学3年生の方が高くなった。

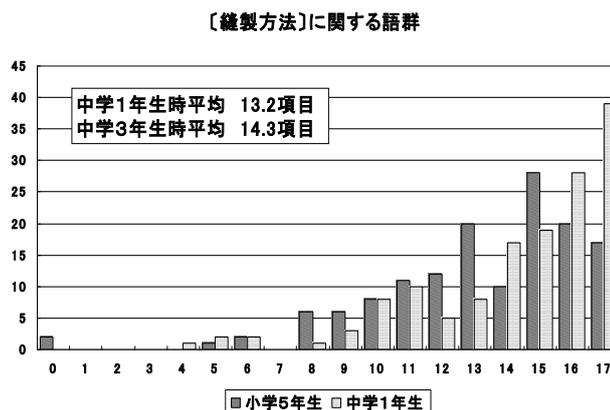
中学1年生と中学3年生の「できる」割合の差は、6.4ポイントとなり、1-2の〔縫製方法〕に関する語群の知識(5.2ポイント)より増加した。

【1-6: 技能の自己評価<語群別「できる」項目数の変化(全体)>】

技能の自己評価の「できる」と回答した項目数を調査年次ごとに図Ⅲ-2)-4に示す。

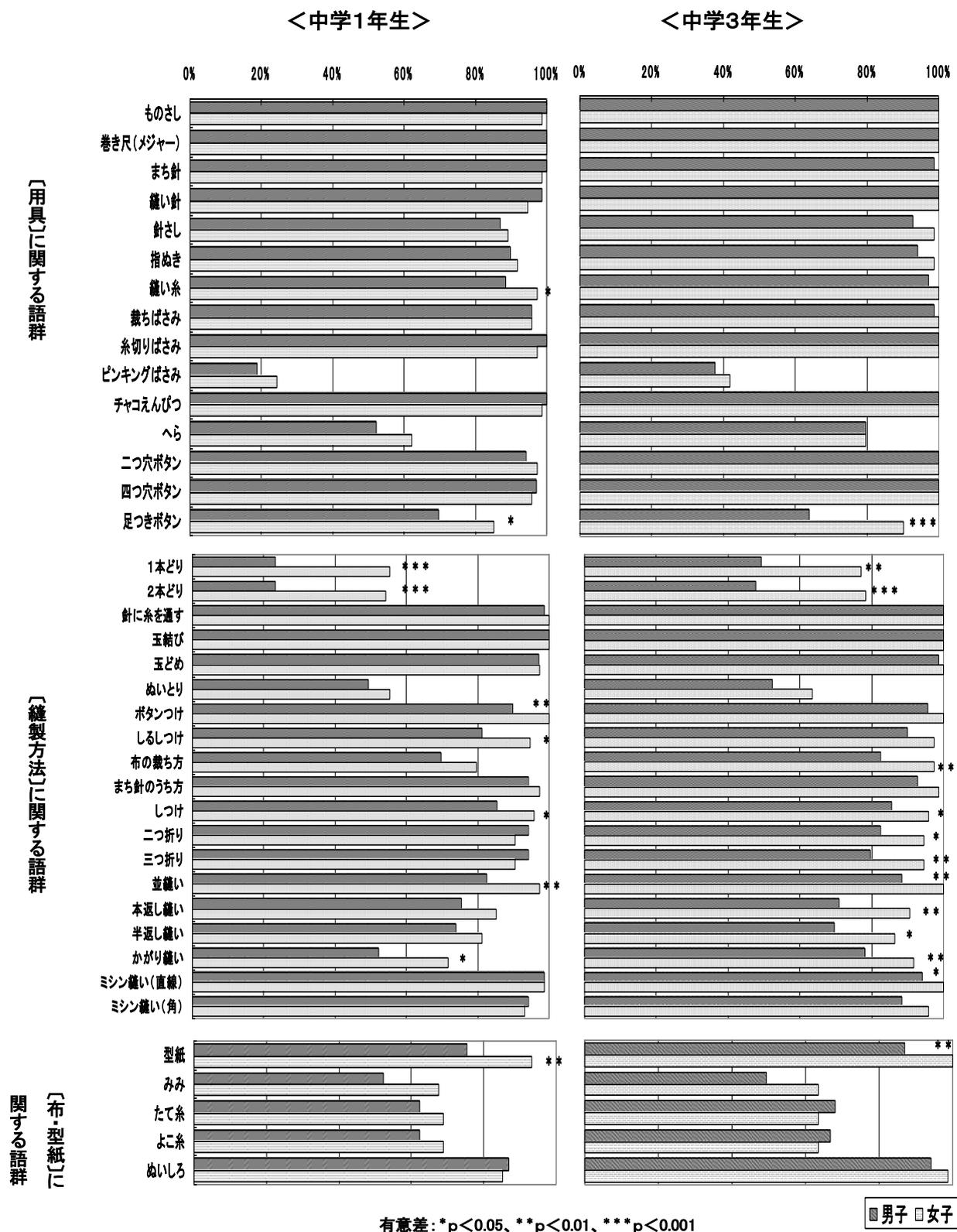
〔縫製方法〕に関する語群では、中学1年生で「できる」項目数は17項目中0項目から17項目に分布し、最も人数の多かった項目数は15項目だったが、中学3年生で「できる」項目数は17項目中4項目から17項目に分布し、最も人数の多かった項目は17項目すべてだった。「できる」項目数の平均は、中学1年生で13.2項目、中学3年生で14.3項目となり、中学3年生の方が高かった。

中学1年生と中学3年生の平均の「できる」項目数の差は、1.1項目と、1-3の〔縫製方法〕に関する語群よりも大きかった。



**図Ⅲ-2)-4 技能の自己評価
- 語群別「できる」項目数の変化-(全体)**

【1-7:用語に関する知識<項目別「知っている」割合の変化(男女別)>】



有意差: *p<0.05、**p<0.01、***p<0.001

■男子 □女子

図Ⅲ-2)-5 用語に関する知識(男女別)

用語に関する知識を語群ごとに、すべての項目を図Ⅲ-2)-5 に示す。39 項目の「知っている」割合は、全体的に女子の方が男子より高く、また、中学1年生から中学3年生にかけて高くなった。男子の方が高い項目は中学1年生では「ものさし」、「まち針」、「縫い針」、「糸切りばさみ」、「チャコえんぴつ」、「四つ穴ボタン」、「ぬいしろ」、「二つ折り」、「三つ折り」、「ミシン縫い（角の曲がり方）の10項目、中学3年生では「たて糸」、「よこ糸」の2項目で、中学1年生の方が多くみられた。男女間で有意差のみられた項目は、中学1年生で10項目、中学3年生で12項目で、いずれも女子の方が優位だった。

〔用具〕に関する語群では、「知っている」割合は、中学1年生の段階で多くの項目が100%近くになり、中学3年生ではその項目がさらに増えた。しかし、「ピンキングばさみ」では「知っている」割合は低く、男子では中学1年生で18.8%、中学3年生で37.7%、女子では中学1年生で24.3%、中学3年生では41.9%となった。男女間で有意差のみられた項目は15項目中、中学1年生では2項目、中学3年生では1項目で、いずれの項目でも女子の方が優位だった。また、中学1年生で有意差のみられた2項目はすべて中学3年生では有意差がみられず、男女の差が縮まった項目が増えた。

〔縫製方法〕に関する語群では、「知っている」割合は、「針に糸を通す」、「玉結び」、「玉どめ」などの基本的な項目は中学1年生、中学3年生ともにほぼ100%だった。その他の「知っている」割合は、中学3年生で高くなった。男女間で有意差のみられた項目は19項目中、中学1年生では7項目だったが、中学3年生では11項目に増え、いずれの項目でも女子の方が優位だった。また、中学1年生で有意差のみられた7項目のうち、「1本どり」、「2本どり」、「しつけ」、「並縫い」、「かがり縫い」の5項目は中学3年生でも有意差がみられた。

〔布・型紙〕に関する語群では、「知っている」割合は、〔用具〕に関する語群同様、男女の差はあまりみられなかった。しかし、「型紙」に関しては、中学1年生の男子で75.4%、女子で93.2%、中学3年生では男子で78.0%、女子で100%となり、男女で差がみられた。男女間で有意差のみられた項目は5項目中、中学1年生、中学3年生ともに「型紙」の1項目のみで、いずれの項目でも女子の方が優位だった。

【1-8:用語に関する知識<語群別「知っている」割合の変化(男女別)>】

表Ⅲ-2)-3 用語に関する知識—語群別の「知っている」割合—(男女別)

	男 子		女 子	
	中学1年生	中学3年生	中学1年生	中学3年生
〔用具〕に関する語群	86.1%	90.8%	88.5%	93.9%
〔縫製方法〕に関する語群	77.7%	81.4%	86.2%	92.7%
〔布・型紙〕に関する語群	67.8%	73.1%	76.7%	77.8%

用語に関する知識を語群別に表Ⅲ-2)-3に示す。語群別の「知っている」割合は、いずれの語群でも女子の方が男子より高くなり、その差は、〔用具〕に関する語群では男子で4.7ポイント、女子で5.4ポイント、〔縫製方法〕に関する語群では男子で3.4ポイント、女子で6.5ポイント、〔布・型紙〕に関する語群では男子で5.3ポイント、女子で1.1ポイントと、〔用具〕に関する語群と〔縫製方法〕に関する語群では男子、〔布・型紙〕に関する語群では女子の方が増加した。

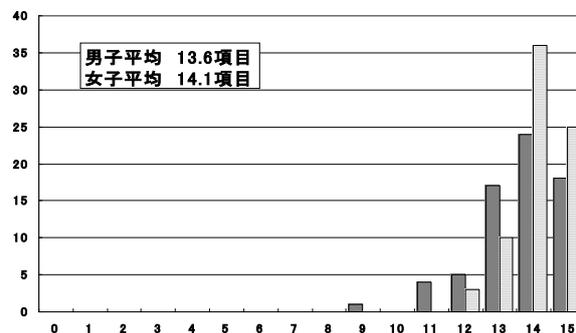
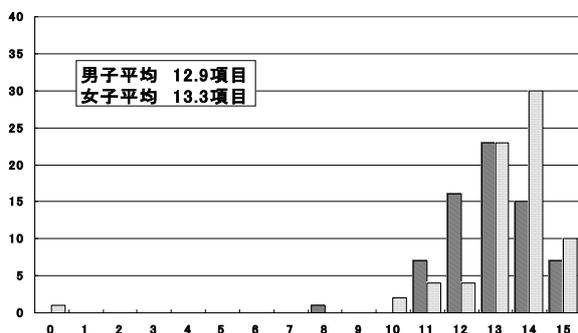
また、男女とも中学1年生、中学3年生ともに〔用具〕に関する語群>〔縫製方法〕に関する語群>〔布・型紙〕に関する語群となった。

【1-9:用語に関する知識<語群別「知っている」項目数の変化(男女別)>】

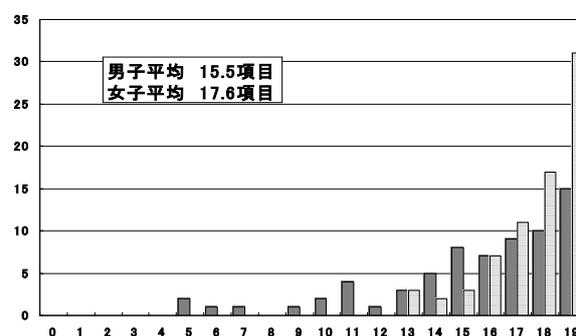
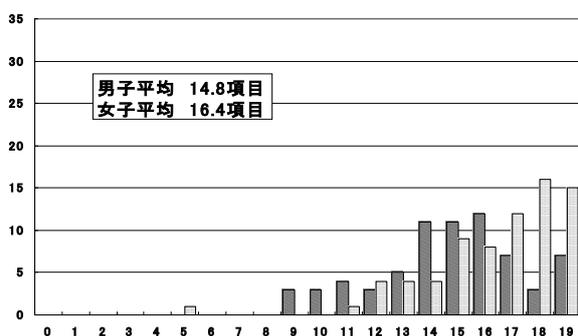
<中学1年生>

<中学3年生>

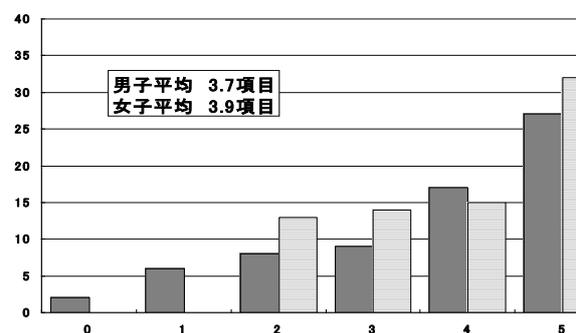
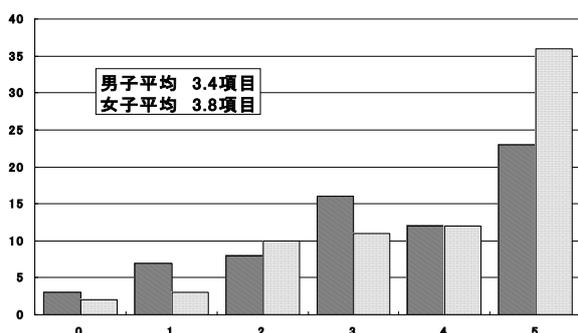
〔用具〕に関する語群



〔縫製方法〕に関する語群



〔布・型紙〕に関する語群



■男子 □女子

図Ⅲ-2)-6 用語に関する知識—語群別「知っている」項目数の変化—(男女別)

用語に関する知識の「知っている」と回答した項目数を調査年次ごとに語群別に図Ⅲ-2)-6に示す。

〔用具〕に関する語群では、男子では中学1年生で「知っている」項目数は15項目中8項目から15項目に分布し、最も人数の多かった項目数は13項目で、中学3年生で「知っ

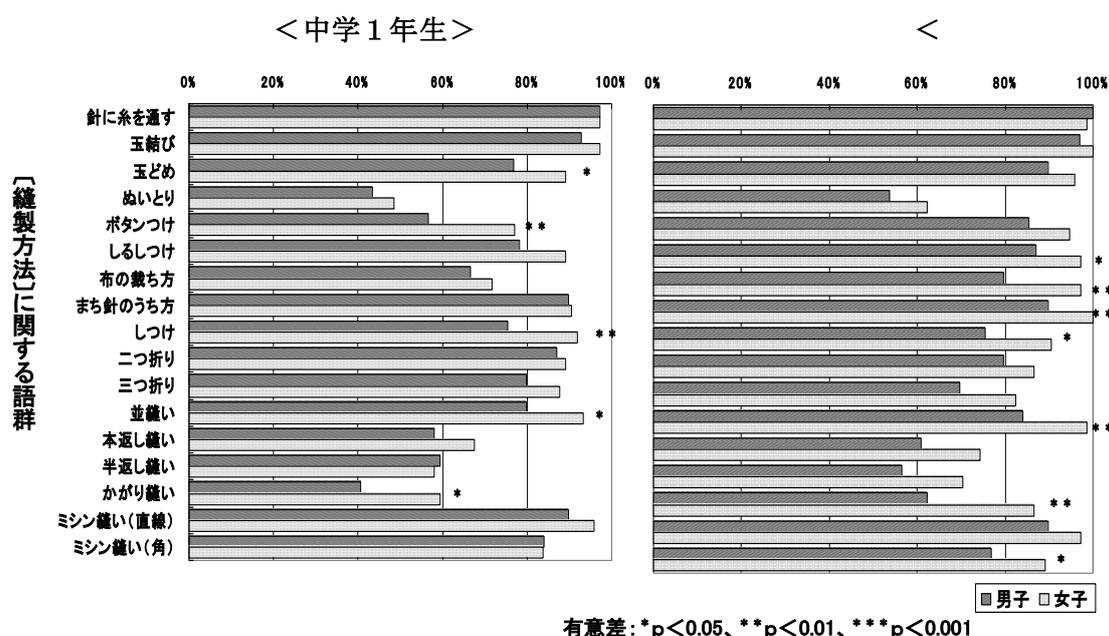
ている」項目数は15項目中9項目から15項目に分布し、最も人数の多かった項目は14項目だった。女子では中学1年生で「知っている」項目数は15項目中0項目から15項目に分布し、最も人数の多かった項目数は14項目で、中学3年生で「知っている」項目数は15項目中12項目から15項目に分布し、最も人数の多かった項目は14項目だった。「知っている」項目数の平均は、男子では中学1年生で12.9項目、中学3年生で13.6項目、女子では中学1年生で13.3項目、中学3年生で14.1項目といずれの学年も女子の方が高かった。

〔縫製方法〕に関する語群では、男子は中学1年生で「知っている」項目数は19項目中9項目から19項目に分布し、最も人数の多かった項目数は16項目で、中学3年生で「知っている」項目数は19項目中5項目から19項目に分布し、最も人数の多かった項目は19項目だった。女子は中学1年生で「知っている」項目数は19項目中5項目から19項目に分布し、最も人数の多かった項目数は18項目で、中学3年生で「知っている」項目数は19項目中13項目から19項目に分布し、最も人数の多かった項目は19項目だった。「知っている」項目数の平均は、男子では中学1年生で14.8項目、中学3年生で15.5項目、女子では中学1年生で16.4項目、中学3年生で17.6項目といずれの学年も女子の方が高かった。

〔布・型紙〕に関する語群では、男子は「知っている」項目数は中学1年生、中学3年生ともに5項目中0項目から5項目に分布し、最も人数の多かった項目数は5項目すべてだった。女子は中学1年生で「知っている」項目数は5項目中0項目から5項目に分布し、最も人数の多かった項目数は5項目で、中学3年生で「知っている」項目数は5項目中2項目から5項目に分布し、最も人数の多かった項目は5項目だった。「知っている」項目数の平均は、男子では中学1年生で3.4項目、中学3年生で3.7項目、女子では中学1年生で3.8項目、中学3年生で3.9項目といずれの学年も女子の方が高かった。

中学1年生と中学3年生の平均の「知っている」項目数の差は、〔用具〕に関する語群は男子で0.7項目、女子で0.8項目、〔縫製方法〕に関する語群では男子で0.7項目、女子で1.2項目、〔布・型紙〕に関する語群は男子で0.3項目、女子で0.1項目となり、〔用具〕に関する語群と〔縫製方法〕に関する語群では男女ではほぼ同じだったが、〔縫製方法〕では女子の方が大きかった。

【1-10:技能の自己評価<項目別「できる」割合の変化(男女別)>】



図Ⅲ-2)-7 技能の自己評価(男女別)

技能の自己評価を語群ごとに、すべての項目を図Ⅲ-2)-7に示す。17項目の「できる」割合は、全体的に女子の方が高くなり、調査学年では中学3年生の方が高くなった。男子の方が高い項目は中学1年生では「半返し縫い」、「ミシン縫い(角の曲がり方)」の2項目、中学3年生では「針に糸を通す」の1項目のみで、用語に関する知識と比較してその項目数は少なかった。男女間で有意差がみられた項目は、中学1年生が5項目、中学3年生が7項目で、いずれも女子の方が優位だった。また、「しつけ」、「並縫い」、「かがり縫い」の3項目では、中学1年生、中学3年生ともに有意差がみられた。

全体的に中学1年生から中学3年生にかけて男女の差が広がった項目が増えた。特に「布の裁ち方」では、中学1年生で男子66.7%、女子71.6%だったが、中学3年生で男子79.7%、女子97.3%となり、中学3年生のみ男女間で有意差がみられた。

【1-11:技能の自己評価<語群別「できる」割合の変化(男女別)>】

表Ⅲ-2)-4 技能の自己評価-語群別の「できる」割合-(男女別)

	男 子		女 子	
	中学1年生	中学3年生	中学1年生	中学3年生
〔縫製方法〕に関する語群	73.8%	78.7%	81.6%	89.5%

技能の自己評価を語群別に表Ⅲ-2)-4 に示す。〔縫製方法〕に関する語群の「できる」割合は、男子では中学1年生で73.8%、中学3年生で78.7%、女子では中学1年生で81.6%、中学3年生で89.5%となり、いずれの学年でも女子の方が男子よりも高かった。

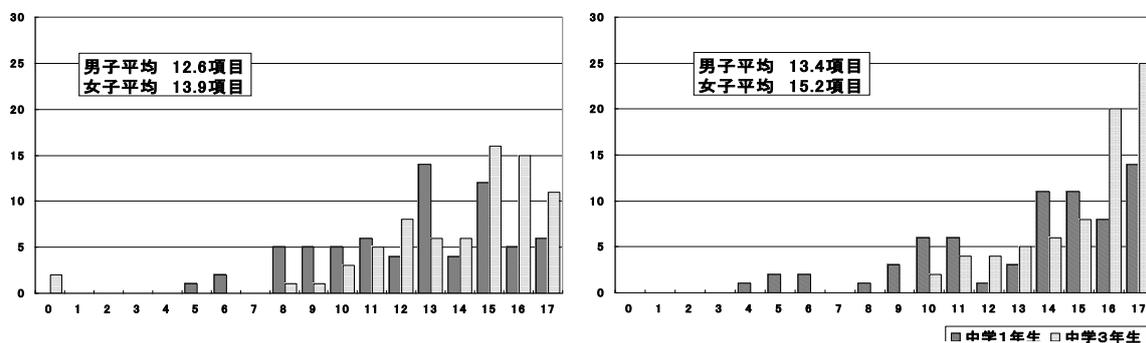
中学1年生と中学3年生の「できる」割合の差は、男子で4.9ポイント、女子で6.9ポイントにそれぞれ増加し、特に女子の方が大きかった。

【1-12:技能の自己評価<語群別「できる」項目数の変化(男女別)>】

<中学1年生>

<中学3年生>

〔縫製方法〕に関する語群



図Ⅲ-2)-8 技能の自己評価—語群別「できる」項目数の変化—(男女別)

技能の自己評価の「できる」と回答した項目数を調査年次ごとに語群別に図Ⅲ-2)-8に示す。

〔縫製方法〕に関する語群では、男子では中学1年生で「できる」項目数は17項目中5項目から17項目に分布し、最も人数の多かった項目数は13項目で、中学3年生で「できる」項目数は17項目中4項目から17項目に分布し、最も人数の多かった項目は17項目だった。女子では中学1年生で「できる」項目数は17項目中0項目から17項目に分布し、最も人数の多かった項目数は15項目、中学3年生で「できる」項目数は17項目中10項目から17項目に分布し、最も人数の多かった項目は17項目だった。「できる」項目数の平均は、男子では中学1年生で12.6項目、中学3年生で13.4項目、女子では中学1年生で13.9項目、中学3年生で16.2項目といずれの学年も女子の方が高かった。

中学1年生と中学3年生の平均の「できる」項目の差は、男子で0.8項目、女子で2.3項目と、女子の方が大きかった。

【1-13: ボタンつけ作業による技能<項目別「できた」割合の変化(全体)>】

表Ⅲ-2)-5 ボタンつけ作業による技能(全体)

	①	②	③	④	⑤	⑥	平均
中学1年生	86.0%	80.4%	58.7%	49.7%	67.8%	66.4%	67.0%
中学3年生	99.3%	88.8%	72.7%	69.9%	98.6%	87.4%	87.2%
有意差	***	*	*	***	***	***	***

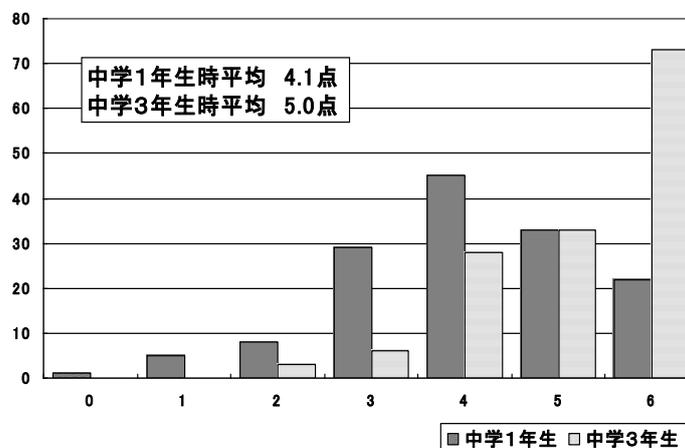
有意差: * $p < 0.05$, ** $p < 0.01$, *** $p < 0.001$

ボタンつけ作業による技能を項目別に表Ⅲ-2)-5に示す。6項目の「できた」割合は、いずれの項目でも中学3年生の方が高くなり、6項目の平均では有意差がみられた($p < 0.001$)。特に「⑤玉どめができています」では、「できた」割合は中学1年生で68.6%だったが、中学3年生では98.7%となり、30ポイント以上増加した。また、6項目すべてで有意差がみられ、いずれの項目も中学3年生が優位だった。

【1-14: ボタンつけ作業による技能<「できた」得点数の変化(全体)>】

ボタンつけ作業による技能の「できた」得点数を調査年次ごとに図Ⅲ-2)-9に示す。

中学1年生で「できた」得点数は0点から6点に分布し、最も人数が多かった得点は4点だったが、中学3年生で「できた」得点数は2点から6点に分布し、最も人数が多かった得点は6点だった。



中学1年生の得点の平均は4.1点、中学3年生の得点の平均は5.2点で、平均の「できた」得点の差は、1.1点だった。

図Ⅲ-2)-9 ボタンつけ作業による技能
-「できた」得点数の変化-(全体)

【1-15: ボタンつけ作業による技能<項目別「できた」割合の変化(男女別)>】

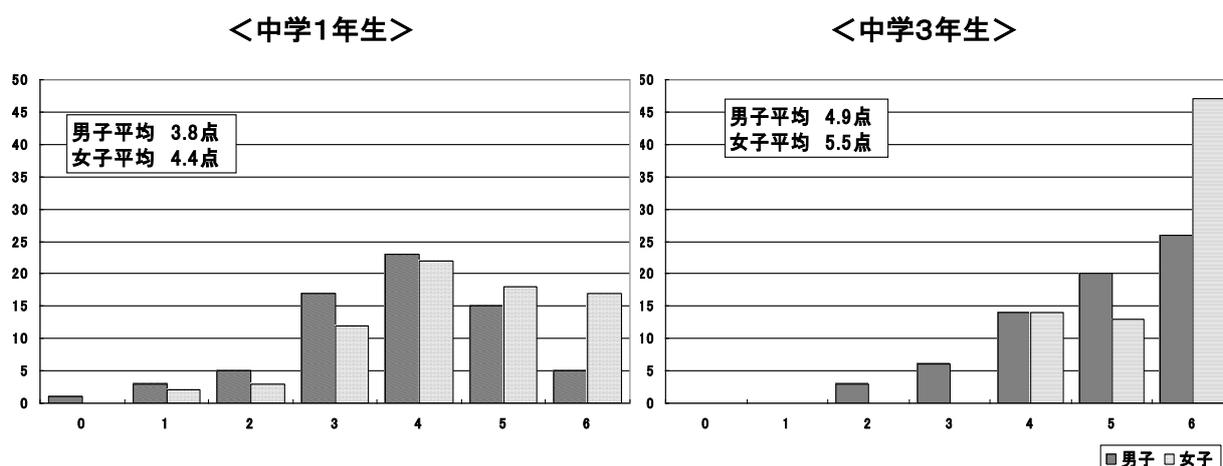
表Ⅲ-2)-6 ボタンつけ作業による技能(全体)

		①	②	③	④	⑤	⑥	平均
中学1年生	男子	85.5%	69.1%	59.4%	39.1%	58.0%	68.1%	61.9%
	女子	86.5%	91.9%	58.1%	59.5%	77.0%	64.9%	73.7%
	有意差		***		*	*		
中学3年生	男子	98.6%	79.7%	68.1%	60.9%	98.6%	81.2%	81.9%
	女子	100%	97.3%	77.0%	78.4%	98.6%	93.2%	90.0%
	有意差		**		*		*	**

有意差: * $p<0.05$ 、** $p<0.01$ 、*** $p<0.001$

ボタンつけ作業による技能を項目別に表Ⅲ-2)-6 に示す。6項目の「できた」割合は、中学1年生、中学3年生ともに女子の方が高く、中学3年生では有意差がみられた ($p<0.01$)。基本的な技能である「①玉結びができている」は男女とも「できた」割合が高かった。男女間で有意差のみられた項目は中学1年生、中学3年生ともに3項目で、いずれの項目でも女子の方が優位だった。中でも「②ボタンの穴に糸が3～4回かけてある」と「④ボタンの下で糸が固く巻けている」では中学1年生、中学3年生ともに有意差がみられた。

【1-16: ボタンつけ作業による技能<「できた」得点数の変化(男女別)>】



図Ⅲ-2)-10 ボタンつけ作業による技能-「できた」項目数の変化-(男女別)

ボタンつけ作業による技能の「できた」得点数を調査年次ごとに図Ⅲ-2)-10 に示す。男子では中学1年生で「できた」得点数は0点から6点に分布し、最も人数の多かった得点は4点で、中学3年生で「できた」得点数は2点から6点に分布し、最も人数の多かった得点は4点だった。女子では中学1年生で「できた」得点数は1点から6点に分布し、最も人数の多かった得点は4点、中学3年生で「できた」得点数は4点から6点に分布し、最も人数の多かった得点は6点だった。「できた」項目数の平均は、男子では中学1年生で3.8点、中学3年生で4.9点、女子では中学1年生で4.4点、中学3年生で5.5点といずれの学年も女子の方が高かった。

中学1年生と中学3年生の平均の「できる」項目の差は、男女ともに1.1点で、男女間では差はほとんどみられなかった。

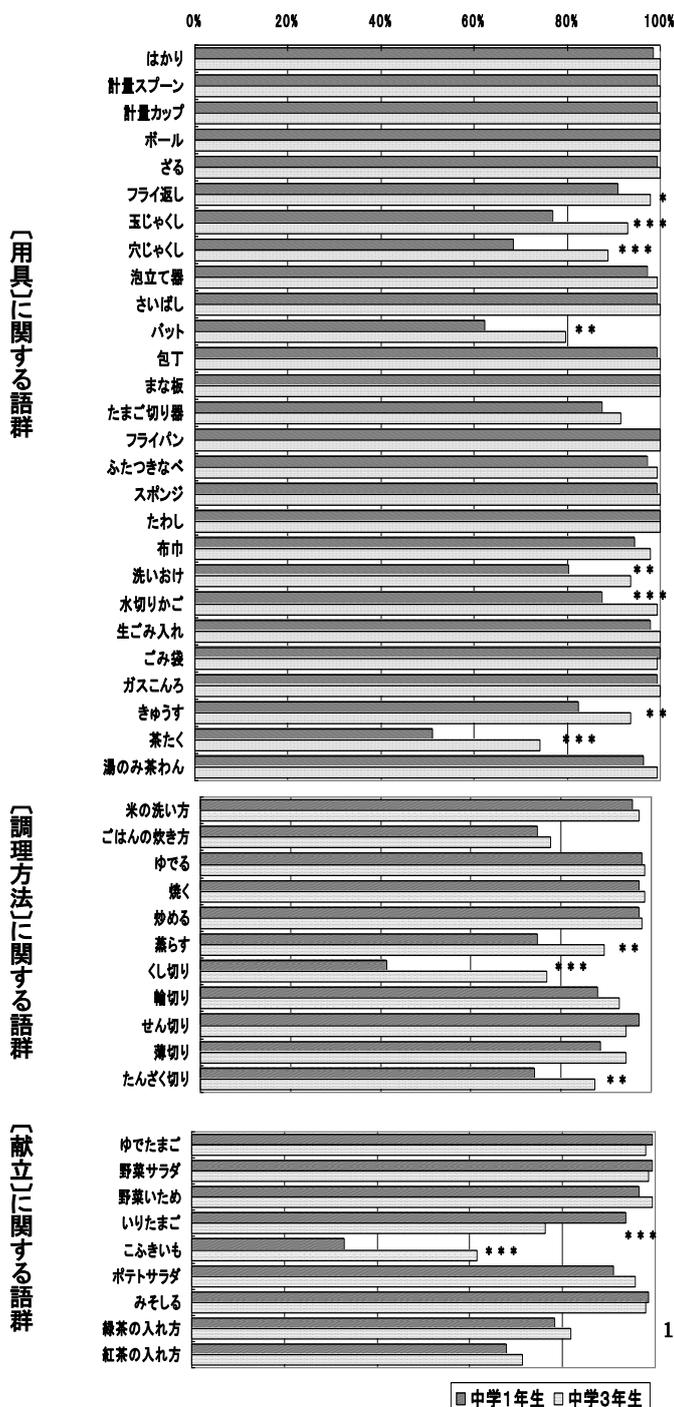
2. 調理用語に関する項目

【2-1:用語に関する知識<項目別「知っている」割合の変化(全体)>】

用語に関する知識を語群ごとに、すべての項目を図Ⅲ-2)-11に示す。47項目の「知っている」割合は、全体的に中学3年生の方が高くなった。中学1年生の方が高い項目は「ごみ袋」、「せん切り」、「ゆでたまご」、「野菜サラダ」、「いりたまご」、「みそしる」の6項目だった。中学1年生と中学3年生との間で有意差のみられた項目は13項目で、「いりたまご」を除いて中学3年生の方が優位だった。

〔用具〕に関する語群では、「知っている」割合は、中学1年生の段階で多くの項目がほぼ100%だった。「茶たく」は中学1年生で51.0%だったが、中学3年生では74.1%となり、中学3年生で大きく増加した。中学1年生と中学3年生との間で有意差のみられた項目は8項目で、いずれの項目も中学3年生の方が優位だった。

〔調理方法〕に関する語群では、「米の洗い方」、「焼く」、「炒める」などの日常的な調理方法の「知っている」割合は、中学1年生、中学3年生ともにほぼ100%だった。特に「くし切り」は中学1年生で41.3%、中学3年生で76.9%となり、中学3年生で大きく増加した。中学1年生と中学3年生との間で有意差のみられた項目は3項目で、いずれの項目でも中学3年生の方が優位



図Ⅲ-2)-11 用語に関する知識(全体)

年ととの間で有意差のみられた項目は3項目で、いずれの項目でも中学3年生の方が優位

だった。

〔献立〕に関する語群では、「知っている」割合は、「ゆでたまご」、「みそしる」などの項目が高く、それらの項目は中学1年生、中学3年生ともに90%を超えていた。一方、「こふきいも」の項目は低く、特に中学1年生では32.9%と低かったが、中学3年生では61.5%と大幅に増加した。中学1年生と中学3年生との間で有意差のみられた項目は2項目で、「いりたまご」は中学1年生、「こふきいも」は中学3年生の方が優位だった。

【2-2:用語に関する知識<語群別「知っている」割合の変化(全体)>】

表Ⅲ-1)-7 用語に関する知識

—語群別の「知っている」割合—(全体)

	中学1年生	中学3年生
〔用具〕に関する語群	91.3%	96.6%
〔調理方法〕に関する語群	84.3%	91.4%
〔献立〕に関する語群	84.1%	86.7%

用語に関する知識を語群別に表Ⅲ-1)-7に示す。語群別の「知っている」割合は、いずれの語群も中学3年生の方が中学1年生より高くなり、その差は、〔用具〕に関する語群で5.3ポイント、〔調理方法〕に関する語群では7.1ポイント、〔献立〕に関する語群では2.6ポイントと、いずれも増加し、特に〔調理方法〕に関する語群で顕著だった。

また、中学1年生、中学3年生ともに〔用具〕に関する語群>〔調理方法〕に関する語群>〔献立〕に関する語群となった。

【2-3:用語に関する知識<語群別「知っている」項目数の変化(全体)>】

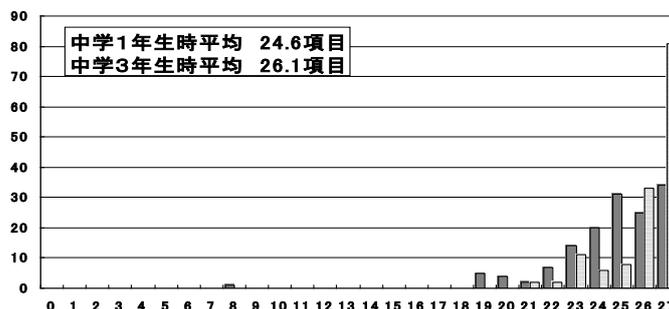
用語に関する知識の「知っている」と回答した項目数を調査年次ごとに語群別に図Ⅲ-2)-12に示す。

〔用具〕に関する語群では、中学1年生で「知っている」項目数は27項目中8項目から27項目に分布し、最も人数の多かった項目数は27項目で、中学3年生で「知っている」項目数は27項目中21項目から27項目に分布し、最も人数の多かった項目数は27項目だった。「知っている」項目数の平均は、中学1年生で24.6項目、中学3年生で26.1項目となり、中学3年生の方が高かった。

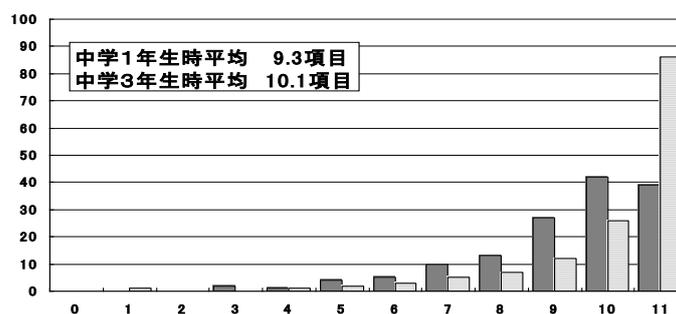
〔調理方法〕に関する語群では、中学1年生で「知っている」項目数は11項目中3項目から11項目に分布し、最も人数の多かった項目数は10項目で、中学3年生で「知っている」項目数は11項目中1項目から11項目に分布し、最も人数の多かった項目は11項目だった。「知っている」項目数の平均は、中学1年生で9.3項目、中学3年生で10.1項目となり、中学3年生の方が高かった。

〔献立〕に関する語群では、中学1年生で「知っている」項目数は9項目中4項目から9項目に分布し、最も人数の多かった項目数は8項目で、中学3年生で「知っている」項目数は9項目中0項目から9項目に分布し、最も人数の多かった項目は9項目だった。「知っている」項目数の平均は、中学1年生で7.7項目、中学3年生で7.8項目となり、ほぼ同じだった。

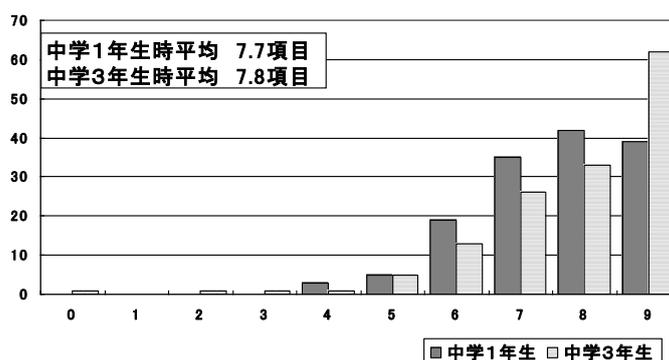
〔用具〕に関する語群



〔調理方法〕に関する語群



〔献立〕に関する語群



図Ⅲ-2)-12 用語に関する知識
—語群別「知っている」項目数の変化—

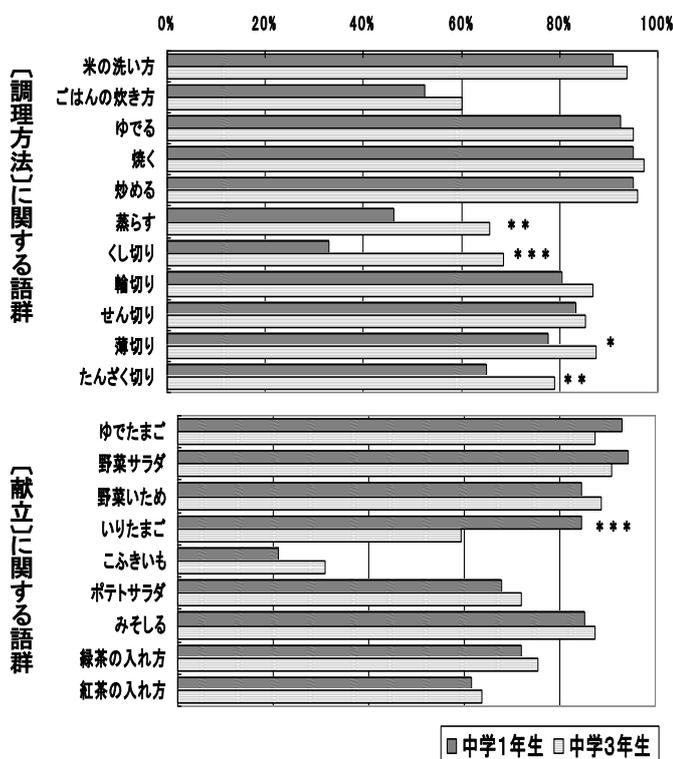
中学1年生と中学3年生の平均の「知っている」項目数の差は、〔用具〕に関する語群は1.5項目、〔調理方法〕に関する語群では0.8項目、〔献立〕に関する語群は0.1項目と、いずれの語群もわずかに増加した。

【2-4: 技能の自己評価<項目別「できる」割合の変化(全体)>】

技能の自己評価を語群ごとに、すべての項目をに図Ⅲ-2)-13に示す。20項目の「できる」割合は、全体的に中学3年生の方が高くなり、中学1年生の方が高い項目は、「ゆでたまご」、「野菜サラダ」、「いりたまご」の3項目のみだった。中学1年生と中学3年生との間で有意差がみられた項目は、5項目で、「いりたまご」をのぞいて中学3年生の方が優位だった。

〔調理方法〕に関する語群では、「できる」割合は、すべての項目で中学3年生で高くなった。特に「くし切り」は中学1年生で32.9%、中学3年生で68.5%となり、中学3年生で大きく増加した。中学1年生と中学3年生との間で有意差のみられた項目は4項目で、いずれの項目でも中学3年生の方が優位だった。

〔献立〕に関する語群では、「できる」割合は、全体的に中学3年生の方が高かった項目が多かったが、中学1年生の方が高かった項目もみられた。特に「いりたまご」の項目では、特に中学1年生では84.6%と高かったが、中学3年生では59.4%と大幅に減少した。中学1年生と中学3年生との間で有意差のみられた項目は「いりたまご」の1項目のみで、中学1年生の方が優位だった。



有意差: *p<0.05, **p<0.01, ***p<0.001

図Ⅲ-2)-13 技能の自己評価(全体)

【2-5: 技能の自己評価<語群別「できる」割合の変化(全体)>】

表Ⅲ-2)-8 技能の自己評価

—語群別の「できる」割合—(全体)

	中学1年生	中学3年生
〔調理方法〕に関する語群	73.7%	83.1%
〔献立〕に関する語群	73.8%	72.9%

技能の自己評価を語群別に表Ⅲ-2)-8に示す。語群別の「できる」割合は、〔調理方法〕に関する語群では中学3年生、〔献立〕に関する語群では中学1年生の方が高くなり、その差は、〔調理方法〕に関する語群では9.4ポイント、〔献立〕に関する語群では-0.9ポイントと減少したが、〔献立〕に関する語群では有意差はみられなかった。

また、中学1年生では〔献立〕に関する語群>〔調理方法〕に関する語群だったのに対し、中学3年生では〔調理方法〕に関する語群>〔献立〕に関する語群となった。

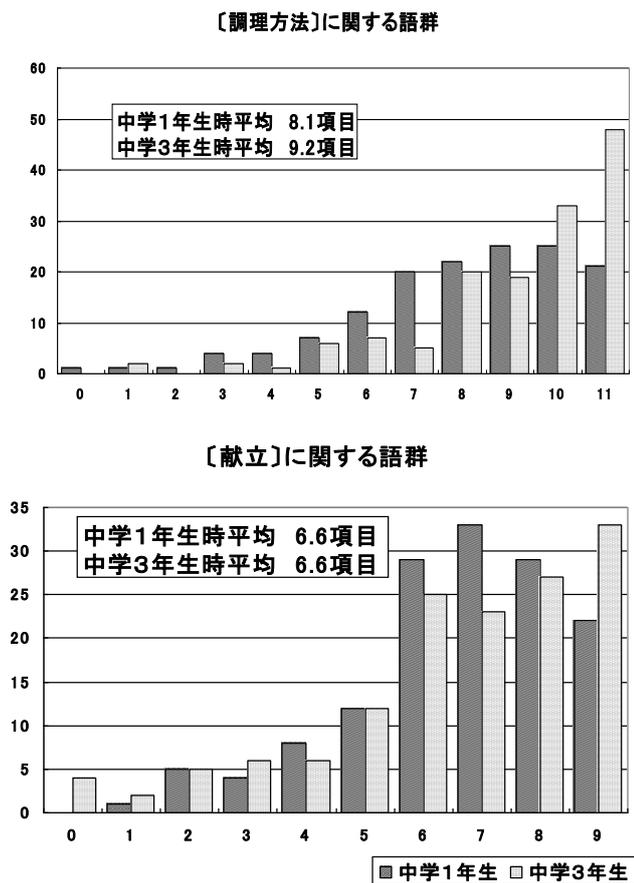
【2-6: 技能の自己評価<語群別「できる」項目数の変化(全体)>】

技能の自己評価の「できる」と回答した項目数を調査年次ごとに語群別に図Ⅲ-2)-14に示す。

〔調理方法〕に関する語群では、中学1年生で「できる」項目数は11項目中0項目から11項目に分布し、最も人数が多かった項目数は9項目と10項目だった。中学3年生で「できる」項目数は11項目中1項目から11項目に分布し、最も人数が多かった項目数は11項目だった。「できる」項目数の平均は、中学1年生で8.1項目、中学3年生で9.2項目となり、中学3年生の方が高かった。

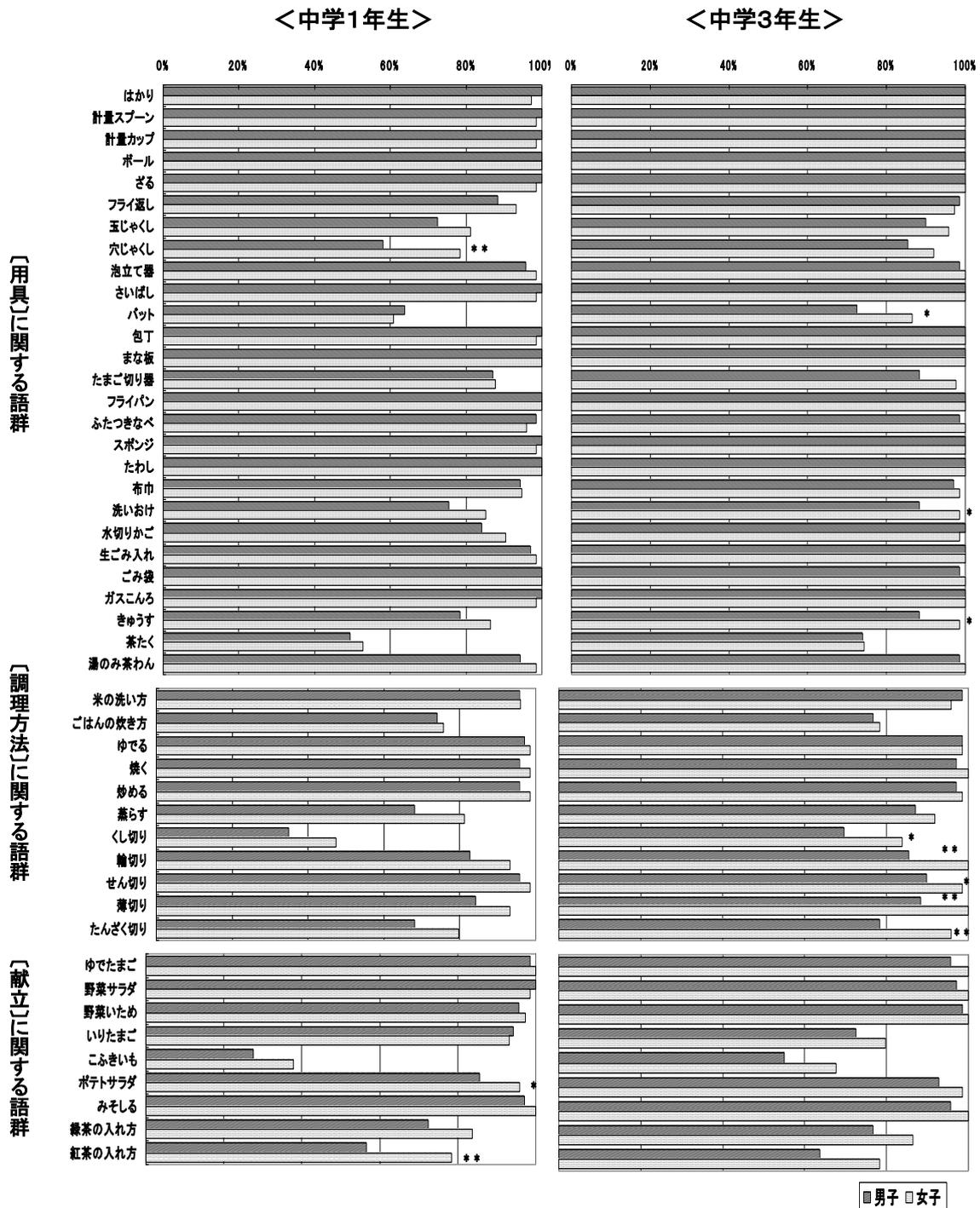
〔献立〕に関する語群では、中学1年生で「できる」項目数は9項目中1項目から9項目に分布し、最も人数が多かった項目数は5項目で、中学1年生で「できる」項目数は9項目中0項目から9項目に分布し、最も人数が多かった項目は9項目だった。「できる」項目数の平均は、中学1年生、中学3年生ともに6.6項目だった。

中学1年生と中学3年生の「できる」項目の平均数の差は、〔調理方法〕に関する語群では1.1項目、〔献立〕に関する語群では差はみられなかった。



図Ⅲ-2)-14 技能の自己評価
一語群別「できる」項目数の変化一(全体)

【2-7:用語に関する知識<項目別「知っている」割合の変化(男女別)>】



有意差: *p<0.05、**p<0.01、***p<0.001

図Ⅲ-2)-15 用語に関する知識(男女別)

用語に関する知識を語群ごとに、すべての項目を図Ⅲ-2)-15に示す。47項目の「知っている」割合は、全体的に女子の方が男子より高くなった。男子の方が高い項目は中学1年生では12項目、中学3年生では3項目で、中学1年生の方が中学3年生より男子の「知っている」割合が高い項目が多かった。男女間で有意差のみられた項目は、中学1年生では3項目、中学3年生では8項目で、いずれも女子の方が優位だった。

〔用具〕に関する語群では、「知っている」割合は、中学1年生の段階で多くの項目が100%近くなり、中学3年生ではさらに増えた。「ボール」、「まな板」、「フライパン」、「たわし」は中学1年生、中学3年生で男女ともに「知っている」割合が100%だった。男女間で有意差のみられた項目は、中学1年生で1項目、中学3年生ともに3項目で、いずれも女子の方が優位だった。また、中学1年生で有意差のみられた「穴じゃくし」中学3年生では有意差がみられず、中学3年生では男女間で有意差のみられた項目は増えた。

〔調理方法〕に関する語群では、「知っている」割合は、「焼く」、「炒める」などの基本的な項目は中学1年生、中学3年生ともにほぼ100%だった。「輪切り」では、中学1年生の男子で84.3%、女子で93.2%だったが、中学3年生ではそれぞれ85.5%、100%となり、中学3年生になって男女差がみられた項目もあった。男女間で有意差のみられた項目は、中学1年生ではなかったが、中学3年生では5項目あり、いずれの項目でも女子の方が優位だった。中学1年生から中学3年生にかけて男女差がみられた項目が増えた。

〔献立〕に関する語群では、「知っている」割合は、「ゆでたまご」、「野菜サラダ」などの項目では中学1年生、中学3年生ともにほぼ100%だった。一方、「こふきいも」の「知っている」割合は、中学1年生で特に低く、男子では27.5%、女子では35.8%だった。男女間で有意差のみられた項目は、中学1年生では2項目だったが、中学3年生では、なく、いずれの項目でも女子の方が優位だった。

【2-8:用語に関する知識<語群別「知っている」割合の変化(男女別)>】

表Ⅲ-2)-9 用語に関する知識—語群別の「知っている」割合—(男女別)

	男 子		女 子	
	中学1年生	中学3年生	中学1年生	中学3年生
〔用具〕に関する語群	90.2%	95.4%	92.2%	97.7%
〔調理方法〕に関する語群	81.0%	87.9%	87.3%	94.7%
〔献立〕に関する語群	80.8%	83.1%	87.2%	90.1%

用語に関する知識を語群別に表Ⅲ-2)-9に示す。語群別の「知っている」割合は、女子の方が男子より高くなり、その差は、〔用具〕に関する語群では男子で5.2ポイント、女子で5.5ポイント、〔調理方法〕に関する語群では男子で6.9ポイント、女子で7.4ポイント、〔献立〕に関する語群では男子で2.3ポイント、女子で2.9ポイントと、いずれの語群でも女子の方が男子より増加した。

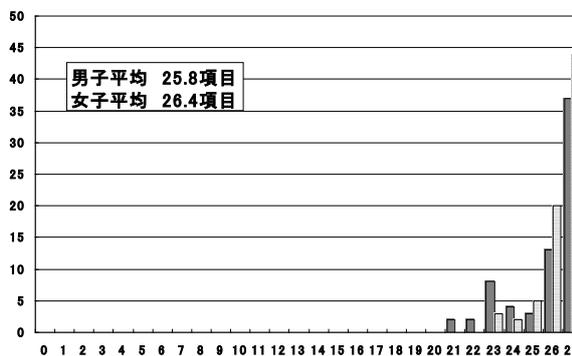
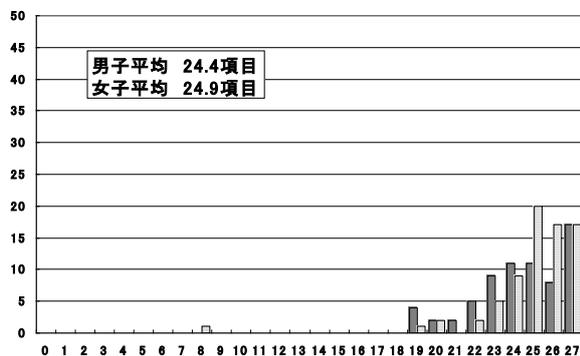
また、男女とも中学1年生、中学3年生のいずれも〔用具〕に関する語群>〔調理方法〕に関する語群>〔献立〕に関する語群となった。

【2-9:用語に関する知識<語群別「知っている」項目数の変化(男女別)>】

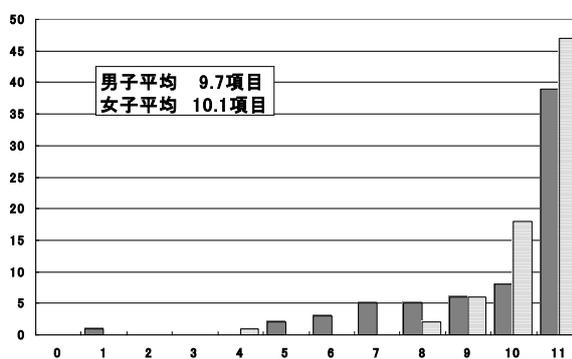
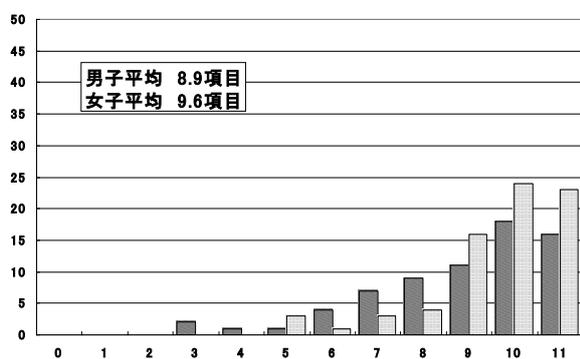
<中学1年生>

<中学3年生>

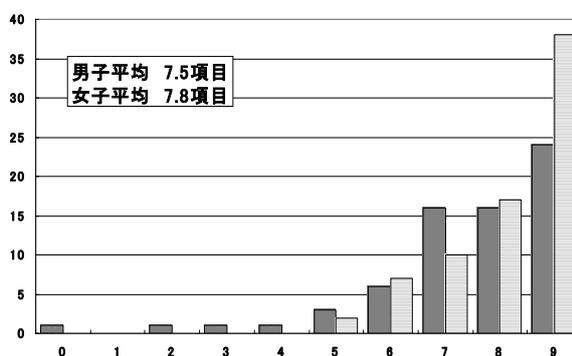
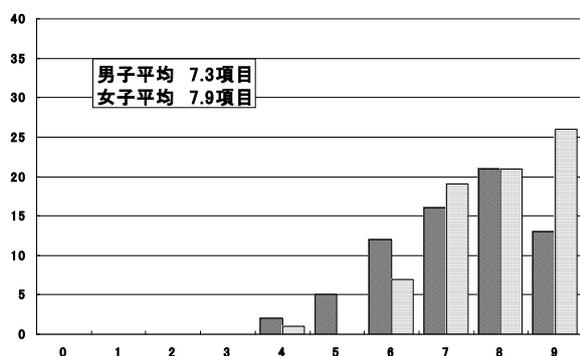
〔用具〕に関する語群



〔調理方法〕に関する語群



〔献立〕に関する語群



■男子 □女子

図Ⅲ-2)-16 用語に関する知識—語群別「知っている」項目数の変化—(男女別)

用語に関する知識の「知っている」と回答した項目数を調査年次ごとに語群別に図Ⅲ-2)-16に示す。

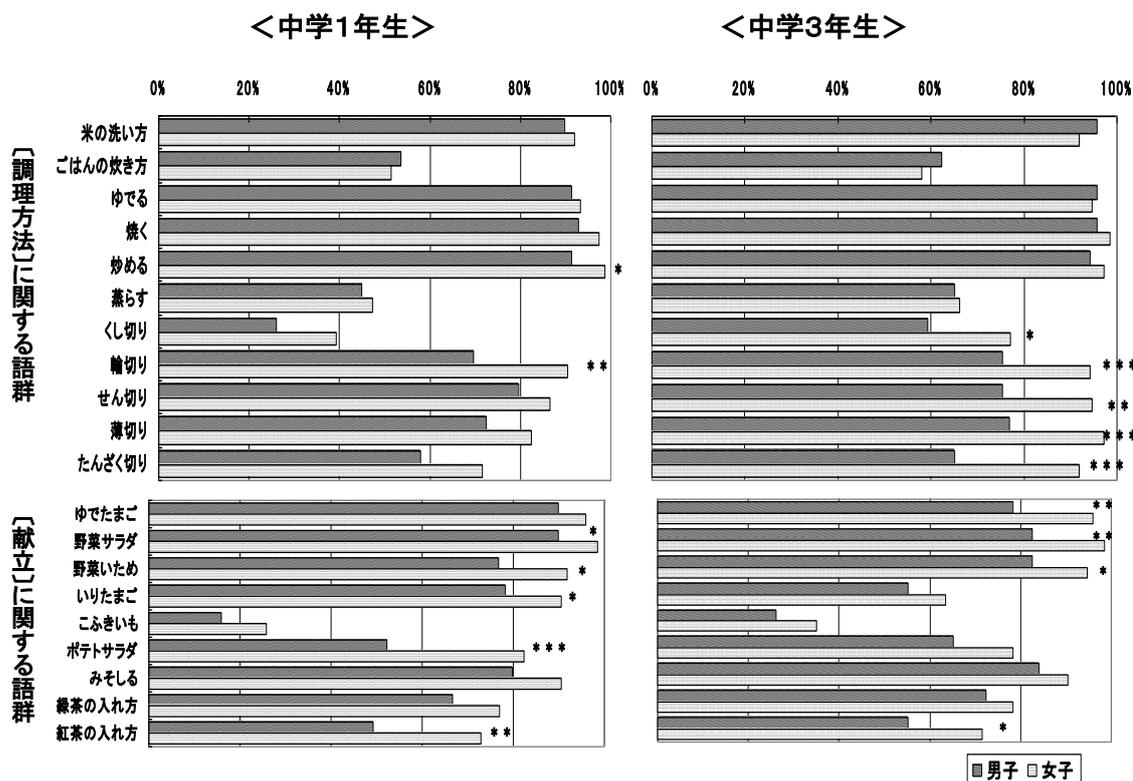
〔用具〕に関する語群では、男子では中学1年生で「知っている」項目数は27項目中19項目から27項目に分布し、最も人数の多かった項目数は27項目で、中学3年生で「知っている」項目数は27項目中21項目から27項目に分布し、最も人数の多かった項目数は27項目だった。女子では中学1年生で「知っている」項目数は27項目中8項目から27項目に分布し、最も人数の多かった項目数は25項目で、中学3年生で「知っている」項目数は27項目中23項目から27項目に分布し、最も人数の多かった項目は27項目だった。「知っている」項目数の平均は、男子では中学1年生で24.4項目、中学3年生で25.8項目、女子では中学1年生で24.9項目、中学3年生で26.5項目といずれの学年も女子の方が高かった。

〔調理方法〕に関する語群では、男子では中学1年生で「知っている」項目数は11項目中3項目から11項目に分布し、最も人数の多かった項目数は10項目で、中学3年生で「知っている」項目数は11項目中1項目から11項目に分布し、最も人数の多かった項目は11項目だった。女子では中学1年生で「知っている」項目数は11項目中5項目から11項目に分布し、最も人数の多かった項目数は10項目で、中学3年生で「知っている」項目数は11項目中4項目から11項目に分布し、最も人数の多かった項目は11項目だった。「知っている」項目数の平均は、男子では中学1年生で8.9項目、中学3年生で9.7項目、女子では中学1年生で9.6項目、中学3年生で10.1項目といずれの学年も女子の方が高かった。

〔献立〕に関する語群では、男子では中学1年生で「知っている」項目数は9項目中4項目から9項目に分布し、最も人数の多かった項目数は8項目で、中学3年生で「知っている」項目数は9項目中0項目から9項目に分布し、最も人数の多かった項目数は9項目だった。女子では中学1年生で「知っている」項目数は9項目中4項目から9項目に分布し、最も人数の多かった項目数は9項目で、中学3年生で「知っている」項目数は9項目中5項目から9項目に分布し、最も人数の多かった項目は9項目だった。「知っている」項目数の平均は、男子では中学1年生で7.3項目、中学3年生で7.5項目、女子では中学1年生で7.9項目、中学3年生で7.8項目といずれの学年も女子の方が高かった。

中学1年生と中学3年生の平均の「知っている」項目数の差は、〔用具〕に関する語群は男子で1.4項目、女子で1.6項目、〔調理方法〕に関する語群では男子で0.8項目、女子で0.5項目、〔献立〕に関する語群は男子で0.2項目、女子で-0.1項目となり、女子の〔献立〕に関する語群では、中学1年生から中学3年生にかけて、「知っている」項目数の平均がわずかに減少した。

【2-10:技能の自己評価<項目別「できる」割合の変化(男女別)>】



図Ⅲ-2)-17 技能の自己評価(男女別)

技能の自己評価を語群ごとに、すべての項目を図Ⅲ-1)-17に示す。20項目の「できる」割合は、全体的に女子の方が男子より高くなった。男子の方が高かった項目は中学1年生では「ごはんの炊き方」の1項目のみで、中学3年生では「米の洗い方」、「ごはんの炊き方」、「ゆでる」の3項目でみられた。男女間で有意差のみられた項目は、中学1年生では7項目、中学3年生では9項目で、いずれも女子の方が優位だった。

〔調理方法〕に関する語群では、「できる」割合は、男女ともに中学1年生では全体的に低かったが、中学3年生で高くなった。男女間で有意差のみられた項目は、中学1年生で2項目だったが、中学3年生は5項目に増え、いずれの項目でも女子の方が優位だった。また、中学1年生で有意差のみられた「輪切り」は中学3年生でも有意差がみられた。

〔献立〕に関する語群では、「できる」割合は、すべての項目で女子の方が高かった。男女間で有意差のみられた項目は、中学1年生では5項目、中学3年生では4項目で、いずれの項目でも女子の方が優位だった。また、中学3年生で有意差がみられた4項目はすべて、中学1年生でも有意差がみられた。

【2-11:技能の自己評価<語群別「できる」割合の変化(男女別)>】

表Ⅲ-2)-10 技能の自己評価-語群別の「できる」割合-(男女別)

	男 子		女 子	
	中学1年生	中学3年生	中学1年生	中学3年生
〔調理方法〕に関する語群	70.0%	78.3%	77.3%	87.4%
〔献立〕に関する語群	66.5%	66.8%	80.6%	78.5%

技能の自己評価を語群別に表Ⅲ-2)-10 に示す。語群別の「できる」割合は、いずれの語群でも女子の方が男子より高くなり、その差は、〔調理方法〕に関する語群では男子で 8.3 ポイント、女子で 10.1 ポイント、〔献立〕に関する語群では男子で 0.3 ポイント、女子で 2.1 ポイントと、〔縫製方法〕に関する語群では男女ともに増加したが、〔献立〕に関する語群では男女ともにほとんど変わらず、有意差もみられなかった。

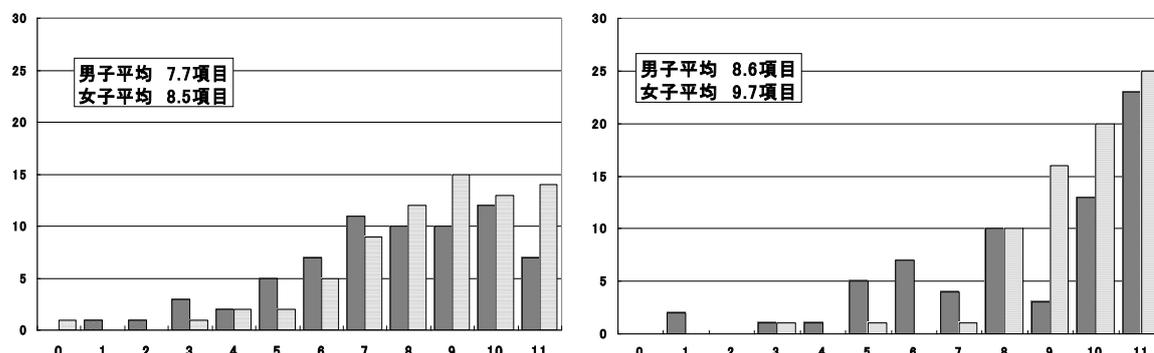
また、女子の中学1年生は〔献立〕に関する語群>〔調理方法〕に関する語群だったが、男子の中学1年生、中学3年生、女子の中学3年生は〔調理方法〕に関する語群>〔献立〕に関する語群となった。

【2-12:技能の自己評価<語群別「できる」項目数の変化(男女別)>】

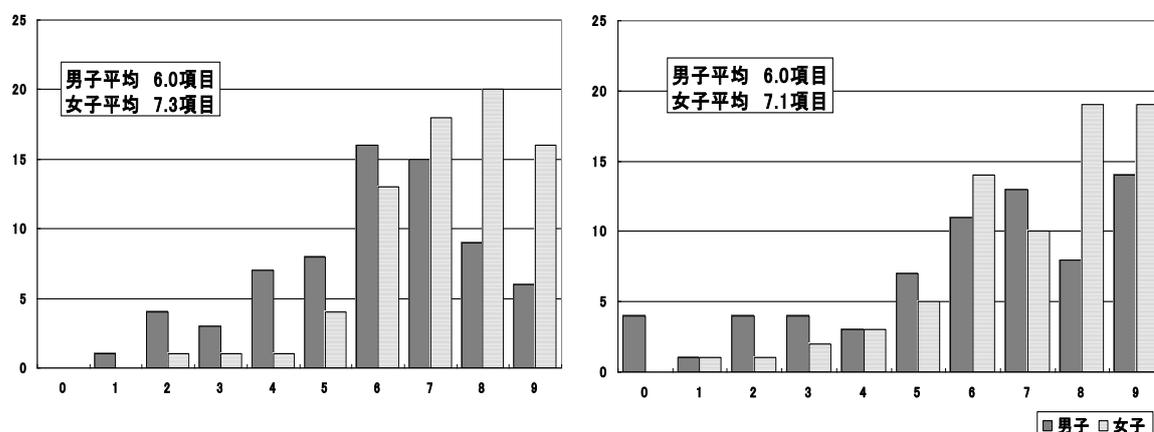
<中学1年生>

<中学3年生>

〔調理方法〕に関する語群



〔献立〕に関する語群



図Ⅲ-2)-18 技能の自己評価—語群別「できる」項目数の変化—(男女別)

技能の自己評価の「できる」と回答した項目数を調査年次ごとに語群別に図Ⅲ-2)-18に示す。

〔調理方法〕に関する語群では、男子では中学1年生で「できる」項目数は11項目中0項目から11項目に分布し、最も人数の多かった項目数は10項目で、中学3年生で「できる」項目数は11項目中1項目から11項目に分布し、最も人数の多かった項目は11項目だった。女子では中学1年生で「できる」項目数は11項目中0項目から11項目に分布し、最も人数の多かった項目は9項目で、中学3年生で「できる」項目数は11項目中3項目から11項目に分布し、最も人数の多かった項目は11項目だった。「できる」項目数の平均は、男子では中学1年生で7.7項目、中学3年生で8.6項目、女子では中学1年生で8.5項目、中学3年生で9.7項目といずれの学年も女子の方が高かった。

〔献立〕に関する語群では、男子では中学1年生で「できる」項目数は9項目中1項目から9項目に分布し、最も人数の多かった項目数は6項目だった。中学3年生で「できる」

項目数は9項目中0項目から9項目に分布し、最も人数が多かった項目数は9項目だった。女子では中学1年生で「できる」項目数は9項目中2項目から9項目に分布し、最も人数が多かった項目数は8項目で、中学3年生で「できる」項目数は9項目中1項目から9項目に分布し、最も人数が多かった項目は8項目と9項目だった。「できる」項目数の平均は、男子では中学1年生、中学3年生ともに6.0項目、女子では中学1年生で7.3項目、中学3年生で7.1項目といずれの学年も女子の方が高かった。

中学1年生と中学3年生の平均の「できる」項目数の差は、〔調理方法〕に関する語群では男子で0.9項目、女子で1.2項目、〔献立〕に関する語群は男子で0項目、女子で-0.2項目となり、〔調理方法〕に関する語群では男女とも増加したが、〔献立〕に関する語群では男子で差がみられず、女子ではわずかに減少した。

3. 被服製作用語と調理用語の比較

【3-1:用語に関する知識<語群別「知っている」割合>】

表Ⅲ-2)-11 用語に関する知識—語群別「知っている」割合—

		全 体		男 子		女 子	
		中学1年生	中学3年生	中学1年生	中学3年生	中学1年生	中学3年生
被服	被服製作用語全体	82.8%	87.8%	79.7%	84.0%	85.8%	91.3%
	〔用具〕に関する語群	87.3%	92.5%	86.1%	90.8%	88.5%	93.9%
	〔縫製方法〕に関する語群	82.1%	87.3%	77.7%	81.4%	86.2%	91.7%
	〔布・型紙〕に関する語群	72.4%	75.5%	67.8%	73.1%	76.7%	77.8%
調理	調理用語全体	88.3%	93.5%	86.3%	91.3%	90.1%	95.5%
	〔用具〕に関する語群	91.3%	96.6%	90.2%	95.4%	92.2%	97.7%
	〔調理方法〕に関する語群	84.3%	91.4%	81.0%	87.9%	87.3%	94.7%
	〔献立〕に関する語群	84.1%	86.7%	80.8%	83.1%	87.2%	90.1%

被服製作用語と調理用語の全体と語群別の「知っている」割合を語群別に表Ⅲ-2)-11に示す。被服製作用語と調理用語全体を比較すると、調理用語の方が「知っている」割合が高かった。

〔用具〕に関する語群の平均は、中学1年生、中学3年生ともに調理用語の方が高くなり、被服製作用語と調理用語の「知っている」割合の差は、全体では中学1年生で4.0ポイント、中学3年生で4.1ポイント、同様に男子では4.1ポイント、4.6ポイント、女子では3.7ポイント、3.6ポイントとなった。また、類似している語群である〔縫製方法〕と〔調理方法〕に関する語群でも、調理用語の方が高くなり、被服製作用語と調理用語の「知っている」割合の差は、全体では中学1年生で2.2ポイント、中学3年生で4.1ポイント、同様に男子では3.3ポイント、6.5ポイント、女子では1.1ポイント、3.0ポイントとなった。

【3-2: 技能の自己評価<語群別「できる」割合>】

表Ⅲ-2)-12 技能の自己評価—語群別「できる」割合—

		全 体		男 子		女 子	
		中学1年生	中学3年生	中学1年生	中学3年生	中学1年生	中学3年生
被 服	〔縫製方法〕に関する語群	77.9%	84.3%	73.8%	78.7%	81.6%	89.5%
	〔調理方法〕に関する語群	73.7%	83.1%	70.0%	78.3%	77.3%	87.4%
調 理	〔献立〕に関する語群	73.8%	72.9%	66.5%	66.8%	80.6%	78.5%

被服製作用語と調理用語の「できる」割合を語群別に表Ⅲ-2)-12 に示す。被服製作用語と調理用語の語群を全体で比較すると、中学1年生も中学3年生も〔縫製方法〕に関する語群の「できる」割合が最も高かった。

類似している語群である〔縫製方法〕に関する語群と〔調理方法〕に関する語群の「できる」割合を比較すると、中学1年生、中学3年生ともに〔縫製方法〕に関する語群の「できる」割合が高かった。中学1年生から中学3年生にかけての「できる」割合の差を比較すると、被服製作用語の〔縫製方法〕に関する語群と調理用語の〔調理方法〕に関する語群で、全体では〔縫製方法〕に関する語群は全体で6.4ポイント、男子で4.9ポイント、女子で6.9ポイントとなり、〔調理方法〕に関する語群は全体で9.4ポイント、男子で8.3ポイント、女子で10.1ポイントとなり、〔調理方法〕の方が大きかった、〔献立〕に関する語群では全体的に「できる」割合は維持された。

【まとめ】

1. 被服製作用語では、男女ともに中学1年生より中学3年生の方が、ほぼすべての項目で「知っている」、「できる」割合が維持または増加した。その一方で、〔縫製方法〕に関する語群の「知っている」、「できる」平均項目数は中学1年生から中学3年生にかけて増加した。しかし、中学3年生では中学1年生に比べて「知っている」、「できる」項目が少ない生徒が増加した。

「知っている」、「できる」割合が維持または増加した要因は、小学校で学んだ家庭科の内容に加え、中学校での家庭科学習の効果もあったと考えられる。

2. 調理用語では、全体的に中学1年生から中学3年生にかけて、「知っている」、「できる」割合は維持または増加した。しかし、〔献立〕に関する語群では、「できる」割合は女子でわずかに減少した。〔献立〕に関する用語は用具、調理方法、材料などを「知っている」ことと、いくつかの調理方法などが「できる」ことが求められる。そのため、献立は「知っている」ものの、「できる」ために必要な用具や調理方法を「知らなかった」り、「できなかった」ことが影響していると考えられる。

2. 被服製作用語と調理用語のうち類似している〔縫製方法〕と〔調理方法〕に関する語群を比較したところ、用語に関する知識では〔調理方法〕に関する語群の方が「知っている」割合は高かったが、技能の自己評価では、〔縫製方法〕に関する語群の方が高かった。

それは、調理技能について「知っている」と「できる」割合に差があるため、実際に目で見たりする機会があっても、実際にさまざまな調理方法を駆使して調理を行っている生徒が少ないことが考えられる。

3. 技能と「知っている」割合などとの関連

技能と「知っている」割合、学校以外での実践、自己肯定感に関する項目、ジェンダー観に関する項目との関連を表Ⅲ-4に示す。自己肯定感に関する項目とジェンダー観に関する項目は「心理測定尺度集Ⅰ」¹⁰⁾を参考に自己肯定感に関する項目10項目、ジェンダー観に関する項目2項目の計12項目作成した。自己肯定感に関する項目、ジェンダー観に関する項目を以下に示す。

＜自己肯定感に関する項目＞

- ① 自分には、自分なりのよさがあると思う
- ② 自分のよいところも悪いところも分かっている
- ③ 自分の夢をかなえたいと思う
- ④ 自分なりのよさを伸ばしたいと思う
- ⑤ 毎日がすごく楽しい
- ⑥ 自分の好きなことをやれていると思う
- ⑦ 友だちといると楽しい
- ⑧ 疑問を感じたらそれを堂々と言うことができる
- ⑨ 人前でもありのままの自分を出すことができる
- ⑩ 自分から友達に話しかけていく

＜ジェンダー観に関する項目＞

- ① 女子は、料理・そうじ・洗濯が上手な方がよいと思う
- ② 裁縫は女子のほうがむいていると思う

「Ⅱ家庭科（被服・調理）に関するアンケート調査」の「用語の技能に関する項目」（被服製作用語17項目、調理用語11項目）の「できる」割合と「用語の技能に関する項目」の「知っている」割合、学校以外での実践、自己肯定感に関する項目、ジェンダー観に関する項目とをそれぞれ掛け合わせ、以下の4つの仮説を検証した。その結果を表Ⅲ-3に示す。

- 仮説1. 被服製作技能や調理技能に関する知識が高い生徒は、技能程度も高い。
- 仮説2. 学校以外で実践している生徒は、技能程度が高い。
- 仮説3. 生活技能が高い人は、自己肯定感が高い。
- 仮説4. ジェンダーにとらわれている男子は、生活技能を積極的に習得しようとしなため、技能程度が低く、ジェンダーにとらわれている女子は、生活技能を積極的に習得しようとするため、技能程度が高い。

表Ⅲ-3 技能と「知っている」割合などとの関連

			中学1年生		中学3年生	
			男子	女子	男子	女子
「知っている」割合	被服製作技能		11/11	9/9	15/15	10/10
	調理技能		7/7	2/2	11/11	8/8
学校以外での実践	被服製作技能		4/4	4/4	2/2	3/3
	調理技能		5/5	3/3	6/6	5/5
自己肯定感に関する項目	被服製作技能		11/12	0/1	7/7	3/3
	調理技能		1/2	14/15	2/3	7/8
ジェンダー観に関する項目	被服製作技能	①	0/1	6/6	0/1	0/0
		②	0/1	1/1	1/1	0/0
	調理技能	①	1/1	1/1	0/0	0/1
		②	0/0	0/0	0/0	0/0

a/b; a は b のうち仮説を裏付ける項目数, b は有意差のみられた項目数

①:「女子は料理・掃除・洗濯が上手な方がよいと思う」

②:「裁縫は女子の方がむいていると思う」

(1)「知っている」割合との関連

有意差がみられた項目数は、被服製作技能で 45 項目、調理技能で 28 項目だった。そのうち仮説 1 を裏付ける項目は被服製作技能、調理技能ともにすべての項目でみられた。学年ごとにみると、特に中学 3 年生の男子で多く、調理技能との関連では 11 項目すべてで有意差がみられ、かつ仮説 1 を裏付けた。いずれの学年段階でも両者の関係が優位に認められ、被服製作技能や調理技能に関する知識が高い生徒は、技能程度も高いことが明らかになった。

このことから、知識の習得は技能程度を高めることにつながっていくことがわかった。

(2)学校以外での実践との関連

有意差がみられた項目数は被服製作技能では 13 項目、調理技能では 19 項目、そのうち仮説 2 を裏付ける項目は被服製作技能、調理技能ともにすべての項目でみられた。いずれの学年段階でも両者の関係が優位に認められ、被服製作技能や調理技能に関する知識が高い生徒は、技能程度も高いことが明らかとなり、仮説 2 は検証された。

このことから、学校以外での実践は技能程度を高めることにつながっていくことがわかった。

(3) 自己肯定感に関する項目との関連

有意差がみられた項目数は、被服製作技能で 23 項目、調理技能で 28 項目だった。そのうち仮説 3 を裏付ける項目は被服製作技能では 21 項目、調理技能では 24 項目だった。いずれの学年段階でも両者の関係が優位に認められ、自己肯定観が強い生徒は技能程度も高いことが明らかになった。特に被服製作用語では男子、調理用語では女子で有意差がみられた項目が多く、関連も強かった。

このことから、技能の習得は、自己肯定感を高めることにもつながり、結果的に児童・生徒の自信にもつながっていくことが推測された。

(4) ジェンダー観に関する項目との関連

有意差がみられた項目数は①と被服製作技能では 8 項目、調理技能では 3 項目、②と被服製作技能では 3 項目、調理技能では有意差のみられた項目はなかった。そのうち、仮説 4 を裏付ける項目は①と被服製作技能では 6 項目、調理技能では 2 項目、②と被服製作技能では 2 項目だった。

学年でみると、中学 1 年生の女子では被服製作技能との関連が強く、有意差のみられた 8 項目とも仮説を裏付けた。しかし、中学 3 年生の女子では仮説を検証した項目はなかった。男子では中学 1 年生では①と調理技能で、中学 3 年生では②と被服製作技能で関連がみられた。これらのことより、学年により違いがあるものの、ジェンダー観と技能とのかわりは男子よりも女子の方が強い傾向がみられ、中学 1 年生の女子では仮説 4 は検証されたと考える。また、中学 1 年生の男女で差がみられたことから、早い段階からジェンダー観を考慮した学習指導を行う必要があることがわかった。

4. 技能程度の「高まりがみられた／みられなかった」生徒の変容

○調査の概要

1) 調査目的

小学5年生から中学1年生、中学1年生から中学3年生にかけて技能程度の「高まりがみられた」生徒と「みられなかった」生徒とを比較し、技能程度を高めた要因を明らかにすることを目的とした。

2) 調査対象

調査対象者を特定するため、〔縫製方法〕17項目と〔調理方法〕11項目について、各調査年の一人一人の生徒が「できる」と回答した項目数の差を「2009年に『できる』と回答した項目数－2007年に『できる』と回答した項目数」によりみた。

被服製作技能の項目数の差を表Ⅲ－4に示す。被服製作技能では、2009年に中学1年生の項目数の差は＋1～＋16となり、中学3年生の項目数の差は－7～＋17となった。調理技能の項目数の差を表Ⅲ－5に示す。調理技能では、2009年に中学1年生の項目数の差は－3～＋9となり、中学3年生の項目数の差は－5～＋9となった。これを基に被服製作技能では中学1年生で14点以上、中学3年生で10点以上、調理技能では中学1年生、中学3年生とも6点以上を「高まりがみられた」生徒、被服製作技能では中学1年生で3点以下、中学3年生で－6点以下、調理技能では中学1年生で－2点以下、中学3年生で－4点以下を「高まりがみられなかった」生徒とした。「高まりがみられた」生徒は、被服製作技能では中学1年生で6人、中学3年生で3人、調理技能では中学1年生で5人、中学3年生で5人、「高まりがみられなかった」生徒は被服製作技能では中学1年生で6人、中学3年生で4人、調理技能では中学1年生で4人、中学3年生で3人となった。

ボタンつけの得点の差を表Ⅲ－6に示す。ボタンつけでは、ボタンつけの評価項目6項目を得点の差を「2009年の得点－2007年の得点」によりみた。2009年に中学1年生の項目数の差は－2～＋5となり、中学3年生の項目数の差は－2～＋5となった。これを基に中学1年生で3点以上、中学3年生で4点以上を「高まりがみられた」生徒、中学1年生、中学3年生で－2点以下を「高まりがみられなかった」生徒とした。

表Ⅲ-4 被服製作技能の項目数の差

2009年度中学1年生		2009年度中学3年生	
項目数の差	人数	項目数の差	人数
		-7	2
		-6	2
		-5	1
		-4	3
		-3	11
		-2	8
		-1	11
		0	27
1	1	1	25
2	1	2	17
3	4	3	10
4	4	4	8
5	4	5	5
6	7	6	3
7	7	7	4
8	6	8	2
9	4	9	1
10	4	10	1
11	8	11	0
12	11	12	0
13	8	13	0
14	3	14	0
15	2	15	0
16	1	16	1
		17	1

表Ⅲ-5 調理技能の項目数の差

2009年度中学1年生		2009年度中学3年生	
項目数の差	人数	項目数の差	人数
		-5	2
		-4	1
-3	2	-3	4
-2	2	-2	9
-1	5	-1	13
0	13	0	26
1	6	1	32
2	12	2	27
3	16	3	13
4	7	4	9
5	7	5	2
6	2	6	3
7	2	7	1
8	0	8	0
9	1	9	1

表Ⅲ-6 ボタンつけ得点の差

2009 年度中学1年生		2009 年度中学3年生	
得点の差	人数	得点の差	人数
-2	4	-2	5
-1	10	-1	11
0	24	0	37
1	23	1	33
2	8	2	37
3	4	3	15
4	1	4	2
5	1	5	3

3) 調査内容

①被服製作技能・調理技能「できる」と「知っている」との関連をみるために、被服製作技能と調理技能の各項目の得点の変化をみた。以下に得点を示す。

「できる」かつ「知っている」……………2点

「できない」かつ「知っている」……………1点

「できない」かつ「知らない」……………0点

「できる」かつ「知らない」……………-1点

この得点の変化により、小学5年生と中学1年生、中学1年生と中学3年生とを比較した。

②被服製作技能・調理技能「できる」と学校以外での実践との関連をみるために、被服製作技能と調理技能の各項目の得点の変化をみた。以下に得点を示す。

「できる」かつ学校以外での実践「あり」……………2点

「できない」かつ学校以外での実践「あり」……………1点

「できない」かつ学校以外での実践「ない」……………0点

「できる」かつ学校以外での実践「ない」……………-1点

この得点の変化により、小学5年生と中学1年生、中学1年生と中学3年生とを比較した。

③自己肯定感に関する項目 10 項目¹⁰⁾について、「高まりがみられた」生徒と「みられなかった」生徒の自己肯定感の項目数を比較した。

④ジェンダー観に関する項目 2 項目¹⁰⁾について、「高まりがみられた」生徒と「みられなかった」生徒の自己肯定感の項目数を比較した。

⑤「家庭科が楽しみか」、「裁縫が好きか」、「調理が好きか」、「家庭科が好きか」の4項目について「楽しみ」・「好き」の回答状況やその理由について、「高まりがみられた」

生徒と「みられなかった」生徒を比較した。

1. 小学5年生(2007年調査)・中学1年生(2009年度調査)

【1-1:被服製作技能「できる」と「知っている」との関連】

表Ⅲ-7 「高まりがみられた」生徒の項目別評価

	A(男子)		B(男子)		C(男子)		D(男子)		E(男子)		F(女子)	
	小5	中1										
「できる」項目数	3	17	3	17	2	17	2	17	3	17	0	16
針に糸を通す	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	2
玉結び	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	2
玉どめ	2	2	2	2	1	2	1	2	2	2	1	1
ぬいとり	0	2	0	2	0	2	0	2	0	2	1	2
ボタンつけ	0	2	0	2	0	2	1	2	1	2	1	2
しるしつけ	0	2	0	2	0	2	0	2	1	2	1	2
布の裁ち方	0	2	0	2	0	2	0	2	0	2	1	2
まち針のうち方	0	2	0	2	0	2	0	2	0	2	1	2
しつけ	0	2	0	2	0	2	0	2	0	2	0	2
二つ折り	0	2	1	2	0	2	0	2	0	2	0	2
三つ折り	0	2	1	2	0	2	0	2	0	2	0	2
並縫い	1	2	0	2	0	2	1	2	0	2	1	2
本返し縫い	1	2	1	2	0	2	1	2	0	2	0	2
半返し縫い	1	2	1	2	0	2	1	2	0	2	0	2
かがり縫い	1	2	1	2	0	2	0	2	0	2	0	2
ミシン縫い(直線)	0	2	0	2	0	2	0	2	0	2	1	2
ミシン縫い(角)	0	2	0	2	0	2	0	2	0	2	1	2

表Ⅲ－8 「高まりがみられなかった」生徒の項目別評価

	G(男子)		H(男子)		I(女子)		J(女子)		K(女子)		L(女子)	
	小5	中1										
「できる」項目数	8	11	0	2	8	11	14	17	12	15	16	17
針に糸を通す	2	2	1	2	2	1	2	2	2	1	2	2
玉結び	2	2	1	1	2	1	2	2	2	2	2	2
玉どめ	2	1	1	1	2	1	2	2	2	2	2	2
ぬいとり	0	2	0	1	2	2	2	2	2	2	2	2
ボタンつけ	2	2	0	0	2	1	2	2	2	2	2	2
しるしつけ	0	2	0	1	0	2	2	2	2	2	2	2
布の裁ち方	1	0	0	1	1	2	1	2	0	2	2	2
まち針のうち方	2	0	0	2	0	2	2	2	2	1	2	2
しつけ	2	2	0	1	0	2	1	2	0	2	2	2
二つ折り	2	0	1	1	2	2	2	2	2	2	1	2
三つ折り	2	0	1	1	2	0	2	2	2	2	2	2
並縫い	0	2	0	1	0	2	2	2	2	2	2	2
本返し縫い	0	1	0	1	2	2	2	2	2	2	2	2
半返し縫い	0	2	0	1	1	2	2	2	1	2	2	2
かがり縫い	0	2	0	1	1	2	1	2	1	2	2	2
ミシン縫い(直線)	0	2	0	1	0	2	2	2	2	2	2	2
ミシン縫い(角)	1	2	0	1	1	0	2	2	1	2	2	2

「高まりがみられた」生徒の項目別評価を表Ⅲ－7に、「高まりがみられなかった」生徒を表Ⅲ－8に示す。まず、「高まりがみられた生徒」は小学5年生の段階では0または1点だった項目が多かったが、中学1年生では2点になった項目が増えた。「ぬいとり」、「ボタンつけ」、「しるしつけ」、「布の裁ち方」、「まち針のうち方」、「しつけ」、「二つ折り」、「三つ折り」、「ミシン縫い(直線縫い)」、「ミシン縫い(角の曲がり方)」の10項目ではすべての生徒が0または1点から2点へ変化した。

「高まりがみられなかった」生徒は、0または1点から2点へ変化した項目がみられたが、2点から0または1点になった項目もみられた。しかし、「高まりがみられた」生徒の中で、2点から0または1点になった生徒がいなかった。JとLは小学5年生の段階から「できる」項目数が多かったため、「できる」項目数の差が小さかった。したがって、中学1年生では「できる」項目数が17項目すべてだった。

【1-2:被服製作技能「できる」と学校以外での実践との関連】

表Ⅲ-9 「高まりがみられた」生徒の項目別評価

	A(男子)		B(男子)		C(男子)		D(男子)		E(男子)		F(女子)	
	小5	中1										
「できる」項目数	3	17	3	17	2	17	2	17	3	17	0	16
針に糸を通す	-1	2	-1	2	2	2	-1	2	-1	2	1	2
玉結び	-1	2	-1	2	2	2	-1	2	-1	2	1	2
玉どめ	-1	2	-1	2	1	2	0	2	-1	2	1	1
ぬいとり	0	2	0	2	1	2	0	2	0	2	1	2
ボタンつけ	0	2	0	2	1	2	0	2	0	2	1	2
しるしつけ	0	2	0	2	1	2	0	2	0	2	1	2
布の裁ち方	0	2	0	2	1	2	0	2	0	2	1	2
まち針のうち方	0	2	0	2	1	2	0	2	0	2	1	2
しつけ	0	2	0	2	1	2	0	2	0	2	1	2
二つ折り	0	2	0	2	1	2	0	2	0	2	1	2
三つ折り	0	2	0	2	1	2	0	2	0	2	1	2
並縫い	0	2	0	2	1	2	0	2	0	2	1	2
本返し縫い	0	2	0	2	1	2	0	2	0	2	1	2
半返し縫い	0	2	0	2	1	2	0	2	0	2	1	2
かがり縫い	0	2	0	2	1	2	0	2	0	2	1	2
ミシン縫い(直線)	0	2	0	2	1	2	0	2	0	2	1	2
ミシン縫い(角)	0	2	0	2	1	2	0	2	0	2	1	2

表Ⅲ－10 「高まりがみられなかった」生徒の項目別評価

	G(男子)		H(男子)		I(女子)		J(女子)		K(女子)		L(女子)	
	小5	中1										
「できる」項目数	8	11	0	2	8	11	14	17	12	15	16	17
針に糸を通す	-1	2	0	-1	2	0	2	2	2	0	2	2
玉結び	-1	2	0	0	2	0	2	2	2	-1	2	2
玉どめ	-1	1	0	-1	2	0	2	2	2	-1	2	2
ぬいとり	0	2	0	-1	2	-1	2	2	2	-1	2	2
ボタンつけ	-1	2	0	-1	2	0	2	2	2	-1	2	2
しるしつけ	0	2	0	-1	1	-1	2	2	2	-1	2	2
布の裁ち方	0	1	0	-1	1	-1	1	2	1	-1	2	2
まち針のうち方	-1	1	0	0	1	-1	2	2	2	0	2	2
しつけ	-1	2	0	-1	1	-1	1	2	1	-1	1	2
二つ折り	-1	1	0	-1	2	-1	2	2	2	-1	2	2
三つ折り	-1	1	0	-1	2	0	2	2	2	-1	2	2
並縫い	0	2	0	-1	1	-1	2	2	2	-1	2	2
本返し縫い	0	1	0	-1	2	-1	2	2	2	-1	2	2
半返し縫い	0	2	0	-1	1	-1	2	2	1	-1	2	2
かがり縫い	0	2	0	-1	1	-1	1	2	1	-1	2	2
ミシン縫い(直線)	0	2	0	-1	1	-1	2	2	2	-1	2	2
ミシン縫い(角)	0	2	0	-1	1	0	2	2	1	-1	2	2

「高まりがみられた」生徒の項目別評価を表Ⅲ－9に、「高まりがみられなかった」生徒を表Ⅲ－10に示す。まず、「高まりがみられた生徒」は小学5年生の段階では2点だった項目がなかったが、中学1年生では2点になった項目が増えた。学校以外での実践が「ある」と回答した生徒は小学5年生ではCとFの2人だったが、中学1年生では6人全員だった。

「高まりがみられなかった」生徒は、-1または0点から2点へ変化した項目がみられたのはGのみで、その他の生徒では2点から-1点になった項目もみられた。しかし、「高まりがみられた」生徒の中で、2点から-1または0点になった生徒がいなかった。学校以外での実践が「ある」と回答した生徒は小学5年生ではI、J、K、Lの4人だったが、中学1年生ではG、J、K、Lの4人と変わらず、「高まりがみられた」生徒と差がみられた。「できる」項目数が17項目すべてだったJとLは小学5年生、中学1年生ともに学校以外での経験は「あり」と回答した。

【1-3:被服製作技能「できる」と自己肯定感との関連】

表Ⅲ-11 と表Ⅲ-12 は「高まりがみられた」生徒と「みられなかった」生徒で、自己肯定感に関する項目 10 項目について、「はい」と回答した項目数を表にしたものである。K と L は調査日に欠席したので調査できなかった。

「高まりがみられた」生徒と「みられなかった」生徒の平均項目数を比較すると、前者が 7.7 項目、後者が 7.8 項目と差はほとんどみられなかった。10 点だった生徒は D、F、I、J の 4 人で、「高まりがみられなかった」生徒である I、J は小学 5 年生から「できる」項目数が比較的多かった。「できる」項目数が小学 5 年生で 0 項目、中学 1 年生で 2 項目だった H は「はい」と回答した項目は 5 項目だった。

表Ⅲ-11 「高まりがみられた」生徒の「できる」と自己肯定感との関連

A	B	C	D	E	F
8	6	8	10	4	10

表Ⅲ-12 「高まりがみられなかった」生徒の「できる」と自己肯定感との関連

G	H	I	J	K	L
6	5	10	10		

【1-4:被服製作技能「できる」とジェンダー観との関連】

表Ⅲ-13 と表Ⅲ-14 は「高まりがみられた」生徒と「みられなかった」生徒で、ジェンダー観に関する項目 2 項目についての回答状況を表にしたものである。K と L は調査日に欠席したので調査できなかった。

「高まりがみられた」生徒では、2 項目とも「はい」と回答した生徒は A、C、D の男子のみでみられた。女子の F は①は「はい」、②は「いいえ」と回答した。

「高まりがみられなかった」生徒では、2 項目とも「はい」と回答した生徒は男子の G と女子の J であり、2 項目とも「いいえ」と回答したのは男子の H と女子の I だった。以上より、被服製作技能とジェンダー観の間では関連はあまりみられなかった。

表Ⅲ-13 「高まりがみられた」生徒の「できる」とジェンダー観との関連

項目	A	B	C	D	E	F
①	○	×	○	○	○	○
②	○	○	○	○	×	×

太字: 男子

表Ⅲ-14 「高まりがみられなかった」生徒の「できる」とジェンダー観との関連

項目	G	H	I	J	K	L
①	○	×	×	○		
②	○	×	×	○		

太字: 男子

【1-5:調理技能「できる」と「知っている」との関連】

表Ⅲ-15 「高まりがみられた」生徒の項目別評価

	M(男子)		N(女子)		O(男子)		P(男子)		Q(女子)	
	小5	中1								
「できる」項目数	4	10	5	11	3	10	0	9	3	10
米の洗い方	2	2	1	2	2	2	1	2	2	2
ごはんの炊き方	1	2	1	2	0	2	0	2	1	2
ゆでる	2	2	2	2	1	2	1	2	1	2
焼く	2	2	2	2	1	2	1	2	2	2
炒める	2	2	2	2	1	2	1	2	1	2
蒸らす	0	1	0	2	1	2	0	2	0	1
くし切り	0	2	0	2	0	0	0	0	0	2
輪切り	1	2	0	2	2	2	0	2	1	2
せん切り	1	2	2	2	2	2	0	2	1	2
薄切り	1	2	2	2	1	2	0	2	2	2
たんざく切り	0	2	0	2	0	2	0	1	1	2

表Ⅲ-16 「高まりがみられなかった」生徒の項目別評価

	G(男子)		S(男子)		T(男子)		L(女子)	
	小5	中1	小5	中1	小5	中1	小5	中1
「できる」項目数	6	3	8	5	9	7	11	9
米の洗い方	2	0	2	2	2	2	2	2
ごはんの炊き方	2	0	1	1	2	2	2	2
ゆでる	2	0	2	2	2	2	2	2
焼く	2	2	2	2	2	2	2	2
炒める	1	2	2	2	2	2	2	2
蒸らす	1	0	0	1	0	1	2	1
くし切り	1	0	0	0	2	0	2	0
輪切り	2	0	2	0	1	1	2	2
せん切り	2	1	2	2	2	2	2	2
薄切り	1	1	2	1	2	2	2	2
たんざく切り	1	2	2	1	2	0	2	2

「高まりがみられた」生徒の項目別評価を表Ⅲ-15に、「高まりがみられなかった」生徒を表Ⅲ-16に示す。まず、「高まりがみられた生徒」は小学5年生の段階では0または1点だった項目もみられたが、中学1年生ではほぼすべての項目で2点となった。「ごはんの炊き方」、「たんざく切り」の2項目ではすべての生徒が0または1点から2点へ変化した。

「高まりがみられなかった」生徒は、小学5年生では2点だった項目が多かった。しかし、中学1年生になって0点になった項目が全員にみられた。一方、「高まりがみられた」生徒の中で、2点から0点になった生徒はいなかった。

【1-6:調理技能「できる」と学校以外での実践との関連】

表Ⅲ-17 「高まりがみられた」生徒の項目別評価

	M(男子)		N(女子)		O(男子)		P(男子)		Q(女子)	
	小5	中1								
「できる」項目数	4	10	5	11	3	10	0	9	3	10
米の洗い方	-1	2	1	2	2	2	1	2	2	2
ごはんの炊き方	0	2	1	2	1	2	1	2	1	2
ゆでる	-1	2	2	2	1	2	1	2	1	2
焼く	-1	2	2	2	1	2	1	2	2	2
炒める	-1	2	2	2	1	2	1	2	1	2
蒸らす	0	1	1	2	1	2	1	2	1	1
くし切り	0	2	1	2	1	1	1	1	1	2
輪切り	0	2	1	2	2	2	1	2	1	2
せん切り	0	2	2	2	2	2	1	2	1	2
薄切り	0	2	2	2	1	2	1	2	2	2
たんざく切り	0	2	1	2	1	2	1	1	1	2

表Ⅲ-18 「高まりがみられなかった」生徒の項目別評価

	G(男子)		S(男子)		T(男子)		L(女子)	
	小5	中1	小5	中1	小5	中1	小5	中1
「できる」項目数	6	3	8	5	9	7	11	9
米の洗い方	2	0	-1	2	2	2	2	2
ごはんの炊き方	2	0	0	1	2	2	2	2
ゆでる	2	0	-1	2	2	2	2	2
焼く	2	-1	-1	2	2	2	2	2
炒める	1	-1	-1	2	2	2	2	2
蒸らす	1	0	0	1	1	1	2	1
くし切り	1	0	0	1	2	1	2	1
輪切り	2	0	-1	1	1	1	2	2
せん切り	2	0	-1	2	2	2	2	2
薄切り	1	0	-1	1	2	2	2	2
たんざく切り	1	-1	-1	1	2	1	2	2

「高まりがみられた」生徒の項目別評価を表Ⅲ-17に、「高まりのみられなかった」生徒を表Ⅲ-18に示す。まず、「高まりがみられた」生徒は小学5年生の段階では2点だった項目はNにしかみられなかったが、中学1年生では2点になった項目が増え、全員がすべての項目、あるいはほとんどの項目が2点になった。学校以外での実践が「ある」と回答した生徒は小学5年生ではN、O、P、Qの4人だったが、中学1年生では5人全員だった。

「高まりがみられなかった」生徒は、小学5年生でS以外は2点だった項目がみられた。しかし、中学1年生ではRが2点から-1または0点に変化した。学校以外での実践が「ある」と回答した生徒は小学5年生、中学1年生ともにR、T、Uの3人と変わらなかった。

【1-7:調理技能「できる」と自己肯定感との関連】

表Ⅲ-19と表Ⅲ-20は「高まりがみられた」生徒と「みられなかった」生徒で、自己肯定感に関する項目10項目について、「はい」と回答した項目数を表にしたものである。TとLは調査日に欠席したので調査できなかった。

「高まりがみられた」生徒と「みられなかった」生徒の平均項目数を比較すると、前者が7.6項目、後者が7.0項目と「高まりがみられた」生徒の方が高かった。10項目だった生徒はMのみで、その他の生徒は6項目から8項目に分布した。Sのように、「高まりがみられなかった」生徒の中にも自己肯定感が強い生徒もいることがわかった。

表Ⅲ-19 「高まりがみられた」生徒の「できる」と自己肯定感との関連

M	N	O	P	Q
10	6	7	6	9

表Ⅲ-20 「高まりがみられなかった」生徒の「できる」と自己肯定感との関連

G	S	T	L
6	8	/	/

【1-8:調理技能「できる」とジェンダー観との関連】

表Ⅲ-21 と表Ⅲ-22 は「高まりがみられた」生徒と「みられなかった」生徒で、ジェンダー観に関する項目 2 項目についての回答状況を表にしたものである。T と L は調査日に欠席したので調査できなかった。

「高まりがみられた」生徒では、2 項目とも「はい」と回答した生徒は男子の M のみでみられた。女子の N と F はともに①は「いいえ」、②は「はい」と回答した。

「高まりがみられなかった」生徒では、男子の G と S はともに 2 項目とも「はい」と回答しており、「高まりがみられなかった」生徒の男子では被服製作技能とジェンダー観との関連がみられた。

表Ⅲ-21 「高まりがみられた」生徒の「できる」とジェンダー観との関連

項目	M	N	O	P	Q
①	○	×	×	○	×
②	○	○	○	×	○

太字:男子

表Ⅲ-22 「高まりがみられなかった」生徒の「できる」とジェンダー観との関連

項目	G	S	T	L
①	○	○		
②	○	○		

太字:男子

【1-9:被服製作用語「高まりがみられた／みられなかった」生徒の意欲に関する項目などの比較】

表Ⅲ-23 「高まりがみられた」生徒の変容

		A(男子)		B(男子)		C(男子)		D(男子)		E(男子)		F(女子)	
		被服	調理	被服	調理	被服	調理	被服	調理	被服	調理	被服	調理
「できる」項目数※1		3⇒17	7⇒9	3⇒17	5⇒5	2⇒17	1⇒4	2⇒17	5⇒10	3⇒17	10⇒10	0⇒16	10⇒10
「知っている」・「できる」との関連(項目数)※2	0⇒2	10	0	9	0	14	1	10	2	12	0	6	0
	1⇒2	4	2	5	1	1	3	5	3	2	1	10	1
	2⇒1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0
	2⇒0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
家庭科が楽しみか		楽しみではない		楽しみ		楽しみ		楽しみ		楽しみ		楽しみ	
裁縫が好きか理由		どちらかという嫌い		どちらかという嫌い		どちらかという嫌い		どちらかという好き		とても好き		とても嫌い	
		手をケガしたりするから。		糸を通すのとミシンの準備が大変で面倒くさいから。		苦手だから、頑張ってもうまくいかないから。		細かい作業が面白いから。手順を覚えるのが楽しいから。		自分の手で好きなものが作れるから。		玉どめもできないし、針に糸が通らないから。	
調理が好きか理由		とても好き		とても好き		どちらかという好き		とても好き		どちらかという好き		とても好き	
		頑張ればおいしいものが食べられるから。		いろいろなものを他の人たちといっしょに準備してみんなでおいしいものを食べられるから。		将来のためにもなり、楽しいから。		実験のようで楽しいから。「こうしたらこんな味になる」と予想して味付けや盛り付けをするのが面白いから。		切るのが好きだから。		得意だし、試食が楽しいから。	
家庭科が好きか理由		どちらかという好き		どちらかという好き		どちらかという好き		どちらかという好き		どちらかという好き		どちらかという好き	
		特に調理が好きだから。		おいしいものを食べられるから。縫い物もできるから。		自分のためになるものが多いから。		実際の生活に役立つから。		好きなものが作れて、使ったり、食べたりできるから。		調理が楽しいから。	

表Ⅲ-24 「高まりがみられなかった」生徒の変容

	G(男子)		H(男子)		I(女子)		J(女子)		K(女子)		L(女子)		
	被服	調理	被服	調理	被服	調理	被服	調理	被服	調理	被服	調理	
「できる」項目数※ ¹	8⇒11	6⇒3	0⇒2	6⇒11	8⇒11	10⇒9	14⇒17	10⇒11	12⇒15	9⇒8	16⇒17	11⇒9	
「知っている」・「できる」との関連(項目数)※ ²	0⇒2	6	0	1	3	5	0	0	0	2	0	0	0
	1⇒2	1	2	1	2	3	0	3	1	3	0	1	0
	2⇒1	1	1	0	0	4	0	0	0	2	0	0	1
	2⇒0	3	4	0	0	1	1	0	0	0	1	0	1
家庭科が楽しみか	楽しみ		楽しみではない		楽しみ		楽しみ		楽しみ		楽しみ		
裁縫が好きか理由	どちらかという嫌い		どちらかという嫌い		どちらかという好き		どちらかという好き		どちらかという好き		どちらかという好き		
	苦手だから。		裁縫の玉結びや玉どめができないから。		「とても好き」ではないが、「好き」だから。		裁縫で覚えたことが多いから。		嫌いではないが、苦手だから。		楽しいが、少し難しいから。		
調理が好きか理由	とても好き		とても好き		とても好き		とても好き		とても好き		とても好き		
	ご飯がおいしいから。		朝ごはんが自分で作るから。		楽しいから。		みんなで作るの楽しいから。		楽しいから。		すごく楽しいから。		
家庭科が好きか理由	とても好き		どちらかという嫌い		どちらかという好き		とても好き		とても好き		とても好き		
	調理は楽しいから。		裁縫が苦手だから。		料理は楽しいが、裁縫は苦手だから。		作ったりすることがあるから。		楽しいし、家でもできるから。		調理実習やもの作りなどが楽しいから。		

※1「できる」項目数：小学5年生⇒中学1年生

※2「知っている」と「できる」との関連(項目数)：「知っている」かつ「できる」を2点、「知っている」かつ「できない」を1点、「知らない」かつ「できない」を0点、「知らない」かつ「できる」を-1点とし、中1(点)⇒中3(点)の変化を項目数で表した。※¹

被服製作用語で「高まりがみられた」生徒と「高まりがみられなかった」生徒の「知っている」と「できる」との関連や家庭科の意欲に関する項目について比較したものを表Ⅲ-23と表Ⅲ-24に示す。「高まりがみられた生徒」では、中学1年生になって2点、つまり「知っている」かつ「できる」が多くなり、「高まりがみられなかった」生徒では、2点から0点、つまり「知らない」かつ「できない」、2点から1点、つまり「知っている」かつ「できない」が多くなった。このことより、「知っている」と「できる」とは関連があり、知識の習得は技能の向上につながるということが明らかとなった。

家庭科が「楽しみか」・「好きか」という項目では、「高まりがみられた」生徒では、家庭科や調理では「楽しみ」や「好き」と回答したが、裁縫に関しては「どちらかという嫌い」と回答した生徒が3人だった。DとEはすべての項目で「楽しみ」・「好き」と回答した。裁縫が嫌いと回答した理由は「ケガをする」(A)、「面倒」(B、C)、「玉どめができない」

いし、針に糸が通らないから」(F) だった。一方、「楽しみ」・「好き」と回答した理由は、「将来のためになる」(C)、「自分のためになる」(C)、「こうしたらこのような味付けになると予想して実践できるから」(E) という回答がみられた。一方、「高まりがみられなかった」生徒でも「楽しみ」・「好き」と回答した生徒が多かった。

その理由として最も多かったのが「楽しいから」(G、I、J、K、L) だった。裁縫が「どちらかという嫌い」と回答した理由は、「苦手だから」(G)、「できないから」(H) だった。

「高まりがみられた生徒」と「みられなかった」生徒ではほとんどの生徒は「楽しみ」・「好き」と回答していたが、その理由では「高まりがみられた」生徒では、「実際の生活に役立つから」、「将来のためになるから」などの家庭科の意義に触れている記述が多かったが、「高まりがみられなかった」生徒では「楽しい」が多く、記述内容に大きな違いがあることがわかった。

【1-10:調理用語「高まりがみられた／みられなかった」生徒の意欲に関する項目などの比較】

表Ⅲ-25 「高まりがみられた」生徒の変容

		M(男子)		N(女子)		O(男子)		P(男子)		Q(女子)	
		被服	調理	被服	調理	被服	調理	被服	調理	被服	調理
「できる」項目数※ ¹		4⇒16	4⇒10	6⇒17	5⇒11	2⇒15	3⇒10	2⇒13	0⇒9	4⇒16	3⇒10
「知っている」・ 「できる」との関 連(項目数)※ ²	0⇒2	6	2	4	4	8	2	8	5	7	1
	1⇒2	6	4	7	2	5	5	3	4	6	6
	2⇒1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	2⇒0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
家庭科が楽しみか		楽しみ		楽しみ		楽しみではない		楽しみ		楽しみ	
裁縫が好きか 理由		とても好き		とても好き		どちらかというと嫌い		どちらかというと好き		どちらかというと嫌い	
		細かい作業が好きだから。		自分の手でいろいろなものが作れて楽しいから。		裁縫が難しいから。		作った後がうれしく、達成感があるから。		失敗するとすっきりしないから。	
調理が好きか 理由		とても好き		とても好き		どちらかというと好き		とても好き		とても好き	
		食べるのが好きだから。		みんなが食べてくれるのがうれしいから。作るのが楽しいから。		いろいろな作られて楽しいから。		簡単ですぐでき、役立つから。おいしくできるから。		楽しいから。	
家庭科が好きか 理由		とても好き		とても好き		どちらかというと嫌い		とても好き		とても好き	
		楽しいし、調理ができるから。		新しい縫い方や調理の仕方などを知ることができるから。		裁縫の仕方を忘れてしまうから。		料理を作るから。		先生が面白いし、生活に役立つから。	

表Ⅲ-26 「高まりがみられなかった」生徒の変容

		G(男子)		R(男子)		S(男子)		L(女子)	
		被服	調理	被服	調理	被服	調理	被服	調理
「できる」項目数※1		8⇒11	6⇒3	8⇒14	8⇒5	7⇒17	9⇒7	16⇒17	11⇒9
「知っている」・ 「できる」との 関連(項目数) ※2	0⇒2	6	0	4	0	7	0	0	0
	1⇒2	1	2	3	0	3	0	1	0
	2⇒1	1	1	1	2	0	0	0	1
	2⇒0	3	4	0	1	0	2	0	1
家庭科が楽しみか		楽しみ		楽しみ		楽しみ		楽しみ	
裁縫が好きか 理由		どちらかという嫌い		どちらかという好き		どちらかという嫌い		どちらかという好き	
		苦手だから。		裁縫は苦手だけ ど楽しいから。		不器用だから。		楽しいが、少 し難しいから。	
調理が好きか 理由		とても好き		どちらかという好き		どちらかという好き		とても好き	
		ご飯がおいし いから。		何かを作ること が好きだから。		楽しいから。		すごく楽しい から。	
家庭科が好きか 理由		とても好き		どちらかという好き		どちらかという好き		とても好き	
		調理は楽しい から。		調理が好きだ から。		楽しいから。		調理実習やもの作り などが楽しいから。	

※1「できる」項目数：小学5年生⇒中学1年生

※2「知っている」と「できる」との関連(項目数)：「知っている」かつ「できる」を2点、「知っている」かつ「できない」を1点、「知らない」かつ「できない」を0点、「知らない」かつ「できる」を-1点とし、中1(点)⇒中3(点)の変化を項目数で表した。※1

調理用語で「高まりがみられた」生徒と「高まりがみられなかった」生徒の「知っている」と「できる」との関連や家庭科の意欲に関する項目について比較したものを表Ⅲ-25と表Ⅲ-26に示す。「高まりがみられた生徒」では、中学1年生になって2点、つまり「知っている」かつ「できる」が多くなり、「高まりがみられなかった」生徒では、2点から0点、つまり「知らない」かつ「できない」、2点から1点、つまり「知っている」かつ「できない」が多くなった。このことより、「知っている」と「できる」とは関連があり、知識の習得は技能の向上につながるということが明らかとなった。

家庭科が「楽しみか」・「好きか」という項目では、「高まりがみられた」生徒では、調理では全員「好き」と回答したが、裁縫に関しては「どちらかという嫌い」と回答した生徒が2人だった。M、N、Pはすべての項目で「楽しみ」・「好き」と回答した。裁縫が嫌いという理由「裁縫が難しい」(O)、「失敗するとすっきりしない」(Q)だった。一方、「楽しみ」・「好き」と回答した理由で最も多かったのが、「楽しいから」(M、N、O、Q)だったが、中には「作ったあとに達成感がある」(P)、「役立つ」(P、Q)という回答がみ

られた。一方、「高まりがみられなかった」生徒でも「楽しみ」・「好き」と回答した生徒が多かった。その理由として最も多かったのが「楽しい、好きだから」(G、R、S、T)で、「高まりがみられた」生徒でみられた「達成感」や「役立つ」という記述はみられなかった。裁縫が「どちらかという嫌い」と回答した理由は、「苦手だから」(G)、「不器用だから」(H)だった。

「高まりがみられた生徒」と「みられなかった」生徒ではほとんどの生徒は「楽しみ」・「好き」と回答していたが、その理由では「高まりがみられた」生徒では家庭科の意義に触れている記述がみられたが、「高まりがみられなかった」生徒では「楽しい」が多く、記述内容に大きな違いがあることがわかった。

【1-11:ボタンつけ「高まりがみられた／みられなかった」生徒の意欲に関する項目などの比較】

表Ⅲ-27 「高まりがみられた」生徒の変容

		T(男子)		U(男子)		V(男子)		W(男子)		X(男子)		H(男子)	
		小5	中1	小5	中1	小5	中1	小5	中1	小5	中1	小5	中1
ボタンつけ得点※1		3⇒6		1⇒5		3⇒6		3⇒6		2⇒5		0⇒5	
ボタンつけ 項目別評 価※2	①	×	○	×	○	×	○	○	○	×	○	×	○
	②	○	○	×	×	○	○	○	○	×	×	×	○
	③	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○	×	○
	④	×	○	×	○	○	○	×	○	○	○	×	○
	⑤	×	○	×	○	×	○	○	○	×	○	×	×
	⑥	○	○	○	○	×	○	×	○	×	○	×	○
家庭科が楽しみか		楽しみ		楽しみ		楽しみ		楽しみ		楽しみ		楽しみではない	
裁縫が好きか 理由		どちらかというと嫌い		どちらかというと好き		どちらかというと好き		どちらかというと嫌い		どちらかというと嫌い		どちらかというと嫌い	
		できないから。		裁縫するのは好きだが、針に糸を通すのが大嫌いだから。		上手でできた時、達成感があり、うれしいから。		手先が器用ではないから。		針が手に刺さり、痛いから。		裁縫の玉結びや玉どめができないから。	
調理が好きか 理由		どちらかというと好き		とても好き		どちらかというと好き		とても好き		とても好き		とても好き	
		得意だから。		調理した料理を食べるのも、包丁を使うのが好きだから。		上手にできるとうれしいから。		調理は楽しいから。		火とナイフが好きだから。		朝ごはんが自分で作るから。	
家庭科が好きか 理由		どちらかというと嫌い		とても好き		どちらかというと好き		どちらかというと好き		とても好き		どちらかというと嫌い	
		上手くできないから。		食べたり、作品を作るのが好きだから。		難しいことが多いが、できるとうれしいから。		裁縫が少し苦手だけど、好きだから。		人が喜んでくれるとうれしいから。		裁縫が苦手だから。	

表Ⅲ-28 「高まりがみられなかった」生徒の変容

	A(男子)		R(男子)		Y(女子)		O(男子)	
	小5	中1	小5	中1	小5	中1	小5	中1
「できた」項目数※1	6⇒4		6⇒4		6⇒4		6⇒4	
ボタンつけ 項目別評価※2	①	○	○	○	○	○	○	○
	②	○	○	○	○	○	○	×
	③	○	×	○	×	○	×	×
	④	○	×	○	×	○	○	○
	⑤	○	○	○	○	○	○	○
	⑥	○	○	○	○	○	×	○
家庭科が楽しみか	楽しみではない		楽しみ		楽しみ		楽しみではない	
裁縫が好きか	どちらかというと嫌い		どちらかというと好き		とても好き		どちらかというと嫌い	
	手をケガしたりするから。		裁縫は苦手だけど楽しいから。		上手にできるとうれしいし、得意だから。		裁縫が難しいから。	
調理が好きか	とても好き		どちらかというと好き		とても好き		どちらかというと好き	
	頑張ればおいしいものが食べられるから。		何かを作ることが好きだから。		大好きで、家でも手伝いをしていて、得意だから。		いろいろ作れて楽しいから。	
家庭科が好きか	どちらかというと好き		どちらかというと好き		とても好き		どちらかというと嫌い	
	特に調理が好きだから。		調理が好きだから。		楽しいし、面白いから。得意だから。		裁縫の仕方を忘れてしまうから。	

※1「できる」項目数：小学5年生⇒中学1年生

※2ボタンつけ項目別評価：①玉結びができていない、②ボタンの穴に糸が3～4回かけてある、③ボタンと布の間が布1枚分浮いている、④ボタンの下で糸が固く巻けている、⑤玉どめができていない、⑥布がつれていない

ボタンつけで「高まりがみられた」生徒と「高まりがみられなかった」生徒のボタンつけの項目別評価や家庭科の意欲に関する項目について比較したものを表Ⅲ-27と表Ⅲ-28に示す。「高まりがみられた生徒」における項目別評価は、すべての項目で「×」から「○」に変化した項目がみられ、特に「①玉結びができていない」と「⑤玉どめができていない」ではそれぞれ6人中5人が「×」から「○」に変化した。一方、「高まりがみられなかった」生徒では、「①玉結びができていない」と「⑤玉どめができていない」では、小学5年生、中学1年生ともに全員「○」だったが、「③ボタンと布の間が布1枚分浮いている」では4人すべて「○」から「×」に変化した。

家庭科が「楽しみか」・「好きか」という項目では、「高まりがみられた」生徒では、家庭

科や調理では「楽しみ」や「好き」と回答したが、裁縫に関しては「どちらかという嫌い」と回答した生徒が4人だった。UとVはすべての項目で「楽しみ」・「好き」と回答した。裁縫が嫌いと回答した理由は「できないから」(T)、「器用ではないから」(T)、「針が手に刺さって痛いから」(X)だった。一方、「楽しみ」・「好き」と回答した理由は、「上手にできたとき達成感があり、うれしいから」(V)、「人が喜んでくれるから」(X)という回答がみられた。一方、「高まりがみられなかった」生徒でも「楽しみ」・「好き」と回答した生徒が多かった。

その理由として最も多かったのが「楽しいから」(R、Y、O)だった。裁縫が「どちらかという嫌い」と回答した理由は、「難しいから」(O)、「できないから」(H)だった。

「高まりがみられた生徒」と「みられなかった」生徒ではほとんどの生徒は「楽しみ」・「好き」と回答していたが、その理由では「高まりがみられた」生徒では家庭科の意義に触れている記述が多かったが、「高まりがみられなかった」生徒では「楽しい」が多く、記述内容に違いがみられた。

2. 中学1年生(2007年調査)・中学3年生(2009年度調査)

【2-1:被服製作技能「できる」と「知っている」との関連】

表Ⅲ-29 「高まりがみられた」生徒の項目別評価

	a(男子)		b(女子)		c(女子)	
	中1	中3	中1	中3	中1	中3
「できる」項目数	5	15	0	17	0	16
針に糸を通す	2	2	0	2	1	2
玉結び	2	2	0	2	1	2
玉どめ	2	2	0	2	0	2
ぬいとり	0	2	0	2	0	1
ボタンつけ	2	2	0	2	1	2
しるしつけ	0	2	0	2	1	2
布の裁ち方	0	0	0	2	0	2
まち針のうち方	0	2	0	2	0	2
しつけ	0	1	0	2	0	2
二つ折り	0	2	0	2	0	2
三つ折り	0	2	0	2	0	2
並縫い	2	2	0	2	1	2
本返し縫い	1	2	0	2	0	2
半返し縫い	1	2	0	2	0	2
かがり縫い	1	2	0	2	0	2
ミシン縫い(直線)	1	2	0	2	0	2
ミシン縫い(角)	0	2	0	2	0	2

表Ⅲ－30 「高まりがみられなかった」生徒の項目別評価

	d(男子)		e(男子)		f(男子)		g(男子)	
	中1	中3	中1	中3	中1	中3	中1	中3
「できる」項目数	12	5	10	4	12	6	13	5
針に糸を通す	2	2	2	2	2	2	2	2
玉結び	2	2	2	2	2	2	2	2
玉どめ	2	2	2	1	2	2	2	0
ぬいとり	0	0	0	0	0	0	0	0
ボタンつけ	2	0	1	1	2	2	2	1
しるしつけ	2	0	2	-1	2	0	0	0
布の裁ち方	0	0	0	0	0	0	2	2
まち針のうち方	2	0	2	0	2	1	2	0
しつけ	2	0	2	0	2	1	2	0
二つ折り	2	0	2	0	2	2	2	0
三つ折り	2	0	2	0	2	1	2	0
並縫い	2	0	0	0	2	1	2	0
本返し縫い	1	0	0	0	0	0	0	0
半返し縫い	1	0	0	0	0	0	2	0
かがり縫い	0	0	0	0	0	1	0	0
ミシン縫い(直線)	2	2	2	0	2	2	2	2
ミシン縫い(角)	2	2	2	0	2	1	2	2

「高まりがみられた」生徒の項目別評価を表Ⅲ－29に、「高まりがみられなかった」生徒を表Ⅲ－30に示す。まず、「高まりがみられた生徒」は中学1年生の段階では2点だった項目は少なく、特にcでは1項目もなかった。しかし、中学3年生ではaの「布の裁ち方」を除いてすべての項目が2点だった。「本返し縫い」、「半返し縫い」、「かがり縫い」の3項目は3人とも中学1年生では0または1点だったが、中学3年生では3人全員が2点となった。

「高まりがみられなかった」生徒は、中学1年生の段階では2点だった項目が比較的多かったが、中学3年生では0点になった項目が多く、すべての生徒でみられた。また、0または1点から2点へ変化した項目はみられなかった。「まち針のうち方」、「しつけ」、「三つ折り」の3項目は4人全員が中学1年生で2点だったものの、中学3年生では0または1点に減少した。

【2-2: 被服製作技能「できる」と学校以外での実践との関連】

表Ⅲ-31 「高まりがみられた」生徒の項目別評価

	a(男子)		b(女子)		c(女子)	
	中1	中3	中1	中3	中1	中3
「できる」項目数	5	15	0	17	0	16
針に糸を通す	-1	2	0	2	0	2
玉結び	-1	2	0	2	0	2
玉どめ	-1	2	0	2	0	2
ぬいとり	0	2	0	2	0	1
ボタンつけ	-1	2	0	2	0	2
しるしつけ	0	2	0	2	0	2
布の裁ち方	0	1	0	2	0	2
まち針のうち方	0	2	0	2	0	2
しつけ	0	1	0	2	0	2
二つ折り	0	2	0	2	0	2
三つ折り	0	2	0	2	0	2
並縫い	-1	2	0	2	0	2
本返し縫い	0	2	0	2	0	2
半返し縫い	0	2	0	2	0	2
かがり縫い	0	2	0	2	0	2
ミシン縫い(直線)	0	2	0	2	0	2
ミシン縫い(角)	0	2	0	2	0	2

表Ⅲ－32 「高まりがみられなかった」生徒の項目別評価

	d(男子)		e(男子)		f(男子)		g(男子)	
	中1	中3	中1	中3	中1	中3	中1	中3
「できる」項目数	12	5	10	4	12	6	13	5
針に糸を通す	2)	2	-1	-1	-1	2	2
玉結び	2		2	-1	-1	-1	2	2
玉どめ	2		2	0	-1	-1	2	1
ぬいとり	1		1	-1	0	0	1	1
ボタンつけ	2		1	0	-1	-1	2	1
しるしつけ	2		2	-1	-1	0	1	1
布の裁ち方	1		1	0	0	0	2	2
まち針のうち方	2		2	0	-1	0	2	1
しつけ	2		2	0	-1	0	2	1
二つ折り	2		2	0	-1	-1	2	1
三つ折り	2		2	0	-1	0	2	1
並縫い	2		1	0	-1	0	2	1
本返し縫い	1		1	0	0	0	1	1
半返し縫い	1		1	0	0	0	2	1
かがり縫い	1		1	0	0	0	1	1
ミシン縫い(直線)	2		2	-1	-1	-1	2	2
ミシン縫い(角)	2		2	0	-1	0	2	2

「高まりがみられた」生徒の項目別評価を表Ⅲ－31に、「高まりがみられなかった」生徒を表Ⅲ－32に示す。なお、dは学校以外での実践に無回答だったため、「高まりがみられなかった」生徒はd以外の3人についてみる。まず、「高まりのみられた」生徒は中学1年生の段階では2点だった項目は1項目もみられなかったが、中学3年生では2点になった項目が増え、全員がすべての項目、あるいはほとんどの項目が2点だった。家庭での実践が「ある」と回答した生徒は中学1年生では0人だったが、中学3年生では3人全員だった。

「高まりがみられなかった」生徒は、中学1年生でf以外は2点だった項目がみられた。しかし、中学3年生では、2点の項目が減少し、eは1項目もみられなかった。家庭での実践が「ある」と回答した生徒は中学3年生ではe、gの2人だったが、中学3年生ではgのみとなった。

【2-3:被服製作技能「できる」と自己肯定感との関連】

表Ⅲ-33 と表Ⅲ-34 は「高まりがみられた」生徒と「みられなかった」生徒で、自己肯定感に関する項目 10 項目について、「はい」と回答した項目数を表にしたものである。

「高まりがみられた」生徒と「みられなかった」生徒の平均項目数を比較すると、前者が 8.3 項目、後者が 6.3 項目と 2.0 項目の差がみられた。「高まりがみられた」生徒では、10 点だった生徒はいなかったが、a、b、c はそれぞれ 7、9、8 項目と比較的高かった。一方、「高まりがみられなかった」生徒は、2 項目から 10 項目とばらつきがみられた。特に 2 項目だった e は、被服製作用語「できる」と「知っている」の間では 0 点だった項目が多かった。

表Ⅲ-33 「高まりがみられた」生徒の「できる」と自己肯定感との関連

a	b	c
7	9	8

表Ⅲ-34 「高まりがみられなかった」生徒の「できる」と自己肯定感との関連

D	e	f	g
10	2	7	6

【2-4:被服製作技能「できる」とジェンダー観との関連】

表Ⅲ-35 と表Ⅲ-36 は「高まりがみられた」生徒と「みられなかった」生徒で、ジェンダー観に関する項目 2 項目についての回答状況を表にしたものである。

「高まりがみられた」生徒では、2 項目とも「はい」と回答した生徒は男子の a でみられた。女子の b と c はともに①は「はい」、②は「いいえ」と回答した。

「高まりがみられなかった」生徒では、2 項目とも「はい」と回答した生徒は男子の d と f であり、2 項目とも「いいえ」と回答したのは男子の e だった。以上より、被服製作技能とジェンダー観とは関連はあまりみられなかった。

表Ⅲ-35 「高まりがみられた」生徒の「できる」とジェンダー観との関連

項目	a	b	c
①	○	○	○
②	○	×	×

太字:男子

表Ⅲ-36 「高まりがみられなかった」生徒の「できる」とジェンダー観との関連

項目	d	e	f	g
①	○	×	○	×
②	○	×	○	○

太字:男子

【2-5:調理技能「できる」と「知っている」との関連】

表Ⅲ-37 「高まりがみられた」生徒の項目別評価

	a(男子)		h(男子)		i(男子)		j(男子)		c(女子)	
	中1	中3								
「できる」項目数	3	10	2	8	5	11	5	11	0	9
米の洗い方	1	2	2	2	2	2	1	2	0	2
ごはんの炊き方	0	1	0	1	2	2	0	2	0	1
ゆでる	2	2	0	2	2	2	2	2	0	2
焼く	2	2	0	2	2	2	2	2	0	2
炒める	2	2	0	2	2	2	2	2	0	2
蒸らす	1	2	0	1	1	2	0	2	0	1
くし切り	0	2	0	0	0	2	0	2	1	2
輪切り	1	2	0	2	1	2	0	2	1	2
せん切り	1	2	1	2	1	2	2	2	1	2
薄切り	0	2	0	2	1	2	2	2	1	2
たんざく切り	0	2	2	2	0	2	0	2	1	2

表Ⅲ-38 「高まりがみられなかった」生徒の項目別評価

	k(男子)		l(男子)		m(男子)	
	中1	中3	中1	中3	中1	中3
「できる」項目数	11	7	11	6	6	1
米の洗い方	2	1	2	2	2	2
ごはんの炊き方	2	0	2	2	2	1
ゆでる	2	2	2	2	1	1
焼く	2	2	2	2	2	1
炒める	2	2	2	2	2	1
蒸らす	2	1	2	2	1	1
くし切り	2	2	2	0	1	1
輪切り	2	2	2	0	1	1
せん切り	2	2	2	0	2	1
薄切り	2	2	2	0	2	1
たんざく切り	2	1	2	0	1	1

「高まりがみられた」生徒の項目別評価を表Ⅲ-37に、「高まりがみられなかった」生徒を表Ⅲ-38に示す。まず、「高まりがみられた生徒」は中学1年生の段階では0または1点だった項目もみられたが、2点となった項目が増えた。特に被服製作技能でも「高まりがみられた」生徒だったcはほとんどの項目で中学3年生になって2点となった。「輪切り」、「たんざく切り」の2項目ではすべての生徒が1、2点から3点へ変化した。

「高まりがみられなかった」生徒は、中学1年生では2点だった項目が多く、kとlはすべての項目で2点だった。しかし、中学3年生では、1が1点、mが2点になった項目が多かった。

【2-6:調理技能「できる」と学校以外での実践との関連】

表Ⅲ-39 「高まりがみられた」生徒の項目別評価

	a(男子)		h(男子)		i(男子)		j(男子)		c(女子)	
	中1	中3								
「できる」項目数	3	10	2	8	5	11	5	11	0	9
米の洗い方	1	2	2	2	2	2	0	2	0	2
ごはんの炊き方	1	1	1	1	2	2	0	2	0	1
ゆでる	2	2	1	2	2	2	-1	2	0	2
焼く	2	2	1	2	2	2	-1	2	0	2
炒める	2	2	1	2	2	2	-1	2	0	2
蒸らす	1	2	1	1	1	2	0	2	0	1
くし切り	1	2	1	1	1	2	0	2	0	2
輪切り	1	2	1	2	2	2	0	2	0	2
せん切り	1	2	1	2	2	2	-1	2	0	2
薄切り	1	2	1	2	2	2	-1	2	0	2
たんざく切り	1	2	2	2	1	2	0	2	0	2

表Ⅲ-40 「高まりがみられなかった」生徒の項目別評価

	k(男子)		l(男子)		m(男子)	
	中1	中3	中1	中3	中1	中3
「できる」項目数	11	7	11	6	6	1
米の洗い方	2	1	2	2	2	2
ごはんの炊き方	2	1	2	2	2	1
ゆでる	2	2	2	2	1	1
焼く	2	2	2	2	2	1
炒める	2	2	2	2	2	1
蒸らす	2	1	2	2	1	1
くし切り	2	2	2	1	1	1
輪切り	2	2	2	1	1	1
せん切り	2	2	2	1	2	1
薄切り	2	2	2	1	2	1
たんざく切り	2	1	2	1	1	1

「高まりがみられた」生徒の項目別評価を表Ⅲ－39に、「高まりのみられなかった」生徒を表Ⅲ－40に示す。まず、「高まりがみられた」生徒は中学1年生の段階では2点だった項目はhとiの一部の項目にしかみられなかったが、中学3年生では2点になった項目が増え、全員がすべての項目、あるいはほとんどの項目が2点だった。学校以外での実践が「ある」と回答した生徒は中学1年生ではh、i、jの3人だったが、中学3年生では5人全員だった。

「高まりがみられなかった」生徒は、中学1年生で3点だった項目がみられた。しかし、中学3年生では1点になった項目が増え、特にmで多くみられた。学校以外での実践が「ある」と回答した生徒は中学1年生、中学3年生ともに3人全員だった。

【2-7:調理技能「できる」と自己肯定感との関連】

表Ⅲ－41と表Ⅲ－42は「高まりがみられた」生徒と「みられなかった」生徒で、自己肯定感に関する項目10項目について、「はい」と回答した項目数を表にしたものである。

「高まりがみられた」生徒と「みられなかった」生徒の平均項目数を比較すると、前者が6.8項目、後者が8.7項目と後者の方が多かった。10点だった生徒は「高まりがみられなかった」生徒であるmのみだったが、「高まりがみられた」生徒のh、i、k、cはそれぞれ7項目、9項目、9項目と比較的高かった。しかし、jは2項目と、「高まりがみられた」生徒の中でも自己肯定感が弱い生徒もみられた。

表Ⅲ－41 「高まりがみられた」生徒の「できる」と自己肯定感との関連

a	h	i	j	c
7	9	2	9	8

表Ⅲ－42 「高まりがみられなかった」生徒の「できる」と自己肯定感との関連

K	l	m
7	10	9

【2-8:調理技能「できる」と自己肯定感との関連】

表Ⅲ-43 と表Ⅲ-44 は「高まりがみられた」生徒と「みられなかった」生徒で、ジェンダー観に関する項目 2 項目についての回答状況を表にしたものである。

「高まりがみられた」生徒では、2 項目とも「はい」と回答した生徒は男子の a でみられた。女子の c は①は「はい」、②は「いいえ」と回答した。

「高まりがみられなかった」生徒では、2 項目とも「はい」と回答した生徒は男子の k で

あり、2 項目とも「いいえ」と回答したのは男子の l だった。以上より、被服製作技能とジェンダー観とは関連はあまりみられなかった。

表Ⅲ-43 「高まりがみられた」生徒の「できる」とジェンダー観との関連

項目	a	h	i	j	c
①	○	○	○	×	○
②	○	×	×	○	×

太字:男子

表Ⅲ-44 「高まりがみられなかった」生徒の「できる」とジェンダー観との関連

項目	k	l	m
①	○	×	×
②	○	×	○

太字:男子

【2-9:被服製作用語「高まりがみられた／みられなかった」生徒の意欲に関する項目などの比較】

表Ⅲ-45 「高まりがみられた」生徒の変容

		a(男子)		b(女子)		c(女子)	
		被服	調理	被服	調理	被服	調理
「できる」項目数※1		5⇒15	3⇒10	0⇒17	10⇒10	0⇒16	0⇒9
「知っている」・「できる」との関連(項目数)※2	0⇒2	6	3	17	0	11	4
	1⇒2	4	4	0	1	5	5
	2⇒1	0	0	0	1	0	0
	2⇒0	0	0	0	0	0	0
家庭科が楽しみか	小学校	楽しみ		楽しみではない		楽しみ	
	中学校	楽しみ		楽しみ		楽しみ	
裁縫が好きか理由		どちらかという嫌い		とても好き		とても好き	
		糸がからまるから。		なんとなく。		手に刺さると痛い が、そのスリルが たまらないから。	
調理が好きか理由		とても好き		とても好き		とても好き	
		自分で作った方が おいしいから。		食べるのは嫌いだ が、作るの は好きだから。		達成感がある から。	
家庭科が好きか理由		とても好き		どちらかという嫌い		とても好き	
		楽しいから。		小学校の時の先生 が恐かったから。		将来役立つことを教 えてもらえるから。	

表Ⅲ-46 「高まりがみられなかった」生徒の変容

		d(男子)		e(男子)		f(男子)		g(男子)	
		被服	調理	被服	調理	被服	調理	被服	調理
「できる」項目数※1		12⇒5	8⇒11	10⇒4	7⇒5	12⇒6	1⇒3	13⇒5	8⇒5
「知っている」・ 「できる」との 関連(項目数) ※2	0⇒2	0	0	0	1	0	0	0	0
	1⇒2	0	1	0	0	0	2	0	0
	2⇒1	0	0	1	2	5	0	1	0
	2⇒0	7	0	6	1	1	0	7	3
家庭科が楽しみ か	小学校	楽しみではない		楽しみではない		楽しみ		楽しみではない	
	中学校	楽しみ		楽しみではない		楽しみではない		楽しみではない	
裁縫が好きか 理由		どちらかという好き		どちらかという好き		どちらかという嫌い		どちらかという嫌い	
		まあまあ好きだから。				針に糸が通るまでが長いから。		作業がややこしくて時間がかかるから。	
調理が好きか 理由		とても好き		どちらかという好き		どちらかという嫌い		どちらかという嫌い	
		おいしいから。		好きだから。		カレールーやコンソメの使い方が分からないから。		時間がかかるし、調味料などが細かくて面倒だから。	
家庭科が好きか 理由		とても好き		どちらかという好き		どちらかという好き		どちらかという嫌い	
		面白いから。		好きだから。		失敗するが、結果オーライで終わるから。		普段慣れないことをやって、何もできないから。	

※1「できる」項目数: 中学1年生⇒中学3年生

※2「知っている」と「できる」との関連(項目数): 「知っている」かつ「できる」を2点、「知っている」かつ「できない」を1点、「知らない」かつ「できない」を0点、「知らない」かつ「できる」を-1点とし、中1(点)⇒中3(点)の変化を項目数で表した。※1

被服製作用語で「高まりがみられた」生徒と「高まりがみられなかった」生徒の「知っている」と「できる」との関連や家庭科の意欲に関する項目について比較したものを表Ⅲ-45と表Ⅲ-46に示す。「高まりがみられた生徒」では、中学3年生になって2点、つまり「知っている」かつ「できる」が多くなり、「高まりがみられなかった」生徒では、被服製作技能を中心に2点から0点、つまり「知らない」かつ「できない」、2点から1点、つまり「知っている」かつ「できない」が多くなった。このことより、「知っている」と「できる」とは関連があり、知識の習得は技能の向上につながる事が明らかとなった。

家庭科が「楽しみか」・「好きか」という項目では、「高まりがみられた」生徒では、ほとんどの項目で「楽しみ」・「好き」と回答したが、aは裁縫が「どちらかという嫌い」と回

答し、bは家庭科が「どちらかという嫌い」と回答した。cはすべての項目で「楽しみ」・「好き」と回答した。裁縫が嫌いと回答した理由は「糸がからまるから」(a)だった。一方、「楽しみ」・「好き」と回答した理由は、「楽しいから」(a)、「作るのが好きだから」(b)という回答がみられ、また、cは「将来に役立つ」、「達成感がある」という家庭科の意義や自己肯定感と関わる記述がみられた。「高まりがみられなかった」生徒では、dとeではすべての項目で「楽しみ」・「好き」と回答したが、fとgでは「楽しみではない」・「嫌い」が目立ち、特にgはすべての項目で否定的だった。「楽しみ」・「好き」と回答した理由としては、「楽しいから」(d)、「好きだから」(d、e)、「面白いから」(d)だった。「楽しみではない」・「嫌い」と回答した理由は、「針に糸が通らないから」(f)、「使い方がわからないから」(f)、「時間がかかり、面倒だから」(g)、「何もできないから」(g)だった。

「高まりがみられた生徒」と「みられなかった」生徒では「楽しみ」・「好き」と回答していた生徒が多かったが、「高まりがみられなかった」生徒では「楽しみではない」・「嫌い」と回答した生徒もみられた。「楽しみ」・「好き」と回答した理由では「高まりがみられた」生徒では家庭科の意義に触れている記述が多かったが、「高まりがみられなかった」生徒では「楽しい」が多く、記述内容に大きな違いがあることがわかった。

【2-10:調理用語「高まりがみられた／みられなかった」生徒の意欲に関する項目などの比較】

表Ⅲ-47 「高まりがみられた」生徒の変容

		a(男子)		h(男子)		i(男子)		j(男子)		c(女子)	
		被服	調理	被服	調理	被服	調理	被服	調理	被服	調理
「できる」項目数※ ¹		5⇒15	3⇒10	6⇒9	2⇒8	8⇒16	5⇒11	10⇒17	5⇒11	0⇒16	0⇒9
「知っている」・ 「できる」との関 連(項目数)※ ²	0⇒2	6	3	3	5	6	2	6	5	11	4
	1⇒2	4	4	2	1	4	4	1	1	5	5
	2⇒1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2⇒0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
家庭科が楽 しみか	小学校	楽しみ		楽しみ		楽しみ		楽しみ		楽しみ	
	中学校	楽しみ		楽しみ		楽しみ		楽しみ		楽しみ	
裁縫が好きか 理由		どちらかというと嫌い		どちらかというと好き		とても好き		どちらかというと好き		とても好き	
		糸がからまるから。		面白いし、自分の役に立つから。		裁縫の一定のリズムが好きだから。		必要だから。		手に刺さると痛いから、そのスリルがたまらないから。	
調理が好きか 理由		とても好き		どちらかというと嫌い		とても好き		とても好き		とても好き	
		自分で作った方がおいしいから。		上手にできないから。やる機会がないから。		作っている時の感覚が好きだから。		食べたいから。		達成感があるから。	
家庭科が好きか 理由		とても好き		とても好き		とても好き		とても好き		とても好き	
		楽しいから。		何かを作るのが面白かったから。		調理ができるから。		必要だから。		将来役立つことを教えてもらえるから。	

表Ⅲ－48 「高まりがみられなかった」生徒の変容

		k(男子)		l(男子)		m(男子)	
		被服	調理	被服	調理	被服	調理
「できる」項目数※1		8⇒15	11⇒7	15⇒15	11⇒6	10⇒6	6⇒1
「知っている」・「できる」との関連(項目数)※2	0⇒2	2	0	1	0	0	0
	1⇒2	7	0	1	0	0	0
	2⇒1	0	3	0	0	0	5
	2⇒0	2	1	2	5	4	0
家庭科が楽しみか	小学校	楽しみ		楽しみではない		楽しみではない	
	中学校	楽しみ		楽しみ		楽しみ	
裁縫が好きか理由		どちらかという嫌い		とても嫌い		どちらかという好き	
		針が刺さるのが怖く、面倒だから。		指が痛くなるから。		自分で作品を作るのが楽しいから。	
調理が好きか理由		どちらかという好き		どちらかという好き		どちらかという好き	
		作るのに時間がかかるが楽しいから。		おいしいから。		おいしいものを作るのが好きだから。	
家庭科が好きか理由		どちらかという嫌い		どちらかという嫌い		どちらかという好き	
		裁縫が苦手だから。		男だから。		調理も裁縫も少し好きだから。	

※1「できる」項目数: 中学1年生⇒中学3年生

※2「知っている」と「できる」との関連(項目数): 「知っている」かつ「できる」を2点、「知っている」かつ「できない」を1点、「知らない」かつ「できない」を0点、「知らない」かつ「できる」を-1点とし、中1(点)⇒中3(点)の変化を項目数で表した。※1

調理用語で「高まりがみられた」生徒と「高まりがみられなかった」生徒の「知っている」と「できる」との関連や家庭科の意欲に関する項目について比較したものを表Ⅲ－47と表Ⅲ－48に示す。

「高まりがみられた生徒」では、中学3年生になって2点、つまり「知っている」かつ「できる」が多くなり、中学3年生になって0点、つまり「できない」になった項目はみられなかった。「高まりがみられなかった」生徒では、被服製作用語で中学3年生になって2点になった生徒もみられたが、2点から0点、つまり「知らない」かつ「できない」、2点から1点、つまり「知っている」かつ「できない」も多くなった。このことより、「知っている」と「できる」とは関連があり、知識の習得は技能の向上につながる事が明らかとなった。

家庭科が「楽しみか」・「好きか」という項目では、「高まりがみられた」生徒では、ほとんどの項目で「楽しみ」・「好き」と回答したが、aは裁縫が「どちらかという嫌い」と回

答し、hは調理が「どちらかという嫌い」と回答した。I、j、cはすべての項目で「楽しみ」・「好き」と回答した。裁縫が嫌いと回答した理由は「糸がからまるから」(a)で、調理が嫌いと回答した理由としては「上手にできない、やる機会がないから」(h)だった。一方、「楽しみ」・「好き」と回答した理由は、「楽しいから」(a)、「面白いから」(a、h)、「できるから」(i)という回答がみられ、また、「将来に役立つ」(h、c)、「必要だから」(j)「達成感がある」(c)という家庭科の意義と関わる記述がみられた。「高まりがみられなかった」生徒では、「楽しみではない」・「嫌い」が目立ち、「高まりがみられた」生徒と差がみられた。「楽しみ」・「好き」と回答した理由としては、「楽しいから」(k、m)、「おいしいから」(l)、「好きだから」(m)だった。「楽しみではない」・「嫌い」と回答した理由は、「苦手だから」(k)、「指が痛くなるから」(l)、「男だから」(l)だった。

「高まりがみられた生徒では「楽しみ」・「好き」と回答していた生徒が多かったが、「高まりがみられなかった」生徒では「楽しみではない」・「嫌い」と回答した生徒もみられた。「楽しみ」・「好き」と回答した理由では「高まりがみられた」生徒では家庭科の意義に触れている記述が多かったが、「高まりがみられなかった」生徒では「楽しい」が多く、記述内容に大きな違いがあることがわかった。

【2-11:ポタンつけ「高まりがみられた／みられなかった」生徒の意欲に関する項目などの比較】

表Ⅲ-49 「高まりがみられた」生徒の変容

		n(男子)		m(男子)		o(男子)		p(女子)		c(女子)	
		中1	中3	中1	中3	中1	中3	中1	中3	中1	中3
ポタンつけ得点※1		2⇒6		1⇒6		1⇒5		1⇒6		1⇒6	
ポタンつけ 項目別評価 ※2	①	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○
	②	×	○	×	○	×	○	○	○	×	○
	③	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○
	④	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○
	⑤	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○
	⑥	○	○	×	○	×	○	×	○	×	○
家庭科が楽 しみか	小学校	楽しみ		楽しみではない		楽しみ		楽しみ		楽しみ	
	中学校	楽しみ		楽しみ		楽しみ		楽しみ		楽しみ	
裁縫が好きか 理由		どちらかというと嫌い		どちらかというと好き		とても好き		とても好き		とても好き	
		並縫いなどの技術が苦手だから。		自分で作品を作るのが楽しいから。		楽しいから。		附中祭でファッション委員だったから。		手に刺さると痛い が、そのスリルが たまらないから。	
調理が好きか 理由		どちらかというと好き		どちらかというと好き		とても好き		どちらかというと好き		とても好き	
		調理しておいしかったらうれしいから。		おいしいものを作るのが好きだから。		楽しいから。		調理実習が楽しいから。		達成感があるから。	
家庭科が好きか 理由		とても好き		どちらかというと好き		とても好き		どちらかというと好き		とても好き	
		家庭的だから。		調理も裁縫も少し好きだから。		楽しいから。		実習などが楽しいから。		将来役立つことを教えてもらえるから。	

表Ⅲ－50 「高まりがみられなかった」生徒の変容

		f(男子)		g(男子)		q(女子)		i(男子)		r(女子)	
		中1	中3	中1	中3	中1	中3	中1	中3	中1	中3
ボタンつけ得点※1		4⇒2		4⇒2		6⇒4		5⇒3		6⇒4	
ボタンつけ 項目別評価 ※2	①	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	②	○	×	×	×	○	○	○	○	○	○
	③	×	×	○	×	○	×	○	×	○	×
	④	×	×	×	×	○	×	×	×	○	×
	⑤	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	⑥	○	×	○	×	○	○	○	×	○	○
家庭科が楽 しみか	小学校	楽しみ		楽しみではない		楽しみ		楽しみ		楽しみ	
	中学校	楽しみではない		楽しみではない		楽しみ		楽しみ		楽しみ	
裁縫が好きか 理由		どちらかという嫌い		どちらかという嫌い		とても好き		とても好き		どちらかという好き	
		針に糸が通 るまでが長 いから。		作業がや やこしくて 時間がか かるから。		自分の手で、もの が出来上がって いくところが楽し いから。		裁縫の一 定のリズム が好きだか ら。		楽しいか ら。	
調理が好きか 理由		どちらかという嫌い		どちらかという嫌い		とても好き		とても好き		とても好き	
		カレールーや コンソメの使い 方が分からな いから。		時間がかかる し、調味料など が細かくて面 倒だから。		自分でおい しいものを作 れたら楽しい と思うから。		作っている 時の感覚 が好きだか ら。		楽しいか ら。	
家庭科が好きか 理由		どちらかという好き		どちらかという嫌い		とても好き		とても好き		とても好き	
		失敗するが、結果 オーライで終わ るから。		普段慣れないこと をやって、何もで きないから。		自分に直接的に 関わるが多く ある教科だから。		調理ができ るから。		楽しいか ら。	

※1「できる」項目数：小学5年生⇒中学1年生

※2ボタンつけ項目別評価：①玉結びができていない、②ボタンの穴に糸が3～4回かけてある、③ボタンと布の間が布1枚分浮いている、④ボタンの下で糸が固く巻いている、⑤玉どめができていない、⑥布がつれていない

ボタンつけで「高まりがみられた」生徒と「高まりがみられなかった」生徒のボタンつけの項目別評価や家庭科の意欲に関する項目について比較したものを表Ⅲ－49と表Ⅲ－50に示す。「高まりがみられた生徒」における項目別評価は、すべての項目で「×」から「○」に変化した項目がみられ、特に「③ボタンと布の間が布1枚分浮いている」、「④ボタンの

下で糸が固く巻けている」、「⑤玉どめができています」ではそれぞれ5人全員が「×」から「○」に変化した。一方、「高まりがみられなかった」生徒では、「①玉結びができています」と「⑤玉どめができています」では、中学1年生、中学3年生ともに全員「○」だったが、「③ボタンと布の間が布1枚分浮いている」、「④ボタンの下で糸が固く巻けている」では5人すべて中学3年生で「×」だった。

家庭科が「楽しみか」・「好きか」という項目では、「高まりがみられた」生徒では、n以外の全員がすべての項目で「楽しみ」や「好き」と回答した。nの裁縫が嫌いと回答した理由は「苦手だから」だった。一方、「楽しみ」・「好き」と回答した理由は、「楽しいから」(m、o、p)が最も多かったが、中には「達成感があるから」(c)、「将来役立つことを教えてもらえるから」(c)という回答もみられた。一方、「高まりがみられなかった」生徒でも「楽しみ」・「好き」と回答した生徒が多かったが、fとgでは「楽しみではない」、「嫌い」と回答した項目が多くみられた。「楽しみ」、「好き」と回答した理由として最も多かったのが「楽しいから」(q、r)だった。裁縫が「どちらかという嫌い」と回答した理由は、「針に糸が通るまでが長いから」(f)、「作業がややこしくて時間がかかるから」(g)だった。

「高まりがみられた生徒」と「みられなかった」生徒ではほとんどの生徒は「楽しみ」・「好き」と回答していたが、その理由では「高まりがみられた」生徒では家庭科の意義に触れている記述が多かったが、「高まりがみられなかった」生徒では「楽しい」が多く、記述内容に違いがみられた。

【まとめ】

1. 技能と「知っている」割合は、相互に関連し、技能について「知っている」生徒は「できる」割合が高いことがわかった。「高まりがみられた」生徒では、2007年の調査では「知らない」かつ「できない」項目がみられたが、2009年調査では「知っている」かつ「できる」項目が増加した。技能の習得にはまず、裁縫技能や調理技能の方法を理解することが不可欠である。
2. 技能と学校以外での実践との関連では、学校以外での実践のある生徒は技能程度が高い傾向にあることがわかった。2007年の調査では、「高まりがみられた」生徒は、学校以外での実践がなかった生徒も多くみられたが、2009年の調査では、全員が学校以外での実践が「ある」と回答したことから、技能を高める大きな要因であるということが推察された。
3. 技能と自己肯定感に関する項目との関連では、「高まりがみられた」生徒の多くが自己肯定感が強い傾向にあった。それは、技能を習得することで、生徒の自己肯定感が高くなり、それがまた自信になり、さらに意欲的に取り組もうとする相乗効果を生むことも期待できるので、自己肯定感が強いことは技能の習得にも大きく影響していると考えられる。
4. 技能とジェンダー観に関する項目との関連では、集団の中学1年生の女子でジェンダーにとらわれている女子は生活技能が高い傾向にあることが明らかとなった。しかし、その他の学年や「高まりがみられた／みられなかった」生徒の中では差はほとんどみられなかった。これは、中学1年生の女子では、ジェンダー観が高まったことが、技能の向上に結びついたのでないかと推察された。
5. 技能と学習意欲との関連では、「楽しみ」や「好き」それ自体ではほとんど差はみられなかったが、「楽しみ」や「好き」である理由に大きな差があることが明らかになった。「高まりがみられた」生徒では「役に立つ」、「将来や自分のためになる」といった家庭科の意義に触れている記述が多くみられた。一方、「高まりがみられなかった」生徒では「楽しい」、「面白い」がほとんどであることから、「楽しい」や「好き」だけでは技能の向上とは結びつかないことが示唆された。

V 総括

本研究では、小学5年生・中学1年生・中学3年生・大学生の四者にアンケート調査と技能調査としてのボタン付け調査を行い、小学校家庭科学習内容の知識と技能の実態を把握すること、また、2007年の調査で対象とした小学5年生と中学1年生の追跡調査を行い、中学1年生と中学3年生時における実態を明らかにし、そこから小学校家庭科における被服製作技能や調理技能の学習を考察することを目的とした。

1) 小学5年生、中学1年生、中学3年生、大学生を対象とした2009年度調査

①アンケート調査

2009年5月～12月に実施した家庭科の知識や技能に関するアンケート調査では、家庭科の学習を始めて間もない小学5年生は、家庭科の学習を始める以前で、男女間に経験、知識、技能の差がみられることが分かった。

これまでの結果をふまえ、小学5年生・中学1年生・中学3年生・大学生の四者を比較すると、裁縫は調理に比べ、特に中学生と大学生で家庭科の授業以外で実践される割合が低かった。また、裁縫に関して好意的に回答した割合も、調理と比較するとかなり低い割合となり、裁縫が嫌いと回答した人の理由としては「うまくできないから」というものが最も多かった。また、被服製作用語の用具等に関する用語では「知っている」割合が各学年段階で増加している項目が多かったが、方法等に関する用語では大学生になっても「知っている」割合が非常に低い項目が多く、「できる」割合はさらに低くなった。その中には、時間の経過と共に割合が減少した項目が多かった。このことから、家庭科の学習の中でしっかりと知識、技能として身に付いていない用語は、時間の経過と共に忘れてしまったり、できなくなってしまうことがあると推測される。このことは、知識よりも技能で顕著にみられた。家庭科の授業以外での経験が少ない裁縫では特にこのような傾向がみられた。さらに、いずれの学年段階でも男女で有意差がみられたものが多く、特に方法等に関する語群の知識と技能で顕著だった。また、家庭科の授業以外での経験が少ない裁縫では、授業以外で新たに技能を身に付ける機会は少ないと考えられ、小学校段階でしか学習しない項目などは、その段階でしっかりと知識、技能として身に付いていないとできないまま学年が進行してしまうと推測される。裁縫に比べて家庭科の授業以外での経験の割合が高かった調理では、全体的に被服製作よりも「知っている」、「できる」割合が高かった。しかし、被服製作用語と同じように大学生になっても「知っている」、「できる」割合が低い項目もみられ、家庭科の授業以外での経験の有無だけでなく、経験の内容が知識や技能を習得する上で大切になってくることがうかがえた。

②ボタン付け調査

次に、アンケート調査と一緒にに行ったボタン付け調査では、家庭科の授業でボタン付けを学習している小学5年生でも、全員がボタン付けのポイントをおさえて正しく付けることができなかった。しかし、その後は学年進行とともに「できた」割合は中学生にかけて

ほぼ維持され、大学生では他の学校段階に比べ割合が最も高くなったが、玉結び以外では100%の割合にはならなかった。さらに、いずれの学年段階でも女子よりも男子の方が「できた」割合が低かった項目が多かった。このことから、ボタンつけを学習しても、しばらく時間が経過するとやり方を忘れてたり、できなくなったりしていることがあると考えられる。しかし、中学1年生以降「できた」割合が徐々に増加したのは、日常での裁縫の実践や再び学校で学習することで、できる割合が増加したのではないかと推測される。男女で結果が異なった原因も家庭科の授業以外での裁縫経験が関係していると考えられる。ボタンつけができるようになり、技能として身に付けるには何度も反復して学習することが必要なのではないだろうか。

以上のようなアンケート調査とボタンつけ調査の結果から、家庭科の中の被服製作というものは調理とは異なり家庭の中で実践されることが少ないため、家庭科の授業で一度学習してもなかなか身に付かないものや忘れてしまうものが多いように感じられた。そして、そのことが裁縫嫌いをつくり出してしまっていると推測される。「できない」というのは、やり方がわからないのはもちろん、自分でやったもののどこができていないのかわからないということが多いのではないかと推測する。技能を身につけるうえで特に大切なことは、自分自身何ができていて何ができていないのかをしっかりと把握することであると考える。できていないところが理解できればできるよう努力もするし、努力しできるようになることが、実践をする原動力になると考える。

2) 2007年度に小学5年生および中学1年生だった児童生徒を対象とした2009年度調査

①アンケート調査

次に、2007年の調査で対象とした小学5年生と中学1年生の追跡調査から、小学校家庭科における被服製作技能や調理技能の学習を考察する。

小学5年生から中学1年生にかけて、被服製作用語、調理用語ともに「知っている」および「できる」割合が顕著に増加した。語群別にみると、〔用具〕に関する語群の「知っている」割合は小学5年生から高かった項目が多く、それ以外の語群では小学5年生では低かった項目が多かったが、中学1年生で高くなった。「できる」割合は被服製作用語も調理用語も大きく増加し、特に被服製作用語の方が顕著だった。これは、小学校の家庭科学習による効果があると考えられる。学校以外での実践が少なく、家庭科学習を始めて間もない小学5年生では、実際に目で見たり、行ったりする活動が小学校の家庭科が初めてだった児童も多い。そのため、小学校での学習経験によって、中学校で「知っている」、「できる」割合が高くなった。また、被服製作用語と調理用語では、被服製作用語の方が大きく増加した。これは、家庭での実践が大きく影響していると考えられる。小学5年生での段階では裁縫経験は少ないが、調理用語に関しては、家庭での調理経験のある児童が多いので、家庭科の学習が始まる前から「知っている」、「できる」項目が多かった。しかし、中学1年生では裁縫経験のある生徒が大きく増えた。それは、裁縫の方が学校家庭科で学ぶ

ことが多いと思われる。

中学1年生から中学3年生にかけては、被服製作用語、調理用語ともに「知っている」および「できる」割合が増加した項目が多かった。また、「知っている」割合は、被服製作用語、調理用語のすべての語群で増加した。「できる」割合は〔縫製方法〕に関する語群、〔調理方法〕に関する語群で増加し、〔献立〕に関する語群で維持された。以上より、中学1年生から中学3年生にかけて、知識や技能は向上または維持していることが明らかとなった。これは、小学校で学習した家庭科の内容に加え、中学校での家庭科の学習による効果があると考えられる。特に〔縫製方法〕に関する語群と〔調理方法〕に関する語群の「できる」割合を比較したところ、中学1年生、中学3年生ともに〔縫製方法〕に関する語群の方が〔調理方法〕に関する語群よりも高かった。それは、中学校での被服製作学習の影響があると推察された。

②技能と「知っている」割合などとの関連

最後に、用語に関する技能の習得状況と用語に関する知識・学校以外での実践・自己肯定感・ジェンダー観とのかかわりについて述べる。

まず、技能と用語の知識とのかかわりでは、多くの項目で有意差がみられ、かつその中のすべての項目で仮説を裏付け、「被服製作技能や調理技能に関する知識が高い生徒は、技能程度も高い」は検証された。また、「高まりがみられた」生徒の多くは2009年度で「知っている」かつ「できる」項目が大幅に増加した。つまり、技能を習得するためには、それを行う際に必要な手順や方法を理解することが必要になる。しかし、ただ手順や方法を教えるだけでなく、「なぜそうするのか」を教えることで、そのような方法で行う意味を理解し、被服製作技能や調理技能をより高めることにつながると考える。

技能と学校以外での実践とのかかわりでは、有意差のみられた項目は多くなかったが、その中のすべての項目で仮説を裏付け、「学校以外で実践している生徒は、技能程度が高い」は検証された。また、「高まりがみられた」生徒では、2007年の調査では学校以外での実践が「ある」生徒は多くはなかったが、2009年の調査では被服製作技能、調理技能ともに全員が「ある」と回答したことからも、学校以外での実践も技能の習得には効果的であるといえる。

技能と自己肯定感とのかかわりでは、いずれの学年段階でも両者の関係が優位に認められ、技能程度が高い人は自己肯定感も高いことが明らかになり、「生活技能が高い人は、自己肯定感が高い」という仮説が検証された。このことから、技能の習得は自己肯定感を高めることにつながり、結果的に児童・生徒の自信につながっていくことが推測された。

この研究結果から、家庭科の技能学習では、児童・生徒一人一人に技能レベルを提示することがスキルアップにつながり、それが自己肯定感を高め、結果的に児童・生徒の自信につながっていくことが示唆された。

技能とジェンダー観とのかかわりでは「女子は、料理・掃除・洗濯が上手な方がよいと思う」、「裁縫は女子の方がむいていると思う」という家庭科に直接かかわる2つの項目に

絞って、「ジェンダーにとらわれている男子は、生活技能を積極的に習得しようとしなため、技能程度が低く、ジェンダーにとらわれている女子は、生活技能を積極的に習得しようとするため、技能程度が高い」という仮説を検証した。すると、学年によって違いがみられたものの、ジェンダー観と技能とのかかわりは男子よりも女子の方が強い傾向がみられ、「ジェンダーにとらわれている女子は、生活技能を積極的に習得しようとするため、技能程度が高い」という仮説が検証された。また、中学1年生の時点で仮説が裏付けられたことから、早い段階から児童のジェンダー観を考慮した学習指導を行う必要があることがわかった。

技能と学習意欲とのかかわりでは、技能程度が大きく向上した生徒では、家庭科は「生活に役立つ」、「自分のためになる」、「達成感がある」などのイメージを持っていることがわかった。

以上より、用語に関する技能の習得状況と用語に関する知識・学校以外での実践・ジェンダー観・自己肯定感とは相互に関わりあっていることが明らかとなった。

児童生徒の技能の習得は、家庭科の学習によって得られることが多い。しかし、本研究で述べたとおり、学校以外での実践も技能の習得に大きな役割を果たしている。つまり、児童生徒の技能を高めるためには、学校教育の場だけではなく、家庭の中でも実践していくことが大切である。そのためには、学校と家庭の連携が必要になってくる。例えば、学校で学習したことを家庭でもやってみよう、応用してみようとする学習内容を教師が考えたり、家庭では家の手伝いをさせる機会を増やしたりすることが考えられる。また、ジェンダー観や自己肯定感も同様で、学校教育、家庭教育双方で取り組むことが必要であると考える。

さらに被服製作技能と調理技能では、調理技能は技能の習得が容易であるのに対し、被服製作技能は技能の習得が困難であることがわかった。それはまず、学校以外での実践との関わりにおいて、調理は学校教育だけでなく家庭でも実践できる機会が多いのに対し、被服製作は学校教育では技能が習得できるものの、学校以外での実践が多く望めず技能の習得がより困難になってしまうことが示唆された。また、新学習指導要領の内容は、調理では小学校で学習した内容が中学校でも再び学習するスパイラル型の学習であり、さらに、食育の推進により、家庭科の授業以外で食について学ぶ機会も多くなることが予想される。しかし被服製作は小学校で習得した学習内容が、中学校ではその上に新しい学習内容を積み上げるとされていることも技能習得の困難さを増す要因と思われる。したがって、被服製作技能は小学校で技能を習得できなければ、再び技能を習得する機会が得られないため、指導計画の工夫が今まで以上に必要となってくるのではないかと考える。

また、技能を高めるために、「達成感がある」、「将来役立つ」ことを実感できた生徒は、その認識とあいまって正のスパイラル、つまり、技能の向上がみられることが示唆され、一方、「達成感がある」、「将来役立つ」ことを実感できず、「時間がかかる」、「面倒」と感

じた生徒は、その認識とあいまって負のスパイラル、つまり、技能の向上がみられないと推察された。負のスパイラルを絶ち切るために、まずボタンつけが「できる」とボタンつけの基本技能である項目との間では関連がみられたことから、児童生徒には基本からしっかり教え、できた時の達成感を味わわせること、2つ目に、例えば、「なぜボタンの穴に糸を3～4回かけなければいけないのか」ということを科学的根拠に基づいて指導し、自分の生活に役立たせること、3つ目に、特に被服製作では家庭で実践することが多く望めず、また、技能は1度の学習で身に付くものではなく、繰り返し学習により技能が向上するため、学校の中で実践場面を多く設定し、針や糸に触れる機会を多くすることなどが学校教育の中で必要になってくるのではないかと考える。

よって、負のスパイラルを絶ち切るためには、まず、児童生徒には科学的根拠に基づいて基本からしっかり教えることが必要で、そして、柏崎⁶⁾が明らかにした、どの点ができ、どの点できていないのかを児童生徒に提示することで、自分の課題を把握し、それを学校や家庭などで実践し、それがスキルアップにつながっていくと考えられる。さらに技能が習得できた時に自己肯定感が高まり、自分の技能に自信が持てるようになり、正のスパイラルへと転換していくのではないかと考える。

資 料 集

家庭科(裁縫・調理)についてのアンケート

5年生から家庭科を勉強します。

このアンケートは、家庭科のことや裁縫、調理についてのあなたの今の気持ちやようすをおたずねするものです。よく読んで、どの質問にもお答えください。

どうぞよろしくおねがいします。

_____年 _____組 _____番 (男・女)

問1 あなたは好きな教科・きれいな教科がありますか。当てはまる番号に○をつけてください。

(1)好きな教科 (○は3つまで)

- | | | | |
|-------|-------|-------|--------|
| 1. 国語 | 2. 算数 | 3. 理科 | 4. 社会 |
| 5. 音楽 | 6. 図工 | 7. 体育 | 8. 生活科 |

(2)きれいな教科 (○は3つまで)

- | | | | |
|-------|-------|-------|--------|
| 1. 国語 | 2. 算数 | 3. 理科 | 4. 社会 |
| 5. 音楽 | 6. 図工 | 7. 体育 | 8. 生活科 |

問2 あなたは家庭科を勉強するのが楽しみですか。当てはまる番号に○をつけてください。

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

問3 あなたは今までに裁縫をしたことがありますか。当てはまる番号に○をつけてください。

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|

問4 次に挙げることばの中で、あなたが知っているものには1に、知らないものには2に○をつけてください。

番号	項目	1 知 っ て い る	2 知 ら な い
1	ものさし	1	2
2	まきじゃく (メジャー)	1	2
3	まちばり	1	2
4	ぬいばり	1	2
5	はりさし	1	2
6	指ぬき	1	2
7	ぬい糸	1	2
8	たちばさみ	1	2
9	糸切りばさみ	1	2
10	ピンキングばさみ	1	2
11	チャコえんぴつ	1	2
12	へら	1	2
13	二つ穴ボタン	1	2
14	四つ穴ボタン	1	2
15	足つきボタン	1	2
16	1本どり	1	2
17	2本どり	1	2
18	型紙	1	2
19	みみ	1	2
20	たて糸	1	2
21	よこ糸	1	2
22	ぬいしろ	1	2

問5 次に挙げることばの中で、あなたが知っているものには1に、知らないものには2に○をつけてください。さらに、あなたができるというものには3に、できないものには4に○をつけてください。

番号	項目	1 知 っ て い る	2 知 ら な い	3 で き る	4 で き な い
1	はりに糸を通す	1	2	3	4
2	玉むすび	1	2	3	4
3	玉どめ	1	2	3	4
4	ぬいとり	1	2	3	4
5	ボタンつけ	1	2	3	4
6	しるしつけ	1	2	3	4
7	布のたち方	1	2	3	4
8	まちばりのうち方	1	2	3	4
9	しつけ	1	2	3	4
10	二つ折り	1	2	3	4
11	三つ折り	1	2	3	4
12	並ぬい	1	2	3	4
13	本返しぬい	1	2	3	4
14	半返しぬい	1	2	3	4
15	かがりぬい	1	2	3	4
16	ミシンぬい(直線ぬい)	1	2	3	4
17	ミシンぬい(角の曲がり方)	1	2	3	4

問6 あなたは今までに調理をしたことがありますか。当てはまる番号に○をつけてください。

1. ある 2. ない

問7 次に挙げることばの中で、あなたが知っているものには1に、知らないものには2に○をつけてください。

番号	項目	1 知 っ て い る	2 知 ら な い
1	はかり	1	2
2	計量スプーン	1	2
3	計量カップ	1	2
4	ボール	1	2
5	ざる	1	2
6	フライ返し	1	2
7	玉じゃくし	1	2
8	あなじゃくし	1	2
9	あわだて器	1	2
10	さいばし	1	2
11	バット	1	2
12	ほうちょう	1	2
13	まな板	1	2
14	たまご切り器	1	2

番号	項目	1 知 っ て い る	2 知 ら な い
15	フライパン	1	2
16	ふたつきなべ	1	2
17	スポンジ	1	2
18	たわし	1	2
19	ふきん	1	2
20	あらいおけ	1	2
21	水切りかご	1	2
22	生ごみ入れ	1	2
23	ごみぶくろ	1	2
24	ガスこんろ	1	2
25	きゅうす	1	2
26	茶たく	1	2
27	湯のみ茶わん	1	2

問8 次に挙げることばの中で、あなたが知っているものには1に、知らないものには2に○をつけてください。さらに、あなたができるというものには3に、できないものには4に○をつけてください。

番号	項目	1 知 つ て い る	2 知 ら な い	3 で き る	4 で き な い
1	米の洗い方	1	2	3	4
2	ごはんのたき方	1	2	3	4
3	ゆでる	1	2	3	4
4	やく	1	2	3	4
5	いためる	1	2	3	4
6	むらす	1	2	3	4
7	くし切り	1	2	3	4
8	わ切り	1	2	3	4
9	せん切り	1	2	3	4
10	うす切り	1	2	3	4
11	たんざく切り	1	2	3	4
12	ゆでたまご	1	2	3	4
13	野菜サラダ	1	2	3	4
14	野菜いため	1	2	3	4
15	いりたまご	1	2	3	4
16	こふきいも	1	2	3	4
17	ポテトサラダ	1	2	3	4
18	みそしる	1	2	3	4
19	緑茶の入れ方	1	2	3	4
20	紅茶の入れ方	1	2	3	4

問9 質問を読んで、当てはまるときには「はい」、当てはまらないときには「いいえ」に○をつけてください。

1	男子は人前で泣かないほうがよいと思う	はい	いいえ
2	女子は、料理・そうじ・洗濯が上手なほうがよいと思う	はい	いいえ
3	女子がリーダーになると、グループがまとまらないと思う	はい	いいえ
4	やりたいことがあるのに、「女の子（男の子）だからだめ」と言われるのはおかしいと思う	はい	いいえ
5	運動会の応援団長は男子がやったほうがよいと思う	はい	いいえ
6	女の人にしかできない職業と男の人にしかできない職業があると思う	はい	いいえ
7	男の人は家族のために外で仕事をして、女の人は家にいたほうがよいと思う	はい	いいえ
8	プレゼントをするとき、リボンの色は男の子なら青や緑、女の子なら赤やピンクがよいと思う	はい	いいえ
9	「男らしい」人「女らしい」人になりたいと思う	はい	いいえ
10	裁縫は女子のほうがむいていると思う	はい	いいえ
11	自分には、自分なりのよさがあると思う	はい	いいえ
12	自分のよいところも悪いところも分かっている	はい	いいえ
13	自分の夢をかなえたいと思う	はい	いいえ
14	自分なりのよさを伸ばしたいと思う	はい	いいえ
15	毎日がすごく楽しい	はい	いいえ
16	自分の好きなことがやれていると思う	はい	いいえ
17	友だちといると楽しい	はい	いいえ
18	疑問を感じたらそれを堂々と言うことができる	はい	いいえ
19	人前でもありのままの自分を出すことができる	はい	いいえ
20	自分から友達に話しかけていく	はい	いいえ

—これで質問はすべて終わりです。ありがとうございました。

家庭科(裁縫・調理)についてのアンケート

このアンケートは、家庭科(裁縫・調理)についてのあなたの今の気持ちや様子をおたずねするものです。よく読んで、どの質問にもお答え下さい。

どうぞよろしくお願いいたします。

____年 ____組 ____番 (男・女) 出身小学校: _____ 小学校

問1 あなたは中学校で家庭科を勉強するのが楽しみですか。当てはまる番号に○をつけてください。

1. はい 2. いいえ

問2 あなたは裁縫が好きですか。当てはまる番号に○をつけてください。また、その理由も教えてください。

1. とても好き 2. どちらかというが好き
3. どちらかという嫌い 4. とても嫌い

<理由>

問3 あなたは家庭科の授業以外(自宅など)で裁縫をしたことがありますか。当てはまる番号に○をつけてください。

1. ある 2. ない

問4 次に挙げることばの中で、あなたが知っているものには1に、知らないものには2に○をつけてください。

番号	項目	1 知 っ て い る	2 知 ら な い
1	ものさし	1	2
2	まきじゃく (メジャー)	1	2
3	まちばり	1	2
4	ぬいばり	1	2
5	はりさし	1	2
6	指ぬき	1	2
7	ぬい糸	1	2
8	たちばさみ	1	2
9	糸切りばさみ	1	2
10	ピンキングばさみ	1	2
11	チャコえんぴつ	1	2
12	へら	1	2
13	二つ穴ボタン	1	2
14	四つ穴ボタン	1	2
15	足つきボタン	1	2
16	1本どり	1	2
17	2本どり	1	2
18	型紙	1	2
19	みみ	1	2
20	たて糸	1	2
21	よこ糸	1	2
22	ぬいしろ	1	2

問5 次に挙げることばの中で、あなたが知っているものには1に、知らないものには2に○をつけてください。さらに、あなたができるというものには3に、できないものには4に○をつけてください。

番号	項目	1	2	3	4
		知 っ て い る	知 ら な い	で き る	で き な い
1	はりに糸を通す	1	2	3	4
2	玉結び	1	2	3	4
3	玉どめ	1	2	3	4
4	ぬいとり	1	2	3	4
5	ボタンつけ	1	2	3	4
6	しるしつけ	1	2	3	4
7	布のたち方	1	2	3	4
8	まちばりのうち方	1	2	3	4
9	しつけ	1	2	3	4
10	二つ折り	1	2	3	4
11	三つ折り	1	2	3	4
12	並ぬい	1	2	3	4
13	本返しぬい	1	2	3	4
14	半返しぬい	1	2	3	4
15	かがりぬい	1	2	3	4
16	ミシンぬい(直線ぬい)	1	2	3	4
17	ミシンぬい(角の曲がり方)	1	2	3	4

問 6 あなたは調理が好きですか。当てはまる番号に○をつけてください。また、その理由も教えてください。

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. とても好き | 2. どちらかという人喜欢 |
| 3. どちらかという嫌い | 4. とても嫌い |

<理由>

問 7 あなたは家庭科の授業以外（自宅など）で調理をしたことがありますか。当てはまる番号に○をつけてください。

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|

問8 次に挙げることばの中で、あなたが知っているものには1に、知らないものには2に○をつけてください。

番号	項目	1 知 っ て い る	2 知 ら な い
1	はかり	1	2
2	計量スプーン	1	2
3	計量カップ	1	2
4	ボール	1	2
5	ざる	1	2
6	フライ返し	1	2
7	玉じゃくし	1	2
8	穴じゃくし	1	2
9	泡立て器	1	2
10	さいばし	1	2
11	バット	1	2
12	包丁	1	2
13	まな板	1	2
14	たまご切り器	1	2

番号	項目	1 知 っ て い る	2 知 ら な い
15	フライパン	1	2
16	ふたつきなべ	1	2
17	スポンジ	1	2
18	たわし	1	2
19	布巾	1	2
20	洗いおけ	1	2
21	水切りかご	1	2
22	生ごみ入れ	1	2
23	ごみ袋	1	2
24	ガスこんろ	1	2
25	きゅうす	1	2
26	茶たく	1	2
27	湯のみ茶わん	1	2

問9 次に挙げることばの中で、あなたが知っているものには1に、知らないものには2に○をつけてください。さらに、あなたができるというものには3に、できないものには4に○をつけてください。

番号	項目	1 知 っ て い る	2 知 ら な い	3 で き る	4 で き な い
1	米の洗い方	1	2	3	4
2	ごはんのたき方	1	2	3	4
3	ゆでる	1	2	3	4
4	やく	1	2	3	4
5	いためる	1	2	3	4
6	むらす	1	2	3	4
7	くし切り	1	2	3	4
8	わ切り	1	2	3	4
9	せん切り	1	2	3	4
10	うす切り	1	2	3	4
11	たんざく切り	1	2	3	4
12	ゆでたまご	1	2	3	4
13	野菜サラダ	1	2	3	4
14	野菜いため	1	2	3	4
15	いりたまご	1	2	3	4
16	こふきいも	1	2	3	4
17	ポテトサラダ	1	2	3	4
18	みそしる	1	2	3	4
19	緑茶の入れ方	1	2	3	4
20	紅茶の入れ方	1	2	3	4

問 10 あなたは家庭科が好きですか。当てはまる番号に○をつけてください。
また、その理由も教えてください。

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. とても好き | 2. どちらかという人喜欢 |
| 3. どちらかという嫌い | 4. とても嫌い |

<理由>

問 11 あなたは小学校で好きな教科・嫌いな教科がありましたか。当てはまる番号に○をつけてください。

(1)好きな教科 (○は3つまで)

- | | | | |
|-------|-------|-------|--------|
| 1. 国語 | 2. 算数 | 3. 理科 | 4. 社会 |
| 5. 音楽 | 6. 図工 | 7. 体育 | 8. 家庭科 |

(2)嫌いな教科 (○は3つまで)

- | | | | |
|-------|-------|-------|--------|
| 1. 国語 | 2. 算数 | 3. 理科 | 4. 社会 |
| 5. 音楽 | 6. 図工 | 7. 体育 | 8. 家庭科 |

問12 **今家に1人でいるとします。**

次のような場合、あなたならどのような行動をとりますか。当てはまる番号に○をつけてください。また、その理由も教えてください。

(1) 着ている服のボタンが取れてしまったとき

1. 自分で直す
2. 後で家の人に直してもらう
3. その他 ()

<理由>

(2) お腹が減っていて、食事が用意されていなかったとき

1. 家にある材料を使って自分で作って食べる
2. 家にあるインスタント食品などを食べる
3. コンビニやスーパーで、弁当などを買って食べる
4. その他 ()

<理由>

問13 あなたは、小学校の家庭科で勉強した裁縫や調理の技能は生きていく上で役立つと思いますか。当てはまる番号に○をつけてください。また、その理由も教えてください。

(1) 裁縫

1. 思う
2. 思わない

<理由>

(2) 調理

1. 思う
2. 思わない

<理由>

問 14 質問を読んで、当てはまるときには「はい」、当てはまらないときには「いいえ」に○をつけてください。

1	男子は人前で泣かないほうがよいと思う	はい	いいえ
2	女子は、料理・そうじ・洗濯が上手なほうがよいと思う	はい	いいえ
3	女子がリーダーになると、グループがまとまらないと思う	はい	いいえ
4	やりたいことがあるのに、「女の子（男の子）だからだめ」と言われるのはおかしいと思う	はい	いいえ
5	運動会の応援団長は男子がやったほうがよいと思う	はい	いいえ
6	女の人にしかできない職業と男の人にしかできない職業があると思う	はい	いいえ
7	男の人は家族のために外で仕事をして、女の人は家にいたほうがよいと思う	はい	いいえ
8	プレゼントをするとき、リボンの色は男の子なら青や緑、女の子なら赤やピンクがよいと思う	はい	いいえ
9	「男らしい」人「女らしい」人になりたいと思う	はい	いいえ
10	裁縫は女子のほうがむいていると思う	はい	いいえ
11	自分には、自分なりのよさがあると思う	はい	いいえ
12	自分のよいところも悪いところも分かっている	はい	いいえ
13	自分の夢をかなえたいと思う	はい	いいえ
14	自分なりのよさを伸ばしたいと思う	はい	いいえ
15	毎日がすごく楽しい	はい	いいえ
16	自分の好きなことがやれていると思う	はい	いいえ
17	友だちといると楽しい	はい	いいえ
18	疑問を感じたらそれを堂々と言うことができる	はい	いいえ
19	人前でもありのままの自分を出すことができる	はい	いいえ
20	自分から友達に話しかけていく	はい	いいえ

—これで質問はすべて終わりです。ありがとうございました。

問 4 次に挙げる被服製作用語の中で、あなたが知っているものには1に、知らないものには2に○をつけてください。

番号	項目	1 知 っ て い る	2 知 ら な い
1	ものさし	1	2
2	巻き尺 (メジャー)	1	2
3	まち針	1	2
4	縫い針	1	2
5	針さし	1	2
6	指ぬき	1	2
7	縫い糸	1	2
8	裁ちばさみ	1	2
9	糸切りばさみ	1	2
10	ピンキングばさみ	1	2
11	チャコえんぴつ	1	2
12	へら	1	2
13	二つ穴ボタン	1	2
14	四つ穴ボタン	1	2
15	足つきボタン	1	2
16	1本どり	1	2
17	2本どり	1	2
18	型紙	1	2
19	みみ	1	2
20	たて糸	1	2
21	よこ糸	1	2
22	ぬいしろ	1	2

問5 次に挙げる被服製作用語の中で、あなたが知っているものには1に、知らないものには2に○をつけてください。さらに、あなたができるというものには3に、できないものには4に○をつけてください。

番号	項目	1	2	3	4
		知 っ て い る	知 ら な い	で き る	で き な い
1	針に糸を通す	1	2	3	4
2	玉結び	1	2	3	4
3	玉どめ	1	2	3	4
4	ぬいとり	1	2	3	4
5	ボタンつけ	1	2	3	4
6	しるしつけ	1	2	3	4
7	布の裁ち方	1	2	3	4
8	まち針のうち方	1	2	3	4
9	しつけ	1	2	3	4
10	二つ折り	1	2	3	4
11	三つ折り	1	2	3	4
12	並縫い	1	2	3	4
13	本返し縫い	1	2	3	4
14	半返し縫い	1	2	3	4
15	かがり縫い	1	2	3	4
16	ミシン縫い(直線縫い)	1	2	3	4
17	ミシン縫い(角の曲がり方)	1	2	3	4

問6 あなたは調理が好きですか。当てはまる番号に○をつけてください。また、その理由も教えてください。

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. とても好き | 2. どちらかという人喜欢 |
| 3. どちらかという人喜欢 | 4. とても嫌い |

<理由>

問7 あなたは家庭科の授業以外（自宅など）で調理をしたことがありますか。当てはまる番号に○をつけてください。

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|

問 8 次に挙げる調理用語の中で、あなたが知っているものには1に、知らないものには2に○をつけてください。

番号	項目	1 知 っ て い る	2 知 ら な い
1	はかり	1	2
2	計量スプーン	1	2
3	計量カップ	1	2
4	ボール	1	2
5	ざる	1	2
6	フライ返し	1	2
7	玉じゃくし	1	2
8	穴じゃくし	1	2
9	泡立て器	1	2
10	さいばし	1	2
11	バット	1	2
12	包丁	1	2
13	まな板	1	2
14	たまご切り器	1	2

番号	項目	1 知 っ て い る	2 知 ら な い
15	フライパン	1	2
16	ふたつきなべ	1	2
17	スポンジ	1	2
18	たわし	1	2
19	布巾	1	2
20	洗いおけ	1	2
21	水切りかご	1	2
22	生ごみ入れ	1	2
23	ごみ袋	1	2
24	ガスこんろ	1	2
25	きゅうす	1	2
26	茶たく	1	2
27	湯のみ茶わん	1	2

問 9 次に挙げる調理用語の中で、あなたが知っているものには1に、知らないものには2に○をつけてください。さらに、あなたができる(作ることができる)ものには3に、できない(作ることができない)ものには4に○をつけてください。

番号	項目	1	2	3	4
		知 っ て い る	知 ら な い	で き る	で き な い
1	米の洗い方	1	2	3	4
2	ごはんのたき方	1	2	3	4
3	ゆでる	1	2	3	4
4	やく	1	2	3	4
5	いためる	1	2	3	4
6	むらす	1	2	3	4
7	くし切り	1	2	3	4
8	わ切り	1	2	3	4
9	せん切り	1	2	3	4
10	うす切り	1	2	3	4
11	たんざく切り	1	2	3	4
12	ゆでたまご	1	2	3	4
13	野菜サラダ	1	2	3	4
14	野菜いため	1	2	3	4
15	いりたまご	1	2	3	4
16	こふきいも	1	2	3	4
17	ポテトサラダ	1	2	3	4
18	みそしる	1	2	3	4
19	緑茶の入れ方	1	2	3	4
20	紅茶の入れ方	1	2	3	4

問 10 あなたは家庭科が好きでしたか。当てはまる番号に○をつけてください。
また、その理由も教えてください。

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. とても好き | 2. どちらかという人喜欢 |
| 3. どちらかという人嫌い | 4. とても嫌い |

<理由>

問 11 あなたは各学校段階で好きな教科・嫌いな教科がありましたか。当てはまる番号に○をつけてください。

小学校

(1)好きな教科 (○は3つまで)

- | | | | |
|-------|-------|-------|--------|
| 1. 国語 | 2. 算数 | 3. 理科 | 4. 社会 |
| 5. 音楽 | 6. 図工 | 7. 体育 | 8. 家庭科 |

(2)嫌いな教科 (○は3つまで)

- | | | | |
|-------|-------|-------|--------|
| 1. 国語 | 2. 算数 | 3. 理科 | 4. 社会 |
| 5. 音楽 | 6. 図工 | 7. 体育 | 8. 家庭科 |

中学校

(3)好きな教科 (○は3つまで)

- | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|---------|
| 1. 国語 | 2. 数学 | 3. 理科 | 4. 社会 | 5. 英語 |
| 6. 音楽 | 7. 美術 | 8. 体育 | 9. 技術 | 10. 家庭科 |

(4)嫌いな教科 (○は3つまで)

- | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|---------|
| 1. 国語 | 2. 数学 | 3. 理科 | 4. 社会 | 5. 英語 |
| 6. 音楽 | 7. 美術 | 8. 体育 | 9. 技術 | 10. 家庭科 |

問 14 あなたは、裁縫^{さいほう}技能や調理技能は、生きていく上で必要な技能だと思いますか。当てはまる番号に○をつけてください。また、その理由も教えてください。

(1) 裁縫^{さいほう}技能

1. 思う

2. 思わない

<理由>

(2) 調理技能

1. 思う

2. 思わない

<理由>

問 15 質問を読んで、当てはまるときには「はい」、当てはまらないときには「いいえ」に○をつけてください。

1	男子は人前で泣かないほうがよいと思う	はい	いいえ
2	女子は、料理・そうじ・洗濯が上手なほうがよいと思う	はい	いいえ
3	女子がリーダーになると、グループがまとまらないと思う	はい	いいえ
4	やりたいことがあるのに、「女の子（男の子）だからだめ」と言われるのはおかしいと思う	はい	いいえ
5	運動会の応援団長は男子がやったほうがよいと思う	はい	いいえ
6	女の人にしかできない職業と男の人にしかできない職業があると思う	はい	いいえ
7	男の人は家族のために外で仕事をして、女の人は家にいたほうがよいと思う	はい	いいえ
8	プレゼントをするとき、リボンの色は男の子なら青や緑、女の子なら赤やピンクがよいと思う	はい	いいえ
9	「男らしい」人「女らしい」人になりたいと思う	はい	いいえ
10	裁縫は女子のほうがむいていると思う	はい	いいえ
11	自分には、自分なりのよさがあると思う	はい	いいえ
12	自分のよいところも悪いところも分かっている	はい	いいえ
13	自分の夢をかなえたいと思う	はい	いいえ
14	自分なりのよさを伸ばしたいと思う	はい	いいえ
15	毎日がすごく楽しい	はい	いいえ
16	自分の好きなことがやれていると思う	はい	いいえ
17	友だちといると楽しい	はい	いいえ
18	疑問を感じたらそれを堂々と言うことができる	はい	いいえ
19	人前でもありのままの自分を出すことができる	はい	いいえ
20	自分から友達に話しかけていく	はい	いいえ

—これで質問はすべて終わりです。ありがとうございました。

家庭科(裁縫・調理)についてのアンケート

このアンケートは、家庭科(裁縫・調理)についてのあなたの小・中学生の頃の気持ちや様子をおたずねするものです。よく読んで、どの質問にもお答え下さい。
どうぞよろしくお願ひします。

学籍番号 _____ (男・女) 出身地： _____ 都道
府県

問1 あなたは各学校段階で家庭科を勉強するのが楽しみでしたか。当てはまる番号に○をつけてください。

小学校 1. はい 2. いいえ

中学校 1. はい 2. いいえ

問2 あなたは被服製作(裁縫)が好きですか。当てはまる番号に○をつけてください。また、その理由も教えてください。

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. とても好き | 2. どちらかというとき好き |
| 3. どちらかというとき嫌い | 4. とても嫌い |

<理由>

問3 あなたは家庭科の授業以外(自宅など)で被服製作(裁縫)をしたことがありますか。当てはまる番号に○をつけてください。

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|

問 4 次に挙げる被服製作用語の中で、あなたが知っているものには1に、知らないものには2に○をつけてください。

番号	項目	1 知 っ て い る	2 知 ら な い
1	ものさし	1	2
2	巻き尺 (メジャー)	1	2
3	まち針	1	2
4	縫い針	1	2
5	針さし	1	2
6	指ぬき	1	2
7	縫い糸	1	2
8	裁ちばさみ	1	2
9	糸切りばさみ	1	2
10	ピンキングばさみ	1	2
11	チャコえんぴつ	1	2
12	へら	1	2
13	二つ穴ボタン	1	2
14	四つ穴ボタン	1	2
15	足つきボタン	1	2
16	1本どり	1	2
17	2本どり	1	2
18	型紙	1	2
19	みみ	1	2
20	たて糸	1	2
21	よこ糸	1	2
22	ぬいしろ	1	2

大学生

問 5 次に挙げる被服製作用語の中で、あなたが知っているものには1に、知らないものには2に○をつけてください。さらに、あなたができるというものには3に、できないものには4に○をつけてください。

番号	項目	1	2	3	4
		知 っ て い る	知 ら な い	で き る	で き な い
1	針に糸を通す	1	2	3	4
2	玉結び	1	2	3	4
3	玉どめ	1	2	3	4
4	ぬいとり	1	2	3	4
5	ボタンつけ	1	2	3	4
6	しるしつけ	1	2	3	4
7	布の裁ち方	1	2	3	4
8	まち針のうち方	1	2	3	4
9	しつけ	1	2	3	4
10	二つ折り	1	2	3	4
11	三つ折り	1	2	3	4
12	並縫い	1	2	3	4
13	本返し縫い	1	2	3	4
14	半返し縫い	1	2	3	4
15	かがり縫い	1	2	3	4
16	ミシン縫い(直線縫い)	1	2	3	4
17	ミシン縫い(角の曲がり方)	1	2	3	4

問 6 あなたは調理が好きですか。当てはまる番号に○をつけてください。また、その理由も教えてください。

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. とても好き | 2. どちらかという人喜欢 |
| 3. どちらかという人嫌い | 4. とても嫌い |

<理由>

問 7 あなたは家庭科の授業以外（自宅など）で調理をしたことがありますか。当てはまる番号に○をつけてください。

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|

問 8 次に挙げる調理用語の中で、あなたが知っているものには1に、知らないものには2に○をつけてください。

番号	項目	1 知 っ て い る	2 知 ら な い
1	はかり	1	2
2	計量スプーン	1	2
3	計量カップ	1	2
4	ボール	1	2
5	ざる	1	2
6	フライ返し	1	2
7	玉じゃくし	1	2
8	穴じゃくし	1	2
9	泡立て器	1	2
10	さいばし	1	2
11	バット	1	2
12	包丁	1	2
13	まな板	1	2
14	たまご切り器	1	2

番号	項目	1 知 っ て い る	2 知 ら な い
15	フライパン	1	2
16	ふたつきなべ	1	2
17	スポンジ	1	2
18	たわし	1	2
19	布巾	1	2
20	洗いおけ	1	2
21	水切りかご	1	2
22	生ごみ入れ	1	2
23	ごみ袋	1	2
24	ガスこんろ	1	2
25	きゅうす	1	2
26	茶たく	1	2
27	湯のみ茶わん	1	2

問 9 次に挙げる調理用語の中で、あなたが知っているものには1に、知らないものには2に○をつけてください。さらに、あなたができる(作ることができる)ものには3に、できない(作ることができない)ものには4に○をつけてください。

番号	項目	1	2	3	4
		知 っ て い る	知 ら な い	で き る	で き な い
1	米の洗い方	1	2	3	4
2	ごはんのたき方	1	2	3	4
3	ゆでる	1	2	3	4
4	やく	1	2	3	4
5	いためる	1	2	3	4
6	むらす	1	2	3	4
7	くし切り	1	2	3	4
8	わ切り	1	2	3	4
9	せん切り	1	2	3	4
10	うす切り	1	2	3	4
11	たんざく切り	1	2	3	4
12	ゆでたまご	1	2	3	4
13	野菜サラダ	1	2	3	4
14	野菜いため	1	2	3	4
15	いりたまご	1	2	3	4
16	こふきいも	1	2	3	4
17	ポテトサラダ	1	2	3	4
18	みそしる	1	2	3	4
19	緑茶の入れ方	1	2	3	4
20	紅茶の入れ方	1	2	3	4

問 10 あなたは家庭科が好きでしたか。当てはまる番号に○をつけてください。
また、その理由も教えてください。

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. とても好き | 2. どちらかという人喜欢 |
| 3. どちらかという人嫌い | 4. とても嫌い |

<理由>

問 11 あなたは各学校段階で好きな教科・嫌いな教科がありましたか。当てはまる番号に○をつけてください。

小学校

(1)好きな教科 (○は3つまで)

- | | | | |
|-------|-------|-------|--------|
| 1. 国語 | 2. 算数 | 3. 理科 | 4. 社会 |
| 5. 音楽 | 6. 図工 | 7. 体育 | 8. 家庭科 |

(2)嫌いな教科 (○は3つまで)

- | | | | |
|-------|-------|-------|--------|
| 1. 国語 | 2. 算数 | 3. 理科 | 4. 社会 |
| 5. 音楽 | 6. 図工 | 7. 体育 | 8. 家庭科 |

中学校

(3)好きな教科 (○は3つまで)

- | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|---------|
| 1. 国語 | 2. 数学 | 3. 理科 | 4. 社会 | 5. 英語 |
| 6. 音楽 | 7. 美術 | 8. 体育 | 9. 技術 | 10. 家庭科 |

(4)嫌いな教科 (○は3つまで)

- | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|---------|
| 1. 国語 | 2. 数学 | 3. 理科 | 4. 社会 | 5. 英語 |
| 6. 音楽 | 7. 美術 | 8. 体育 | 9. 技術 | 10. 家庭科 |

問 14 あなたは、裁縫技能や調理技能は、生きていく上で必要な技能だと思いますか。当てはまる番号に○をつけてください。また、その理由も教えてください。

(1) 裁縫技能

1. 思う

2. 思わない

<理由>

(1) 調理技能

1. 思う

2. 思わない

<理由>

問 15 質問を読んで、当てはまるときには「はい」、当てはまらないときには「いいえ」に○をつけてください。

1	男子は人前で泣かないほうがよいと思う	はい	いいえ
2	女子は、料理・そうじ・洗濯が上手なほうがよいと思う	はい	いいえ
3	女子がリーダーになると、グループがまとまらないと思う	はい	いいえ
4	やりたいことがあるのに、「女の子（男の子）だからだめ」と言われるのはおかしいと思う	はい	いいえ
5	運動会の応援団長は男子がやったほうがよいと思う	はい	いいえ
6	女の人にしかできない職業と男の人にしかできない職業があると思う	はい	いいえ
7	男の人は家族のために外で仕事をして、女の人は家にいたほうがよいと思う	はい	いいえ
8	プレゼントをするとき、リボンの色は男の子なら青や緑、女の子なら赤やピンクがよいと思う	はい	いいえ
9	「男らしい」人「女らしい」人になりたいと思う	はい	いいえ
10	裁縫は女子のほうがむいていると思う	はい	いいえ
11	自分には、自分なりのよさがあると思う	はい	いいえ
12	自分のよいところも悪いところも分かっている	はい	いいえ
13	自分の夢をかなえたいと思う	はい	いいえ
14	自分なりのよさを伸ばしたいと思う	はい	いいえ
15	毎日がすごく楽しい	はい	いいえ
16	自分の好きなことがやれていると思う	はい	いいえ
17	友だちといると楽しい	はい	いいえ
18	疑問を感じたらそれを堂々と言うことができる	はい	いいえ
19	人前でもありのままの自分を出すことができる	はい	いいえ
20	自分から友達に話しかけていく	はい	いいえ

—これで質問はすべて終わりです。ありがとうございました。

研究の要約

I 結論

小学校学習指導要領における家庭科の目標¹⁾には、「日常生活に必要な知識と技能を身に付け、」「生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる」ことが掲げられ、被服製作実習や調理実習などを通して、児童生徒に対して生活スキルを習得させることが求められている。河村²⁾は、生活スキルとは、「今ここで」有用な生活にかかわる技能・技術だけではなく、「将来に向けて」の実用性を応用可能性として考えながら子ども自身が自分とのかかわりを問い、その必要性を見極めて身につけていこうとするもの、と述べている。しかし、中学校や高校教師からは「小学校で学習した知識や技能が定着していない」という指摘がある。そこで、本研究では、小学校家庭科の被服製作用語と調理用語の知識や技能の実態を明らかにするために、小学生から大学生を対象にアンケート調査およびボタンつけ調査を行い、2年前の対象者を追跡調査し、小学校家庭科学習前後の実態把握から、家庭科の技能習得について考察した。

II 方法

1. 調査時期及び調査対象

1) 調査時期 2009年5月～12月

2) 調査対象 表1に示す。以下、小学5年生、中学1年生、中学3年生、大学生を順に小5、中1、中3、大学生とする。

2. 調査方法

1) アンケート調査

①家庭科(被服・調理)に関する項目

裁縫、調理の経験に関する項目、用語や技能に関する項目について調査した。そのうち、知識や技能に関する調査項目は、小学校家庭科教科書³⁾⁴⁾に記載されている基本的な被服製作用語39項目と調理用語47項目とし、「知っている」または「知らない」で回答させた(以下「用語に関する知識」)。これらの項目は調査内容から被服製作用語では〔用具〕、〔縫製方法〕、〔布・型紙〕に関する語群、調理用語では〔用具〕、〔調理方法〕、〔献立〕に関する語群とし、それらは順に15、19、5、27、11、9項目からなった。また、技能を伴う被服製作用語の〔縫製方法〕に関する語群と調理用語の〔調理方法〕、〔献立〕に関する語群については、「できる」または「できない」についても回答させた(以下「技能の自己評価」)。それらを表2に示す(項目は紙面の関係で省略)。

表1 調査対象(名)

	男子	女子	合計
小5	46	44	90
中1	98(36)	98(39)	196(75)
中3	86(69)	82(74)	168(143)
大学生	40	76	116

表2 調査内容

【調査方法】		小学校家庭科教科書に記載されている用語	
①被服製作用語	知っている・知らない	〔用具〕に関する語群(15項目)	用語に関する知識
		〔縫製方法〕に関する語群(19項目) 〔布・型紙〕に関する語群(5項目)	
②調理用語	知っている・知らない	〔用具〕に関する語群(27項目)	技能の自己評価
		〔調理方法〕に関する語群(11項目) 〔献立〕に関する語群(9項目)	
		〔縫製方法〕に関する語群 (19項目のうち17項目)	
		〔調理方法〕に関する語群(11項目) 〔献立〕に関する語群(9項目)	

Ⅲ 結果と考察

1. 2009年調査

1) 用語の知識や技能

被服製作用語、調理用語の各語群の「知っている」及び「できる」割合を表3に示し、各語群の中で「知っている」及び「できる」割合が最も高かった学年を表3の中に太字で示す。

①用語に関する知識

「知っている」割合は、いずれの語群も小5から中1にかけて増加した。〔用具〕に関する語群では、男女ともにどの学年でも高かった。しかし、〔縫製方法〕に関する語群では、小5から中1にかけて増加するが、中3から大学生にかけて減少し、これは男子で顕著だった。「知っている」割合が最も高い値を示した学年は中3が多かったが、〔献立〕

表3 各語群の「知っている」及び「できる」割合 (%)

			男子				女子			
領域	語群		小5	中1	中3	大学	小5	中1	中3	大学
「知っている」	被服	〔用具〕	86.1	87.3	90.2	85.6	89.7	90.6	94.1	93.9
		〔縫製方法〕	73.9	84.9	81.0	57.7	76.0	91.7	92.5	79.4
		〔布・型紙〕	25.2	61.0	71.8	65.6	34.4	72.9	78.4	81.0
	調理	〔用具〕	80.6	91.4	95.2	93.4	88.0	95.9	97.6	96.1
		〔調理方法〕	67.8	87.6	87.1	86.9	77.3	92.7	94.8	92.9
		〔献立〕	68.2	85.9	82.0	84.1	81.3	91.2	89.4	93.4
「できる」	被服	〔縫製方法〕	65.5	77.0	77.7	48.5	75.5	86.9	89.7	73.3
	調理	〔調理方法〕	40.2	71.1	77.2	78.6	59.0	85.0	87.6	87.6
		〔献立〕	44.1	68.4	65.7	67.2	58.2	78.4	78.6	85.2

に関する語群では男女とも大学生が最も高く、家庭科学習終了後も向上が認められた。男子の〔縫製方法〕と〔調理方法〕に関する語群では中1が最も高かった。

②技能の自己評価

「できる」割合は、いずれの語群も小5から中1にかけて増加した。〔調理方法〕に関する語群と〔献立〕に関する語群は男女とも学年が進行するにつれて高くなった。しかし、〔縫製方法〕に関する語群は大学生で減少し、特に男子で顕著だった。「できる」割合が最も高い値を示した学年は、〔縫製方法〕に関する語群は中3、〔調理方法〕と〔献立〕に関する語群は大学生だった。

2. 2007年度に小5および中1だった児童生徒を対象とした2009年度調査（追跡調査）

1) 用語の知識や技能

被服製作用語、調理用語の各語群の「知っている」及び「できる」割合を表4に示し、各語群の中でそれらの割合が高かった学年を太字で示す。

①用語に関する知識

2007年度に小5だった生徒の「知っている」割合は、いずれの語群も中1で増加した。小5時の「知っている」割合は、調理用語の3つの語群と被服製作用語の〔用具〕に関する語群は高かったが、それ以外は低かった。しかし中1になると、被服製作用語と調理用語の「知っている」割合はほぼ同じになった。2007年度に中1だった生徒の「知っている」割合は、いずれの語群でも中1の時から高かったが、中3になるとすべての語群で男子は80%、女子は90%以上となった。

②技能の自己評価

2007 年度に小5だった生徒の、「できる」割合はいずれの語群も中1で増加した。特に〔縫製方法〕に関する語群では顕著で、男子で57.5ポイント、女子で49.2ポイントの増加がみられた。2007年度に中1だった生徒の「できる」割合は〔縫製方法〕と〔調理方法〕に関する語群では中3で増加、〔献立〕に関する語群

ではほぼ同じ割合だった。〔縫製方法〕と〔調理方法〕に関する語群では女子の方が中3で大きく増加した。

2) 技能と「知っている」割合などとの関連

〔縫製方法〕に関する語群 17 項目と〔調理用語〕に関する語群 11 項目の技能と「知っている」割合、学校以外での実践、自己肯定感に関する項目 10 項目、ジェンダー観に関する項目 2 項目との関連をみるため以下の4つの仮説を検証した。結果を表5に示す。

- | |
|---|
| 仮説1. 被服製作技能や調理技能に関する知識が高い生徒は、技能程度も高い。 |
| 仮説2. 学校以外で実践している生徒は、技能程度が高い。 |
| 仮説3. 生活技能が高い人は、自己肯定感が高い。 |
| 仮説4. ジェンダーにとらわれている男子は、生活技能を積極的に習得しようとしなため、技能程度が低く、ジェンダーにとらわれている女子は、生活技能を積極的に習得しようとするため、技能程度が高い。 |

①技能と「知っている」割合

技能と「知っている」割合との関連をみたところ、有意差がみられた項目数は73項目で、これらすべての項目は仮説1を裏付けた。これより、被服製作や調理技能の知識が高い生徒は、技能程度も高いことが明らかとなった。

②技能と学校以外での実践

技能と学校以外での実践との関連をみたところ、有意差がみられた項目数は32項目で、これらすべての項目は仮説2を裏付けた。これより、学校以外での実践がある生徒は、技能程度も高いことが明らかとなった。

表4 各語群の「知っている」及び「できる」割合 (%)

			2007年度小5だった対象者				2007年度中1だった対象者			
			男子		女子		男子		女子	
	領域	語群	小5	中1	小5	中1	中1	中3	中1	中3
「知っている」	被服	〔用具〕	67.0	86.8	83.6	91.1	79.7	84.0	85.8	91.3
		〔縫製方法〕	46.1	90.8	57.7	96.2	86.1	90.8	88.5	93.9
		〔布・型紙〕	28.9	67.2	46.7	84.1	77.7	81.4	86.2	91.7
	調理	〔用具〕	81.6	90.6	87.8	95.7	90.2	95.4	92.2	97.7
		〔調理方法〕	78.6	91.6	83.2	94.2	81.0	87.9	87.3	94.7
		〔献立〕	74.2	89.1	77.5	91.7	80.8	83.1	87.2	90.1
「できる」	被服	〔縫製方法〕	24.5	82.0	43.3	92.5	73.8	78.7	81.6	89.5
	調理	〔調理方法〕	51.8	73.5	67.1	84.6	70.0	78.3	77.3	87.4
		〔献立〕	35.5	70.1	54.7	78.6	66.5	66.8	80.6	78.5

表5 被服製作技能及び調理技能との関連

		中1		中3		
		男子	女子	男子	女子	
「知っている」割合	被服製作技能	11/11	9/9	15/15	10/10	
	調理技能	7/7	2/2	11/11	8/8	
学校以外での実践	被服製作技能	4/4	4/4	2/2	3/3	
	調理技能	5/5	3/3	6/6	5/5	
自己肯定感に関する項目	被服製作技能	11/12	0/1	7/7	3/3	
	調理技能	1/2	14/15	2/3	7/8	
ジェンダー観に関する項目	被服製作技能	①	0/1	6/6	0/1	0/0
		②	0/1	1/1	1/1	0/0
	調理技能	①	1/1	1/1	0/0	0/1
		②	0/0	0/0	0/0	0/0

a/b; aはbのうち仮説を裏付ける項目数, bは有意差のみられた項目数

①: 「女子は料理・掃除・洗濯が上手な方がよいと思う」

②: 「裁縫は女子の方がむいていると思う」

③技能と自己肯定感に関する項目

技能と自己肯定感に関する項目との関連をみたところ、有意差がみられた項目数は、51項目で、仮説3を裏付ける項目は45項目だった。これより、自己肯定感が強い生徒は技能程度も高いことが明らかとなった。

④技能とジェンダー観に関する項目

技能とジェンダー観に関する項目との関連をみたところ、有意差がみられた項目数は14項目で、仮説4を裏付ける項目は8項目だった。学年及び性別でみると、中1女子では被服製作技能とジェンダー観との関連が強く、有意差のみられた8項目とも仮説を裏付けた。これらのことより、中1女子では技能とジェンダー観とのかかわりはみられた。

IV 結論

以上より、技能の習得と用語に関する知識、学校以外での実践、自己肯定感、ジェンダー観は関連することが明らかになった。藤田⁵⁾は生活技能の向上は自己肯定感につながると報告している。それを踏まえるならば、技能の向上は児童生徒の達成感につながり、さらにそ「家庭科は将来役に立つ」という認識とあいまって、正のスパイラルが生じると推察される。一方、技能程度が低い者は一生懸命取り組んでも時間がかかる割に作品の出来ばえが悪く、それが負のスパイラルになり、技能の向上には結びつかなかったと推察された。さらに、新学習指導要領⁷⁾では、小学校の衣生活の内容は小学校で習得し、中学校ではその上に新しい学習内容を積み上げるとされていることも技能習得の困難さを増す要因と思われる。また、被服製作技能はくり返し学習により定着・向上する。しかし、現在は家庭で実践することも望めないことから、学校の中で実践場面を多く設定し、針や糸に触れる機会を多くする必要がある。

また、生活スキルは、生活のなかに解決を必要とする新しい問題を発見して、問題を生活構造に照らし、具体的解決によって生活を改善・向上する力⁸⁾といわれており、児童生徒のこれからの生活に必要不可欠である。よって、負のスパイラルを絶ち切るためには、児童生徒に科学的根拠に基づいて教えること、学習後に一人一人の児童生徒に評価結果を提示することなどが重要である。そうすることで、自分の課題を把握し、学校や家庭などでの実践がスキルアップにつながっていく。さらに、技能習得により自己肯定感が高まり、自分の技能に自信を持ち正のスパイラルへと転換していくのではないかと考える。

V 引用参考文献

- 1) 文部科学省. 小学校学習指導要領. 2008
- 2) 日本家庭科教育学会. シリーズ生活をつくる家庭科 第1巻 個人・家族・社会をつなぐ生活スキル. ドメス出版, p.42, 2007
- 3) 渋川祥子ほか. 新編 新しい家庭5・6. 東京, 東京書籍, 2004
- 4) 櫻井純子ほか. 小学校 わたしたちの家庭科5・6. 東京, 開隆堂出版, 2005
- 5) 藤田佳与子. 小・中・大学生を対象とした小学校家庭科学習内容の知識や技能の実態 — ジェンダー観と自己肯定観とのかかわり —. 平成20年度弘前大学教育学部卒業論文, p116—117, 2008
- 6) 日本家庭科教育学会. シリーズ生活をつくる家庭科 第1巻 個人・家族・社会をつなぐ生活スキル. ドメス出版, p.11—27, 2007

【参考文献】

- 1) 文部科学省. 小学校学習指導要領. 2008
- 2) 日本家庭科教育学会. シリーズ生活をつくる家庭科 第1巻 個人・家族・社会をつなぐ生活スキル. ドメス出版, p.11-27, 2007
- 3) 日本家庭科教育学会. シリーズ生活をつくる家庭科 第1巻 個人・家族・社会をつなぐ生活スキル. ドメス出版, p.42, 2007
- 4) 日景弥生, 鳴海多恵子. 被服製作用語に関する知識の実態 - 弘前市内の小学生と大学生を対象として -. 日本家庭科教育学会誌 39 (1), p.47-53, 1996
- 5) 日景弥生. 調理用語に関する知識の実態 - 弘前市内の小学生と大学生を対象として -. 日本家庭科教育学会誌 40 (2), p.71-78, 1997
- 6) 柏崎真理子, 前田雄也, 日景弥生. 小・中・大学生を対象とした被服製作用語の知識の実態. 弘前大学教育学部紀要 101, p.109-114, 2009
- 7) 柏崎真理子, 前田雄也, 日景弥生. 小・中・大学生を対象とした調理用語の知識の実態 - 被服製作用語の知識の実態との相違 -. 弘前大学教育学部紀要 102, p.97-103, 2009
- 8) 渋川祥子ほか. 新編 新しい家庭 5・6. 東京, 東京書籍, 2004
- 9) 櫻井純子ほか. 小学校 わたしたちの家庭科 5・6. 東京, 開隆堂出版, 2005
- 10) 山本真理子編. 心理測定尺度集 I. 東京, サイエンス社, 2001, p.16-22
- 11) 布施谷節子, 高部啓子. 家政系女子短大生における手縫いの技能の実態 被服製作の知識と過去の経験との関連性. 日本家庭科教育学会誌 43 (4), p.273-278, 2001
- 12) 長沢由喜子. 高等学校家庭科の調理実習にみる役立ち感. 日本家庭科教育学会誌 46 (2), p.126-135, 2003
- 13) 岡田みゆき. 小学校における家庭生活指導について - 「家庭科」と家庭生活指導とのかかわり -. 日本家庭科教育学会誌 44 (3), p.231-241, 2001

【謝辞】

本研究に取り組むにあたりまして、最初から最後までご指導いただきました日景弥生先生には数え切れないほどのご心配、ご迷惑をおかけいたしました。先生のご指導や励ましがあったからこそこの修士論文であると思います。心より御礼申し上げます。また、今回の論文審査にあたり、論文をご精読いただき、副査を務めてくださった斎藤尚子先生、森崎真奈美先生に感謝いたします。

そして、アンケート、ボタンつけ調査に快くご協力くださいました附属小学校5年生の皆さん、附属中学校1年生・3年生の皆さん、弘前大学教育学部の皆さん、先生方に心より御礼申し上げます。また、調査の準備を行う際、手伝ってくださった家庭科教育研究室の皆さんのおかげでスムーズに準備することができました。ありがとうございました。